

# 地域による 学校支援活動 事例集



平成 26 年度

文部科学省  
生涯学習政策局  
初等中等教育局

## 平成 26 年度の地域による学校支援活動事例集の発行に当たって

文部科学省では、未来を担う子供たちを健やかに育むために、学校・家庭・地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する「土曜日の教育活動」、「学校支援地域本部」、「放課後子供教室」等の取組を推進しています。

併せて、地域の人々（保護者・地域住民等）と目標を共有した上で、一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」の全国展開を目指しており、その有効な仕組みとして、地域の人々の力を学校運営に生かす「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を推進しています。

平成 23 年度からは、学校支援地域本部、放課後子供教室、コミュニティ・スクールでの教育方針に基づいた地域による学校支援活動等のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を行っています。また、子供たちの教育機会の充実のため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等と連携した土曜日の教育活動を推進しており、平成 26 年度から本表彰の対象活動となりました。

本事例集は、平成 26 年度の文部科学大臣表彰において、表彰を受けられた全国各地の 143 の活動を広く紹介するために作成しました。各々の取組のみならず、学校地域支援本部や放課後子供教室といった複数の取組を有機的に組み合わせた活動等の更なる推進や一層の活動内容の充実のために、御活用いただければ幸いです。

なお、本事例を含むこれまでの表彰事例については、文部科学省ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」(<http://manabi-mirai.mext.go.jp/>) を御覧ください。

最後に、本事例集の作成に当たりまして、表彰団体や都道府県、市町村等関係者の皆様方の多大な御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

文部科学省  
生涯学習政策局社会教育課長 谷合 俊一  
初等中等教育局参事官（学校運営支援担当） 塩崎 正晴

# 目 次

●はじめに ..... 1

●「地域による学校支援活動」事例

No.	都道府県名	市町村名	活動名	活動区分				こんな活動です	ページ
				土曜日	本部	放課後	CS		
1		札幌市	福住小学校サタデースクール	○				地域の力で、子供の自ら学ぶ力と豊かな心を培う「サタデースクール」	7
2		札幌市	ハッチャムホリデー	○				家庭や地域社会の教育機能の回復と学校外での子供たちの社会性の育成	8
3	北海道	帯広市	帯広第二学校支援地域本部 つつじが丘小学校		○	○		子供の笑顔のために！学校と地域・ボランティアが連携し子供たちを見守る活動	9
4		帯広市	帯広第四学校支援地域本部 花園小ネットワーク委員会	○	○	○		無理なく、楽しく、地域みんなが幸せになれるサポート活動	10
5		網走市	網走市学校支援地域本部事業		○			市内に本部は1つ！延べ約5千人の地域住民が全ての学校を支援しています！	11
6		八戸市	八戸市立第一中学校 地域密着型教育		○			地域ぐるみの教育活動の展開により、子育てを地域・家庭・学校が共有する	12
7	青森県	むつ市	第二田名部小学校学校支援地域本部		○			地域による教育活動応援隊	13
8		平川市	小和森小学校学校支援ボランティア活動		○			学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる	14
9		宮古市	茂市小学校支援事業		○	○		「子供は地域の宝、学校はみんなで作るもの」～地域と学校のつながり～	15
10	岩手県	宮古市	山口小学校支援地域本部		○			「つなぎ・つづく支援活動」	16
11		滝沢市	チャグホ塾	○		○		わくわく・どきどきするような活動を提供し、その感動を成長につなげます！	17
12		仙台市	東六番丁小学校学校支援地域本部		○			保護者を中心とする「おかあさん先生」が子供たちを力強くバックアップ！	18
13		仙台市	生き生き中山っ子教室			○		地域住民が運営し、地域の子供を見守り育てるボランティア活動！	19
14	宮城県	栗原市	せみねっ子を育てる会		○			せみねっ子の健やかな成長を地域全体で見守り、支援する活動を実践しています。	20
15		柴田町	東風の会		○			箏演奏・体験とおして、日本文化に触れ、誇りをもつ機会の実践	21
16		涌谷町	元気わくやふれあいサポートセンター		○	○		学校と地域がふれあい、町が元気になる仕組みづくりを住民の視点に立てて行う	22
17		鹿角市	平元小学校学校支援地域本部		○			子供は地域の財産～「平元コミュニティ」を支える笑顔を応援～	23
18	秋田県	大仙市	太田南小学校コラボ・スクール		○	○		地域とともに子供を育む「コラボ・スクール」構想による活動	24
19		大湯村	大湯村きらきら塾	○	○	○		各実行委員団体が主体となり、工夫・改善をしながら事業を進めています。	25
20		鶴岡市	おおぞら教室			○		子供の自主性を重んじながら、地域全体で子供を育む放課後子供教室	26
21	山形県	村山市	わんぱく富本塾			○		豊かな自然を生かして「サバイバル技術&生活技術」を習得！	27
22		大江町	少年少女書道教室	○				まちで育てる子供たち、40年以上の歴史をもつ書道教室	28
23		郡山市	郡山市三穂田地区学校支援地域づくり		○			できることからはじめよう！地域の教育力を子育て支援に！	29
24	福島県	本宮市	本宮市学校支援地域本部		○			地域の子供は地域で育て、子供たちのためにできることを	30
25		三島町	三島町学校支援本部		○			「地域全体で子供を育てる！」次代を担う子供たちの育成	31
26		西郷村	西郷村放課後子どもプラン			○		子供たちが心豊かで健やかに育まれるよう、様々な体験活動を行っています！	32
27	茨城県	土浦市	学校支援ボランティア事業		○			学校支援ボランティアが、外国人児童生徒に対し日本語指導を行う活動です。	33
28		小山市	乙女小放課後子ども教室 乙女っ子なかよし広場			○		さあハイタッチ！あいさつと笑顔、感謝の気持ちを大切にする乙女っ子！	34
29	栃木県	上三川町	明治放課後子ども教室			○		グループ活動を中心に子供と大人が互いに教え合いながら学んでいます。	35
30		那珂川町	久那瀬農地水環境保全会		○			ピオトープおよび魚道造成による生物・環境調査支援活動	36

No.	都道府県名	市町村名	活動名	活動区分				こんな活動です	ページ
				土曜日	本部	放課後	CS		
31	群馬県	沼田市	うすねわくわくスクール			○		地域社会や自然の中で、子供たちの健やかな成長を図る体験活動	37
32		安中市	九十九小学校支援ボランティア			○		地域の力ではばたく九十九の子～地域が支え、ともに歩む学校～	38
33	埼玉県	さいたま市	大門小のびのび教室	○		○		子供の自主性を尊重する自由遊びと自主学習—SSNの事業に位置付けて—	39
34		さいたま市	ふれあい広場宇宙（そら）	○		○		さまざまな体験活動や学ぶ楽しさを知ろう	40
35		熊谷市	桜木っ子ふれあいじゅく			○		子供が地域で育つ環境づくり	41
36		川口市	前川小学校応援団・学校支援ボランティア			○		主体的に学習する児童を支援する、学校応援団・学校支援ボランティア活動	42
37	千葉県	三郷市	三郷市立高州東小学校学校応援団			○		支援を受け続け、34年。地域の伝統文化・産業を取り入れた学校応援団活動	43
38		流山市	流山市北部中学校区学校支援地域本部			○		地域の皆さんに支えられた子供たちは、心身ともに豊かに成長しています。	44
39		四街道市	八木原小学校 学校支援地域本部			○		地域の子供は地域のみんな育てる、学校支援地域本部	45
40		栄町	竜角寺台小学校区地域連携協議会			○		できる時にできる事から 竜小応援団！	46
41	東京都	杉並区	三谷小学校 “学校支援・地域共生本部”	○	○	○	○	ねがい・情報を共有し、責任と学びを分かち合う活動をめざして！	47
42		板橋区	蓮根第二小学校 学校支援地域本部			○		「できることを、できる範囲で、できるだけ」を合言葉に きらきら輝く学校！	48
43		江戸川区	上小岩小学校 学校応援団			○		「一人一鉢の菊づくり」の活動をとおして子供を育てる学校応援団	49
44		三鷹市	連雀学園コミュニティ・スクール委員会				○	連雀学園の支援活動 市内最大数の年間ボランティア参加者数 3352人！	50
45		武蔵村山市	武蔵村山市立第八小学校「ふれっチャ・クラブ」				○	地域の大人・高校生・教師・子供が共に学び合い、関わる力を育てる学習の場	51
46	神奈川県	横浜市	すくすく広場			○		「お母さん」が主体となって行う子供たちの教育支援活動	52
47		横浜市	しのはら学校支援地域本部			○		子供たちが地域で学び育つための“つなぐ力”しのはらスーパーサポーター	53
48		横浜市	みやがや応援隊			○		みやがやっ子と地域を笑顔でつなぐ架け橋に。11のボランティアが結束！	54
49	新潟県	新潟市	両川中学校学校支援地域本部			○		学校も地域も有益がもてる、学校と地域との連携活動	55
50		新潟市	西内野小学校学校支援地域本部			○	○	地域を愛し、社会性を身に付け自立した子供を西内野から育てよう！	56
51		柏崎市	未来の柏崎を担う子どもたちを育てる会			○		学校・家庭・地域の協働で心豊かなたくましい子供を育てる。	57
52		見附市	名木野小学校学校運営協議会				○	3つの「協働」により、「地域を愛し、地域に愛される子」を育てます。	58
53		燕市	燕南小学校地域に根ざす学校応援団			○		地域とふれあい、地域に発信！燕南小の子供たちを地域とともに育む。	59
54	富山県	富山市	鶯坂子どもかがやき教室			○		自分たちの郷土に親しみ、健全な心身を育む鶯坂子どもかがやき教室	60
55		小矢部市	放課後出前教室			○		安心・安全な子供たちの居場所づくり～スポーツをとおして皆友だちになろう～	61
56		射水市	放課後子ども教室 放生津教室			○		地域の未来は皆で創る ～地域に見守られ、地域に溶け込む放課後子供教室～	62
57		朝日町	あさひ野小学校放課後子ども教室			○		異学年の友達と時間を過ごし「おもいやりの心」が生まれる放課後子供教室	63
58	石川県	金沢市	紫錦台中学校支援地域本部			○		地域の文化を生徒に伝え、地域ぐるみで生徒を見守り育む活動です。	64
59		加賀市	動っ子タイム			○		地域の方々とのふれあいをとおして「遊ぶ」「学ぶ」「体験する」	65
60		羽咋市	羽咋市子ども会育成会			○		市内小学校6校を対象としたスポーツ体験の実施。	66
61		能登町	柳田放課後子ども教室			○		短時間で楽しむ体験！交流の場として、社会への窓としての放課後子供教室	67

No.	都道府県名	市町村名	活動名	活動区分				こんな活動です	ページ
				土曜日	本部	放課後	CS		
62		甲府市	みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」			○		多様な地域住民による体験活動をととして、人間力を育む「放課後子ども教室」	68
63	山梨県	大月市	鳥沢小学校地域保護者学校支援活動		○			地域の方に支えられ、ふるさとの森・自然・人から学ぶ活動	69
64		北杜市	長坂小おやじの会		○			PTA、地域、学校がそれぞれの特長を生かして体験的に学ぶ児童を育む活動	70
65		松本市	寿地区学校応援団		○			「子供は寿の宝」を合言葉に、子供たちの健やかな成長を支援	71
66	長野県	諏訪市	しがっ子クラブ	○				地域の自然や人と関わり、ふるさとを愛し、自分で考え行動できるひとに!	72
67		根羽村	根羽村放課後子ども教室			○		地域の方々の参画を得て、地元でしかできない体験活動を取り入れています!	73
68		岐阜市	日野っ子メイツ			○		地域の方と昔遊びや物作りに挑戦し、物作りや人とふれあう楽しさを実感!	74
69	岐阜県	大垣市	北小中校区地域住民による学校支援活動		○			北小中を地域で支えるボランティア学校のニーズに応じて楽しく活動	75
70		中津川市	地域合同山口幼稚園環境整備作業		○			地域の各種団体の協力で実現した地域総出の山口幼稚園環境整備作業	76
71	静岡県	富士宮市	富士根南小学校 学校支援地域本部 学校応援団 愛育会 (PTA) + C (地域)		○			笑顔・愛あふれ「自分にも何かができる」子供と共に育つ学校応援団です!	77
72		袋井市	袋井北小学校 学校支援地域本部 ともえサポーターズ		○			校区の住民が「ともえサポーターズ」を結成し、学校の活動を支援しています。	78
73		名古屋市	名古屋市立船方小学校 トワイライトルーム			○		地域の力を活用した豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」	79
74		名古屋市	名古屋市立神の倉小学校 トワイライトスクール			○		放課後に地域の力を最大限に活用した「学び」「遊び」「交流」「体験」活動	80
75	愛知県	半田市	半田市放課後子ども教室 よこがわクラブ			○		地域の子供たちと大人がふれあう、安心・安全な居場所づくり	81
76		小牧市	一色小学校放課後こども教室			○		異年齢集団で、先生や親とは違う地域の大人とつながり、色々な体験が出来る。	82
77		高浜市	翼小学校土曜クラブ	○				子供たちが技能を持った地域の方々から文化活動や運動技能を学びます	83
78		津市	村主小学校 学校サポート隊		○			「子供に地域の良さを伝え、子供の安全を守り、教育環境を整える活動」	84
79	三重県	桑名市	まほろば教室			○		地域の人々に支えられて、みんなで学び、みんなでたのしく遊んでいます。	85
80		亀山市	つむぎ学校運営協議会				○	チャレンジ! ふるさと学習 わたしたちの加太再発見 ~つむぎ活動とともに~	86
81		彦根市	彦根市学校支援地域本部		○			ESD・持続可能な社会、次代を担う彦根の子供を地域で守り育てます。	87
82	滋賀県	長浜市	速水小学校学校運営協議会		○		○	児童の言語活動の向上を中心に、学習活動や学習環境への支援を行っている。	88
83		栗東市	栗東中学校学校支援地域本部 (栗中サポーター)		○			子供の成長を見守り、地域も育つ。そんな「おらが学校」をめざす活動。	89
84		京都市	藤城小学校学校運営協議会				○	学校評価を生かし学校・家庭・地域が互いに高め合うコミュニティ・スクール	90
85	京都府	京都市	紫野小学校放課後まなび教室			○		地域の力で子供たちのまなびを支援 ~自学自習の習慣や学力の定着を図る~	91
86		舞鶴市	志楽小学校コミュニティ・スクール推進委員会		○			地域の力を子供たちのために! 地域ぐるみで包み込み、支えます!	92
87		南丹市	富本小学校・わくわくサタデー	○				学校、家庭、地域が連携した「子供と地域が輝く」体験活動	93
88		大阪市	泉尾東小学校「いきいき」活動			○		いきいき家族 ~育て・育む「いきいき」~	94
89		大阪市	内代小学校「いきいき」活動			○		自然や文化に親しみ、豊かな心情を培う活動	95
90	大阪府	堺市	新湊小学校放課後ルーム			○		地域全体で子供たちを育む! ~学び・ふれあい・体験をととして地域から世界へ~	96
91		貝塚市	貝塚市立永寿小学校ふれあいルーム (永寿小学校区放課後子ども教室)			○		地域の総意で支える子供の放課後の居場所!	97
92		守口市	もりぐち児童クラブ藤田 登録児童室			○		放課後子供教室と放課後児童クラブとの連携で広がる活動と人のつながり	98
93		豊能町	豊能町立吉川中学校区学校支援地域本部		○			学校のニーズに地域の支援をつなぎ、豊かな教育づくりを応援しています。	99

No.	都道府県名	市町村名	活動名	活動区分				こんな活動です	ページ
				土曜日	本部	放課後	CS		
94		豊岡市	出石大すき弘道っ子活動		○			「地域とつながり 出石大すき弘道っ子の育成」をテーマに教育推進	100
95	兵庫県	朝来市	大蔵まなび隊（大蔵地域自治協議会）		○	○		地域で学び、地域を学び、地域の中で育む。	101
96		猪名川町	楊津寺子屋			○		地域住民と高校生による子供支援	102
97		奈良市	登美ヶ丘中学校区地域教育協議会		○			秋篠川共同体 地域でつなぐ子育てのWA 「共に 学びあい 育てあい」	103
98	奈良県	大和高田市	片塩中コミュニティ		○			地域と協働！～咲かそう絆花～目指せ片中 「笑顔・元気・一生懸命！」	104
99		五條市	五條西中コミュニティ協議会		○			地域活動への参画・協働から新しい学校の姿を求める	105
100		明日香村	明日香村学校・地域コミュニティ		○	○		子供の課題に学校・保護者・地域が一体となって取り組むコミュニティ活動	106
101	和歌山県	新宮市	しんぐう地域共育コミュニティ推進本部		○			課題や願いを共有し、協働活動をととして目指す学校と地域の信頼関係づくり	107
102	島根県	浜田市	浜田東中学校区学校支援地域本部		○	○		地域づくりとも連携した学校支援や放課後支援	108
103		江津市	高角小学校の教育コミュニティ創造	○	○	○		地域力を生かした学校支援と学校力を生かした地域づくりで創る新しい公営型学校	109
104		和気町	和気町子ども塾	○				町の財産（人・場所・もの）を通しふるさとを愛する子供を育成する体験塾	110
105	岡山県	矢掛町	矢掛町学校支援地域本部		○		○	子供の未来と地域のために、多様な支援を実施！ 地域を挙げて学校を応援！	111
106		奈義町	奈義町学校支援地域本部		○			「学校支援」から「教育支援」へ！幼・小・中を地域ぐるみでトータルに支援	112
107	広島県	廿日市市	佐方小学校区学校支援地域本部		○			佐方小学校区！皆で支え交流を深める活動！	113
108		廿日市市	大野東小学校学校支援地域本部		○	○		地域に根ざした教育環境づくりと地域で子供を育てる態勢づくり！	114
109		萩市	萩市立萩東中学校 てごの会				○	生徒のよりよい成長を願って、学校をのぞき、「てご（お手伝い）」をしよう！	115
110	山口県	下松市	たくましい久保っ子を育てる会			○		地域を愛し、たくましさと思いやりのある久保っ子の育成	116
111		田布施町	麻里府小学校放課後子ども教室			○		地域力・つながりを生み出す放課後子供教室	117
112		阿南市	津乃峰小学校区学校支援地域本部		○			家庭・学校・地域の総力で取り組む地域の子育て	118
113	徳島県	美馬市	美馬中学校区学校支援地域本部		○			地域ぐるみで子供を育て、地域のきずなを深めよう！	119
114		海陽町	海南子ども館			○		ふれあい、学び、命を守る「海南子ども館」	120
115	香川県	まんのう町	いきいき教室			○		地域の協力のもと、子供たちが有意義に過ごせるように努めている。	121
116		松山市	小野子ども教室			○		さまざまな体験活動で自分のよさを伸ばし、人とかかわる力を育てています。	122
117	愛媛県	宇和島市	三間中学校区学校支援地域本部		○			地域が一体で取り組む学校支援 ～できる人が、できる時に、できることから～	123
118		伊予市	中山町子ども教室			○		地域で育む子供の「居場所」づくり	124
119		四国中央市	赤石フレンド教室			○		体験活動をととして、豊かな人間性を育もう！	125
120	高知県	香美市	片地の子どもを育てる会		○			地域みんなで育てよう 片地の子供たち！ ～片地の子供を育てる会～	126
121		日高村	日高中学校区学校支援地域本部	○	○	○	○	「WIN&WINの関係」で、子供を核に学校も地域も育ち合う日高村！	127
122		久留米市	津福小学校支援活動			○		子供たちの課題解決を図る、学校の経営の方向性と連動した学校支援活動。	128
123	福岡県	春日市	春日原小学校学校運営協議会			○	○	学校・家庭・地域をつなぐ共育 ～たてわり活動を中心とした地域による支援～	129
124		福津市	福津市立福岡中学校 学校運営協議会				○	学校・家庭・地域をつなぐ「熟議と協働」の取組への地域による学校支援	130
125		添田町	添田「英峰塾」		○			中学3年生を対象に、自分の描いた進路目標達成のための学習支援塾	131

No.	都道府県名	市町村名	活動名	活動区分				こんな活動です	ページ
				土曜日	本部	放課後	CS		
126	佐賀県	吉野ヶ里町	ふれあい子ども教室			○		放課後の子供たちの安全で健やかな居場所づくりを提供し、児童の健全育成を図る	132
127		佐世保市	鹿町小放課後子ども教室		○	○		保護者と地域との協働により、学び、遊び、交流活動を行う居場所づくり	133
128	長崎県	南島原市	有家小学校学校支援会議		○	○		「子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育の推進」	134
129		時津町	時津東小学校学校支援会議		○			学校・家庭・地域がつなぐ「瞳輝く子をみんなで育てみんなで育つ」	135
130		山鹿市	山鹿市立菊鹿中学校学校運営協議会				○	教科、道徳や学活における効果的な人材の活用を展開しています。	136
131	熊本県	南関町	南関町「学校応援団」		○			「できる人が・できるときに・できることを!!」のボランティア活動です	137
132		大津町	大津東小学校放課後子ども教室(風の子教室)			○		6年目を迎え、様々な体験活動をみんなで楽しく行っています。	138
133		豊後高田市	河内中学校教育支援センター		○		○	地域と共に行う学校づくり～生徒との心の交流をとおして～	139
134	大分県	豊後高田市	草地ワクワクコミュニティ運営協議会		○		○	「草地ワクワクコミュニティ」が行う4つの地域密着型活動	140
135		国東市	国東中学校区放課後学び教室		○	○		放課後の時間を利用した無料の学習塾を展開中!	141
136		都城市	山田中学校支援ボランティアの会(学校支援地域本部)	○	○		○	本会は、学校の活動を支援する「地域につくられた学校の応援団」である。	142
137	宮崎県	西米良村	スマイル!にしめら	○	○	○		地域と連携して子供たちに様々な体験をさせ、生活技能・体力の向上を図る。	143
138		美郷町	御田の里キッズ学園			○		御田の里キッズ学園は、様々な活動をとおして家庭教育の支援を行っています。	144
139		鹿児島市	学校支援ボランティア事業		○			地域と学校が近くなる「学校支援ボランティア事業」	145
140	鹿児島県	南九州市	清水地域子ども教室	○		○		地域の子供を 地域らしい活動をとおして 地域の人で育てる	146
141		大和村	やまと大瀬小学校区学校応援団事業		○			「地域の高齢者の知恵、地域のよさを子供たちに」小さな村の大きな支援	147
142	沖縄県	那覇市	銘苅っ子子ども教室			○		地域の方々の協力で、様々な体験ができる教室	148
143		沖縄市	泡瀬小学校支援地域本部		○			地域と学校が連携して学校・子供たちを支援する活動です!	149

## ● 参考資料

優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰要項	152
学校・家庭・地域の連携協力(学校支援地域本部、放課後子供教室、土曜日の教育活動)の推進について	153
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について	160
文部科学省ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」の紹介	162

# 地域ので、子供の自ら学ぶ力と豊かな心を培う 「サタデースクール」

## 北海道札幌市

### 活動名

福住小学校サタデースクール

### 関係する学校

札幌市立福住小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		2人	93人	16年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

福住小学校サタデースクールは、福住小学校地域連携協議会が運営し、子供たちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するための取組として進めている。これまで土曜日実施の取組をしていた運営組織である福住小学校学校開放運営委員会や福住小学校地域開放図書館などと連携して、今年度は、4月と3月を除いた各月1回で、計10回の取組を進めている。子供の造形活動を支える講師を招いての紙工作などの制作体験や英会話による異文化交流、伝統文化の体験的な活動、オリンピックの金メダリストなど世界的に活躍した選手による体験談や陸上指導などを実施している。また、福住小学校スクールバンド同好会や保護者のハンドベル隊による音楽祭や町内会との連携による雪中運動会、教職員や地域人材による初心者向けスキー教室など、これまで例年取り組んできた活動とサタデースクールを連携させ、子供たちがより自主的に参加したり体験したりできるように内容の充実を図った取組を進めている。

学校での学びをサタデースクールで深化させること、または、サタデースクールでの学びを学校で生かし広げること、これら二つの双方向の効果をねらうことで、子供たちにとってさらに充実した活動となるように取り組んでいるところである。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

基本的にこれまで大切にされてきた地域の教育力を生かした取組が中心となっている。地域に住む方を講師に招いたり、これまで地域の町内会連合会の活動として行われてきた「雪中遊びの広場」と連携して、身近で価値ある豊かな社会資源を活用したプログラムを実施している。また、地域とのこれまでのつながりを生かした取組としながらも、今年度は体育振興会と連携し、札幌市観光文化局スポーツ部の「オリンピックズキャラバン事業」を活用した取組も実施している。

このように、地域で子供を育てるといって考えをを広げて考え、活用できる人材の視野を地域から札幌市全体へと大きく広げながら、多様な体験的な活動をつくりだしている。そして、このような地域ので子供を育てながら、子供が将来に向けて夢や希望を抱けるような活動を展開している。また、その過程で地域の教育力も高めていく関係を築くことで、子供も地域も相互に高まっていける取組を目指している。

### 【実施に当たっての工夫】

学校開放運営委員会や地域開放図書館、町内会などが、これまで児童のために行っていた活動の中で、本事業の目的に一致するものを束ねつつ調整することで、互いの連携が生まれ、子供にとってより充実した活動になるようにしている。また、「サタデースクール」として積極的に開催を周知して参加児童を募ることで、昨年度と同様な目的の活動であっても、児童の参加が多くなっている。また、実施の際にそれぞれの組織で運営していたこれまでの体制から、コーディネーターを中心として、地域ボランティア、PTA、教職員が協力しながら進めることができるようにしている。体制の連携は、役割ごとの力が発揮され、児童の活動を支えたり、講師や活動場所の計画を進めたりする上で効果的に働いている。



元・IAU100Kワールドカップ  
日本代表選手による走り方教室

## ● 事業を実施して

学校・児童が地域と結び付きを深めたことが大きな成果となっている。町内会や体育振興会の方々による本事業への積極的な協力の上、学校が地域のもつ教育的な力を積極的に取り入れることによって、様々な体験的活動の実施が実現している。また、子供にとってサタデースクールが「土曜日の居場所づくり」という意味で定着してきていることも意義深く、地域の方々や学年の枠を超えた子供たち同士のふれあいが広がると共に、自ら課題をもって意欲的に学び続ける姿など、学ぶ力の育成にもつながっている。

## ● その他

本事業は、福住小学校を含む市内小学校3校がモデル校となって今年度より実施している。本校を含めて3校の取組が、広く認められるように工夫を重ね、札幌市をはじめ、より多くの地域の子供たちの自ら学ぶ力や豊かな心、地域の教育力の向上につながるようしていきたい。



ジャンベ太鼓の演奏体験



# 家庭や地域社会の教育機能の回復と 学校外での子供たちの社会性の育成

## 北海道札幌市

活動名

ハッチャムホリデー

関係する学校

札幌市立発寒西小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		3人	100人	16年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成16年度から土曜日等に教育活動を実施し、スポーツ教室や地域の方、外国の方と交流を持ってきた。年7回程度活動を実施し、今年で11年目になる。

活動のねらいとして、①家庭や地域社会の教育機能の回復、②学校外での子供たちの社会性の育成、③子供たちの視野や世界を広げること、④休日の子供たちの居場所づくり、の4つを掲げ、取組を進めている。

運営組織は、PTAや町内会、まちづくりセンター(※)、子供会、地区民児協、地区社会福祉協議会など子供に関わる地域の様々な関係者の参画を得て、構成されており、そのため、地域の各種機関・団体との幅広い連携協力のもと、活動が行われている。また、多くの地域住民や保護者がボランティアとして参加しており、学校・家庭・地域の三者が連携して子供の健全な成長を支えている。

※まちづくりセンター…地域のまちづくり活動の拠点となっている公共施設

【主な活動】

サタデースポーツ/七夕飾り製作会/一人語り芝居鑑賞/異文化交流/カードゲーム/秋の体験教室/冬のイベント

### 特徴

【特徴的な活動内容】

- ◇サタデースポーツ・・・地区体育振興会メンバーを講師として体育館で卓球・バドミントン・ミニバレー教室を開催。
- ◇異文化交流・・・外国人の方を招き、その国の文化を学ぶとともに、その国の料理を作って食べながら交流を深める。
- ◇秋の体験教室・・・4種類の体験教室(竹とんぼ作り、望遠鏡作り、パンプキンクッキング、フラワーアレンジメント)を開催し、地域の大人や保護者とのふれあいを生む。
- ◇冬のイベント・・・地域の方や子供会、PTAが協力して雪中運動会など冬を楽しむゲームを行うとともに、餅つきを通じて日本の伝統行事を体験する。

【実施に当たっての工夫】

本事業では、子供たちが本物と出会い、いろいろな体験をしていくよう活動を工夫している。パントマイムや一人語り芝居の方、紙飛行機の元世界チャンピオンなど、実際にふれあうことで、子供たちの興味関心が広がっていくことを願っている。そのために、いろいろなジャンルの人材を発掘していくよう心掛けている。

また、町内会や子供会、体育振興会、PTAなど地域の方が主体的に運営に参画していただいている。それぞれの活動で継続的に参画していただくために、受付、子供の誘導、出店担当など、お手伝いくださる方に適した役割を担っていただくよう配慮している。



サタデースポーツ

### 事業を実施して

本事業が家庭で話題となり、親子で参加する姿が多く見られるようになった。いろいろな活動を親子で体験することで、子供の社会性を育み、家庭での教育力の向上につながっていくものと考えられる。

また、運営に参画している町内会や子供会、体育振興会の方々の子供たちに親しく接している姿が見られるようになった。地域の方と子供たちがつながるよい機会として、毎回、楽しみに参加する方も多い。地域と学校の結びつきが深まり、子供たちから地域の人に声をかける姿がみられるようになった。

### その他

現在多くの方々にお世話になっている子供たちが、将来指導や支援を行う立場として参画する姿を想い描いている。今後も子供たちには、お世話になっているの方々への感謝の気持ちを伝えていきたい。



秋の体験教室「フラワーアレンジメント」

# 子供の笑顔のために! 学校と地域・ボランティアが連携し子供たちを見守る活動

## 北海道帯広市

活動名

帯広第二学校支援地域本部  
つつじが丘小学校

関係する学校

帯広市立つつじが丘小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	162人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	40人	100日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	つつじが丘小学校	家庭科室、体育館、図書室、和室	17年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 【つつじっ子クラブみまもり隊(放課後と土曜日の子供の居場所づくり)】

平成11年に学校創立。開かれた学校づくりを目指し、地域と連携した組織「つつじの会」を設立。平成12年に親子倶楽部発足。平成14年に子供たちと関わりたいという地域の人たちがボランティアサークルを立ち上げ学校に働きかける。「土曜日の居場所づくり」と「図書ボランティアサークル」活動開始(年間20回)。全て自分たちで運営(手当なし)、企画、準備、広報誌の発行。平成17年に市の依頼を受け2つめのボランティアサークル立ち上げ。放課後の見守り活動開始(年間80回)。その後、「セーフティネットつつじ」を設立し、子供の見守り。平成20年、学校支援地域本部ができ、コーディネーターが置かれた。組織を見直し、定例会議開始。横の連携・情報交換が充実した。

#### (1) 放課後の子供の居場所づくり

●交流を通して互いに人との関わり方を学び、社会のルールを身につけることを目的に、異学年の児童との遊びや、地域住民との交流が行われる放課後の子供の居場所づくりを推進。●毎週月・水合計80回開設し、季節の行事、工作やお菓子作り、学童保育所との交流などを実施。●また、長期休業中には補習学習(ラッキーサマースクール、ラッキーウインタースクール)を実施。●スタッフ:70名(地域住民、保護者、高校生)

#### (2) 土曜日の子供の居場所づくり

●「わくわくサタデー」の企画・運営を行う。●年間20回、土曜日の午前中に、主に体育館を会場に、もちつきやつつじまつり、収穫祭、そうめん流し、ハロウィンなどを実施(児童の平均参加人数は50名)

#### 【図書ボランティア】

●毎日10～13:30まで、学校図書館の貸し出し、レファレンス、環境整備等の業務を担う。また、読み聞かせやエプロンシアターなども実施。●スタッフ:5名(地域住民、保護者)

#### 【親子(おやじ)倶楽部】

●花壇、学校周辺、職員室、廊下、図書室の環境整備やスケートリンクの造成等の実施。●スタッフ:22名(地域住民、保護者、教職員)

#### 【学習支援ボランティア】

●花の苗の植え方、水泳やスケート指導、外国語活動、総合的な学習の時間の指導補助などを実施。●パン、うどん、いもだんごづくりなども行う。●スタッフ:30名程度(地域住民、保護者)

活動の概要

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 環境整備・花の苗植え指導 6月、児童会環境委員会等を対象として苗植え指導を実施。花壇のレイアウトや花の種類などについて専門的な見地からのアドバイスをした。
- ラッキーサマースクール、ラッキーウインタースクール 長期休業中の3日間に希望者を対象として実施。平成22年度より取り組んでいるが、年々参加者も増え、多い日は100名を超える参加がある。
- 水泳ボランティア・スケートボランティア 高学年の補助から始まったが、他学年からのニーズもあり、現在は、全学年においてボランティアを活用している。
- 「つつじの会」の合同会議 児童保育センター、民生委員・児童委員、防犯協会等の関係機関、学校支援ボランティア関係(コーディネーター、地域のボランティアの代表者)、PTA、町内会と「セーフティネットつつじ」によって構成される会議を定期的に開催。各構成団体等の今後の予定を確認するだけではなく、放課後や土日、長期休業中の子供たちの様子について情報交換をする場にもなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターの役割分担や担当などを明確化し、地域本部の代表とコーディネーターを兼務して2年間活動したが、兼務しない方が活動しやすいなど、年度ごとに反省し組織を改善してきた。
- 水泳の協力など専門性の必要なものは、人材の発掘に苦労した。また、ボランティアの方の高齢化も進んでいるので、新しい人(若い人)の発掘にも普段から心がけている。
- 「できる人ができる時に」を合い言葉に、中学生や近隣の高校のボランティア部と連携するなど、若い人の力も積極的に活用している。

【特徴】①ボランティア団体が、学校と連携して活動している。②「つつじの会」に登録されている団体が独立し、それぞれが自分たちのできることをしている。③定例会議を設け、情報の共有を図っている。

【利点】①学校を核にして活動できるので、横の連携を図りやすい。②各ボランティアが独立性を保っているため、自分達の団体の活動に集中できる。③会議を通して地域の人の顔がわかり、つながりができて、人間関係の幅が広がり、活動に深みがあった。



収穫祭(8月末) ※春に児童が種まきをしました

## 事業を実施して

- ①地域で子供たちに出会った時、「あいさつ」をかわす場面が多くなった。
- ②地域の人達から「授業では教わらない多くのこと」を学べるので、子供たちから喜ばれている。
- ③外国人や高校生との出会いが増えたことにより、交流の幅が広がり、子供たちの笑顔がたくさん見られるようになった。
- ④子供たちとの関わりが、地域の人達の喜びや生き甲斐の場にもなっている。
- ⑤「子供、地域、保護者」間のつながりが深まった。

## その他

●多様な機関・団体が構成される組織を整備したことにより、学校を核とした地域づくりの輪が広がり、学校の教育活動への支援も充実した。

●活動見学に他校から多くの訪問があった。モデル校としての役割も果たすことができた。

【今後】今は、学校の取組が主になっているが、学校支援地域本部として「子供たちに何ができるか」を考え、実行できるものが一つでもあれば実施していきたい。



ひな祭りのお茶会(3月3日)

# 無理なく、楽しく、地域みんなが幸せになれるサポート活動

## 北海道帯広市

活動名

帯広第四学校支援地域本部  
花園小ネットワーク委員会

関係する学校

帯広市立花園小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		5人	15人	24年度	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		7人	230人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	5人	70人	15日	無	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	体育館、教室			24年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

帯広市立花園小学校は、平成19年度文部科学省「学校支援を通じた地域の連帯感形成支援のための特別調査研究」のモデル校となったことを受け、多様な教育支援活動の推進を担う基盤として本委員会を設立した。

○花園地域ネットワーク委員会設置

①ネットワーク委員会(毎月開催)

・本委員会の組織は、ボランティア、PTA、学校教職員によって構成されており、学習活動の趣旨を踏まえた支援の調整を総合的に行う。

②内容

【教科サポート】防災教育、食育、家庭科

【異世代交流支援】クラブ指導(お茶、お花、絵手紙、タグラグビー、調理)

【教育環境整備支援】花壇支援、農園整備、憩いの場整備

【学校地域連携事業】安全安心支援(花園安全ネット)、図書館ボランティア、防災訓練

③学校支援ボランティア事業に関わる普及啓発 広報活動【事業内容等をPTAと地域住民に紹介】

④「交流と感謝の集い」・前年度の活動を振り返るとともに、ボランティアに対する児童の感謝の意を伝える。・これからの活動の一層の発展に向けた意見交換を行い、ボランティア間、各団体間のつながりを深める。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

○地域の人材や教育力を生かした活動

・地域に在住する消防関係者等をボランティアとして、本格的な消火訓練を行ったり、防災に関する講話をしたりして、地域参加型の事業を展開している。

・ボランティア活動をはじめとする各種の教育支援活動には、10年～20年前に在学していた児童の保護者が多く参加・協力してくれている。

○学校と地域が密接に連携し、学校及び学校周辺の実環境整備の行事を毎年5回程度実施している。特に、校舎周りの花壇づくりについては、苗植え、水まきや雑草取りなどの日常的な手入れなどに努め、美しさのみならず取組内容が地域住民や来校者から高く評価されている。

### 【実施に当たっての工夫】

○学校、地域、PTA役員が集まった会議(ネットワーク会議)を開催することで、学校の要望や保護者、地域の意見等を幅広く意見交流できる機会としている。

○地域の町内会にボランティア活動等の情報を積極的に広報活動を行い、活動の理解や協力を得ている。

○学校の教育活動を支援ボランティアへ感謝の意を伝える機会として毎年1回「感謝のつどい」を実施し、コーディネーターをはじめ多くのボランティアと交流する場を設けている。

## ● 事業を実施して

○すでに退職された方や以前子供が通学した学校に再び足を踏み入れて、子供たちと接することで、とても楽しく充実した時間を過ごすことができるとボランティアの方々から意見をいただいている。

○子供たちもいろいろな方々と接することで、挨拶やコミュニケーションに積極的になった。

## ● その他

現在、帯広市内では、40校において学校支援地域本部事業を実施しているが、その中でも常に先進校として積極的かつ充実した事業を推進しており、学校ボランティアによる教育活動への支援や学校を核とした地域づくり並びに全道への成果普及に貢献している。



本物の消火器を使った訓練



ボランティアと協力して花壇づくり

# 市内に本部は1つ! 延べ約5千人の地域住民が全ての学校を支援しています!

## 北海道網走市

活動名

網走市学校支援地域本部事業

関係する学校

市内全てを1つの地域とする全16校  
(小中学校及び特別支援学校)

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	256人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

基本データ

活動の概要

元々各学校区毎に独自に行われていた地域による学校支援の取組は、平成20年度から網走市内で1つの実行委員会と本部が組織され、11校で実施が始まった。この取組は5年を経過し、現在では市内全ての小中学校及び特別支援学校(計16校)が取り組むようになり、今では他府県の地方自治体から行政視察を受け入れるまでになった。

主な活動

1. 学校支援活動
2. 部活動指導
3. 環境整備
4. 登下校の安全見守り
5. 学校行事
6. その他
  - (1) 学校図書の整理
  - (2) プール見守り
  - (3) よさこい指導
  - (4) 読み聞かせ ほか

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

雪国らしく、冬は体育でスキーやスケート授業の指導があり、学校支援により初級・中級・上級とクラス分けされ、円滑に授業が行われている。夏の体育はタグラグビーやよさこい(おどり)の指導があり、専門的かつ安全に授業が行われている。総合の時間や道徳の時間などでは、昔遊び・読み聞かせ・人形劇・書き初め指導・茶道教室・地域の昔話など、地域の大人の知識や経験が生かされる支援がある。

安全の見守りについて、北海道は信号が少なく道路が広いためスピードを出しがちな地域である。そのため、交通事故も多いことから、地域の大人が登下校時の安全見守りをする風土があるため活動実績が多くなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①コーディネーターは、退職校長が代々担っている。  
⇒学校と地域のことを理解する方が調整を行うことで、良好に取組が行われている。
- ②学校とのやりとりは3か月に1度、電話で教頭先生から聞き取りを行っている。  
⇒3か月という期間は、活動を振り返り継続する上で適した期間。  
⇒電話での聞き取りは学校側の業務負担にならない方法。  
⇒教頭先生は学校全体を把握し実務を行うため、円滑なやりとりが可能。
- ③事業の説明について  
⇒年度当初の4月に、校長会・教頭会において本事業の概要を説明。  
⇒4月中旬から各学校へコーディネーターが訪問して事業説明を行っている。  
⇒特に人事異動で新たに着任した校長・教頭へ説明を行っています。



登下校見守り

## 事業を実施して

【成果】①実技教科で少人数学習が可能になり密度の濃い指導により子供の意欲喚起ができた。②体験活動では、ゲストティーチャーによりタグラグビー・茶道・伝統芸能など普段できない専門的かつ安全な教育活動ができた。③学校支援により、児童・生徒のコミュニケーションの幅が広がった。④教員の時間的、精神的な負担が軽減された分、児童・生徒と向き合う時間が増えた。⑤本事業により、安全見守りを実施している地域の方を子供たちの学習発表会にご招待したり、昔遊びを教える地域の方と授業後に一緒に給食を食べるなど学校と地域との距離が縮まり、交流や協力いただく機会が増えた。⑥地域との交流が学習意欲向上に良い影響を与え、地域の力をより積極的に活用しようとする教職員の意識に変化が表れてきた。



総合的な学習の時間(せせらぎ学習)

## その他

- ①年2回の実行委員会を開催している。
- ②年度毎にアンケート調査により事業評価を実施し、事業効果・課題・改善点を整理し、次年度以降の資料としている。

# 地域ぐるみの教育活動の展開により、子育てを地域・家庭・学校が共有する

## 青森県八戸市

活動名

八戸市立第一中学校  
地域密着型教育

関係する学校

八戸市立第一中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		2人	24人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

1 組織・活動

- (1) 地域学校連携協議会(年3回)
  - ・組織づくり、及び活動方針、計画、評価(改善)を行う。
- (2) 各プロジェクト会議
  - ・4プロジェクトごとの活動、計画、評価(改善)を行う。

2 各プロジェクトの活動

- 情報発信支援プロジェクト
  - ・ボランティアだより「ブルースカイ」の発行
  - ・学校行事、部活動等の取材等
- 環境整備支援プロジェクト
  - ・環境整備支援

※ H26 活動

- ・駐車場整備・校舎ワックスがけ、タイルはり・窓ふき
- ・草刈り・用水路の泥あげ・グラウンド整備等
- 学校図書支援プロジェクト
  - ・図書館支援等
- 学校行事(教育活動)支援プロジェクト
  - ・学校行事支援(体育祭・文化祭等)
  - ・学習支援(書道、食育等)
  - ・青葉湖ウォーク(プロジェクト行事)
- 3 その他
  - ・学年行事の支援
  - ・学校安全支援

## 特徴

### [特徴的な活動内容]

- 企画推進部会
  - ・地域学校連携協議会のもと、企画推進部会(21名)がより良い活動の推進に当たっている。
- 活動室(校内)の活用～保護者、地域の方が日常的に学校で活動
  - ・校内にPTA活動室(専用PC、プリンター等完備)、用具室(学校支援のため準備した用具保管)設置
  - ・日常的に各プロジェクト委員会、PTA委員会のメンバーが校内の活動室で会議や活動をしている。
  - ～日常の学校の様子を見てもらうことができる。
- コーディネーターとの連携
  - ・事務局を教頭・教務主任・生徒指導主事とコーディネータ2名で組織し校内、地域、家庭との連絡調整を連携して行っている。

### [実施に当たっての工夫]

- これからの方向性～6年間の実践をとおして
  - 1 今あるものを見直す
    - ・既存の学校行事や教育活動の協働を視点に行う。
    - ※生徒数の減少により現役の保護者が減ってきている。
    - ～地域、OBの方の協力体制の充実を図る
  - 2 細く・長く・楽しく!をモットーに
    - ・できる事を、できる時間に、できる範囲で行う。
  - 3 本当に必要な支援にしぼる
    - ・生徒に還元される支援活動を中心に行う。
  - ～6年間の実践から本活動の組織、取組等はかなり充実している。そのため組織メンバー、地域ボランティアの方にこれ以上の負担をかけない活動を実践していく。



青葉湖ウォーク(学校行事支援プロジェクト行事)

## 事業を実施して

- 6年間の成果
  - 1 学校生活全般、生徒が落ち着いて活動している
    - ～教職員だけでなく、地域、保護者の見守りの中で活動が行われている。
  - 2 保護者・地域の方の来校が日常的になった
    - ～ほぼ毎日、PTA、プロジェクトの活動が学校で行われている。
  - 3 教職員と保護者・地域の方との連携が充実してきた
    - ～人間関係、信頼関係が構築され、学校の敷居が低くなった。
  - 4 協働の学校運営によって学校への理解が深まった
    - ～学校行事等への参加者、支援者が増えた。
  - 5 学校(中学生)に対する地域の関心が高まった
    - ～批判から理解へ、理解から支援へと地域の意識が変化した。
    - (苦情ではなく、さまざまな情報が寄せられるようになった)

## その他

平成20年度から本実践を通し、確実に学校への応援者が増えてきた。今後は、これらの活動を継続させるとともに、学校が地域へできる事を模索していきたい。



地域密着型教育の組織

# 地域による教育活動応援隊

## 青森県むつ市

活動名

第二田名部小学校学校支援地域本部

関係する学校

むつ市立第二田名部小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	20人	24年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- ・「学校支援地域本部事業」が県内で事業化される以前の平成13年度より、地域に開かれた学校をめざし、管内では初となる算数における「学習支援ボランティア」を導入し、平成14年度以降、算数における学習支援ボランティアにとどまらず、様々なボランティア活動を取り入れている。
- ・第二田名部小学校では、学区内に限らず、多くの学区外の方々も主体となって、学校支援ボランティアを行い、子供たちのために役立ちたいという熱い思いで支援している。
- ・授業(版画)、校外学習、授業時におけるゲストティーチャー、環境整備など、幅広い分野でのボランティア活動へと広がっており、日々子供たちにとって、どのようなボランティア活動が有効であるか、検討・確認しながら継続されている。
- ・中心となって活動しているボランティアの方々は、本校のPTAを子供の卒業とともに退会した元PTA会員である。学校支援コーディネーターも元PTA役員ということもあり、当時の活動仲間(現ボランティア)との信頼関係が構築されているので、お互いに連携しやすい状況にある。現在は、特徴的な活動内容の中にある環境ボランティアの図書室整備作業(図書ボランティア)を中心に、毎週木曜日の午前中に活動を継続実施している。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ◇授業時の講師や支援、補助ボランティア
  - ・国語(習字) ・算数(単元終了時のコース別プリント学習) ・図工(版画)
  - ・家庭科(調理実習、裁縫実習) ・総合的な学習の時間(ゲストティーチャー)
  - ・読み聞かせ
- ◇新年度ボランティア
  - ・新入生への給食準備、配膳の手伝い ・新入生の下校安全指導
- ◇環境ボランティア
  - ・春の花壇整備作業 ・図書室整備作業
- ◇安全ボランティア
  - ・春と秋の交通安全指導
  - ・校外学習時の引率、安全指導(生活科、図工、総合的な学習の時間)
- ◇行事ボランティア
  - ・運動会支援(低学年の練習、当日のトイレなど) ・学芸会の衣装替え(総練習、当日)
  - ・地域の祭り、みこし祭り参加(歴史・担ぎ方等の講話)
  - ・スキー教室支援(グループ指導)

#### 【実施に当たっての工夫】

- ・ボランティアを行う上で「無理をせずに、ボランティアをできる時に引き受け、無理な時は遠慮せずに断る」をルールとし、ボランティアの方が継続できるように配慮されている。
- ・ボランティアの方々が気軽に集って様々な情報交換ができるなど、子供たちの活動を身近なものとして感じることができるよう「地域に開かれた学校」としての体制が整備されている。



給食準備、配膳の手伝い



児童への読み聞かせ

### 事業を実施して

- ・図書ボランティアとして図書室の本にカバーをラミネートする作業を継続して実施している。子供たちはラミネートされた本を手にし、感謝の気持ちと温かい心で丁寧に本を扱うようになり、心が育ってきている。
- ・高校生ボランティアを導入し、小学生に対して「学習指導」や「部活動指導」などを行っているが、この活動が高校生にとって「キャリア教育」の一助となっている。また、この活動を通して、小学生は高校生への憧れを抱いたり、将来の夢を見つけたりしている。

### その他

- ・平成23年度に「学校支援センターのあり方に関する先進的モデル事業による実践研究(研究指定校)」として委託されて取り組む中で、「特別なことをせずにどこの地域でも参考になること」、また「ボランティアの方々に負担にならないこと」を意識した実践を行ってきた。そのことも含めて、管内の学校から様々な点で高い評価を得ている。

# 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで 子供を育てる

## 青森県平川市

活動名

小和森小学校学校支援ボランティア活動

関係する学校

平川市立小和森小学校

活動区分		※H25年度の実績 (補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	90人	21年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

- 平成21年度から活動を開始した。平成24年度からは、学校支援ボランティアとして参加した延べ人数が300人を超え、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援しようという気運が醸成されている。
- 学校教育支援活動が、次のように多種多様に展開されている。
  - ・学習への支援（1年生：昔遊びの指導、2年生：町探検案内・引率、3年生：ふるさと探検案内・引率、4年生：平賀音頭指導、味噌づくり指導、5年生：米づくり体験指導、俳句教室指導、5・6年生：裁縫・ミシン指導、スキー指導、クラブ活動、獅子踊り指導）
  - ・環境整備への支援（校地内の樹木の剪定、草刈、花壇の整備、ガーデニング講習会、ベランダのペンキ塗り、フェンス修理、除雪、雪囲い修理）
  - ・「お話ほかほかの会」による読み聞かせ（年間13回の読み聞かせのほかに、図書室整備支援も行っている）
  - ・小和森っ子見守り隊による安全支援（交通安全教室、毎日の登下校時の街頭指導）
  - ・部活動への支援（野球・卓球・ソフトボールの指導）

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 小和森っ子見守り隊…小和森小学校の学区は、交通量の多い地域であるため、子供たちの安全を見守る必要から、地域に呼びかけ組織された。地域住民21名が登録し、毎日交差点に立って子供たちの安全の見守りや声かけを行っている。
- 「お話ほかほかの会」…10年前に本好きなPTAの会員が集まり、子供たちの前で読み聞かせをしたのが始まりで会が発足した。現在は、5～6人のメンバーが主に活動をしている。
- 花壇の整備や樹木の剪定等の環境整備…地域の公民館で活動している各種団体や、地域の女性学習団体のメンバーが協力して、子供たちや教師と一緒に環境整備をしている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 配置されているコーディネーターがPTAの役員会に出席し、事業に関する協力を依頼したり、運営に関する打合せをしたりしている。また、コーディネーターと窓口教員とは定期的に打合せをする時間を設定しており、学校側のニーズを直接コーディネーターに伝える体制が整っている。
- 学校のニーズに応じた人材確保が、地域住民の生きがいや地域づくりにつながるようにしている。



5年生の米づくり体験指導

### 事業を実施して

- 学校のねらいや子供たちの興味・関心に合わせて学習ができるので、子供たちが生き生きと活動している。また一人一人に十分な支援をすることができるので個に応じた学習の成果が上がっている。
- スキー山の草刈り、学校花壇の整備、校庭の石拾いなどで、環境面での整備がなされたことで子供たちは安心して気持ちよく活動できる。
- 「お話ほかほかの会」の読み聞かせは定着しており、子供たちが楽しみにしている。また読書への関心も高まり図書室を利用する子供たちが増えている。
- 子供たちも職員も地域の方々と顔見知りになり、安心して登下校ができている。また、校外でも進んで挨拶する子供が増えている。



2年生の町探検引率

### その他

- 平成23年6月19日(日)、ATV「森の罎」という番組に地域の教育力による学校支援活動推進事業が取り上げられた。小和森小学校の「地域の力を学校へ」～子どもたちの笑顔のために～を広報テーマに放送された。読み聞かせなどの学校支援活動を紹介し、PTAやPTAのOBらによる読み聞かせと子供たちの反応が伝えられた。

# 「子供は地域の宝、学校はみんなで創るもの」 ～地域と学校のつながり～

## 岩手県宮古市

活動名

茂市小学校支援事業

関係する学校

宮古市立茂市小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	57人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	15人	176日	有
コミュニティ・スクール	実施場所	開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	余裕教室	19年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成16年度からあっとホーム茂市の名称で放課後子供教室事業（当時は子供の居場所事業）を実施している。学校の空き教室等を利用し、毎年4月から2月（夏休みや冬休みを除く）の毎週月曜日から金曜日、授業終了後から17時まで実施している。

また、平成20年度からは並行して学校支援地域本部事業を実施している。元々、茂市地域はPTA会員戸数の割合は高くないものの学校教育への関心が高い地域であり、本事業の実施により、地域の方々の豊富な経験や知識、そして教育に対する熱意を強く学習支援活動に活用することができるようになってきている。

《主な活動内容》

○茂市あっとホーム

スポーツ体験活動、読書等の文化活動の提供、室内遊び、創作活動等による異年齢との交流機会の提供、季節行事や地域行事等を通じた地域住民との交流機会の提供、安全管理員による予習・復習等の学習活動の機会の提供、特別企画（プラ版工作や和紙染め等）、他校のあっとホーム参加児童との交流活動等

○茂市小学校支援地域本部

学習支援活動（農業体験：さつまいもなどの植え方・収穫の指導等、家庭科学学習支援、点字学習、クラブ活動における指導等）、環境整備（草刈り、除雪等）、登下校安全指導、学校行事（茂市さんさ踊り・太鼓の指導、学習発表会における展示会・バザーへの作品提供等）、その他（読み聞かせ、図書館整備等）

特徴

【特徴的な活動内容】

茂市小学校は全児童数が30人程の小規模校であるが、その約半数があっとホームに参加している。安全管理員は地域の方が交代で毎日2名ずつ入っており、子供の安全を確保しながら、子供と一緒に遊んだり、学習や読書、地域住民との交流活動の補助を行ったりしている。また、安全管理員と保護者との間で、子供の帰宅方法や帰宅時間等の確認がスムーズに行われるよう、参加する子供に「連絡カード」を配布し、持参するよう指導を行っている。

全児童数が少ないこともあり、全学年が一緒になり活動しているため、高学年の児童が自然に低学年の児童の面倒を見るなど、普段の授業では学ぶことのできない体験を通して子供の心の成長にも寄与している。

地域の戸数の約半数にあたる世帯の方にPTA賛助会員として加入していただくなど、地域ぐるみで学校を支援しようとする気持ちが強い地域であり、様々な内容で多くのボランティアが支援を行っている。学校と地域の連携が円滑に進んでいることにより、デイサービスに出向いて演技を行う等、子供たちが地域に貢献することのできる体制も構築できている。

【実施に当たっての工夫】

あっとホームでは月に一度、特別活動としてプラ版工作や和紙染め等、普段できない活動を行っている。また、夏休み及び冬休みには、他のあっとホーム（放課後子供教室実施校）との合同交流会を開催し、普段触れ合うことのあまりない他地区の子供たちと一緒に活動できる機会を設けている。例として、夏休みには地域の方が竹を割って作った台を使って流しそうめん大会を行ったり、冬休みには手作りした凧を使って凧あげにチャレンジしたりしている。

学校支援地域本部事業としては、地域の方が学校に足を運びやすい雰囲気づくりをすることにより、地域の方の来校回数が増え、学校と地域がより近い関係になることで、子供たち自身がたくさんの人たちに支えられていることを感じてもらえるようにしている。また、運動会の反省会をPTA主催で行ったり、学校教職員の送別会に地域の方を招待するなど、学校と地域間の交流を深め、子供のためにがっちりスクラムを組んでいこうという雰囲気づくりを行っている。



地域の方による作品を展示している様子

事業を実施して

茂市地域には学童の家や放課後児童クラブが設置されていないため、あっとホームが放課後の子供の居場所を確保する唯一の場所となっている。そのため、参加している子供たちからは今後もずっと継続してほしい旨の声が多く挙がっている。保護者もその必要性を強く感じており、重要性を高く評価している。

また、地域コーディネーターの存在により、地域の様子が学校にも入ってくるようになってとにも地域の方々話す機会が増えたことで、地域と学校との距離が縮まり、つながりが深まった。また、地域の方々がこれまで以上に学校の活動に関わるようになるにつれて、地域に対する先生方の意識も変わり、先生方自身が地域の方々に関わろうという気持ちも高くなった。

その他

地域コーディネーターや学校支援ボランティアの方があっとホームの安全管理員を兼ねていることにより、地域住民との交流活動の円滑な推進、安全管理員と保護者間の連絡調整がスムーズにできている。また、子供にとって顔や名前が分かる地域の方々が見守っているため、安心感を持って放課後を過ごすことができている。



もちつき体験



# 「つなぎ・つづく支援活動」

## 岩手県宮古市

活動名

山口小学校支援地域本部

関係する学校

宮古市立山口小学校

活動区分		※H25年度の実績 (補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	50人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

山口小学校では、平成20年度に市内で先頭を切って学校支援地域本部事業を開始し、平成26年度で7年目を迎えた。子供の安全確保や学習・行事の支援はもとより、黒森神楽の伝承活動や震災の経験を踏まえた地域防災活動の実施等を、地域の人材や学習財を取り入れ、地域の特色を生かしながら行っている。

本事業の取組について、コーディネーターが県内外で事業について講話を行ったり、様々な視察を受け入れたりしており、高い評価を受けている。

《主な活動内容》

環境整備（草取り、プール整備、学校林整備等）、学習支援活動（体力測定補助、クラブ活動支援等）、登下校安全指導（毎日の登下校時の子供たちの見守り。一年間の延べ参加人数は約1,300人となっている。）、学校行事（運動会での競技支援、マラソン大会での安全指導）、その他（ふれあい教室《生け花、ちぎり絵、茶道体験》、読み聞かせ、日本舞踊指導等）

### ● 特徴

【特徴的な活動内容】

- 東日本大震災の際、長期間にわたり体育館が避難所となったことや、現在学区内のほとんどの公園に仮設住宅が建てられていること等を踏まえ、学校と地域の結びつきを大切に、災害時の避難者の受け入れや避難所運営等において学校と地域が協力して対応できるように事前の体制づくりを進めている。また、災害などの非常時に子供たちを安全に家庭に帰すための取組も進めている。
- 調べ学習や読書の推進を図るため、読書ボランティアと協力して読み聞かせから図書室等の整備や掃除、本の修繕等、児童が本と親しみやすい環境づくりに力を入れている。
- 平成24年度に学校の創立110周年を記念して「ふれあい夏祭り」を開催した。学区内のほとんどの公園に仮設住宅が建ち、公園での盆踊りができなくなっていたことを受け、学校を会場にして祭りを開催した。PTA、学校、地域の方々と一緒に準備や運営に携わり、例えば建設業界の方が率先して櫓組みの中心となったり、青年会の方が出店の準備を進めたりと、それまで培った学校と地域との繋がりを活用し、地域ぐるみで祭りを作り上げた。

【実施に当たっての工夫】

- 年に2回の地域教育協議会の開催、自治会長等との懇談、公民館主事との情報交換などをコーディネーターを中心に行い、情報共有を積極的に行うよう努めている。
- 将来的にコーディネーターがいなくても学校と地域の連携が確立できるような体制を作ることを目標に取り組んでいる。例として、次のような取組を行っている。
  - ・普段から地域と学校が行き来しやすく、地域の方々自主的に学校支援を行おうと思える雰囲気づくりとして、使用していない昇降口に地域の方向けの本棚と展示コーナーを設置し、散歩の途中で立ち寄りやすい場所とすることで、学校に入りやすくしている。本棚には震災後に寄贈された本の中から一般向けのもを設置し、持ち帰り可としている。展示コーナーには地域の公民館で活動しているちぎり絵サークルより作品を展示してもらっている。また、小物作りやちぎり絵体験のボランティア研修会を開催し、興味のある人が参加しやすいようにしている。
  - ・学校内のニーズに対応したボランティアの発掘ができる体制づくりとして、年度のはじめに学校支援地域本部についての説明やボランティア募集の広報紙を地域に配布し、事前に参加可能な分野、日時を登録してもらっている。これにより、学校が地域によるボランティアの可能性を把握できるとともに、必要なボランティアの確保がスムーズに進むよう配慮している。
- 地域ボランティアの活動だよりを、学校の校門そばに設置した情報共有掲示板に掲示するとともに各自治会に依頼して地域の掲示板へ掲示してもらうことで、地域の多くの方に学校について知ってもらうようにしている。活動だよりには、学内外の危機管理の観点から防災に関するコラムを掲載しており、地域の方々に学校支援の取組を広く周知するとともに、防災意識の向上のための取組を行っている。



地域の方によるプール保守作業



登下校安全指導の様子

### ● 事業を実施して

- 「ふれあい夏祭り」は、それまでの日頃の学校と地域のつながりを再確認する場になるとともに、大きなイベントを一緒に作り上げたことで、学校、家庭、地域、そして世代間の交流が一層進んだ。地域の方々にとって学校の敷居が低くなるとともに、学校にとっても地域の方々へ声をかけやすくなった。
- 地域コーディネーターの連絡・指示がなくても、自主的に学校を支援してくれる地域ボランティアの方々が増加している。また、これまでボランティアとして登録していなかった方も支援してくれるなど、学校が地域に支えられていることを感じられる場面が増えている。

### ● その他

地域のボランティア参加者が増えるにしたがって、PTAや保護者の学校における役割が弱くなってしまいう可能性があるため、現在ボランティア活動の推進と並行して地域、家庭、学校の連携の強化を進めている。

# わくわく・どきどきするような活動を提供し、その感動を成長につなげます!

## 岩手県滝沢市

活動名

チャグホ塾

関係する学校

滝沢市立滝沢小学校・滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立鶴飼小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動	1人	10人	18年度	有
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	18人	122日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	ホール、集会室、調理室、生涯学習情報室、学習室		18年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

「チャグホ塾」は、「放課後や土曜日における子供の安全で健やかな活動場所」を確保し、「子供たちの様々な文化との出会い」の場の提供を目的に、滝沢市教育委員会と滝沢ふるさと交流館が一体となって開設している「放課後子供教室」です。運営は、滝沢ふるさと交流館の指定管理者である認定NPO「劇団ゆう」を中心に、多数の地域ボランティアの参画を得て行っています。平成26年度は、市内の小学校3校から103名の児童が参加し、楽しく活動しています。

チャグホ塾では、活動を通じて得た感動を成長につなげるため、わくわく・どきどきするような15の体験コースを設定しています。いずれも地域の特色や人材を生かした魅力的な内容であり、参加児童にとって貴重な学びの場となっています。また、公共施設の正しい利用の仕方など、生活習慣の指導にも力を入れています。生活に関しては、関係する学校と共通指導事項を設定するなど連携協力を図っています。

チャグホ塾は、児童や地域ボランティアにとって、学びを通じた貴重な世代間交流の場ともなっています。当塾への参加児童・地域ボランティアは年々増加の一途をたどっていますが、活動する楽しさのみならず、他者とのふれあいに大きな喜びを感じていることも、その大きな要因としてあげられるのではないのでしょうか。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ○わくわく・どきどきする体験活動の提供

チャグホ塾では、茶道や料理、軽スポーツにミュージカルと全部で15コースの体験活動を提供しています。各体験活動の指導は地域ボランティアが中心となり行っています(ボランティア登録者数:平日25名、土曜日4名)。滝沢ふるさと交流館の指定管理者である「劇団ゆう」の職員も、その専門性を生かし、子供たちに表現活動の楽しさや魅力を伝えています。

#### 【平成26年度の体験活動メニュー】

- ・賢治童話 ・紙細工 ・軽スポーツ ・英会話 ・ミュージカル
- ・わら細工 ・お花 ・茶道 ・ひも細工 ・料理
- ・遊具作り ・将棋 ・オセロ ・自然探訪 ・布絵

### 【実施に当たっての工夫】

#### ○安全確保の徹底

火災や地震の発生時の安全対策として、活動場所別の避難訓練を安全管理員と共に実施したり、『安全確保情報連絡票』により帰宅方法や緊急連絡先等を把握したりして、非常時の対応について保護者とも共通理解を図り、児童の安全確保の徹底を図っています。

#### ○保護者及び地域住民との連携促進

参加児童の各種体験活動の成果を発表する「チャグホ塾発表会」を、年に1回開催しています。作品展示やステージ発表は、保護者や地域住民のチャグホ塾に対する理解を深めるとともに、参加児童の満足感と感動をより大きくする貴重な機会となっています。また、通信やBLOGにより、年間を通じてチャグホ塾に関する情報を多くの方に発信し続けています。

#### ○活動場所の確保

当館では、貸館業務もあり、チャグホ塾の活動場所も限られてきます。空いている場所や部屋を利用するなど、工夫をしながら活動を行っています。



包丁の使い方学ぶ「料理」の活動



自分の花壇にひまわり植え「自然探訪」

## 事業を実施して

平成18年度に開設し本年度で9年目を迎える「チャグホ塾」は、確実に地域に定着し、事業内容も年々充実してきました。参加児童や保護者に喜ばれる活動場所として今まで継続することができたのは、地域ボランティアとして多数参加して下さっている指導スタッフのお蔭です。

子供たちの為に開設した「チャグホ塾」ですが、近年では、ボランティア同士の集いの場となり、そこからいくつかのサークル活動も生まれました。子供たちに感動を届ける活動が、関わる大人の生きがいづくりとなり、地域コミュニティの構築に発展していることを嬉しく思います。

## その他

「滝沢ふるさと交流館チャグホBLOG」  
是非ご覧ください!

【参考URL】 <http://chaguchagu.exblog.jp/i7/>

# 保護者を中心とする「おかあさん先生」が子供たちを力強くバックアップ!

## 宮城県仙台市

### 活動名

東六番丁小学校学校支援地域本部

### 関係する学校

東六番丁小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	2人	49人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成20年度に、国の委託事業を受けて本部を設置し、地域の人たちの力を学校教育に生かし、子供たちが安心感を持ち、充実した学びができるよう様々なサポートを行っている。今年度で7年目を迎える。

平成21年度に仙台市教育委員会が導入した「小1のための生活・学習サポーター」事業を翌22年度から本格的に取り入れ、小1プロブレムの問題を地域の方の協力を得ながら、解消していった。学校のニーズに合わせたサポートを基本としており、児童の保護者からなる学習補助や生活補助を目的とした「お母さん先生」の導入や震災学習を地域の方々と学校がと協働して進めるためのコーディネートを行うなど、学校と地域が一体となった活動を続けている。

具体的な活動としては、読み聞かせボランティアの手配、総合的な学習の授業「震災から学ぶ」で、子供たちが校外に出かける際に同行するボランティアの手配、子供たちが育てた花で地元商店街を飾り町の活性化をめざす「お宮町 花いっぱい大作戦」のサポートなど、常に地元との接点を見つけ、教職員も「地域とともに」という共通意識をもって本部活動に取り組んでいる。平成25年度は年間280日の活動日数で延べ728人のボランティアの協力があり、学習支援を主に保護者が中心となった支援体制を確立している。

経験豊富なボランティアと組んで活動したりするような体制を整えており、学校支援ボランティアの数は決して多くはないが、年々ボランティアの質とレベルが向上してきている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・小1生活・学習サポーターの活用・・・1年生の基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるため、1年間を通じたサポーター配置を行っている。他の本部は4月から7月までの配置がほとんどだが、夏休み明けから12月まで毎日2人を2時間目から3時間目に配置。1月から2月は週3日、1人を2時間目から3時間目に配置し、子供たちへの支援体制を整えている。
- ・総合的な学習の時間やクラブ活動における外部講師との調整や招へい・・・スーパーバイザーと地域の方々が密接に関わりあっていて、信頼関係が出来上がっている。
- ・書初め練習会での指導補助サポーター
- ・週2回、読み聞かせグループによる教室での朝の読み聞かせ

### 【実施に当たっての工夫】

- ・新年度の小1生活・学習サポーターを春休み中に募集し、シフトを決め、入学式翌日から当たり前のように教室にいるという状況を作り、2月いっぱい関わっていただいた。また、毎日記録をする「クラスごとの連絡ノート」を担当とサポーターとの情報ツールとして活用している。その日の出来事をサポーターが毎日書き、担当が毎日確認・返答することで児童の変化を見逃さず、即座に対応できるようにしている。
- ・総合的な学習の時間の外部講師は、特に5年生の防災の内容においては、地元情報誌の編集に関わる地域の方をお呼びし、取材、編集等を通して、地域との交流を深め、学校支援本部の活動の充実につなげることができた。



5年目を迎えた「小学1年生生活学習サポーター」

## 事業を実施して

- ・支援活動の質や内容が充実してきており、ボランティアとして参加している人数が年々増加してきている。
- ・教職員、スーパーバイザー、既存の団体や町内会の団結力が高まり、学校支援地域本部を通したつながりができ、日常の学校での教育活動において地域の方々がいつでも子供たちの学びを支援できる信頼関係や体制が完成されつつある。

## その他

- ・学校教職員の理解が進み、子供たちの学習活動に積極的に学校支援ボランティアが参加できる環境が整っている。
- ・職場体験活動や地方情報誌の作成に至るまで幅広くスーパーバイザーがコーディネートし、安心・安全な活動を展開できる信頼関係が構築されている。



外部講師を招いての「茶道クラブ」の様子

# 地域住民が運営し、地域の子供を見守り育てる ボランティア活動!

## 宮城県仙台市

### 活動名

生き生き中山っ子教室

### 関係する学校

仙台市立中山小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	6人	19人	199日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	仙台市立中山小学校		19年度	有
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成17年度から「地域子ども教室推進事業」として実施し、平成19年度から「仙台市放課後子ども教室モデル事業」として活動を継続してきた。また平成22年度より「仙台市放課後子ども教室事業」の委託を受け、学校や地域と連携を深めながら様々な活動を展開し、平成26年度で10年目を迎える。

1～6年生を対象に、平日は月～金の中の3日間、その他土・日・祝日は月に4日程度の講座を実施しており、長期休業中の活動も行っている。平成25年度は開設199日、延べ3,728人の児童が活動に参加し、コーディネーター、安全指導員は延べ668人が運営にあたった。その他、児童館や高校と共催で事業を展開したり、地域住民、老人クラブ、体育振興会などがボランティアや講師として関わったりしながら事業を実施している。また、地元の中山商店街との連携が盛んであり、月に1回土曜日の「街道市」の取組は、地域の特色を生かした活動であり、販売体験やゆるキャラ作りなどに活動が発展している。

運営は登録制ではなく、児童が参加したい講座に自由に申し込むことができるシステムによって多くの児童が地域と関わることができる機会を長年提供し続けてきた。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域における子供たちの健全育成を図るため、平日週3回その他、土日祝日の活動を月に4回程度実施している。内容は茶道教室、フラワーアレンジ教室、和菓子作り教室等、地域の実態に応じたものになっており、地域の方の学びの成果を発揮する場にもなっている。
- ・地元の中山商店街との連携事業を月に1回実施し、駄菓子等の販売体験をしながら、子供たちと地域とのコミュニケーションの場づくりをしている。
- ・児童館、高校と連携した事業を実施し、年々地域との交流が広がっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・子供の興味・関心を基に、多様な体験活動を工夫し実施している。
- ・土日祝日は、スポーツや他団体との連携事業など、平日に体験できない内容の講座を実施している。
- ・多くの安全指導員が登録されており、運営者側が負担にならないような実施体制を実現している。
- ・登録制ではなく、児童が興味のある講座にいつでも申し込むことができるシステムを取り入れ、多くの子供たちが地域と関わり、様々な体験をすることができている。



毎月1回地域の商店街で開催する「街道市」での出店の様子



夏休みに開催した「シュノーケリング教室」の様子

## 事業を実施して

- ・コーディネーター、安全指導員の情報共有を随時行うことで、スタッフがまとまり、よりよい子供たちの居場所づくりができています。
- ・地域で子供を支援するネットワークづくりを意識した取組は、仙台市放課後子ども教室事業全体の発展にも貢献している。

## その他

- ・子供たちに楽しい時間、安全な場所、安心できる環境を提供し、子供たちがゆっくり成長できる場所づくりを目標にしている。現在も地域諸団体、児童館、高校の協力をいただきながら、毎年活動範囲を広げている。

# せみねっ子の健やかな成長を地域全体で見守り、支援する活動を実践しています。

## 宮城県栗原市

活動名

せみねっ子を育てる会

関係する学校

栗原市立瀬峰小学校・瀬峰中学校

活動区分		※H25年度の実績 (補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	2人	128人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

- 青少年の健全育成に関する活動を民間主導で行いたいという思いから平成18年に会を設立。平成20年度からの学校支援地域本部事業にも関わり、平成21年に「地区子ども会育成会」とも対等合併し、現在に至る。
- 学校支援活動を地域が一体となって行い、子供たちの豊かな人間性や社会性を育む活動を継続的に実践している。
- 組織の中に、地域と学校の連携を円滑に推進するための「学校支援委員会」を設置し、より望ましい姿を目指した組織改編を行っている。
- 小・中学校のそれぞれにコーディネーターを配置し、効果的に学校の教育活動を支援できるよう、学校との連絡・調整を行っている。
- 会報誌「ゆずり葉」を発行し、「学校支援事業」等での「子供たちの様子やボランティアの活動」を紹介し、事業の周知と普及・推進に努めている。
- 学校支援事業に加え、合宿通学やスポーツフェスティバル等の事業も支援し、イン・リーダー、ジュニア・リーダーの育成・研修機会となっている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 小学校では、本の読み聞かせや、スポーツテスト、調理実習、算数学習の指導補助等、中学校では、総合的な学習の時間の「ふるさと学習」の講話や実技指導、職場体験学習のための事業所への協力依頼等を行っている。
- 年間を通して、通学バスを待つ児童への「読み聞かせ」や登下校時の安全指導、中学校での部活動指導への協力等を行っている。
- 中学校の「ふるさと学習」では、地域で文化活動を行っている方々と交流し、物作り等の体験活動に全校生徒が取り組み、文化祭で学習の成果を発表している。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 学校とコーディネーターが連携して活動の調整を行い、スポーツテストや算数科の学習支援補助等のボランティアを要請することで、効率的で効果的な指導・支援ができています。
- 「ふるさと学習」は、年度当初に年間計画を作成し、支援内容に応じて、コーディネーターが講師、活動内容等を調整している。学習した成果(物)は、文化祭で発表することで、ボランティアと生徒の双方の励みとなっている。
- 「合宿通学」、「スポーツフェスティバル」等への人的・物的支援を行い、小学生とジュニア・リーダーが定期的に交流できるよう、各種事業を継承している。そのため、青少年リーダーの育成に適した活動環境が確保されている。



スポーツテストの補助

### 事業を実施して

- 組織の中に「学校支援委員会」を設置し、協力体制を強化する仕組みづくりがなされ、コーディネーターを中心とした支援活動の維持・向上が図られている。
- 継続して、学校支援・地域支援を行うことで、それぞれの結びつきが維持され、地域の学校に対する理解が深まるとともに、地域への感謝の気持ちや愛着心が、子供たちに育っている。



ふるさと学習

### その他

- 「瀬峰の子供たちのために」を合言葉に、学校や地域のニーズ、時代の変化に対応した活動と組織運営を継続していく。

# 箏演奏・体験をとおして、日本文化に触れ、誇りをもつ機会の実践

## 宮城県柴田町

活動名

東風の会

関係する学校

船岡中・槻木中・船迫中

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	2人	ボランティア登録数 19人	開始年度 23年度	補助の有無 有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- 平成13年度から船岡中学校において、和楽器（主に箏）に関する体験学習支援を継続して実施している。
- 平成24年度からは、新学習指導要領において、和楽器体験が必修になったことを受け、柴田町内の槻木中学校、船迫中学校でも和楽器（主に箏）に触れながら、実際に演奏し響きの良さを味わわせることをねらいとし、楽器との出会いの学習支援を提供している。
- 会の代表者は、柴田町協働教育推進委員会の委員を務める。学校と連携した教育活動が安定的・継続的に展開されるよう、自らの活動内容を発表する機会を求め、各種研修にも参加し、自己の研鑽とともに活動の輪を広げることに尽力している。
- 平成23年度から、柴田町教育委員会が展開する「しばたっ子応援団」（学校支援ボランティア）に登録し、地域全体で子供を育てる環境づくりの推進に大きく貢献している。
- 積極的な活動を行い、学校のみならず、家庭、地域でも、教室や体験会を通じ、子供たちの豊かな人間性や社会性を育む活動を実践している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 授業の教員補助として、演奏の要領を丁寧に指導するとともに、箏の特性や技能を身につけさせている。
- コーディネーターが学校間や教育委員会と連携を図り、年間活動計画を立て、具体的な活動目標を掲げ、ニーズに配慮しながら、改善や変更がスムーズに行える体制をとりながら展開している。
- 使用する器具(箏)に関しては、すべて東風の会からの提供である。
- 従来からある単なる「外部講師」ではなく、企画立案から多くの場面で参画して頂き、授業を作り上げる方法をとった。

### 【実施に当たっての工夫】

- 子供たちが興味関心を持てるように、簡単な演奏から次第に難易度の高い演奏に取り組めるよう、工夫しながら取り組ませている。
- 事業実施のために、楽器の歴史やその背景などを学ぶ事前学習や、経験や知識を予め調査するなど、学習効果を上げるよう準備を行っている。
- 限られた時限に対して、無駄なく、授業が行えるよう、タイムスケジュールの確認をし、授業の効率化に努めている。
- 課題への達成度に合わせた指導ができるよう、指導者、学校が協力してグルーピングとグループ指導の計画を事前に立案している。
- 新たな取組として工夫を重ね、実施したことにより、新たな授業実践へのアプローチ手法を身につけることが出来た。そのため、青少年リーダーの育成に適した活動環境が確保されている。

## 事業を実施して

- 図表や資料ではなく、直接触れて奏でる体験学習を実感できたことは、生徒たちの学習に関する興味・関心が高まり学びが深まった。
- 地域の方々との異世代間の交流を通して、学校だけでは身につけられないコミュニケーション能力が育まれた。



初めて触れる箏 手を取り直接の指導

## その他

- 今後は、学校をポイントとした箏演奏の広まり、箏演奏をポイントとした学校活動の広まりに期待し、これまで以上に活動を活発にしていきたい。



教室全体が「箏」一色に

# 学校と地域がふれあい、町が元気になる仕組みづくりを住民の視点に立って行う

## 宮城県涌谷町

活動名

元気わくやふれあいサポートセンター

関係する学校

涌谷第一小・月将館小・籠岳小・小里小・涌谷中・籠岳中・涌谷幼・涌谷南幼・籠岳幼・小里幼・さくらんぼこども園・涌谷保・修紅幼稚園

活動区分		※H25年度の実績（補助の有無についてはH26年度の状況）			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	6人	80人	22年度	有
	放課後子供教室	6人	21人	132日	有
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		教室・校庭・体育館・図書室他		23年度	有

活動の概要

- 元気わくやサポートセンターは、地域から選ばれた6名のコーディネーターを中心に、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みを地域住民の視点に立ち設立された。
- 平成22年度涌谷町学校支援地域本部事業開始以来、子供たちの学びの場を地域で支える活動をコーディネートしている。
- 地域教育力を発掘しながら、学校へのボランティアの派遣を行っている。また、6名の学校支援コーディネーターが定期的に学校訪問を行い、連携体制を強化している。
- 町内4小学校区に放課後子供教室を設置し、地域人材を活用した体験型の活動に取り組んでいる。
- 子供たちの豊かな学びを支える活動を通して、地域住民が自ら学び、協力し合える環境をつくり、ひいては町全体を元気にする事業を推進している。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 町内幼稚園・小学校・中学校の全てを対象とした支援を実施している。幼稚園ではリトミック遊び、クリスマス会にてサンタ役(ALT)派遣、ひな祭り会ではお茶会の支援等を実施している。小学校では年間を通して大豆の苗植え、豆腐作り、総合的な学習の時間の一環として福祉体験(盲導犬・車いす体験)、昔遊び体験で老人クラブとの交流等を実施している。中学校では図書室利用者の見守り、本の貸出支援を実施している。
- 放課後子供教室は町内全4小学区で実施している。活動内容は、自由遊び、季節行事、ALTを講師に英語遊び、星空観察、科学遊び、畑での作業、自由学習の見守り、図書室にて貸出支援、町内探検バスツアーなど、運営スタッフが工夫を凝らした体験活動を展開している。

#### 【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターが学校訪問やボランティアを発掘し、学校等と連絡調整を行うことで、連携体制を強化するとともに、ボランティア等がスムーズな支援、献身的な支援ができるようにしている。
- 地域住民が主導となり児童の「楽しい」という思いを第一に、年間活動を計画し、科学遊びや畑作業、町内史跡巡りなど豊富な体験活動を実施している。
- 地域の自然、伝統、文化を題材にした体験型の事業を開催することで、地域の大人に参画できる方策を見出し、子供たちの生活体験を豊かなものにする工夫を図っている。

### 事業を実施して

- 体験活動の中で、子供たちに地域を知ってもらい、地域の方々と本物に触れることで、伝統文化を学び、社会性を身に付けるきっかけとなった。
- 学校（子供）と地域が密接に関わることで、地域住民の生きがい作りにつながった。
- 地域住民が運営スタッフとして関わることで、地域で支援する気運が高まり、地域の教育力の向上、活性化につながった。



サンタクロース派遣／豆腐作り

### その他

- 活動の様子を情報誌やウェブサイト等で紹介し、周知活動の充実を目指す。
- スタッフを固定化せず、新規スタッフの取り込みを積極的に行い、継続可能な活動を目指す。



科学遊び「虹をつくろう」／座禅体験

# 子供は地域の財産 ～「平元コミュニティ」を支える笑顔を応援～

## 秋田県鹿角市

### 活動名

平元小学校学校支援地域本部

### 関係する学校

鹿角市立平元小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	30人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- 昭和49年から「平元地区コミュニティ推進委員会」を結成し、地域活性化を図る上で、学校と連携している。(運動会の合同開催等)
- 地域コーディネーターを窓口にしなが、週に1度の読み聞かせ活動を中心に、多岐にわたり学校を支援している。
- 「平元地区コミュニティ推進大会」で、毎年、学校発表を行い、学校と地域との連携・協力体制を確立している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 地域ぐるみのあいさつ運動、登校見守り
- 週に1度の読み聞かせ活動(朝読書の時間)、読み聞かせクリスマス会の実施
- 図書整備(図書修理、図書館整備、図書館環境の整備)、校内外整備(廊下、植木、草刈り等)
- アップル活動への支援(受粉、摘果、収穫、加工、頒布・販売等)
- 教科学習(国語、生活、家庭、体育)や学校行事(校外学習)等への支援
- スポーツ少年団活動支援(野球、ミニバス、陸上、スキー)

### 【実施に当たっての工夫】

- 読み聞かせ活動や図書整備活動においては市立図書館と図書の借り入れや補修作業で連携している。
- 学区内で栽培が盛なりんごを教育活動に組み込んだ「アップル活動」を実施。栽培農家や加工業者の方々から支援していただき、栽培から加工・販売までの学習を展開し、ふるさと学習へつなげている。
- ONE X CO東日本(東日本高速道路株式会社)と連携し、運転者にりんごを頒布することにより交通安全啓発活動につなげている。



クリスマス読み聞かせ会



りんご農家の方と袋かけ

## 事業を実施して

- 地域の中で、日常から学校へ支援している。
- 学校からは感謝の気持ちが地域へ返され、住民の喜びや生きがいになり、プラスの連鎖がうまれている。

## その他

活動の様子は学校のウェブサイトでもご覧いただけます。



# 地域とともに子供を育む「コラボ・スクール」構想による活動

## 秋田県大仙市

活動名

太田南小学校コラボ・スクール

関係する学校

大仙市立太田南小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	2人	195人	21年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	14人	16日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	相談室		19年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

- 地域とともにある学校「コラボ・スクール宣言」平成21年に太田南小学校学校支援本部がスタート、22年に学校支援太田地域本部と名称変更すると同時に、コラボ・スクール宣言を行い、現在に至る。
- コラボ学習やコラボ活動の推進以下の4つのカテゴリーを基本として、コラボ学習やコラボ活動を推進する。

- コラボ1 家庭・地域との連携・協働
- コラボ2 学校間・校種間の連携・協働
- コラボ3 行政、企業、関係機関等との連携・協働
- コラボ4 各界の専門家、その道の達人との連携・協働
- コラボ・スクール推進委員会の開催年4回開催し、活動計画の立案、活動の成果と課題、次年度に向けた改善等の協議を行う。委員は、学校関係者評価も行う。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 《コラボ1》親子ふれあい花壇の整備、資源回収リサイクル作業、読み聞かせ活動、地域婦人会による地域の伝統料理の指導等
- 《コラボ2》太田北小、太田東小との合同修学旅行(6年)や宿泊体験学習(5年)、太田中学校と連携した被災地支援活動、秋田大学・国際教養大学での大学授業体験、大曲農業高校太田分校での農業体験や高校教員による野菜栽培指導等
- 《コラボ3》福祉事務所と連携したバリアフリー体験、地元スーパーと連携した食育授業、公民館と連携した長期休業中の自学自習支援教室「太田キッズ学び教室」等
- 《コラボ4》地元放送局アナウンサーによる読み聞かせ会、プロ奏者による音楽教室、トップアスリートによるスポーツ教室、プロ画家による美術教室、農業振興情報センターによる伝統野菜「曲がりネギ」栽培、博士号教員による理科特別授業等

### 【実施に当たっての工夫】

- 「コラボ・スクール推進委員会」の各委員は、単に活動計画の立案や意見を具申することにとどまらず、自ら地域ボランティアとして教育活動をサポートする「実働部隊」の性格も兼ね備えている。このことにより、各委員の意識は自ずと高まっている。
- 学校とコラボ・スクール推進委員会が協力して、年度初めには「スクールマニフェスト」、年度末には「成果報告リーフレット」、また不定期に「コラボ・スクール通信地域版」を全戸配布し、地域住民に目指す方向性や成果・課題、活動内容等を周知している。また、コラボ・スクールの取組の説明会を開いたり、活動をウェブサイトアップしたりして、周知もしている。それらにより、地域住民の参画意識は、着実に高まっている。

## 事業を実施して

- 学校外の力の導入により、児童が積極的になっている。また、コミュニケーション力も向上している。
- 教職員の多忙化が軽減され、学校全体が活性化している。また、地域住民やその道の達人等から学ぶ「コラボ学習」は、教職員の視野を広げる一助にもなっている。
- 学校が地域住民相互のふれあいの場ともなっており、地域の活性化やにぎわい創出に貢献している。



「ふれあい花壇」の花苗植栽作業



地域指導者による児童の室町文化(茶道)体験

## その他

コラボ・スクールの取組は、太田南小学校のウェブサイトをご覧ください。

# 各実行委員団体が主体となり、工夫・改善をしながら事業を進めています。

## 秋田県大潟村

活動名

大潟村きらきら塾

関係する学校

大潟幼稚園・大潟小学校・大潟中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		1人	18人	12年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		1人	199人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	21人	244日	有	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
研修室			19年度	無	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

- 平成12年度から「大潟村きらきら塾」の実行委員会を組織している。
- 村の伝統文化の継承から子供たちのニーズに対応した内容（キャンプ、スケート教室等）まで、バラエティーに富んだプログラムを構成している。
- 多くの村民が関わり、地域の教育力を活用した事業（炭焼き体験、リサイクルカード作り、陶芸教室等）を展開している。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 土曜日及び長期休業中に、子供たちの豊かな体験活動として、登山や炭焼き体験、陶芸教室、人形劇などを実施している(平成25年度は19回)。全ての活動で地域の方が講師になり、子供たちへの指導や活動をサポートしている。
- 学校支援地域本部事業では「大潟村きらきら塾」のボランティアを中心に199名がボランティアとして登録。平成25年度は学習支援や部活動指導を中心に年間1,123回、1,124人のボランティアが活動している。(茶道：裏千家お茶愛好会、環境学習：大潟村木炭水質浄化研究会、読み聞かせ：図書ボランティア、スポーツ：スポーツ推進委員会、調理・手芸：生涯学習奨励員 等)

#### 【実施に当たっての工夫】

- 各体験活動終了後に子供たちや保護者にアンケートを実施し、教育委員会事業担当者与各事業担当団体の両者で事業の成果や課題を共有している。
- 小学校に「きらきら塾新聞」を掲載し、事業を周知。「きらきら塾新聞」には、子供たちの意見や感想をのせ、活動の写真を貼るなどして小学校に掲示することで保護者が事業に興味を示し、参加人数が増加している。
- 平成15年度から学校支援に関わる学習サポートコーディネーター（現在はコーディネーター）を小学校及び中学校の職員室に配置している。



リサイクルカード作り

### 事業を実施して

- 子供同士の異年齢の交流機会や関係団体の大人と子供との多世代交流の機会が増加している。
- 参加した大人が子供の顔を覚え、日常の声かけへとつながり、地域との関わりが増加している。

### その他

- 公民館事業等で学んだ成果を生かし、事業に関わるボランティアが活躍している。
- 公民館を核とした生涯学習の活性化が図られている。



きらきら塾新聞(ハロウィンパーティー)

# 子供の自主性を重んじながら、地域全体で子供を育む 放課後子供教室

## 山形県鶴岡市

活動名

おおぞら教室

関係する学校

鶴岡市立西郷小学校

活動区分		※H25年度の実績（補助の有無についてはH26年度の状況）			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	37人	147日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	余裕教室、体育館、校庭 等		21年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

当地域は三世同居率が高いものの、農村地帯であることから農業に従事している祖父母が多く、放課後における子供の過ごし方を心配する声があがっていた。また、小学校区が広域であり、少子化の影響により帰宅後に近所で遊ぶ友達が減少している状況にあった。

そこで、学校・保護者・地域が協力して「西郷地区放課後子ども教室運営委員会」を発足させ、「放課後の居場所」づくりの準備を進めてきた。平成21年度より、放課後における安心・安全な居場所として、平日毎日開催型の「おおぞら教室」を開設した。「地域の子供は地域で育てる」という理念のもと、学校・家庭・地域が連携を図りながら、地域全体で子供の成長を支えている。

登録児童数は年々増加し、近年は全校児童の約7割となっている。一日平均約40人が参加して、体育館、屋内、野外での自主性を重視した活動や一体感を育むみんなの活動を実施している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ①自主性を重視した活動

- 子供たちの自主性や創造性を尊重し、様々な遊びや体験活動を通して個性や社会性を育むことを目標としている。
- ・体育館等…サッカー、バドミントン、ドッジボール、一輪車、鬼ごっこ、泥んこ遊び
- ・屋内…折り紙、お絵かき、将棋、けん玉、ビーズ細工、編み物、百人一首等
- ・野外活動…池での釣り（夏）、雪遊び（冬）

#### ②みんなの活動

- 自由遊びを基本としながらも、教室としての一体感や連帯感を育むため、コーディネーターの企画のもと、季節にちなんだ行事を楽しんでいる。
- ・ばんけ採り（春）、料理（夏）、ハロウィンパーティー（秋）、フラワーアレンジメント（冬）

### 【実施に当たっての工夫】

#### ①自主性を支える安全管理

スタッフが危険箇所を一覧表にまとめて定期的に点検し、安全対策に努めている。また、小学校の教職員とスタッフ合同での救急対応研修会を開催するとともに、保護者会を開催して教室のルールや緊急時の連絡体制等を確認している。教室では、基本的なルールを定めた「みんなの約束」を掲示し、定期的に確認しながら子供自身の規律意識を高めている。日々の活動には、保護者からも毎日1人当番制でボランティアとして参加していただくことで、教室に対する共通理解や情報共有が得られ家庭との連携が図られている。

#### ②多様な活動を支える地域連携

花卉栽培が盛んな地域性を生かして、JAと連携し、農家より教材の花の提供とアレンジの指導をしていただいたり、総合型地域スポーツクラブから講師を招く等、地域と積極的に連携している。



泥んこ遊び



フラワーアレンジメント教室

## 事業を実施して

子供たちの放課後における安心安全な居場所が作られていることはもちろん、集団活動のなかで子供の自主性や社会性が育まれている。様々な体験活動を通して、子供の興味が広がり、得意なことを見つけて自信につながっている。

また、この教室をきっかけとして、地域の方々が子供たちの成長に積極的に関わるようになり、地域全体で子供を育てる意識の醸成につながっている。

# 豊かな自然を生かして 「サバイバル技術&生活技術」を習得!

## 山形県村山市

活動名

わんぱく富本塾

関係する学校

村山市立富本小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	25人	11日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	余裕教室、調理室、体育館、屋外広場 他		14年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成14年から活動開始。地域の子育て支援ボランティアが実行委員会を組織し、放課後教育活動に当たり、今年度で13年目の活動となる。

最初の5年間は、「地域の豊かな生活文化を次世代に伝える」をテーマに、伝統的な生活技術（例えば、縄ない、わらじ作りなど）を「体験させる」ことを中心に活動をしてきた。

その後、平成19年3月に策定した村山市放課後子どもプランのもと、子供たちが、たくましく「生きる力」を養成できるようにしようと、土曜日を中心とした事業を実施してきた。

地域の豊かな自然を活用し、「サバイバル技術」（屋外での火起こし、屋外炊飯、長距離サイクリング、灯籠づくり、キャンプファイヤーのしかた、水中延命法「浮いて待て!」、雷、地震等への対処法など）を身につけることをも積極的に取り入れ、また、楽しくをモットーに活動している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 1) コーディネーターや教育活動サポーターの資格(日本キャンプ協会1級、ネイチャーゲーム指導者、プロジェクトワイルドエドューケーターなど自然系資格)を生かし、アウトドア系のサバイバル技術を子供たちに体験させ、習得させる教室を多く開催している。
- 2) 子供を対象とした教室に加え、親子の共通体験、共有体験を得られる回も適度に設定するなどの工夫が施されている。
- 3) 地域文化として守りたい食文化・食行事「もちつき」、「郷土料理づくり」等の活動も欠かさず年間のプログラムに入れている。
- 4) 「だがしや楽校」創始者の松田道雄氏の父親の出身地でもあり、「だがしや楽校」の活動も取り入れられている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 1) 教室の内容について、指導者側からの一方的な考えで企画するのではなく、参加した子供の感想や意見も聞きながら内容を組み立てている。
- 2) 心も体もたくましく「生きる力」を身につけさせることを教室運営の主眼とし、親の理解・協力を得ながら、様々な体験活動を行っている。
- 3) ちらし(年11回)や広報紙(年2回)も発行し、活動の様子などを多くの地域住民に知らせることで、講師やボランティア等への協力を得ようとしている。
- 4) 地域市民センター内に事務局を置き、子ども会育成会や老人クラブ等の団体、組織等との連携を図っている。
- 5) 会場設定については、その活動に相応しい場所や準備する用具に配慮し、子供たちの興味をひきながら活動に飽きないようにする工夫を施している。



火おこし

## 事業を実施して

月1回程度の土曜日を中心とした活動で回数は多くはないが、季節ごとの各教室における子供たちの技術の定着度は高く着実に力が身につけており、今の子供たちに必要な「生きる力」を鍛える場となっている。

今後、学校の教育課程内・外の教育活動等を支援する「学校支援地域本部」を設置したいと考えているが、その足掛かりとなるような活動の場でもあり、地域の強力な教育応援組織となっている。

今後、ますます必要となるであろう、「たくましく生きる力」を育む場をさらに充実させるために、活動プログラムの一層の充実を図っている。



手焼きせんべいづくり

# まちで育てる子供たち、40年以上の歴史をもつ書道教室

## 山形県大江町

活動名

少年少女書道教室

関係する学校

大江町立左沢小学校・大江町立本郷東小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		0人	75人	45年度	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

少年少女書道教室では、書道を通して青少年の健全育成を推進するとともに、子供同士の縦、横のつながりや、子供と指導者との積極的な交流を生みだしている。この活動により、地域コミュニティの活性化をもたらし、子供たちを地域で育て上げるモデル事業として、長年、地域に定着している。

また、指導者は、町内の書道愛好会の会員を中心に組織されており、少年少女書道教室が自らの生涯学習の成果を社会に還元する場として生かされている。

さらに、高齢の指導者にとっても、100名の子供とのふれあいは元気の源であり、生きがいの一つとなっている。書道を通して大人と子供が相互に魅力を享受し、つながり、地域の連帯感を強めている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・昇段級試験の他にも、東邦書道会主催の全国展へ出品し、毎年上位入賞者を輩出しており、指導力が高い。
- ・土曜日の学習活動の一つとして、40年以上続く長い歴史をもち、町内での認知度もとても高い。受講生の保護者の中には、小学生の頃に自分が受講した経験から、子供を書道教室に申し込む家庭も多いため、地域住民に長く愛されている。
- ・共働き家庭の多い山形県において、児童の休日の安全な活動場所としてもニーズがあるため、町内小学生（3～6年生）の約3割が受講しており、子供同士の交流が活発である。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・約100名の児童を指導するに当たり、指導者20名（指導員16名、推進員4名）を確保し、4班体制で取り組んでいる。
- ・学習成果発表の場として、東邦書道会主催の全国展に出品。また、書きぞめコンクールを大江町中央公民館で開催し、保護者や町民向けにも成果発表を行っている。
- ・町内の書道愛好会は、小学校卒業後に入会できるため、卒業生は指導者との交流を継続することができ、後任指導者の育成も行う場としても機能している。
- ・指導するうえで、子供たちの学校での生活態度を調べたり、指導方法について教職員の意見を参考にして指導にあたっている。



昇段めざし、一筆入魂!

## 事業を実施して

### 【教員のコメント】

- ・学校生活における書写の授業では、書道教室受講生が他の児童に書き方を教えるなど、周囲の児童にも良い影響を与える光景が見受けられる。

### 【指導者のコメント】

- ・書道教室以外の場でも子供たちと交流が生まれ、商店街であいさつされることも多く、指導にやりがいを感じている。



みんな仲間

# できることからはじめよう!地域の教育力を子育て支援に!

## 福島県郡山市

### 活動名

郡山市三穂田地区学校支援地域づくり

### 関係する学校

郡山市立三穂田中学校・郡山市立穂積小学校  
郡山市立三和小学校・郡山市立安積第二小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	29人	23年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成23年度から25年度までの3年間、三穂田地区は「学校支援地域づくり事業」のモデル地区として事業を積極的に推進してきた。地域コーディネーターが地区内の各小・中学校と連絡調整を図り、それぞれの学校のニーズに応じたボランティアをコーディネートし、下記のような学校支援を行ってきた。

<各小・中学校の学校支援の概要>

#### 【学習支援】

- ・各教科、総合的な学習、クラブ活動、課外活動

#### 【図書館整備支援】

- ・図書の整理等

#### 【登下校中の安全確保支援】

- ・「子ども見守り隊」による交通事故等の未然防止活動

#### 【環境整備支援】

- ・花づくり等の環境美化活動

#### 【バレーボール部活動支援】

- ・生徒への技術指導 ・顧問教師への指導方法指導

従前から推進してきた「特色ある学校づくり推進事業」と「学校支援地域づくり事業」を統合して、今年度より立ち上げた「地域を生かした教育環境パワーアップ事業」においては、地域や民間の方々の協力を得て、夏期休業日等の長期休業日や土曜日等の休日に地域の公共施設等を利用して、地区内の児童生徒に学習支援を新たに行っている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

「学校支援地域づくり事業」のモデル地区として活動を始める前から、児童の登下校時の安全確保のための活動を行うなど、地域の各種団体が学校に対して協力的であり、地域を挙げて学校を支援する体制ができている地区である。

また、学力向上が児童生徒の進路選択の幅を広げるという考えのもと、国語科、数学科を中心とした継続的な学習支援がこの地区の特徴的な活動である。

### 【実施に当たっての工夫】

本地区における学校支援としては、各学校のニーズに応えることを基本とし、各教科の学習の基礎となる国語科の授業をはじめ、各教科指導における授業の学習支援が継続的に行われていることが特色である。

また、放課後の学習支援も単発的な支援ではなく、週1回～3回程度、継続的に行われ、生徒の学力向上に成果を挙げている。

さらに、「子ども見守り隊」による登下校中の安全確保支援により、平成25年度には児童生徒の交通事故や不審者による被害事故もなく、1年間事故ゼロを達成している。今年度においても、2月末日現在で、交通事故、不審者による被害事故ゼロが継続している。

本地区のこのような先導的な取組は、本市の各小・中学校の学校支援のモデルとなっている。

## 事業を実施して

地域のボランティア等の外部人材が、学校と協力して、児童生徒の学習支援を行ったことにより、全国学力・学習状況調査の正答率が向上する学校が見られたり、希望する高校への進学を果たしたりするなどの成果が現れている。

また、地域コーディネーターが学校のニーズに応じた地域人材を配置し、児童生徒の学びの環境の充実を図ることは、学校と地域の互恵関係を生み出し、地域の教育力の向上や地域住民の生きがいづくりにつながる。

## その他

今年度から「地域を生かした教育環境パワーアップ事業」として新規に事業を立ち上げ、郡山市立小・中学校86校全校で、学校内外の教育環境の一層の充実を図り、地域や民間との連携による教育環境日本一を目指していきたい。



小見守り隊による下校時のサポート(左)  
小学校国語科授業の学習支援(右)



放課後の数学科支援



技術科の授業支援

# 地域の子供は地域で育て、子供たちのためにできることを

## 福島県本宮市

活動名

本宮市学校支援地域本部

関係する学校

本宮第一中学校・本宮第二中学校・白沢中学校・本宮小学校・本宮まゆみ小学校・五百川小学校・岩根小学校・糠沢小学校・和田小学校・白岩小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	3人	273人	21年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- ・本宮市では、平成12年度に、市町村合併前の旧本宮町に発足した「もとみやまち学習ファシリテーター」が、縄文文化や室町文化の歴史学習、節句行事の体験、裁縫や陸上競技、水泳の指導、戦争体験談講話などの活動を、有志が中心となって始めた。
- ・平成13年度に「体験活動・ボランティア活動支援センター」が設置され、メンバーがコーディネーターとなり、中心となって学校支援の活動を行ってきた。平成21年度には「学校支援地域本部事業」がスタートし、平成23年度からは市内の全小中学校に拡大して実施し、この2つの事業により、学校支援体制の強化と支援内容の充実を図っている。
- ・本宮市学校支援地域本部事業は、「地域の子供たちは地域で育てる」、「子供たちのために学校で何かお手伝いをしたい」という地域住民の気持ちを形にするため、地域の方々と学校をつなぐ活動を進めることを目標に掲げ実践している。
- ・具体的な実践として、「学習指導補助」、「生活指導補助」、「学校行事支援」、「環境整備支援」、「備品整備支援」、「安全活動支援」、「体験活動支援」に取り組んでいる。
- ・学校・家庭・地域の連携を図りながら、地域全体で子供を育てていこうという意識が高い。
- ・地域教育協議会を年度初めと終わりの年2回実施し、学校関係者及び地域の各種団体を交えて協議することで、それぞれの立場を尊重し、よりよい学校支援地域本部事業を実施している。

### 特徴

#### [特徴的な活動内容]

- ・本宮市内の中学校区ごとに地域コーディネーターを配置している。また、ボランティアについては、継続して学校支援活動に取り組んでいただいている地域住民に協力を依頼しており、長年活動しているボランティアの方が中心となって学校支援活動が行われている。
- ・小学校6年生社会科の伝統文化を学ぶ学習等で、地域の専門家を学習ボランティアとして招き、直接地域の伝統文化に触れるなど、体験学習の充実に努めている。
- ・中学校では、文化祭での地元の伝統太鼓の演奏指導支援や、体育科での柔道の授業の支援、元教員による入試面接指導等を、小学校では読み聞かせをはじめ、戦争体験談講話等、多岐多様な内容で支援活動を行っている。
- ・市内の小中学校は広い敷地を持つ学校が多く、校地内の草刈りや樹木の剪定作業などの環境整備活動にも地域住民の方々が積極的に取り組み、広がりを見せている。

#### [実施に当たっての工夫]

- ・「学校支援活動」では、各学校から年度当初に提出される「学校支援ボランティア要請年間計画」に基づき、コーディネーターが適切な人材を確保し、学習支援の要請に応じてボランティアを派遣している。平成23年度からは市内の全小中学校で実施しており、平成26年度においては、延べ210件の派遣を実施し、延べ887人のボランティアが活動した。
- ・実際の学校支援の実施に当たっては、これまでの積み重ねを大切に、可能な限り、同じボランティアの方々の協力を得て継続的に行うようにしている。そのため、スムーズな活動が可能になっている。
- ・ボランティア懇談会を開催し、ボランティア自身がやりがいや達成感を味わうとともに、さらなる活動意欲を高めることができるように努めている。

### 事業を実施して

- ・学校支援地域本部事業は平成21年度から実施されており、学校の特徴を生かした、地域に根付いた活動が実施されている。
- ・長年継続して実施してきたボランティア活動が多く見られ、同じボランティアの方が中心になって体験学習を実施しているため、年々事業内容が充実している。

### その他

- ・支援活動を通して地域の絆を深め、地域の教育力の再生に寄与している。
- ・長年実施してきた体験活動においては、ボランティアの方々との信頼関係を大切に積み重ねてきたことから、ボランティアと学校との打ち合わせもスムーズに行われ、多くの時間を割くことなく、学校の先生方の負担軽減にもつながっている。



本宮第二中学校 1年総合的な学習の時間「伝統芸能に学ぶ」



本宮小学校 6年社会科「日本の伝統文化を体験してみよう」

# 「地域全体で子供を育てる!」次代を担う子供たちの育成

## 福島県三島町

活動名

三島町学校支援本部

関係する学校

三島小学校・三島中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	83人	23年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- ・三島町学校支援本部は平成23年度より活動を開始し、小学校での体験活動等の授業補助や中学校での部活動支援、学校行事支援等を行ってきた。
- ・スタートから4年を経て、年々ボランティアとして活動に参加する町民が増え、現在83人の登録がある。小学生の登下校時の見守り活動や、学校の環境整備など、支援範囲を広げているとともに、町民が自発的に活動する場面も多くなり、新たな企画にも積極的な参加が見られる。
- ・地域の住民が、学校や地域の子供の教育活動をボランティアとして支援することで、児童・生徒を通して学校と地域が深い関わりを持ち、互いに向き合う時間を確保し教育効果を高めることを目的として活動している。
- ・実施機関  
三島町学校支援本部

- ・事業運営
  - ① 三島町教育委員会生涯学習課
  - ② 学校支援本部コーディネーター
  - ③ 地域ボランティア 83名
- ・コーディネーター活動状況  
活動日 月・水・金曜日(週3日)
- ・コーディネーター活動場所  
教育委員会事務局
- ・コーディネーター活動内容
  - 各学校との連絡調整(学校訪問等)
  - ボランティアとの連絡調整
  - 事業実施にかかるサポート
- ・成果
  - 年々本事業の趣旨が理解されるようになり、ボランティア団体の数も増えてきた。

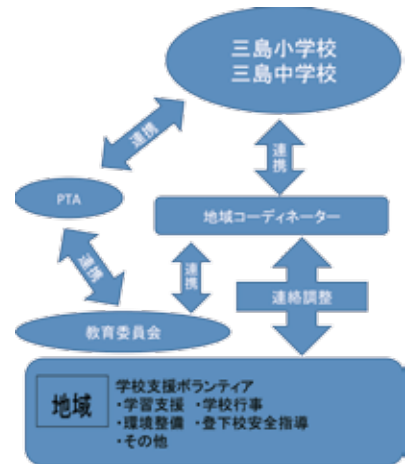
### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ① 児童・生徒の登下校における安全パトロール(桐の里見守り隊)
- ② 「総合的な学習の時間」の支援活動  
地区探検(小学3年生) 桐の勉強会(小学4年生・中学生)  
田んぼの学校(小学5年生) 郷土料理体験(小学6年生)
- ③ 冬季の体育支援 スキー授業の指導(小学校・中学校)
- ④ お弁当サポート事業(お弁当SOS・お楽しみランチ・お弁当教室)  
本町は人口1,800人、小中学生100人程度の「桐」が特産の小さな町である。小中学生ともに、地域の大人の指導の下、様々な学習の機会を設けている。また、牛乳のみの学校給食のため「お楽しみランチ事業」をスタートさせ、地域の方が月2回程度、温かいおかずを提供している。これらの活動は町民一人一人が率先して、町の宝である子供たちのために一丸となって取り組む活動となっており、ボランティア活動への参加率も高い。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターと町教育委員会、学校の三者の連絡体制を密にし、学校がボランティアに頼りすぎることのないように努めている。また、コーディネーターは、ボランティアの方々が活動することを重荷に感じることがないように、学校で必要としている支援内容について、ボランティア一人一人の得意分野を生かして、気軽に参加できるように心がけている。



三島町学校支援本部の概念図

### 事業を実施して

- ・当初スタート時にボランティア団体を募集したが、なかなか集まらなかった。理由としては、学校に支援する具体的内容が理解できなかったことがあった。そこで、町教育委員会が中心となって、「地域の方々が普段活動している内容が学校として必要なことであること」を説明してきたことから、少しずつ活動団体が増え、今では、支援団体の方から支援内容に関する提案もあり、地域全体が「学ぶ」ことに対する意識が高まってきている。

### その他

- ・ボランティア団体の活動を、町民の協力により、現在はすべて無償で行っていただいている。
- ・地域の方々の協力があって活動内容の目的が達成されることが大事なので、活動への有償化を今後検討していきたい。



三島小総合学習  
おばあちゃんの味打ち合わせ



三島小総合学習  
田んぼの学校 脱糞



# 子供たちが心豊かで健やかに育まれるよう、 様々な体験活動を行っています!

## 福島県西郷村

活動名

西郷村放課後子どもプラン

関係する学校

熊倉小学校・小田倉小学校・米小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	62人	78日	有
コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小田倉:図書室、体育館、校庭 熊倉:余裕教室、体育館、中庭 米:余裕教室、校庭、体育館	指定日	委員数	19年度	無
			児童生徒数	学級数	

### <概要>

- ・各子供教室の開催(水、金の週2日)
- ・3教室合同イベントの開催
- ・安全管理員、活動指導員の指導のもと活動を展開
- ・コーディネーターを中心に各教室の連絡・調整
- ・コーディネーター、安全管理員、活動指導員の打合せ(月1回)
- ・県主催の研修会への参加
- ・運営委員会の開催(年2回)

### <子供教室の活動内容>

- ・下校後、午後4時40分まで活動を行う。具体的な活動内容については以下の通り。  
宿題、自主学習、読書、お絵かき、オセロゲーム、トランプ、あやとり、お手玉、将棋、工作、鬼ごっこ、なわとび、バドミントン、ボール遊び、昔遊び、紙ひこうきづくり、レクリエーションスポーツ、七夕飾り、ハロウィンの作品づくり、クリスマス会、節分行事等

### <経緯>

- ・平成19年度は、準備・検討期間として熊倉、小田倉、米、羽太の4小学校区で実施。校長会並びに運営委員会において、平成20年度からの本格的実施に向けて基本事項を決定。
- ・平成20年度は、熊倉、小田倉、羽太の3子供教室については5月、米子ども教室については、9月から本格的実施。
- ・平成21年度は、熊倉、小田倉、米、羽太の4子供教室全て5月より実施。
- ・現在は、熊倉、小田倉、米の3教室を実施している。

活動の概要

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・通常の放課後の活動以外に、年に数回、村内3教室合同のイベントを実施しており、スポーツやレクリエーション等を通して、各教室間の交流を深める場となっている。
- ・毎年夏休みに、福島大学の学生達によるイベントを実施している。  
平成23年度：福島大学児童文化研究会リズム部によるレクリエーション活動  
平成24年度：福島大学児童文化研究会童話部による大型絵本の読み聞かせ  
平成25年度：福島大学児童文化研究会影絵部による影絵公演  
平成26年度：福島大学児童文化研究会リズム部によるレクリエーション活動
- ・各教室での活動として、七夕飾りやハロウィンの作品づくり、クリスマス会、節分行事など、季節に応じた活動を実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・子供教室関係者間の情報共有の場として、コーディネーターと安全管理員、活動指導員及び事務局を含めた打合せを実施し、月ごとの活動反省や翌月の活動計画等について話し合い、より良い教室づくりに努めている。
- ・村の教育関係者から構成された運営委員会を設置し、年間の実施計画の検討や事業実績の共有を図ることで、多角的な側面から教室を運営できる仕組みになっている。

## 事業を実施して

- ・毎年参加している児童も多いため、`楽しみの場、を提供することができている。また、教室での様々な体験活動が子供たちの心豊かで健やかな成長に繋がっている。
- ・教室の運営に協力して下さる学校関係者からは、「普段の学校生活ではあまり経験することのない、異学年間の交流を図ることができる子供教室の仕組みは、子供たちにとってとても良い影響を与えている。」との意見が寄せられている。

## その他

- ・本事業は、子供たちが心豊かで健やかに育まれるための環境づくりを目的としている一方で、協力して下さる地域の方々も`やりがい、を感じていることから、地域全体の教育力の向上につながっている。



レクリエーション大会の様子



ハロウィンの作品

# 学校支援ボランティアが、外国人児童生徒に対し日本語指導を行う活動です。

## 茨城県土浦市

活動名

学校支援ボランティア事業

関係する学校

神立小学校 他5校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	38人	20年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

「学校支援ボランティア事業」は、平成20年度「学校支援地域本部事業」の委託を受け、学区内に外国人労働者が多く居住し、その子供たちが通学している神立小学校において、基本的な日常生活に必要な日本語指導を支援するとともに、日本語指導に特化したサポート体制を構築してきた事業である。

委託期間が終了した平成23年度からは、市の単独予算で事業を継続し、現在では、神立小学校以外の学校で要望のある小・中学校へも、日本語学習指導を展開している。

事業開始当初から、スムーズな協力体制をめざし、生涯学習課と指導課が連携して事業を行うことで、「地域人材の活用による学校支援」という生涯学習の分野と「特別の教育課程」という学校教育の分野が調和し、高い次元での日本語指導を支援してきた。

平成26年度より、事業名を「学校支援ボランティア事業」と改め、現在6校でボランティアを配置（神立小学校、土浦小学校、荒川沖小学校、土浦第二中学校、土浦第三中学校、土浦第四中学校）している。

また、平成27年度からは、学校支援ボランティアを希望する全小中学校への配置をめざして準備をしているところである。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

学校と連絡を密に行い、なるべく複数のボランティアが関わるように、各学校で計画された児童生徒の取り出し授業の時間割に合わせてボランティアを配置している。

外国人児童生徒への日本語指導については、各学校における指導方針及び指導内容をもとに、日本語指導担当教員との連携のもと実施している。研修会や視察を立案し、日本語指導のスキルアップの機会を多く持つようにしている。

コーディネーターがそれぞれのボランティアの特性を熟知しており、一人一人の児童生徒との相性を考えて配置している。

### 【実施に当たっての工夫】

「記録簿」を作成し、ボランティアが関わる毎時間の指導内容と児童生徒の様子を記録している。そのため、一人一人の児童生徒の学習状況を、学校の教員とボランティア同士が随時確認できる。

学期ごとに活動の振り返りを行い、意見交換や情報の共有の場を設定しているため、個々の児童生徒や各学校の取組状況を把握しやすい。

他市町村の活動団体との交流や研修会・視察を計画し、ボランティアの資質向上に努めている。

茨城県国際交流協会との連携による「外国人子ども向け日本語指導講座」への協力と参加を予定している。



土浦第四中学校での指導風景

## ● 事業を実施して

低学年のうちから、児童生徒1人に対してボランティア1人が対応するようにしており、手厚い支援を行うことで、なるべく早く日本での生活に馴染み、通常学級で学習が進められるように配慮している。継続的な取組により、対応してきた児童たちもいきいきと生活を送れるようになってきている。学校外でボランティアの方に会った時に話しかける場面もあり、地域の生活でも顔見知りとなる大人が増えている。

ボランティアの高い意識のもと、積極的な協力体制ができているため、さらに人員を増やしながら拡充を図っていくことが重要である。



神立小学校での指導風景

## ● その他

課題としては、ボランティアの増員が必要である。現在、学校支援ボランティア募集チラシを庁舎窓口や公民館、県南生涯学習センターなどに置いたり、市のホームページにも掲載し、ボランティアの参加について希望を募っている。

# さあハイタッチ! あいさつと笑顔、感謝の気持ちを大切にする乙女っ子!

## 栃木県小山市

活動名

乙女小放課後子ども教室  
乙女っ子なかよし広場

関係する学校

小山市立乙女小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	60人	26日	有
コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	校庭、体育館、英語教室、PTA会議室	22年度		有	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

地元有志の方々が小山市立間々田公民館で不定期に子供対象のイベントを開催していたことから始まり、放課後の子供たちに安全安心に楽しく過ごすことのできる居場所を提供しようと奮い立ち、文部科学省・栃木県の補助を受け、平成22年11月小山市内2番目の放課後子供教室として「乙女っ子なかよし広場」を開設。

開催日は、原則として毎週木曜日の午後3時～4時の約1時間、実施場所は乙女小学校の校庭・体育館・英語教室など。

活動は自由遊びが基本で、校庭でスポーツや縄跳び等の外遊び、室内では宿題をしたり、カルタやオセロの他、手芸や折り紙など地域の人材を生かした創作活動も人気である。また、子供たちの要望や大人からの提案を積極的に取り入れて、変化と内容の充実を図っている。時には1年生歓迎レクリエーション・チャレンジランキング大会などの全員参加型のイベントも企画して、集団行動の楽しさと規律を守る重要性を理解させている。

参加児童数とボランティア数は増加傾向であり、子供と大人が学年・世代を超えてふれあうことのできる地域交流の場として「乙女っ子」が確実に地域に定着した。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・スタッフ・ボランティアは、学習意欲旺盛な方々で、昔遊んだ竹馬や独楽回し、竹細工や手芸、様々なレクリエーション技術等、多方面で会得した知識・技術を発揮し、子供たちとのふれあいに役立っている。また、地元大学のボランティアサークルにも協力依頼し、宿題やスポーツ・外遊び等で若い力を発揮している。
- ・乙女っ子は単に友達と遊ぶ場所ではなく、常に礼儀と感謝の気持ちを大切にする場として、乙女っ子に関わる友達、地域の大人、学校の先生等を敬い、共に楽しい時間を過ごせるよう心掛けている。その一例として、乙女っ子に來た時と帰る時に児童と大人は挨拶とハイタッチを交わして、児童と大人のお互いに距離を縮めて感謝の気持ちを伝えている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・開始1時間前にスタッフ・ボランティアは集合し、教室の準備後約30分間ミーティングを行う。前回の反省点や当日の注意事項の確認、新しい遊びやイベントアイデア等の提案など、毎回入念に話し合う。教室終了の際も、活動の内容報告とそれに対する課題・問題点を話しあい、スタッフ・ボランティア全員で情報を共有する。
- ・乙女っ子児童は事前登録制で、全員名前ホルダーをかける。児童はホワイトボードに示された活動場所の中から行先を選んでネームマグネットを貼ることで、スタッフは60人以上の児童の活動状況を把握する。スタッフ・ボランティアも共通の帽子とTシャツ等を着用し、乙女っ子の活動であることを児童・保護者・学校関係者等に分かるよう可視化している。
  - ・活動日には、保護者の「参加承諾」と「終了後のお迎え」を毎回義務付けている。また、学童クラブとも連携し、学童指導員によるお迎えや情報の共有もやっている。



チャレンジランキング大会

## ● 事業を実施して

乙女っ子に参加している児童からは、友達が増えた・大勢で遊べて楽しい・毎週楽しみにしているという感想が多い。また、子供が地域の中で挨拶をするようになった・親同士知り合いができたという保護者の声や、子供たちと一緒に遊んで元気を貰っているというボランティアの声が多い。乙女っ子は、子供のみならず保護者・地域の大人達がそれぞれに楽しむ場所として、地域で欠かすことのできない存在となっている。



ボランティアさんに笑顔でハイタッチ!

## ● その他

乙女っ子の参加児童数は開設以来右肩上がり、友達の誘いで年度途中に加入する児童が絶えないことに、スタッフ・ボランティアは大変誇らしく思っている。ボランティア数もコミ等で増えつつあるが、児童が増えるペースになかなか追いつかないのが嬉しい悩みである。

# グループ活動を中心に子供と大人が互いに教え合いながら学んでいます。

## 栃木県上三川町

活動名

明治放課後子ども教室

関係する学校

上三川町立明治小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	35人	287日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

月曜から金曜までの放課後子供教室では、近くにある学童保育を補完する意味で、放課後の居場所づくりに努めている。原則として活動テーマは設定せず、「宿題がすんでから自由遊び」という形態をとり、保護者の迎えが来たら帰るというスタイルである。

土曜と日曜の放課後子供教室では、活動テーマを決めており、事前申込みをした児童を対象に共通の活動を行っている。(英語、習字、ものづくり、楽器遊び、吹奏楽、ゲームなど)

各活動の開催期間は短くても1か月間、多くの活動は年間を通じて開催し、同一活動を継続的に取り組ませるように工夫している。

夏休み等の長期休業中の放課後子供教室では、午前と午後の半日単位で、事前申込みをした活動テーマについて、「遊びながら学ぶ」というスタイルで単発的な講座を行っている。(藤細工、万華鏡づくり、お茶、ポシットづくり、勾玉づくり、トールペインティング、おやつづくり、饅頭づくり、ソバ打ち体験、かみたんカルタ、理科教室・化学実験、生物教室、フラワーアレンジメントなど)

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

年間をとおして、ブラスバンドや楽器教室など、音楽にふれあうような芸術活動を行っているが、活動をとおして集団生活に必要な力を身に付けさせることを意識している。練習の成果は、町のイベントや地域の敬老会などで発表し、とても喜ばれている。

また、海外生活の経験を持つ講師による英語教室なども行っている。受験勉強のための英語ではなく、「生活の場で生かせる英語」をコンセプトに、英会話を中心とする内容で開催しており、子供たちは、楽しみながら英語を学ぶことができている。

#### 【実施に当たっての工夫】

放課後子供教室で実施する内容は、年度当初に役員や指導委員、学校、PTAからなる運営部会で協議し決定している。また、夏休みなどの長期休業前には、再度、内容や担当者、期日等の調整を行い活動テーマを決定しており、子供たちには、募集チラシを配布するなどして周知するとともに参加者を募っている。活動内容や子供たちの様子を地域の広報紙を通じて地域住民へも周知し、理解と協力をしてもらっているようにしている。

講座の案内チラシや毎月の活動予定表の配布は、学校が講座への参加呼びかけをしながら行ってきており、保護者との連携が図れている要因にもなっている。

低学年の児童は担任などの大人が付き添って来館することもあるなど、基本的には学校の日課に合わせて実施しているので、学校とは密接な連絡を取り合いながら進めている。



子ども教室 ブラス「明兒」

### ● 事業を実施して

放課後子供教室に通う子供たちの多くは新興住宅地の子供たちであり、地域に対する意識が比較的希薄であるといえる。しかし、この次世代の地域の担い手である子供たちが、本事業をとおして教室の指導者である多くの地域の方々と接し、学び育つことにより、自分が地域に支えられていると実感しており、ふるさとに対する愛情が芽生えてきている。

また、本事業をきっかけに、地域に眠る様々な人材の発掘にもつながっており、大人にとっても地域での活躍の場が創出されるなど、地域の一体感が培われている。



ゲームの風景

### ● その他

地域のコミュニティセンターが運営することで、子育て世代から高齢者までの幅広い年代の大人を巻き込みながら、子供を核とした地域のコミュニティが作られてきている。

# ビオトープおよび魚道造成による生物・環境調査支援活動

## 栃木県那珂川町

活動名

久那瀬農地水環境保全会

関係する学校

栃木県立馬頭高等学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		2人	12人	21年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

・従来より「久那瀬農地水環境保全会」が行ってきた自然保全活動をより効果的で、若い世代を取り入れた活動とするため、平成21年度より馬頭高校水産科を支援し、地元である馬頭高校水産科実習場に隣接する休耕田を中心とした環境教育の場と機会を整備し、ビオトープおよび魚道の整備・管理等を協力している。

### 【学校支援活動】

平成21年度…三川又用水への魚道の設置及び効果の生態調査協力および助言など

平成22年度…三川又用水への魚道の設置及び効果の生態調査および助言・久那瀬地区の用水路の生態調査協力

平成23年度…三川又用水への魚道の設置及び効果の生態調査および助言・那珂川下流圏域河川整備計画による河川整備事業への助言や調査協力など

平成24年度から26年度にかけて…久那瀬地区ビオトープ周辺の用水路環境調査協力など

活動の概要

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・保全会は、馬頭高校水産科を支援し、農業用水路につながる魚道を設置し、遡上する生物を採集することにより進入する生物種とその量を調査し、農業用水路における生物の生息状況を把握するとともに、河川の堰に魚道を設置し、遡上する生物を採集分類することにより、魚道の効果と、河川を上下移動する生物種とその量の調査を行っている。また、馬頭高校水産科実習場に隣接したビオトープを造成し、その維持・管理を行い、常設の生物環境調査の場を提供している。得られたデータは、県水産試験場と協力し、生物の移動に関する基礎研究に寄与している。
- ・保全会では、ビオトープ造成後、毎年一度、地元育成会の子供たちを招き、魚のつかみ取りをしながら生息数を全数計数するイベントを行い、地域の活性化に大きく貢献している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・魚道やビオトープの調査および得られたデータの活用については、保全会の許可なしで行うことができる。
- ・「久那瀬農地水環境保全会」の仲介者である2人のうち1名は馬頭高校水産科の元教員、1名は町役場の職員であり、行政機関ともスムーズに連絡調整を図っている。
- ・活動内容は、年度末に馬頭高校水産科で発行する「課題研究」という研究誌に掲載し、得たデータを多様に活用できるよう工夫するとともに、確実に記録として保管できるようにした。



武茂川で魚道設置する保全会の方々

## 事業を実施して

- ・保全会の活動は、馬頭高校生徒や地元育成会の子供たちにとって非常に有益な学びの場となっている。例として、ある生徒は4か月に渡って毎日魚道の生物調査を行い、貴重なデータと学習の機会を得ることができ、県水産試験場との連携などさらに広がりをもたせることができた。
- ・保全会と共同で活動することで、地域と馬頭高校水産科がさらに緊密な関係になった。
- ・本年夏には、本活動がNHKテレビの取材を受け、BSで放映されるなど、生徒や地元関係者にとっても有用感や達成感を実感する貴重な体験となった。



武茂川で魚道設置する生徒の様子

# 地域社会や自然の中で、子供たちの健やかな成長を図る 体験活動

## 群馬県沼田市

活動名

うすねわくわくスクール

関係する学校

沼田市立薄根小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	30人	32日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	沼田市立薄根小学校		17年度	無
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成17年「地域子ども教室推進事業」として薄根小学校区の子供たちを対象にスタートする。薄根地区振興協議会、老人会、婦人会等の各種ボランティア団体の協力を得ながら、総合型地域スポーツクラブ「うすねニュースポーツクラブ」が主管となり運営委員会を組織し活動を開始した。子供たちへの支援活動は、子供教室が始まった当時のスタッフのまま取り組んできた。ここ数年、子供たちの参加人数が少なくなってきたので、子供や保護者からのニーズを参考にしながら現在に至っている。

学校(教室・校庭・体育館)を子供の居場所として開放し、放課後や週末などを利用して、子供たちに様々な体験活動や交流活動等を月3回の活動日を定めて実施している。平日月曜日は竹とんぼ、めんこ、お手玉等の昔の遊びや、文化を伝承する教室を実施。土曜日は、体ほぐしやレクリエーションを通して子供たちの身体づくりを行っている。日曜日は、総合型地域スポーツクラブと連携しニュースポーツ教室を実施している。幅広い活動内容を企画し、文化的な活動と体育的な活動のバランスがとれた内容となっている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ・年間を通して月3回実施。平日は月曜日放課後「昔の遊びや英語遊び等の文化的な体験活動」、土曜日は「運動遊び、体ほぐしやレクリエーション」、日曜日は、「誰でもできるニュースポーツ教室」を実施し、子供たちが様々な体験活動を楽しんだり、体力の向上を図ったりしている。
- ・老人会、婦人会等、地域諸団体の力を借りて事業を行っている。地域ボランティアや保護者を巻き込みながら活動することで、子供たちが異年代交流し、コミュニケーション能力を養うことができる。多くの大人と触れ合う中で、社会性やマナーを身に付けられる活動となり、地域の教育力の向上が図られている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ・子供教室の活動計画は、次年度を迎える前に関係団体(老人クラブや婦人会等)に連絡して、実施日や活動内容を決定している。毎年、同じ活動内容ではなく、各関係団体が趣向を凝らして企画している。特に沼田市赤十字奉仕団による「災害時炊き出し体験」では、災害があった場合の炊き出し体験や応急手当を親子で一緒に行うことで、地域や家庭が協力することの大切さに気付いてもらう機会としている。
- ・子供たち全員が集まるまで、多目的教室で漢字練習や計算練習に取り組んでいる。時間を効率よく使い、家庭学習の習慣化にもつながっている。
- ・教育活動推進員や教育活動サポーターが活動前の打合せや終了後の振り返りを行って、活動内容を充実させるための共通理解を図っている。

### 事業を実施して

【子供たちの声】新しい遊びを覚えたり、いろいろな運動ができたりするので毎回楽しみにしている。

【保護者の声】子供教室のある日は、特に子供が生き生きしている。地域のボランティアの方々には貴重な体験をさせていただいているのでありがたい。

【指導者の声】子供たちは、学年を越えて、教え合ったり、時にはけんかしたりしながら人間関係を深めている。楽しいことも嫌なことも体験してほしい。今後も子供たちを地域で見守り、地域で育てる意識の向上を図っていきたい。

### その他

- ・平成23年度から管内合同子供教室をうすねわくわくスクールの教育活動サポーターが中心的な役割を担い、講師となって実施している。体を使う活動例が豊富で、他の子供教室へ情報を提供し、管内の子供教室をリードする役割を果たしている。さらには、この合同子供教室は、子供教室を実施していない小学校区の利用者にも放課後子供教室の取組や親子で触れ合う機会を増やすための啓発になっている。



英語で遊ぼう



パラシュートで遊ぼう

# 地域の方ではばたく九十九の子 ～地域が支え、ともに歩む学校～

## 群馬県安中市

### 活動名

九十九小学校支援ボランティア

### 関係する学校

安中市立九十九小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	ボランティア登録数 79人	開始年度 17年度	補助の有無 無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

九十九小では、平成17年度に学校支援ボランティアの組織を整備し、それまで行ってきた地域の教育力の活用を見直し、組織化した。九十九小に学校支援センターを設置し、地域の生涯学習施設である九十九生涯学習センター「創作館」と連携して学校の教育活動等への支援体制を整えた。組織は、学習活動支援、読み聞かせ活動、生活支援、環境・施設整備、安全確保、稲作支援等から成り立っている。学校の地域連携担当教諭と九十九生涯学習センター「創作館」のコーディネーターが中心となり、学校の要望、地域の人材、活動内容などを調整し、必要な活動に必要な人材・人数を確保しながらも、無理のないように配慮し、活動に取り組んでいる。

地域の関係機関とも連携を図り、区長会、敬老会、婦人会、子ども育成会、生涯学習運営委員会、体育協会などの団体に協力を得て、ゲストティーチャーとして生活科や図画工作、体育や総合的な学習などで授業を行っている。また、児童も保育園に行き、園児との交流を深めたり、地域の老人ホームに行き、慰問活動を行ったりしている。さらに、地域行事である「敬老会」や「うで自慢大会」など日曜日に行われる行事を学校の体育館で実施し、児童が出演したり、湯茶の接待などのボランティア活動も行ったりしている。学校は地域に支えられ、ともに歩むかわり合いの積み重ねの中で、心豊かでたくましく、自ら学び続ける児童の育成を目指している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・5年生総合的な学習「九十九の米作りを学ぼう」では、地域の方約30名と保護者も参加し田植えを行っている。その後、稲刈り、米の販売、米粉料理教室、しめ縄作り、お米感謝祭などの一連の活動も支援を受けて行っている。
- ・小日向八木節保存会の方に講師をお願いし、3・4年生が地域に伝わる八木節を習っている。歴史や踊り方を学び、運動会で踊りを披露して、伝統を受け継いでいる。
- ・九十九体育協会の方の指導のもと、綱引きの練習を行っている。走るなどの運動が苦手な児童も積極的に参加し、現在安中市の大会で3連覇している。
- ・地域の方々によるコーラスやヨガ教室などの生涯学習講座が学校施設を利用して定期的に開催されている。児童も自然に地域の方々を受け入れ、あいさつをかわしながら触れ合う姿も見られる。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・学校の地域連携担当教諭とコーディネーターが連携し、定期的に会う機会を設けるとともに、必要に応じて情報交換を行い、円滑に活動が進められるようにしている。
- ・協力していただいている地域の方には、学習発表の案内や御礼の手紙を書いたり、学校行事に招待したりして、自分たちの学習の成果を伝えるとともに、協力に対する感謝の気持ちを表している。特に、学校行事の鍋煮会では、ボランティアとしてお世話になった方々を招いて、縦割り班で自分たちで育てた米を炊いたり鍋で料理したりしたものを食べていただき、感謝の気持ちを表すようにしている。
- ・コーディネーターが毎月発行する「九十九生涯学習だより」で、地域との連携行事や学校への協力・支援の様子を伝えるようにしている。
- ・地域の生涯学習講座などを開催する際は、児童の授業時間などに配慮しながら、積極的に学校施設を開放できるように協力体制を整えている。

## 事業を実施して

- ・地域の方の協力で、より有効な教育活動が行われ、児童が生き生きと学習や活動に取り組む姿が見えた。
- ・児童は、地域の方を身近に感じていて、大人との接し方や地域の方々への感謝や敬いの気持ちを自然に身に付けることができた。また、これらの体験活動を通じて人格を尊重し、他人を思いやるなどの豊かな人間性を育成することができた。
- ・学校への協力・支援により、地域の方は、学校を身近に感じ、やりがいを感じたり児童を家族のように感じたりして、より学校とのかわり合いを深めていきたいという思いを抱いていることが、地域の方からの手紙や会話から感じられる。

## その他

学校の地域連携担当教諭とコーディネーターが連携・協力し、学校と地域とのつなぎ役を担うことにより、円滑に本活動が行われている。地域が学校を支え、ともに歩んでいくというお互いの協力体制ができていく。児童が地域の協力によりはばたき成長し、大人になった際に、再び地域に貢献できる人材が育つことが期待されている。



八木節の学習支援



鍋煮会に地域の方を招いて

# 子供の自主性を尊重する自由遊びと自主学習 —SSNの事業に位置付けて—

## 埼玉県さいたま市

### 活動名

大門小のびのび教室

### 関係する学校

さいたま市立大門小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援地域本部	1人	23人	23年度	有
	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	50人	25日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	19年度	有
			児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成19年度、放課後の子供の居場所づくりを目的に、青少年育成会が中心となって、「放課後子供教室」が開始された。昔遊び等の自由遊びとスタッフによる宿題の支援が中心の活動であった。

平成23年度には、大門小学校チャレンジスクール実行委員会が組織され、放課後子供教室を発展させた「大門小のびのび教室」(毎週月曜日の放課後と隔週の土曜日)がスタートした。

特徴の第一は、「これをやりなさい」とスタッフが指示するのではなく、子供の自主性を尊重し、自由遊びと自主学習を行うことにある。また、これらの活動に付随して異学年交流も大切にしている。

第二は、大門小学校スクールサポートネットワーク(SSN)の一事業に位置づけ、地域全体の支援を容易にしていることだ。青少年育成会を初め、公民館活動、スポーツ指導員、NPO等で活躍する様々な方をスタッフや講師に迎え、子供たちが活動を通して体験する楽しさや地域の良さを味わえるようにしている。

※スクールサポートネットワーク(SSN) …さいたま市では、教育活動の一層の充実を図るため、家庭・地域・行政との連携協力のもと地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを目的として、スクールサポートネットワーク推進事業を実施している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

放課後の自由遊びは、昔遊び・ボール遊び・縄跳びなどを子供たちが選択して行っている。したがって、スタッフは、一緒に遊びを行う仲間が見つからない時に支援したり、遊びの安全を見守ったりするようにしている。放課後や土曜日に行う自主学習も、子供が宿題やドリルなどを自ら決めて行っている。学習アドバイザーは、わからない時に聞いてあげる程度の役割である。特に、土曜日は、あらかじめ子供が2コマ分の自主学習の計画を立て、目的を持って参加するようにしている。

土曜日の体験活動は、地域で活躍する講師と連携し、スポーツ、科学遊び、文化的活動等、子供の要望も聞きながらバランスよく計画している。子供に人気があるファミリーバドミントンは体育指導員により技術的にも向上している。科学遊びは、NPOに参加する講師により、地震実験、科学クイズ、チリメンモンスター探し等、授業では味わえない科学の不思議さ・楽しさに触れながら行っている。その他、木工や竹トンボ作り、創作折り紙、百人一首等、多彩な活動が行われている。

### 【実施に当たっての工夫】

のびのび教室は、放課後は全学年を対象に、土曜日は自主学習2コマと体験活動を1コマ行うため3年生以上としている。また、放課後は終了が午後5時のため、保護者のお迎えを原則としている。

なお、体験活動の講師選定に当たっては、大門地区でスポーツや文化活動に活躍する方を中心に、「のびのび教室」の趣旨を理解し、活動の楽しさと地域の素晴らしさを伝えられる方をスタッフが推薦し、実行委員会をお願いすることになっている。

## ● 事業を実施して

平成25年度に行ったアンケートでは、「のびのび教室があると生活にリズムができます。」「『今週はのびのび教室がないんだ。』とがっかりしています。」と、子供にとっても家庭にとっても「のびのび教室」が生活の一部になっていることが伺えた。

また、登録者が年々増加しているが、このことが、青少年育成会事業への大幅な参加者の増加にも表れた。これは、一部とは言え、子供が異学年との活動に慣れたこと、また、「のびのび教室」を地域全体で見守る体制が整い、児童が地域に一層愛着を持ってきたことによると考えられる。

## ● その他

放課後児童クラブの子供の受け入れや、公民館への紹介を行う他、教室スタッフが、育成会事業やPTA事業「大門まつり」への協力を積極的に行っている。「のびのび教室」をSSNの事業の一つに位置付けたことにより、大門地区の他の組織や団体との連携も容易となり、それが教室の活動の充実に結び付いている。



子供に人気の木工「ミニ本箱作り」に挑戦!



グループで自主学習



# さまざまな体験活動や学ぶ楽しさを知ろう

## 埼玉県さいたま市

活動名

ふれあい広場宇宙(そら)

関係する学校

さいたま市立大宮別所小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		1人	43人	23年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	108人	24日	有	
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	国際教育室、他9教室		20年度	有	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成20年度に地域の方々の参加を得て、放課後に様々な体験活動を行うことにより、子供の社会性、公共性、創造性等の豊かな人間性が育まれる環境づくりを行う、放課後チャレンジスクール(放課後子供教室)「ふれあい広場宇宙(そら)」がスタートした。

また、平成23年度には、自主的な学習をサポートし、学ぶ楽しさ、基礎学力の向上や学習習慣の定着を目的とした、土曜チャレンジスクール(学校支援地域本部 現:土曜日の教育活動)「ふれあい広場宇宙(そら)」が、学区内の自治会の協力をいただき、多くのボランティアの参画を得てスタートした。

月曜日の放課後は、宿題等の自習・工作・スポーツ・昔遊び等を、土曜日は、英語を中心とした学習のほか、算数・理科・音楽・絵画・毛筆等を、その都度、それぞれ児童が自由に選択して、活動を行っている。

チャレンジスクール名の「ふれあい広場宇宙(そら)」とは、大宮別所小学校の卒業生・若田光一宇宙飛行士に因むものである。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

放課後チャレンジスクールは、月曜日の5時間目終了後から開始をして、宿題等の自習、昔遊び(けん玉等)、工作(プラバンづくり・竹とんぼづくり等)、スポーツ(ドッジボール・サッカー等)、その他(紙芝居・理科実験等)を、それぞれ毎回自由に選択して、参加できるようにしている。

土曜チャレンジスクールは、全3時間のうち、1時間目は参加児童全員で、歌やゲームをとおして簡単な英語表現に慣れる「英語であそぼう」を行っている。2時間目、3時間目は選択制で、英語1・2、算数1・2、国語、理科、毛筆、音楽、絵画、水墨画、謡曲仕舞、民謡(年1回)の全12項目(学年で選択科目に制限がある)のうちから、毎回自由に選択し、参加できるようにしている。

### 【実施に当たっての工夫】

両チャレンジスクールとも、多くの選択肢を用意し、児童がその都度自由に選択できるようにしているだけでなく、ハローウィン・クリスマス・ひな祭り等季節ごとの様々なイベントや、カヌー体験教室・理科実験等の特別イベントなどの様々な催しものを用意することで、子供たちが多くのことに興味をいだき、元気に活動ができるように工夫している。

また、毎年4月に、放課後・土曜チャレンジスクールとも参加者を募集しているが、人数制限はなく、開始してからの途中参加も随時可能であるため、多くの児童が参加している。

## 事業を実施して

活動を通じて、友達ができたり、いろいろな事ができるようになったりして、意欲的に取り組む児童が増えた。また活動を通じて地域のボランティアの方々とのふれあいが増え、学校外でもボランティアに積極的にあいさつのできる児童が増えている。

また、ボランティアの方が、より多くの感動・やりがい・元気を子供たちにもらっている。



全員参加の「英語であそぼう」

## その他

学校側の理解と積極的な協力が得られており、大変スムーズに活動を行うことができています。

今後は、ボランティアの質の充実や、新しいプログラムの開発を増やしていくことで、マンネリ化を防いでいきたい。



絵画(帽子作り)

# 子供が地域で育つ環境づくり

## 埼玉県熊谷市

### 活動名

桜木っ子ふれあいじゅく

### 関係する学校

熊谷市立桜木小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
コミュニティ・スクール		1人	21.7人	30日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		校庭、体育館、裏庭、公民館、自治会館		12年度	無
		指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

「桜木っ子ふれあいじゅく」では、①「子どもが、地域で育つ。その地域のコミュニティ創り。～挨拶に始まり、挨拶に尽きる。子どもの姿は親の姿～」②「親が変われば、子も変わる。～親が動けば、子も動く～」③「異年齢、世代間のコミュニティ創り。～学年のつながりから、地域のつながりへ～」をモットーとし、学校を核にしなが地域で一体となって学校支援活動に取り組んでいる。年間を通して、ミニ菜園で野菜を育て、収穫祭も行ったり、郷土かるたやソフトボール遊び等を定期的に行っている。6月には、学校でキャンプを行ったり、1月には地域の方との交流をねらい、餅つき体験を行い合計で100名近くが参加した。10月には、親元を離れ地域の公民館に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を実施している。2月には、地域の学生サポーターさんを中心に、学習と運動を一緒に行う「文武両道」というイベントも実施している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

10月に親元を離れ地域の公民館に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を3泊4日の日程で実施している。合宿中は地域の方々に食事の世話や学習、就寝にかかわる面倒を見て頂いたり、地域家庭にお風呂を借りたり(もらい湯)しながら、地域の人たちの協力を肌身で感じながら生活する。また、地元の大学生が学生サポーターとして子供の面倒を全面的に見てくれている。

### 【実施に当たっての工夫】

①「異年齢集団で寝食を共にする」異年齢の子供たちと交流する機会が減少している中で、寝食を共にしながら共同生活を体験することで子供たちのコミュニケーション能力を養い、自立心を養うことにつながっていく。②「通学しながら日常生活にほぼ近い状態で生活する」家庭において日常的に炊事・洗濯・清掃などを手伝う機会が減少している中で、この生活体験が自活へとつながっていく。③「ゆっくりとしたリズムで生活する」特別なプログラムを設定せず、自主性を尊重し、ゆったりとしたリズムでの生活体験を繰り返すことで基本的な生活習慣を身につける。④「自ら考え工夫する」指導のなかでは、手出し口出しを最小限度にして子供たちの自立性や自主性を引き出す。⑤「日常生活圏で行う」学校と家庭と地域が一体となって子供たちを育てていき、この合宿通学を通して、地域の教育力も増していく。⑥「熊谷の子供はこれができる 4つの実践(○朝ごはんをしっかりと食べる。○呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。○「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。○友だちをたくさんつくる。)と 3減運動(テレビの時間を減らします。ゲームの時間を減らします。携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。)」を実践する場である。

## 事業を実施して

共同生活を体験することで子供たちのコミュニケーション能力がついてきた。家庭においても炊事・洗濯・清掃などを手伝う機会が増えていった。また、基本的な生活習慣が身につくにつれ、自立性や自主性が増していった。

## その他

学校において6月に「キャンプ体験」を実施している。高学年は、芝生の上に張ったテントで、低学年は、体育館に蚊帳を吊って泊まる。夕食は、みんなでカレーを作る。ご飯は、防災倉庫から竈、釜を借りて炊く。それが保護者の「炊き出し訓練」にもなっている。翌日は、うどん打ちを行っている。  
参加者：小学生67名、中学生5名、地域10名、大学生34名。



合宿通学での食事



合宿通学での登校風景

# 主体的に学習する児童を支援する、 学校応援団・学校支援ボランティア活動

## 埼玉県川口市

### 活動名

前川小学校応援団・学校支援ボランティア

### 関係する学校

川口市立前川小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	210人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

- 本校の学校応援団は、地域やPTAと連携し、地域ぐるみで組織運営されており大変活発である。
- 組織としては、学校応援団コーディネーターを中心に地域応援団、保護者応援団、登下校安全見守り隊(学区3町会によるスクールガード) ポプラの会(親父の会) 前小50会(PTAOB会)で組織し学校と一体となって活動を進めている。
- 活動として、小学生の事件・事故をきっかけに、地域の子供は地域で守るを合い言葉に、安全安心活動を中心にスタートし、今日では【安全安心への支援】【学習活動への支援】【環境整備への支援】【地域行事への児童・教師の積極的参加】の3支援1参加の体制で活動を推進している。
- 安全安心への支援活動は、毎日の立哨指導、下校指導、週1回の夜間パトロールなどである。
- 学習への支援では、読み聞かせ、家庭科の補助をはじめ水泳指導補助、着衣泳補助、生活科・社会科等の校外学習補助等である。
- 環境整備への支援は、草花の世話、草取り、樹木の剪定、グラウンドの整備等を実施している。
- 児童の地域行事への積極的参加を働きかけ、町会の運動会、盆踊り、スポーツ大会への参加。2分の1成人式参加、金管バンドのパレード参加等意欲的である。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### 「子供見守り活動」

- スクールガードリーダーを中心に地域からボランティアを募り、約50名のスクールガードが安全安心活動を実施している。
  - 登下校時の交差点での立哨指導、下校時には、コース別に1年生の下校の見守りを実施している。さらに、週1回夜間のパトロールも実施している。
- #### 「支援体制の充実」
- 学校応援団を中心に地域・保護者・学校が一体となって学校支援体制が組織されている。また、児童も積極的に地域に参加できるよう学校でも働きかけている。

### 【実施に当たっての工夫】

- できることをできる範囲でやると言うことを合い言葉に、無理のない範囲で実施している。
- お互いに顔を合わせたときには、笑顔で声を掛け合い励まし合っている。学校で取り組んでいるあいさつ運動とも連動し、みんなで声を掛け合いお互いの活動をねぎらう心を大切にしている。
- 学校では、学期に1回、ボランティアの方を招待して、会食会を行い感謝の気持ちを伝えている。シティズンシップ教育の先駆けとして地域行事に積極的に児童が参加するよう学校で働きかけ、地域の一員としての責任と自覚を育成している。
- 校内の研修で徳力(心を育てる教育)を道徳・図画工作で実施し、それとも連動して支援活動を実施している。

## 事業を実施して

- 学校応援団が中核となって、家庭・学校・地域が一体となって児童の安心・安全を確保するとともに、児童の健全な育成に寄与している。
- 児童の道路の歩行、あいさつ等基本的な生活習慣の定着に役立つと同時に、相手を思いやる気持ちや感謝の気持ち、命を大切にしようとする態度が育成された。
- 学校の児童・教職員・保護者に笑顔と活力がみられるようになった。また、地域のボランティアの方もエネルギーに活動している。

## その他

- 地域、保護者からの図書や草花の寄贈などの支援がある。
- 地域や市民の一員としての自覚を育てる大切な活動なので継続発展させたい。
- こうした地域ぐるみの活動を中学校区を中心とした活動にさらに広めたい。



登校時の見守り活動の様子



PTA地域学校が一体となったポプラまつり

# 支援を受け続け、34年。 地域の伝統文化・産業を取り入れた学校応援団活動

## 埼玉県三郷市

### 活動名

三郷市立高州東小学校学校応援団

### 関係する学校

三郷市立高州東小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 101人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

学校応援団は大きく4つのグループからなる。①学習支援を行うグループ。活動は、放課後・長期休業中に補習授業として学習の深化補充を教員とともに行う。年間計画に位置づけ、のべ回数は1年で140回を超える。児童の学力向上と地域住民とのふれあいも図られる。この他に、藍染め教室・農具体験なども担当する。②読書活動を深めるためのグループ。活動は朝の読書タイムの読み聞かせを担っている。年間ではのべ150回を超える。さらにお話会、紙芝居、本の補修、図書館の椅子カバーの作成、アルミ缶回収での本の購入などを行っている。③登下校の安全見守りを担当するグループ。活動は主に下校時を中心に、交差点ごとに安全指導を毎日実施している。児童は見守り隊と挨拶を交わし、社会性を身につけている。④学校ファームを中心とする学校緑化を支援するグループ。学校ファームは校外に300坪の農地からなる。畑の耕耘から作付け、作物の選定、畝立て、収穫、調理までを支援している。また、校内の花の栽培にも貢献している。

### 活動の経緯

34年前の開校当初から現コーディネーター(初代PTA会長)を中心に地域住民が学校を支援し続けてきた。平成20年から組織として活動している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

特徴的な活動は、①34年間にわたる地域住民からの支援活動。初代PTA会長を中心にPTAのOB会が継続的に地域とともに学校を応援している。②地域の伝統産業を取り入れた活動。地域の伝統産業の型紙を使った藍染めや、地域で使われていた農具や民具を再生し、子供たちが実際に使って先人の知恵や努力を学び、郷土愛を育んでいる。③学校応援団が児童のみならず、地域住民へ学習機会の提供を行い学校を核として地域の交流が深まっている。④地域の多くの諸団体とも連携して活動を進めている。たとえば、校庭整備には200人余がボランティアで重機も含めて参集した。これは諸団体の支援を受けている結果である。⑤児童が幅広い体験活動を行っている。学校内・学校外を問わず、学校応援団の支援を受けて、豊かな体験活動を展開し、心を育んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①常に学校と応援団との情報交換を行う。本の読み聞かせ、学習補充教室、下校見守り、学校ファーム作業など、その都度、学校職員が感謝を示し、その場で情報交換を行う。
- ②児童にも、日頃からお世話になっている応援団の方々に挨拶や感謝の意を示すよう継続的に指導する。また年度末には謝意を表す感謝の会を実施している。
- ③「地域」を念頭に、実施している。たとえば地域の伝統産業であったり、地域の農業であったり、地域の人々との交流であったり。児童の郷土愛の育成に努めている。
- ④地域から支援いただくだけでなく、地域に返していくことを実施している。たとえば地域住民対象の藍染め教室の実施などである。
- ⑤地域と児童の交流について「食」とおして行う。夏野菜カレー作りや芋煮会を実施している。



応援団の指導で伝統産業の藍染め・卒業記念ハンカチ



応援団の支援でタスキの糸車体験・校庭整備

## ● 事業を実施して

- ①地域と学校の連携が深まり、多くの情報が集まり、児童の健全育成に役立っている。
- ②学校に環境整備が進んだ。図書館の椅子カバーがついたり、廊下の壁面に壁画が描かれたり、校内に花が増えたり、児童が活動できる300坪の学校ファームができた。
- ③児童と地域住民との交流が増え、挨拶の上手な児童が増えた。
- ④児童の学力が向上した。応援団による読書活動の推進や、補充学習の成果である。
- ⑤地域に開かれた学校となった。多くの方が来校し、地域の教育力が学校に流入した。
- ⑥児童の豊かな心が育まれた。落ち着いた授業態度、協力しあう諸活動に現れている。

## ● その他

- ①第一に地域に根ざした活動を目指している。地域の方々と、地域に関する学習を行い、児童の郷土愛を育んでいる。
- ②地域への学習機会を提供するよう努めている。

# 地域の皆さんに支えられた子供たちは、心身ともに豊かに成長しています。

## 千葉県流山市

### 活動名

流山市北部中学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

流山市立北部中学校・新川小学校・江戸川台小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	135人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成19年度の準備期間を経て、平成20年度より3年間、文部科学省委託事業として、また平成23年度からは、間接補助事業「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」として流山市北部中学校に本部を置き、新川小学校、江戸川台小学校の3校で、地域の人材による学校支援の充実を図ってきている。

本年7月目を迎え、活動も定着しており、「地域とともにある学校」の実現へ向け、着実に歩を進めているところである。

1. 学力向上：朝自習算数サポート・放課後数学補習、定期テスト前学習会、英語検定面接練習
2. 図書室整備：整備、子ども読書まつり、読み語り絵本展示
3. キャリア教育：職場体験学習の事業所開拓、職業人に聞く会
4. 環境整備：樹木剪定、草取り作業、緞帳・暗幕修理、看板作成
5. その他：部活動指導、スクールガード、卒業証書・各種大会の賞状の名前書き、体育祭駐輪場整理、墨絵・茶道・書写指導、読み聞かせ、家庭訪問・個人面談通訳

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ①年間を通じた朝自習算数サポート・数学補習
- ②キャリア教育：13名による職業人講話
- ③家庭訪問・個人面談通訳
- ④墨絵・茶道・書写の授業
- ⑤英語検定二次面接練習
- ⑥家庭科授業サポート(ミシン)
- ⑦卒業証書・賞状の名前書き
- ⑧入学式・卒業式立て看板作成
- ⑨緞帳・暗幕修理

### 【実施に当たっての工夫】

支援活動を実施する際、内容や日程などの確認が間際になってしまうこともあるが、日頃からボランティアの方々とのコミュニケーションを大切にしているので、短時間の打合せや簡単な連絡のみでもスムーズな活動ができています。算数・数学のサポートは年間を通しての活動なので、教材の勉強会や数学教員との打合せを行うなど、より充実した支援を目指している。

- ①年度当初、学校職員とコーディネーターの打ち合わせ
- ②「学校支援地域本部便り」での広報活動
- ③実績の蓄積、記録、ファイリング
- ④「サポーター交流会」の開催



図書室環境整備



朝の学習支援

## 事業を実施して

他地域に比べ、地域の人材が学校教育に関わる機会が格段に多い。子供たちは、地域の方々に支えられて充実した体験を積み、地域の方々と関わる中で、日本の古き良き伝統を見聞きする機会を得て、日本文化に対して興味関心や年長者への感謝といったわりの気持ちをもつことができる。3名のコーディネーターの尽力により、充実した活動が展開されており、その貢献は多大である。

# 地域の子供は地域のみんで育てる、学校支援地域本部

## 千葉県四街道市

### 活動名

八木原小学校 学校支援地域本部

### 関係する学校

四街道市立八木原小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	163人	22年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成22年度に「地域の子供は、地域のみんで育てる」という考えのもと、学校支援地域本部事業が始まった。それまでは、環境整備、登下校の見守り活動、体験活動での学習支援と、様々なボランティアが子供たちをサポートしてきていたが、本事業を立ち上げるのに伴い、地域コーディネーターが学校とボランティアの調整役を担うようになり、組織的に学校支援が行われるようになった。

主な活動としては、以下のような学校支援活動を行っている。

交通指導(通年) 花壇整備(年4回) 除草作業(年3回) 図書整備(年3回)

寺子屋自学塾(夏季休業中 冬季休業中)

体験活動支援

1年 鯉のぼり見学 焼き芋 昔の遊び 幼保小交流会 2年 畑の耕作 野菜苗付け 町探検

3年 給食会

5年 代掻き 田植え かかし作り 水田ネット張り 稲刈り 脱穀 収穫祭

6年 室町文化体験 戦争体験学習 グラウンドゴルフ交流会

全校 6年生を送る会

クラブ活動支援

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

<寺子屋自学塾>

夏季休業中は7月下旬に8日程度、8月下旬に5日程度、冬季休業中は12月下旬に4日程度、1月上旬に1日程度、午前中に寺子屋自学塾を開催している。子供たちは、前半55分、自学を行い、後半75分間体験活動を行う。体験活動ではボランティアスタッフのもつ特技やアイデアにより、将棋・囲碁・和太鼓・読み聞かせ・折り紙・バルーン・木版作り・工作教室・篠笛・竹細工・ミニ空気砲・低学年用体験学習・ゲーム・英会話・介護・竹馬・人力発電・書初めと多彩な活動内容が用意されており、子供たちは自分の希望により選択できるようになっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 地域コーディネーターが代表を務める「八木原小学校ボランティアの会」が中心となり、ボランティアを募集している。また、ボランティアは大人だけでなく、中・高校生・専門学校生・大学生・父母・一般(年齢不問)と多岐にわたる世代の方が活躍できるようにしている。
- 参加希望者・保護者・学校・ボランティアスタッフ等に文書で情報を発信し、共通の意識をもって取り組むようにしている。課題が発生した場合には、それをみんなで共有し、ボランティアだけで解決を進めるのではなく、参加している子供たちや保護者にも課題を投げかけ、課題を解決できるようにしている。
- 体験活動も、長い期間をかけて習熟するものや、子供が自分の興味をもとに体験できるような工夫を取り入れている。

## ● 事業を実施して

ボランティアを中・高校生・専門学校生・大学生・父母・一般(年齢不問)の方々が参加することで、幅広い世代の交流が広がっている。そのことは、回を重ねるごとにネットワークの輪を広げ、層の厚みを増し、活動もバラエティーに富んだものが行われることにつながっている。また、かつては小学生だった子が、中学生・高校生となり、ボランティアとして参加するようになり、地域のコミュニティに継続して参加することができている。子供たちの活動を直接、地域のみんで見守り、支えることは子供たちの姿を知り、どのように育てて行けばよいのか共通の意識をもつことにつながっている。

## ● その他

夏季休業期間や冬季休業期間には、これまで児童が一人で家で過ごさなければならない状況の家庭もあった。「地域の子供は地域のみんで育てる」を合言葉に始めた寺子屋自学塾により、休業中にも、子供たちは多くのボランティアスタッフや友だちとともに過ごすことが可能になった。また、多種多様な体験活動は子供にとっても大変有意義なものとなっている。子供の居場所づくりにつながり、子供たちの健全育成に大きな役割を果たしている。



寺子屋自学塾における体験活動



花壇の苗の移植作業

# できる時にできる事から 竜小応援団!

## 千葉県栄町

### 活動名

竜角寺台小学校区地域連携協議会

### 関係する学校

栄町立竜角寺台小学校

基本データ	活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
	1人	49人	21年度	有	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

この応援団は、教育活動の充実や教員が子供と向き合う時間の拡充を図るため、学校の求めに応じ地域住民等が様々な形で支援するボランティアである。

見守り応援隊、施設メンテ応援隊、環境美化応援隊、学習応援隊の大きく4つの分野に分けられ、効率的に学校のニーズに応えている。

- ・校門での見守りや地域のパトロールなど、年間を通し実施。
- ・校舎や敷地内の安全点検を実施し、簡単な修復作業等を適宜実施。
- ・校内花壇及び隣接する歩道脇の花壇整備を春と秋の2回に分け実施。
- ・ドリルやプリントの丸付け支援や休み時間を利用した「ふれあい学級」を定期的実施。

### 経緯

国が実施する地域と学校についての事業を町で検討していたところ、支援本部事業の趣旨に近い内容の検討をしていたメンバーに打診し構成された。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 地域の見守り・パトロールのほか、通学路の点検や交通安全指導・体験学習時における引率を実施している。
- 秋の環境整備(花植え)の際に、高校生との交流を行い花苗の運搬やレイアウト決めなどを実施した。また、地域が実施する花壇整備に互いに親しく交わり楽しむこととして参加している。
- 5校時前の15分間を利用し、ドリルやプリントなどを実施する「チャレンジタイム」を行っている。1クラスに1名で補助に入り丸付けや進行補助を行っている。
- ふれあい学級として、昼休みの時間に昔遊び(将棋、囲碁、折り紙、おはじき、けん玉等)の指導をシルバークラブの支援により年7回実施している。
- 朝の絵本の読み聞かせを年12回実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校区の地域の方々に対し、本事業の取組や内容について周知するため、ボランティアだよりの発行を2か月に1回、年7回発行。特別号として3月の年度末に1回発行し、合計7回発行した。また、ボランティアだよりの花植え特別号を春と秋に発行した。
- 新たな人材発掘のため地域ボランティア募集用のチラシを作成し、地域に配布した。
- 事業の立案・検討や各事業の報告のため、竜角寺台小学校区地域連携協議会を年2回開催している。
- 学校を支援する団体同士の共通理解や事業協力を図るため、PTAとボランティアの交流会を給食試食会と兼ねて年3回開催し、延べ90名以上が参加した。
- 地域を超えた不特定多数の方々への周知及び本団体が行う事業等の情報発信のため、竜角寺台小学校のウェブサイトに、「特色ある活動」として掲載。

## 事業を実施して

＜地域ボランティアの声＞ PTA役員のはからいにより、3回の交流会が実施されました。この時、学校を支援するボランティアに対し労をねぎらう言葉をかけてくださり嬉しく思いました。PTAとの関係が近くなったように感じられました。

＜学校関係者からの声＞ 非常に貴重な人材(ボランティアさん)です。チャレンジタイムでは、ボランティアさんの丸付けが早く的確に実施され、感銘を受けました。学校の様々なことについて、コーディネーターさんが地域との架け橋となり調整していただき感謝しています。

＜コーディネーターからの声＞ 各ボランティアさんの支援によって、子供たちの中に、「確かな学びと豊かな心」が育まれていることが実感出来るようになりました。今後も温かい見守りと支援を継続し、今までの歩みが意味のあるものになるよう協力していきたいです。

取組の効果として、地域の方々が率先し「学校を見る」ことが出来ることで、学校と地域とのつながりが確立し、各事業の取組が各個人の中で習慣化されたことが大きな効果です。結果、地域がその地域の子供たちを見守ることが出来ています。

## その他

＜花植えに参加した高校2年生男子＞ 高校では草花部門を専攻し、普段からパンジーなど花壇用草花に触れていることもあり、上手に小学生に教えることが出来たと思う。ある小学生の男子が「花を植えるのは初めて」と言っていたが、私が教えたことをすぐに理解し、しっかりと植えてくれてうれしかった。小学生の皆さんが頑張ってくれたおかげで予定よりも早く花植えが終わり、交流の時間をもちことが出来た。小学生のころを思い出したようで懐かしい気持ちになった。

私は、地域の方々と交流したいという理由で高校を選んだので、とても楽しい時間を過ごすことが出来た。



秋のわくわく花植えで、高校生と交流



チャレンジタイムでの丸付けの様子

# ねがい・情報を共有し、責任と学びを分かち合う活動をめざして!

## 東京都杉並区

### 活動名

三谷小学校「学校支援・地域共生本部」

### 関係する学校

杉並区立三谷小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		3人	321人	15年度	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		5人	161人	19年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		4人	30人	35日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		校庭、体育館、図書室、多目的室		15年度	無
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
	平成17年4月1日	11人	491人	18学級	

### 活動の概要

- ・コミュニティスクールとして10年目を迎える。学校運営協議会を母体に下部組織として、「三谷小学校学校支援本部・地域共生本部(7年目)」があり、運営協議会発足当初は、あいざつ部会、図書部会、情報発信部会、イベント部会を組織し、具体的な取組を通して地域、保護者を巻き込み学校の応援に回るところからスタートした。3年後に支援本部が立ち上がり、具体的な支援はそちらに移り、学校経営の応援、アドバイス機関として活動が展開されている。
- ・学校支援としては延べ280時間の総合的な学習の時間、生活科、算数などの学習支援、夏季早朝ラジオ体操会、子供防災宿泊体験等の学校生活、社会生活に関わる支援、毎週火曜日に行われる全学級読み聞かせ会の実施などがあげられる。
- ・学校運営協議会は、月1回開催され、公開の中で教職員が加わり、共に学び、共に育つことを大切に意見交換や評価報告を行っている。地域・保護者が参加し、よりよい学校づくりに向かえるよう自由な雰囲気づくりにを大切にしている。
- ・運営協議会、支援本部共に活動が広く認知されるように年3回広報誌、報告書の発行年1回や地域交流会、報告会(CSフェスタ)を催している。
- ・放課後の低学年の受け皿として「そてつ教室」、土曜日事業の「日本伝統文化教室」(琴・華道・囃子)、「グローバルキッズ教室」(地域の外国人を招いての活動)、「子供和食料理教室」は、特色ある活動でもある。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ①全校読み聞かせ・・・延べ540人の読み手が毎週火曜日の朝時間に18学級すべてに入り、読み聞かせを行っている。教員読み聞かせ会も生まれ、他の学年学級で活動をしている。
- ②地域色を生かした学習サポート・・・保・幼連携や中・高校連携を積極的に提案し、園児とのイモほりや中学生レスキュー隊とのAED実技訓練、農芸高校馬術部との馬と仲よし、福祉園との高齢者交流などを行っている。
- ③おやじの会・・・地域がひとつになるようにと、ラジオ体操、子供防災宿泊体験、三谷祭りなどを主催共催し、町会や施設などと先頭に立ち活動を行い、子育ての責任を共有している。
- ④土曜教室・・・琴・華道・囃子など校内書き初め展と連携をし、発表会を行っている。グローバルキッズは、ゲストと共に大使館めぐりも計画され、ダイナミックな活動を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

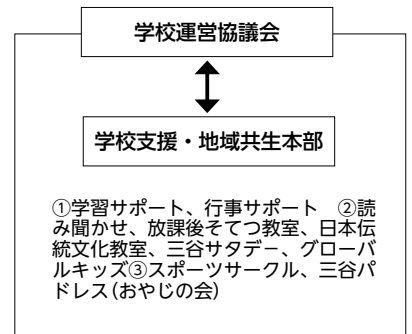
- ・全校読み聞かせは、平成14年度より学校からの依頼を受け、12年目を迎えている。保護者によって発足し、支援本部が組織的活動として取り組む。保護者30名 地域ボランティア10名程度の募集メンバーで活動をし、校長、教員も加わる活動に至っている。リストを作成し、学校司書から情報を得て、読みたい人が読んであげたい人へを大切にしている。ここ4年間、イベントとして中井貴恵氏による大型絵本の読み聞かせ会を開いている。
- ・学習サポートでは、年間計画表「こらぼーど」を作成、各学年と調整を取り、コーディネーターが相手園校と連絡をし、よりよい授業づくりのために支援活動を行っている。就学前のプレスクール、文部科学省のスーパー食育スクール事業指定校としての低学年のおにぎりづくり、中学年の卵料理の調理補助や栽培活動の作業手伝い、生育を見守ることも根気のいる重要な活動となっている。
- ・おやじの会発足は、平成15年。できる人ができることをしていこうという趣旨が長続きの秘訣である。現役の父親が少なくなり、おやじ復権をかけて、ラジオ体操会(3年目)、子供防災宿泊体験(3年目)と運動会前の校庭大掃除等、顔見知りになるところからはじめ、総会や懇親会を通して会員を増やしている。学校運営協議会とも父親の思いを意見交流として年1回行っている。

## ● 事業を実施して

- ◎事業すべてが「若き地域人の育成」をゴールと考え「願いの共有」「情報共有」「責任共有」「学びの共有」ができつつある。
- ◎「CSフェスタ」は、1年の節目として、初心に返ってのスタンスの確認をする場、評価を相互にする場として重要な場ともなってきた。
- ◎多くのサポーター、ボランティアの手は、児童にとって感謝すべき、また手本となるべき指標となり、関わり合うことの重要性を知らしめてきている。
- ◎教職員にとって、創造的な授業、ダイナミックな授業づくりには欠かせない組織となってきた。
- ◎学校の垣根が低くなり、学ぶ姿、支援する喜びを感じる事が多くなった。

## ● その他

- 「すべては子供たちのために」を合言葉に、学校や地域のニーズ、時代の変化に対応した活動と組織運営を継続していく。



三谷小学校支援組織



馬と仲よし  
《馬術部の高校生と馬の訪問に備えて育てたニンジンプレゼント》



高齢者疑似体験授業  
《装具をつけて、お年寄りの不便さを体験》



# 「できることを、できる範囲で、できるだけ」を合言葉に きらきら輝く学校!

## 東京都板橋区

### 活動名

蓮根第二小学校 学校支援地域本部

### 関係する学校

板橋区立蓮根第二小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	2人	100人	21年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

基本データ

活動の概要

平成21年9月より、地域ぐるみで教育活動を支援する学校の応援団として取り組んでいる。学校のニーズに応じたボランティアを派遣することで、教育環境を整え、先生方を応援している。ボランティア活動を組織化し、その窓口を地域へと広げることで充実を図っている。明るく元気な蓮二つ子を一人でも多く育むために、地域・保護者と一緒に蓮根第二小学校の教育活動を支援している。

○読み聞かせ・図書館整備

図書室は、季節や行事・学習に合わせたディスプレイや本をレイアウトしている。春と秋の読書週間には「スペシャル読み聞かせ」も開いている。おはなし会のボランティアが図書館司書や中央図書館ボランティアとも協力して図書環境を整えている。

○ビオトープ維持管理

荒川の生態系を再現している生きた学習教材・学校ビオトープ。様々な植物・オタマジャクシやトンボなど、四季折々たくさんの命と出逢うことができる。「つくろう会」が維持管理や観察会を開いている。

○芝生見守り隊

平成21年度より校庭が芝生化された。夏芝と冬芝の二種類を育てる事で、一年中緑の芝生の校庭が実現した。「芝生見守り隊」として、保護者・地域・子供たちみんなで維持管理(芝刈り)をしている。

☆地域コーディネーターが月1回「学校支援地域本部だより」を発行し、児童・保護者を始め地域等に配布する等、活動内容を共有し支援活動につなげている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

既存のボランティア活動を生かした学校支援が大きな特徴の一つである。(学習支援ボランティア、おはなし会、あそぼう会、ビオトープをつくらう会、花と緑のボランティア、芝生見守り隊、寺子屋事業)

その他にも、1年生入学時の「おかえりなさいボランティア(下校見守り)」、校外活動で班活動をするときの付き添いボランティア、芝生養生中の公園遊び見守りボランティア等々、学校の教育活動に合わせてきめ細かく支援している。

### 【実施に当たっての工夫】

・昨年度より2クラス増。特別支援クラスも増えた蓮根第二小学校学校支援地域本部。一人でも多くの保護者・地域の方が『できることを、できる範囲で、できるだけ』学校支援に関われるよう、引き続いた広報活動などでその雰囲気作りを継続している。

・6年目を迎え、支援ボランティアの中には学校のニーズやボランティア側の思いをくみ取れる方が少しずつ増えている。そんな方々とのつながりを学校支援地域本部の活動にも生かせるよう検討しているところである。

・教職員が学校支援地域本部を活用しやすくするために、教育活動やそのねらいにつながる各ボランティアの活動を、学校支援地域本部だより(月1回発行)や地域コーディネーターの職員打合せへの出席を通して紹介している。また、職員室に地域コーディネーターの席を配置し、気軽に声かけられるよう工夫した。地域コーディネーターが職員室にいても違和感がなくなり、教職員が直接支援のリクエストを伝え、相談できるようにもなった。



「おはなし会」による読み聞かせ

## 事業を実施して

・「学習支援ボランティア」が授業に入り、また放課後補習でマンツーマンで指導したため、子供たちの「分かった!」という笑顔が増えた。

・6年生の理科教材のためのじゃがいも栽培で、5年生の頃に種イモを植える活動も「花と緑のボランティア」が年間計画に組み込んでくださるため、担任の子供たちと向き合う時間や授業研究の時間が確保できている。

・「あそぼう会」の数々の行事が子供たちの思い出作りに、「おはなし会」の読み聞かせや図書室整備が、子供たちの心の成長につながっている。



「学習支援ボランティア」による、サマースクールの支援

## その他

・2人の地域コーディネーターのおかげで、ボランティアに在校生保護者だけでなく、地域町会の方、保護者OB、卒業生も加わって、学校を支援している。

・長年の保護者ボランティア文化が根付いた学校である。

・「できることを、できる範囲で、できるだけ」を合言葉に、たくさんの方が子供たちの学習支援や教育環境整備を行い、子供も大人もきらきら輝いている学校である。

# 「一人一鉢の菊づくり」の活動をとおして子供を育てる 学校応援団

## 東京都江戸川区

### 活動名

上小岩小学校 学校応援団

### 関係する学校

江戸川区立上小岩小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 152人	開始年度 20年度	補助の有無 無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

本校は、区が平成20年度に学校応援団を実施する以前から、「菊づくり」を通して学校・家庭・地域が一体となり、地域と共に歩む「開かれた学校」を推進していた。

「菊づくり」は、昭和56年の開校50周年の記念に、当時の校長が情操教育の一環として「菊の一人一鉢栽培」を提案し、地域の菊名人である松原昇次氏に相談するところから始まった。学校・家庭・地域の協力のもと子供たちは菊づくりに励み、式典当日には育てた菊が見事に咲いた。これを機に松原昇次氏を中心に20人の菊ボランティアが発足し、現在まで毎年「一人一鉢の菊づくり」の活動の支援をいただいている。

平成9・10年度には「菊づくり・菊祭り」をテーマに総合的な学習の時間として研究を行った。

菊の「親株」を育てている農園では、各学年ごとにジャガイモ・玉ねぎ・枝豆・小松菜・青梗菜などの野菜も育てている。この農園の整備管理も菊ボランティアの方々のお世話になっている。成長した野菜は収穫し、玉ねぎなどは全校児童がクロッキー(10分程度で素早く行うスケッチ)の対象として活用したり給食で全校児童が美味しくいただいている。

本校は、平成20年度の学校応援団実施に伴い、学習支援ボランティア、安心安全見守り隊、図書ボランティア、菊ボランティアを「学校応援団」として正式に立ち上げ活動している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

「一人一鉢の菊づくり」の成功をめざして(菊ボランティアの活躍)

本校においては、「菊づくり」を核としながら「総合的な学習」を志向した研究に取り組み、平成9・10年度江戸川区教育委員会教育研究校に指定された。この研究は、子供たちの主体性・共生を目指し、学校・家庭・地域が一体となって取り組んだものであり、さらに豊かな体験活動の重視や子供の情操教育とも深くかかわっているものである。

### 【実施に当たっての工夫】

菊の開花を喜び、菊ボランティアの方々への感謝の気持ちを表す「菊祭り」を総合的な学習の時間に位置付けることにより、単なる伝統行事から子供たちが活躍する学習の場へと変化させることができた。さらに菊祭りの意義を教員も児童も見直すきっかけになった。

「菊祭り」は始めた当初は式典的要素が強かったが、平成5年から児童の特別活動の一環として集会的要素を多く取り入れられるようになった。さらに、学習指導要領に総合的な学習の時間が創設されることを受け、菊づくり・菊祭りを総合的な学習として見直した。

①児童一人一人による自分が育てた菊のクロッキー(図画工作)、②群読(国語・音楽)、③ボランティアへの感謝(道徳)、④地域とのつながり(特活)、⑤菊日記(国語・理科・道徳)、⑥司会・進行(特別活動)

## ● 事業を実施して

総合的な学習の中で、自然や社会との出会いと共に、子供同士はもちろんのこと多様な人との出会いが生まれる。その出会いを大切にしたい実践も心がけた。菊ボランティアの方々、地域の方々、保護者の方々と共に力を合わせて活動したり、教えていただいたりした中で、子供たちはともに生きるこの意味やそのための努力の必要性を実感できた。さらに、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝える場を設定したことで、子供たちは菊に対する思いをさらに深めることができた。

菊名人、松原昇次さんの思いが全校児童に伝えられる。

「菊は、注いだだけの愛情に応えます。愛情こめて育て上げ、立派な菊が咲いた時の成就感を味わってほしい。予想外の雨・台風・雷・突風・ヒョウなど、菊が育つには多くの困難があるが、その困難に負けず立派に菊を育て上げることで、自然の素晴らしさを知り、その後の勉強や人間形成に生かしてほしい。」

学校・家庭・地域全てがその思いをしっかりと受け止め、学校の歴史と伝統になっている。

## ● その他

「菊づくり」では、年間で延べ5,000人のボランティアの方々、地域の方々、保護者の方々に協力をいただく。この「菊づくり」は学校と家庭、地域の方々の上小岩小の教育に対する理解が一層深まり、学校・家庭・地域の連携がより強固になる活動である。さらに、33年間続けられたことで、子供が卒業して親となり、自分の子が上小岩小学校に入学してまた菊づくりを体験するという、親子を通じた活動に発展してきている。学校選択の際に「私も菊づくりをしたんです」と保護者から伝えられることが多くあり、学校の特色として定着している。



菊祭りの様子



腐葉土づくりの様子

# 連雀学園の支援活動 市内最大数の年間ボランティア参加者数 3352人!

## 東京都三鷹市

### 活動名

連雀学園コミュニティ・スクール委員会

### 関係する学校

三鷹市立第一中学校・第四小学校  
第六小学校・南浦小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年9月10日	21人	2,700人	93学級

### 活動の概要

平成20年4月に開園した連雀学園は、第一中学校と、その学区内にある第四小学校、第六小学校、南浦小学校の3つの小学校で構成される、児童・生徒数 合計2700名の市内でも最大の学園(施設分離型の小・中一貫教育校)である。小・中学校が同じ学区の地域の力を共有し、それを最大限に生かせるコミュニティ・スクールを基盤として学園・学校運営をしている。

コミュニティ・スクールの指定は、第四小が平成18年10月6日、第六小、南浦小、第一中は平成19年9月10日である。連雀学園のコミュニティ・スクール委員会(以下CS委員会)は、保護者及び地域の住民等が連雀学園の運営に積極的に参画することを通して、その意向を学園の運営に的確に反映し、一層地域に開かれた信頼される学園を実現することを目的に活動している。

CS委員会の協議においては、学園評価・学校評価の一体化の推進や、CS委員会による学校関係者評価を適時適切に行い、保護者、地域の意見を反映した自律的な学園・学校運営を支援している。

学園の支援活動は、CS委員会の3部会と、平成10年からの第四小学校をはじめ、各小学校の学校支援組織が連携して行っている。平成25年度の学校支援ボランティアの参加述べ人数は、年間3,352人と市内で最も多かった。学習支援、健全育成、安全指導、環境整備等の充実に多大な貢献をしている。

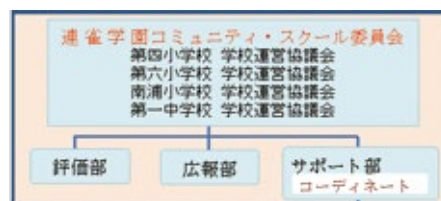
## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- CS委員会には、評価部、広報部、サポート部の3部会があり、委員はいずれかの部会に所属し、学園・学校の支援を行っている。
  - 評価部：保護者、地域、児童・生徒を対象とした学園評価等のアンケート調査(調査票の作成、集計、分析、学園への提言、地域・保護者への結果の周知)を年1回行う。
  - 広報部：学園広報誌(年9回発行)やHPなどを通して学園の様子を知らせる活動を行う。
  - サポート部：学校支援組織の連絡・調整のもとに、学園の教育活動への保護者・地域人材の積極的参画の促進や、児童・生徒の健全育成に関する活動の企画・運営を行う。
    - ・「連雀百景」実行委員会を中心とした活動の推進
    - ・天文台等との連携を図った活動の企画等
- CS委員会主催の子ども熟議を中学生をファシリテーターとして実施

### 【実施に当たっての工夫】

- コミュニティ・スクール委員会の組織・運営の活性化に向けて
  - 評価部は、学校評価と学園評価を一体化させた評価アンケートを作成、実施・分析することで、学園・学校経営計画との関連がより明確になり、改善策検討の協議が深まった。
  - 広報部は、学園ニュースの紙面構成を読みやすく改善するとともに、学園HPの発信内容の整理と、前年度より更新回数を増やしたことにより、取組状況がよくわかると好評である。
  - サポート部は、各校の学習支援組織の連絡会を新たに開催し、話し合いをコーディネートしたことにより、学校間でより連携して人材を派遣する体制が整えられた。
- CS委員会が主催した子ども熟議を、児童会・生徒会が学園の活動に企画からかかわれる場とすることで、学園の児童・生徒の自主性、自発性をより高めることができた。
  - テーマ：「連雀学園で小学生と中学生が協力してできること、してみたいこと」



学園：学校支援組織  
(NPO法人・夢育支援ネットワーク、第六小心のふるさとネットワーク、南浦小学習サポートネットワーク)

連雀学園CS委員会の組織図



CS委員会主催の「子ども熟議」

## 事業を実施して

- 連雀学園のコミュニティ・スクールでは、CS委員会のサポート部と支援組織(第四小：NPO法人・夢育支援ネットワーク、第六小：心のふるさとネットワーク、南浦小：学習サポートネットワーク)が連携して、様々な地域・保護者の支援が得られるため、教育活動の充実につながっている。
  - 特に各小学校の学習支援組織が機能し、日常的な学習場面に保護者や地域の方が授業や学校行事に入ることで、児童・生徒の安心感と基礎学力の向上につながっている。また、保護者や地域の学校・学園への理解が深まり、学校・家庭・地域が教育の当事者として地域の子供たちを育てる意識が高まってきた。
- 小・中学生相互の協力により意見をまとめ、その後の児童・生徒会活動につながった。

## その他

学校支援組織力を活用し、地域人材を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育(※)を実施。様々な人とかわりながら企画から実践、振り返りを子供たち自身が行うことで、達成感を高めることができた。(※アントレプレナーシップ教育とは、より実社会に近い体験活動をおとして、子供たちに困難を乗り越えようとするチャレンジ精神や創造力等、起業家がもつような意欲と能力を養う教育)

# 地域の大人・高校生・教師・子供が共に学び合い、 関わる力を育てる学習の場

## 東京都武蔵村山市

### 活動名

武蔵村山市立第八小学校  
「ふれっチャ・クラブ」

### 関係する学校

武蔵村山市立第八小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
	平成24年4月1日	20人	683人	22学級	

### 活動の概要

- ・「ふれっチャ・クラブ」とは、「ふれあい」「チャレンジ」という言葉を合わせて創作された名称で、平成17年度に発足した。保護者・地域住民や地元高校生等が講師となって活動を支援する、体験的学習活動が発展継続されているものであるが、平成24年度からコミュニティ・スクールとなったことを機に、学校運営協議会を中心に運営されている。
- ・小学生と地域講師(教育ボランティア)、高校生(都立武蔵村山高校)という異年齢・異世代間で、教え教わり、学び学び合う活動を行う、交流学习の場となっている。
- ・地域ボランティアは、学びのコツや、伝承遊びの技などの指導を通して、ときには優しく、ときには厳しく、保護者や教職員とは異なった立場から、共に子供たちを育てていこうという立場で活躍している。
- ・同じ地域に暮らす大人と若者、子供たちが、地域の伝統・文化、知恵などを共に学び、共に体験する活動を通して培われる「思えば、思われる」という「人と人との関係づくり」を主なねらいとして活動に取り組んでいる。
- ・完全午前5時間制という教育課程の工夫によって創出した放課後の時間を活用して、1回当たり70分間の活動を毎年20回程度実施している。
- ・全てのふれっチャ・クラブに、地域ボランティアや保護者の他、都立武蔵村山高校の生徒が講師として、直接児童の指導に関わっており、年間延べ2,000人の講師が活動している。
- ・現在は、ハーモニー(吹奏楽)、バトン、フォークダンス、英語活動、パソコン、絵手紙、国際交流、囲碁・将棋、手芸、すももの全10講座が開設されている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

1. 伝統文化の伝承と国際感覚の醸成
  - ・絵手紙、国際交流、フォークダンス(世界の民舞)の3つのふれっチャ・クラブは、日本の伝統文化や他国の文化に関する活動を取り入れ、児童の視野を広げたり、豊かな心の育成を図ったりしている。
2. 地元高校生との交流
  - ・地元都立高生が総合的な学習の時間を活用して、活動を支援している。児童は優しいお兄さんやお姉さんとの関わりから礼儀やマナーなど異世代の人との関わり方を学んでいる。このことは高校生自身の学びにもつながっている。

### 【実施に当たっての工夫】

1. 3年生以上の全児童による参加
  - ・かつては自由参加だったふれっチャ・タイムをクラブ活動とリンクさせることにより、3年生以上を全員参加させ、誰もが様々な学びや関わりに触れることができるようにした。
2. 担当教員により活動を支援
  - ・かつては、地域人材による講師に活動内容の全てを任せていたが、1クラブに1教員を担当者として充てたことで、より意図的・計画的な活動が組織されるようになり、児童の豊かな学びに結びついている。
3. 本活動にPDCAサイクルを活用
  - ・P(企画&検討会) D(活動実施) C(ボランティア講師との反省&検討会) A(企画変更)を活動に取り入れている。



パソコン ふれっチャ

## 事業を実施して

- ・児童一人一人が講師や高校生に対して、活動の場以外においても、きちんとした挨拶ができるようになってきた。
- ・地域の人が、子供に教えることや、関わりをもつことに生き甲斐を感じられるようになってきた。
- ・地元都立高校生の生活態度に改善が見られ、まじめに取り組もうとする生徒が増えた。



手芸 ふれっチャ

## その他

### 【今後の展望】

- ・児童や地域・保護者の要望を吸い上げ、講座の拡充を図っていく。

# 「お母さん」が主体となって行う子供たちの教育支援活動

## 神奈川県横浜市

活動名

すくすく広場

関係する学校

スカイハイツ幼稚園

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	ボランティア登録数 25人	開始年度 18年度	補助の有無 無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

在園・未就園を問わず3歳未満児を対象に、ボランティアのお母さん方が主体となって、子供たちの保育にあたっている事業である。さらに、その子供たちの保護者の育児の不安や悩みを解消するために、子育て相談も行っている。ボランティアのお母さん方には、園長が年間15時間の講習（「子育て講座」）を、園長の著書（保育原理）を使用して、さらに1日の園内保育実習を経て、学園独自の「お母さん保育士」の資格を与え、その上で活動を行っている。忙しいお母さん方にボランティアとして登録いただき、シフトとカリキュラムを組んで子供たちの教育・保育、子育ての支援にあたっている。コーディネーターは「お母さん保育士」方の連絡調整、相談を行い、プリント印刷やシフトの調整等も行っている。平成18年にスタートした「すくすくランド」が横浜市子ども青少年局の助成事業「はまっこ広場」として平成20年に再出発したため、会の設置に賛同した「お母さん保育士」たちで「すくすく広場」と名称を変更し事業を展開している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

この会の設立のきっかけは、スカイハイツ幼稚園のモットー「子供にとっても親にとっても楽しいところが幼稚園」が基になっている。これは「幼児期は家庭教育と密に連動しているため、子供の教育だけでなく、保護者の教育に携わるのも、幼稚園教育の大切な役割である」そして「保育者や子供と一緒に保護者も学びあいながら育てほしい。親育は結果的に子育て支援につながる」という渡邊真一園長の理念に基づくものである。「子育て講座」では、育児や幼稚園教育の基本、国の教育政策など多岐にわたって解説し、保護者の視野が広がるような情報を楽しく学び、毎回、参加者が多く集まる。また、保育者のアシスタントを務める園内保育実習の機会があることも人気になっている。なお、講座終了後、幼稚園限定の「お母さん保育士」の認定証を授与している。

### 【実施に当たっての工夫】

今年で10年になる「子育て講座」は、在園児と卒園児の母親を対象に開講しており、講座を受講した母親が「お母さん保育士」として活躍している。そしてお母さん保育士として活躍の場を得て大変喜んでいるお母さんも多く、よく相談いただきながら参加ローテーションの調整を行っている。また、「お母さん保育士」同士のミーティングを持ち、会の運営の見直し、保育内容の改善、子育て支援のあり方、利用者アンケートの実施など、常に向上していけるよう心がけている。年々、参加希望の保護者も増えているが、規模の拡大に限度があるため、参加方法などについてもよく相談しながら進めている。日々の生活では、季節の行事も意識しながらイベントの企画（クッキング、スタンプ大会、小麦粉ねんど、七夕、クリスマス、節分など）も行ない、親子が楽しく参加できるような配慮をしている。

## 事業を実施して

幼稚園における保育とは内容が異なる部分も当然あるが、お母さんならではのきめ細かさや経験と知恵を最大限に生かした保育の提供を行なうことができるようになった。これにより、地域の子育て中の保護者の方からは好評をいただき、利用希望者が、年々増えている。今後更に本活動が地域の子育ての支援に役立っていくことを願っている。そして、子供だけでなく親のサポートをするのも園の役割であるとの理念に基づき、園から認定されたお母さん保育士は、未就園児の親と園を結ぶ架け橋の役割も担っている。

## その他

毎年好評をいただいているので、今後も地域のために継続していきたい。平成25年度の利用人数は、1,346人。



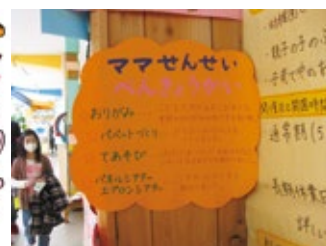
すくすくひろば紹介



イベントカレンダー



「お母さん保育士の認定証」



ママせんせいばんぎょうかい

# 子供たちが地域で学び育つための“つなぐ力” しのはらスーパーサポーター

## 神奈川県横浜市

### 活動名

しのはら学校支援地域本部

### 関係する学校

篠原中学校・篠原小学校・篠原西小学校  
港北小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	10人	610人	21年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

「しのはら学校支援地域本部」は、学校の教育活動を支援するために、平成21年度に篠原中学校に組織された。学校支援ボランティアなどへの積極的参加をコーディネートするもので、地域住民が学校を支援するこれまでの取組みを、さらに発展させて組織的なものとし、学校の求めるものと地域の力をマッチングしている。平成24年度には、篠原中学校区（港北小学校、篠原小学校、篠原西小学校）で子供を育てると同じ目的のもと、組織的かつ効果的な学校支援の充実、教育の充実を図ることができるよう、活動を続けている。

- 1 図書ボランティア交流事業：篠原中学校区の図書ボランティアが集まり、情報共有を行う。
- 2 キャリア教育：中学2年生で行う、職場体験の事前・事後学習のサポートや、中学1年生で行う職業講話「職業人に学ぶ会」を開催。
- 3 学校と地域をつなぐ地域連携行事への参加の呼びかけ(1)リアル熟議：地域・企業等関連団体及び小学生、中学生の参加により、地域の課題について意見を出し合った。(2)すこやか祭り：すこやかサークル（幼・保・小・中・高・養護・自治会・町内会連携事業）主催によるお祭りへの参加・呼びかけ、また連絡調整の実施。(3)音楽交流会：近隣の高等学校（岸根高校）吹奏楽部、篠原中学校吹奏楽部を中心に、さまざまなゲストとともに、音楽を通じて地域交流を図った。
- 4 被災地支援活動(1)「しのはら仙台プロジェクト」の実施(2)心のきずな 61キャンペーン（募金活動）(3)仙台被災地交流ひまわり運動

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

■「しのはら仙台プロジェクト」H24.8/7～9の3日間、篠原中学校の生徒12人、教職員6人、プロジェクトメンバーが東日本大震災の被災地宮城県を訪れ、現地の中学生と意見交換をしたり、学習支援団体や教育委員会を訪問する取組。現地に赴いた生徒の報告発表の場として、地域防災訓練、近隣小学校PTA主催行事、近隣校文化祭等を設け、地域の防災意識の向上に寄与した。

■「ひまわり運動」しのはら仙台プロジェクトで持ち帰ったひまわりの種を、ボランティアの協力のもと育て、各小学校、家庭及び地域の関連団体等、中学校区のみならず周辺地域にも配布している。この「ひまわり運動」は篠原中学校生徒会とも協同しており、防災意識を高めることや被災地域の復興への願いと協力を継続していくことにつながっている。

■キャリア教育 横浜市に本拠地を置き、ホームグラウンドを日産スタジアムとしている横浜マリノスの協力を得て、こうほくサックスマッチの際の運営に生徒が携われるようにしている。部活動単位で、ごみの分別、イベントを盛り上げるためのダンスの披露などを行い、生徒が地域に貢献できる場を提供し、支援本部のメンバーはその活動を見守っている。

### 【実施に当たっての工夫】

近隣小中学校児童・生徒をはじめ、保護者や、近隣にお住いの様々な職種の方、また、港北区内に拠点を置く企業、団体、その他高校、有志団体などにご協力いただいている。それぞれの特性を生かし、学校支援活動を行っていただけるようなコーディネートをすることで、組織的かつ効果的な学校支援の充実、教育の充実が図られている。また、平成25年度は、学校支援地域本部のキャラクター「しのサポちゃん」を採用するなど地域・学校にとって親しみのある活動にしている。

学校・家庭・地域の連携と幅広い関係者の理解と協力が、子供たちが地域で学び育つための「つなぐ力」となり、将来的に子供たちが地域を支える一人となることを視野に入れて活動している。毎年リーフレットを作成したりHPに活動状況を掲載したりすることで活動内容の情報発信を行い、様々な行事への参加を呼びかけている。それぞれの学校のニーズに応じて教職員の負担にならないように地域本部が連絡調整を行っている。

## ● 事業を実施して

「しのはら仙台プロジェクト」に参加した生徒たちが、実際に被災地の状況を自分の目で見てきたことで、防災意識や地域とのつながりをより意識するようになった。生徒自ら地域とつながるために何をしたらよいかと考えるようになり、「あいさつ運動」の提案などにつながっている。こういった生徒たちの思いを学校支援地域本部がサポートするかたちで、募金活動や「ひまわり運動」につながり、発展していている。

## ● その他

東日本大震災で犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校児童の遺族が育てている「ひまわりのおか」より3年前にいただいた「ひまわりの種」は様々なところで力強く咲いています。本年度は次のような場所でたくさんのおかひまわりが咲いています。○港北小学校○篠原小学校○篠原西小学校○菊名小学校○大豆戸小学校○城郷小学校○県立岸根高等学校○マーマしのほら保育園○篠原幼稚園○トレッサヨコハマ(地域施設)。今年は新横浜駅前前で中学生ボランティアにより一般のかたにもひまわりの苗をさしあげました。この運動はこれからも広がっていくと思います。



心のきずな 61キャンペーン(募金活動)



仙台被災地交流ひまわり運動

# みやがやっ子と地域を笑顔でつなぐ架け橋に。 11のボランティアが結束!

## 神奈川県横浜市

### 活動名

みやがや応援隊

### 関係する学校

宮谷小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	146人	21年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成21年度に、既に活動していた「見守り隊」や「読み聞かせの会ぐりぐら」などをベースとして、学校・PTAが主体となり『学校応援隊』の9のボランティアを立ち上げた。ボランティアの方々が校内で活動することは防犯の面でも効果的であった。

平成25年度より名称を『みやがや応援隊』とし、さらに学校教育を充実させるために新しいボランティアを立ち上げ、現在は11のボランティアが活動している。

当初は教職員が窓口となってボランティアをコーディネートしていたが、その役目を担える学校・地域コーディネーターを進んで引き受けてくれる保護者が次第に増えてきた。そのおかげで、現在では学校・地域コーディネーターと学校が協力しながら募集・とりまとめ・ボランティアとの連携などを行い、積極的に活動を推進している。保護者・地域の方々は、もともと学校の教育活動に理解がある方々であったが、「みやがや応援隊」ができて学校に来て、子供たちと直接かかわる機会が増えることでさらに学校に協力的になった。

各ボランティアは、学校・地域コーディネーターや担当職員・学級担任と連携をとりながら子供にかかわり、学習効果をあげるとともに、楽しく充実した学校環境の整備に力を入れている。特に、子供たちが保護者・地域の方々と挨拶を交わしたり、様々なことを教わったりして学校生活が充実した豊かなものとなっていることの効果が大きい。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

■**学習支援に関する活動** 入学時初期支援や給食補助・低学年算数の「学習補助」、AETのサポートを行う「YICA」、調理や実験、日本文化の伝承(生け花・日本舞踊・着物の着付け)などにかかわる「クラブ」、土曜にパソコン操作や算数学習を行う「土曜わいわいタイム」、朝の読書活動での全32学級の「読み聞かせ」

■**学校環境に関する活動** 学校教育目標をサポートする掲示物作成や環境整備を行う「学校環境」、花壇で季節の花や緑のカーテンを育てる「フラワー」、図書の整理・修繕・掲示などを学校司書と連携して行う「図書室環境」

■**安全に関する活動** 「登下校見守り隊」の交差点での指導の他、犬の散歩をしながらの「わんわんパトロール」、自宅前での声かけなど、地域を挙げて子供たちを見守っている。また校外行事などの際に子供の安全を守る「学校行事」

■**その他** 土日休日に飼育動物の世話をする「いきもの」それぞれのボランティアが積極的な活動を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

各ボランティアに学校・地域コーディネーターの担当を付け、ボランティアごとに定期的に会合を設け、問題解決を速やかに行い、気持ちよくボランティア活動ができるように工夫している。また、年度末には「ボランティア感謝の会」を設けて、児童からメッセージを届けたり、他のボランティアと交流したり、ふりかえりを行ったりすることでボランティア同士のネットワークが広がっている。

「土曜わいわいタイム」では、パソコンが得意な地域の方が集まり、児童にパソコンの使い方などを教えていたが、参加する児童の実態やニーズに合わせて、算数学習の補習をしたり図工教室を開催したりして活動内容を工夫している。



登下校・見守り隊-交差点での指導、見守り



低学年算数の学習補助・スマイル先生



和クラブ・浴衣着つけ

## 事業を実施して

①保護者・地域・教職員が連携することで、子供たちを取り巻く人の輪が広がり、安全面での絆が強まった。②ボランティアの方が楽しく活動し生きがいになっている。③教職員の負担軽減につながっている。(ボランティア募集、とりまとめを学校・地域コーディネーターが担当) ④教職員が子供たちを温かく見守る余裕が増した。⑤子供たちが教職員以外の大勢の方々とかかわることで、規範意識や自己有用感が高まり、学校生活がさらに充実したものになっている。①～⑤が好循環している。

## その他

学校を力強く支援している、小中合同学校懇話会・PTA・学校後援会(20自治会町内会長)・同窓会(創立106年)とも連携をして円滑に活動している。PTA主催の「ふれあい☆みやがやまつり」などにも参加して協力している。

# 学校も地域も有益感がもてる、学校と地域との連携活動

## 新潟県新潟市

### 活動名

両川中学校学校支援地域本部

### 関係する学校

新潟市立両川中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 135人	開始年度 21年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

◆当地域は、明治期に住民が自主的に「会議雞燕館」という学校を設立した歴史をもつ教育熱心な地である。今も住民は学校教育に関心が高く、協力的である。しかし、次第に少子高齢化が顕著となり、地域全体が活気の乏しい状況に陥っている。そこで、12年前、中学生で地域を活気づけたいと考え、学校で祭を開いて地域の方を招き、楽しんでいただくというイベントを実施した。その中の活動に、現在も継続されている地域住民の力を借りて作り上げる創作ミュージカルや「なしっ子パイ」というお菓子作りがあった。そこから端を発し、あいさつロードやジュニアレスキュー隊等々の学校と地域が連携した様々な活動が徐々に増え、生徒たちに「生きる力」を育ててきている。

平成21年度に地域教育コーディネーターが配置されてからは、従来の活動が一層地域に周知され、より多くの地域からの支援・協力を得ることができるようになった。また、それと相まって、学校の取組が地域を元気づけ活性化させるのに役立っている。校歌に「女浪男浪も睦まじく」と歌われているように、老若男女、地域の人々が学校を一つのよりどころとして、文化と教育の創造に取り組んでいる。

◆新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」を活用し、学校も地域も有益感のもてる地域連携活動に取り組む中で、地域からの学校支援が質・量ともに充実してきた。そして、地域も学校も共に教育力を伸長させながら、将来地域社会の担い手となる子供たちを育む各種活動を推進している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- (1)「全校生徒による自作自演ミュージカル上演」・・・地域の歴史や現状と課題、または未来像などを、地域の方々から聞いたり体験学習をさせていただいたりして、地域学習を行い発表会を開く。その発表内容をもとに、全校生徒が役割分担して、全校生徒参加の自作自演ミュージカルを12年間上演し続けている。
- (2)「なしっ子パイ作り」・・・地域の農家と菓子舗工場の協力により、生徒発案の「なしっ子パイ」というお菓子を12年間作り続け、毎年文化祭で販売して好評を博している。
- (3)「ジュニアレスキュー隊」・・・地域消防団の協力を得て、AEDの使い方や応急処置法・緊急時のけが人の搬送法などを学び、小中合同避難訓練や地域防災訓練で実演しながら自身の技能を高めるとともに地域に広める役割を担っている。
- (4)「あいさつロード」・・・隣接する小学校と協力し、春先からプランターに花を育て、学校前の道路に花を並べ、小・中学生と地区育成協の皆さん合同であいさつ運動を行っている。
- (5)「地域カレンダー」・・・地域行事と幼保・小・中学校の行事を載せたカレンダーを作成し、地域住民が幼保・学校に協力し易いように、また、子供たちが地域行事に参加し易いようにしている。

### 【実施に当たっての工夫】

- (1)過年度と重ならないように注意して、毎年地域学習のテーマを決め、ミュージカルのシナリオも考えるようにしている。
- (2)梨農家や菓子舗工場以外にも、梨ジャムづくりやパイ焼きの時に保護者・地域ボランティアを募り、地域と共に作る姿勢を貫いている。
- (3)生徒のレスキュー隊員としての自覚を促すために、当校のマスコットの名称を冠した「なしっ子レスキュー隊」と銘打ち、腕章を作って活動時に着用させている。
- (4)地区青少年育成協議会と共催という形を取り、地域の意識高揚に努めている。
- (5)学区内全戸配付。地域住民から学校行事や子供たちの活動に関心をもってもらったのに役立っている。また、生徒たちには事あるごとに地域行事への参加を呼びかけている。



創作ミュージカルの一場面



なしっ子パイ作り



ジュニアレスキュー隊育成講習会

## ● 事業を実施して

創作ミュージカルやなしっ子パイ作りは12年継続しており、当校の特徴的な取組として地域に周知され、大変親しまれている。その二つのお披露目の場であるふたかわ祭(文化祭)には、学区住民の約10分の1の方が来校される。

上記活動をはじめとする地域と連携した各種活動において、中学生は家人や地域の方からプラスの評価をいただき自己肯定感を高めている。また、中学生の元気と活力が、少子高齢化にある当地域を活気づけてもいる。地域と学校がともに有益感をもてるような関係で学校教育が展開され、地域と共に歩む学校づくりがより深化してきている。

## ● その他

地域教育コーディネーターが地域と学校との調整を丁寧に行うことで、スムーズに各種活動が展開できている。地域と学校双方に有益感があるため、支援ボランティアの方は活動に繰り返し協力して下さる。

今後も地域と学校の連携事業を大切にしながら、生徒たちの生きる力と地域社会の担い手としての力量の育成及び地域の活性化に努めていきたい。



# 地域を愛し、社会性を身に付け自立した子供を西内野から育てよう!

## 新潟県新潟市

### 活動名

西内野小学校学校支援地域本部

### 関係する学校

新潟市立西内野小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	103人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	5人	44人	90日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	19年度	有
			児童生徒数	学級数

活動の概要

本事業に取り組んで7年目。「地域を愛し、社会性を身に付け自立した子供を西内野から育てよう」をスローガンに掲げ、活動の充実を図ってきた。それを支えるのは、今では年間のべ2700人を超えるボランティアである。特色として次の3点が挙げられる。

### 1 縦方向へのつながり

中学校区内における幼・小・中の連携事業は、以前より行ってきた。その枠を高校、大学に広げてきたことに特色がある。高校生による「お手玉教室」、大学生による「お茶体験広場」や「楽器指導」等。幅広い年齢層とのかかわりが、子供の社会性の伸長につながっていることへの確かな手応えを感じている。

### 2 学びの広がりや深まり

各学年の活動の中に、ボランティアが積極的に参加。専門的な立場や自身の経験をもとに、子供の活動を支援している。このことは、本物に触れる機会を提供することであり、子供の学びを深めることにつながっている。また、学習の場を教室から地域に広げ、地域のよさを実感することにもつながっている。

### 3 地域の活性化

ボランティアに加わることで、地域の方同士のつながりが生まれ、子供とかわることに生きがいを感じたりしている状況が見られる。中には、「子供から元気もらっています。」と感想を寄せている方もいる。結果的には、地域の活性化にもつながっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### 1 西っ子ふれあい広場

- ・PTA、地域、学校で協同開催。ボランティア数は1日で約400人。
- ・大人が20の広場（工作、理科実験、スポーツ、昔遊び等）を開設し、子供たちが、自分の選んだ活動に参加することを通して人にかかわることの楽しさや大切さ（社会性）を身に付けることをねらう。

#### 2 もちつき大会

- ・地域が主体となり学校施設を利用して開催。ボランティア数は約200人。
- ・地域で協力して準備から当日の運営を行う中で、子供たちに伝統文化を継承することや自主的にボランティアに参加することの大切さを身に付けることをねらう。

### 【実施に当たっての工夫】

- 1 「できることをできる人ができるときに」を基本的なスタンスとし、無理なくたくさんの方がかわれるよう地域全体に呼び掛けるとともに、西内野地区コミュニティ協議会、自治会や民生委員等の諸団体との連携を図っている。「ちょっと学校に手伝いに行こうよ。」が、地域での合い言葉である。
- 2 子供たちにとって、教科書では学べない大事なことを学べる良い機会となるように活動内容を工夫している。その際、全てできあがった状態を用意するのではなく、子供たちにできることを考えせたり手伝わせたりすることを大切にしている。
- 3 学習支援ボランティアへの協力依頼や活動の様子を、「西っ子支援隊だより」や学校のウェブサイトでも積極的に発信している。たよりは、できるだけ多くの人に見てもらえるように掲載記事の内容やレイアウトを工夫している。



西っ子ふれあい広場(大学生開催お茶体験広場)



もちつき大会(子供のもちつき体験)

## 事業を実施して

学校支援ボランティアの年間のべ人数は2700人を超える。地域の方も学校に来て子供たちにかかわることで、喜びを見出している方がたいへん増えた。

これまでに、西っ子ふれあい広場は11回、もちつき大会は6回開催している。学校支援ボランティアとしてかかわっている方を中心に、活動内容が年々充実してきている。子供たちは、異年齢交流の中で地域の方の優しさやすばらしさに触れたり、日々の学校生活の中で学ぶことのできないことを経験したりしている。このことは、学校教育目標の「心豊かに学び合う」を具現することにつながっている。

## その他

地域教育コーディネーターは、5名の運営主任とともに放課後の「子供教室の運営」にも深くかかわっている。ここでも、保護者や地域の方からの協力を得ている。地域の子供は、地域で育てるという意識が高まってきている。この意識の高まりが、本事業の更なる充実につながっていくと受け止めている。

# 学校・家庭・地域の協働で 心豊かなたくましい子供を育てる。

## 新潟県柏崎市

### 活動名

未来の柏崎を担う子供たちを育てる会

### 関係する学校

第一中学校・柏崎小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	3人	163人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

### 1 ねらい

多くの人との関わりやつながりを通して、子供たちの豊かな学びを創造し、たくましく生き抜く力を育成すべく、地域の教育力を学校に取り入れ、「地域とともに歩む、特色ある学校づくり」に取り組む。

### 2 概要・経緯

平成20年に文部科学省の事業開始の情報を受け、柏崎市としても、当時の第一中学校長や教務主任、学校教育課を中心に事業に取り組む準備を進めた。

平成20年度から文部科学省の委託(補助)を受け、小・中学校と地域が活動の理念を共有し、しっかりと地域に根を下ろした活動を推進してきた。今後も学校・家庭・地域が互いに手を取り合い、子供たちを育てる「協働」を実践する。

### 3 主な活動

- 学習ボランティア ・地域の先生の授業 ・クラブ活動指導
- 環境整備ボランティア ・中学校図書館整備 ・小中校地整備 ・中学花いっぱい活動
- 体験活動ボランティア ・小学校総合的な学習の時間
- 生活習慣の確立 ・小中で生活計画表の活用
- 地域に働きかける活動 ・地域行事後の清掃 ・小学校お弁当配付活動 ・小中高あいさつ運動
- 学校も地域も元気にまる活動 ・コミュニティ祭り参加 ・いもづる大作戦 ・収穫祭の実施

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 中学校では地域の人材を生かし、小学2年生も参加して芋づくりを行っている。秋には地域の方々、小学2年生を招いて収穫祭を実施している。また、総合学習の中で地域の先生(大工さんや裁縫、生け花、ニュースポーツなど)の力を利用して、子供たちの興味や関心を引き出している。
- 年2回の総会の前に小中で公開授業を行い、会の活動を地域や保護者へ理解していただく機会としている。また、総会には100名以上のいろいろな立場で子供と関わりをもつ方々がグループに分かれて協議することで、多様な意見の交換が行われている。
- 小学校では毎週のクラブ活動に地域の先生による活動を実施している。また、読み聞かせを定期的実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 地域向けの便り「MANABIYA」を毎月発行し、町内回覧することにより、会の活動を地域へ理解してもらっている。
- 小中学校の地域連携担当が連絡を密にし、地域と小中学校が連携した活動を実施している。生活・学習の両面から小中の連携と学校と地域の連携を組織している。
- 地域から学校への活動ばかりではなく、学校から地域へ発信・発展させる活動を取り入れ、地域の活性化につながれば考える。また、小中の地域連携担当職員がコミュニティセンターの役員をすることにより、コミュニティセンターの活動と連携した児童生徒の活躍の場を設定している。

## ● 事業を実施して

- 小・中学生の地域への関わりが増えることにより、自己肯定感や自己有用感を高められる。また、地域の方々も「地域の子は地域で育てる」という意識が高まってきている。
- 子供たちと地域の人たちがあいさつを交わす場面が多く見られるようになった。子供たちが地域の行事に積極的に参加することが増えた。

## ● その他

今後もさらに事業を充実させ、市教育委員会が推進する「ともに歩む「地域の学校」づくり」をすすめていきたい。



「えんま市」終了後の清掃の様子



切り絵教室(地域の先生)

# 3つの「協働」により、「地域を愛し、地域に愛される子」を育てます。

## 新潟県見附市

### 活動名

名木野小学校学校運営協議会

### 関係する学校

名木野小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成25年4月1日	13人	348人	14学級

活動の概要

1. 学校評価への学校運営協議会の参画  
学校評価のサイクルの中に学校運営協議会委員が主体的にかかわっている。  
アンケート調査結果を分析し、あいさつ、お手伝いを重点として、取り組むことにした。目標を共有した上で、その達成に向けた学校・地域・家庭それぞれの取組を整理し、行動計画を立案した。評価のためのアンケートの設問も学校運営協議会で熟議することで、求める姿を具体的にイメージできた。
2. 学校と地域との協働の創造  
次の3つの協働を、学校運営協議会での熟議を通して生み出し、発展させている。  
  - <協働A> 目標を共有し、学校・地域・家庭が連携しながらそれぞれの立場で取り組む協働  
行動計画に基づき、「進んであいさつできる子」「進んでお手伝いする子」を目指した取組
  - <協働B> 学校・地域・家庭と一緒に企画し取り組む協働  
防災スクール、親子で仕事を語る会など
  - <協働C> 学校と連絡を取り合いながら、自分たちで活動を考え工夫しながら取り組む協働  
草薙応援団(本大好き隊、名木野っ子見守り隊、グリーン隊、ギャラリー隊、花\*華クラブ、クラブサポーター)
3. 経緯  
平成19年に「草薙応援団」が発足。また、平成24年6月には、学区の地域コミュニティ、「北谷北部くさなぎコミュニティ」が発足した。学校と地域コミュニティ、草薙応援団、そしてPTAが子供を核として連携し、充実した活動ができることを願いながら、平成25年度のコミュニティ・スクールのスタートを迎えた。学校運営協議会での熟議が、具体的なアクションにつながり、有効にはたらき始めている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- あいさつ・お手伝いへの取組(協働A)  
地域コミュニティでは、あいさつロード、あいさつ看板の設置・活用を推進している。
- 地域の参画を取り入れ、ともに進める防災教育(協働B)  
H16新潟・福島豪雨の被害を踏まえ、水害を核とした防災教育に力を入れ、活動への地域の参画・協力を積極的に取り入れて進めている。例えば、5年生対象の防災スクールでは、地域住民や関係機関の方に講師を依頼するとともに、炊き出しボランティアなどの協力を得た。
- 草薙応援団の主体的活動(協働C)  
6つの応援団が、活動内容を工夫しながら主体的に活動している。例えば、本大好き隊は本の読み聞かせや図書環境整備を行い、読書量の増加に貢献している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会の組織と委員構成  
地域コミュニティの会長、PTA会長、教育コーディネーターなど、地域住民・保護者の代表者を委員に組み入れ、各組織との連携を強め、機能的に動けるようにした。
- 実行委員会の組織と熟議  
防災スクールでは、地域コミュニティ会長、PTA会長、依頼した地域講師、学校関係者で構成する実行委員会を組織した。実施方法・必要物品・日程などについて熟議するとともに、必要なボランティアの人員確保などを行った。同様に他の活動でも、関係する学校運営協議会委員を含んで構成する実行委員会での熟議を大切にしている。



あいさつロードで声をかける見守り隊



防災スクールでの炊き出しボランティア

## 事業を実施して

- 「あいさつ」「お手伝い」への取組の成果があがってきている。  
取組は始まったばかりだが、アンケート結果で、家庭でのあいさつが約2%、お手伝いで約7%の伸びが見られた。子供たちは全員地域コミュニティが「あいさつロード」として看板を設置しているサイクリングロードを通過して登下校している。そこでの子供たちのあいさつが、地域住民を明るく元気にすることにもつながっている。
- 地域の参画・協力者からの肯定的な声が寄せられている。  
「来年も協力したい。」「子供たちに喜んでもらってよかった。」などの声が寄せられ、参画・協力者にとっても達成感のある活動ができている。学校への協力者が徐々に増えるとともに、地域の活動に参加・貢献しようとする子供も増え、地域活性化にもつながっている。

## その他

- 「地域を愛し地域に愛される子」は、学校運営協議会で熟議、決定したスローガン。学校と地域が子供を軸にして相互に支え合い、どちらも元気になる関係づくりを目指している。

# 地域とふれあい、地域に発信! 燕南小の子供たちを地域とともに育む。

## 新潟県燕市

### 活動名

燕南小学校地域に根ざす学校応援団

### 関係する学校

燕市立燕南小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	143人	21年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成21年度に、「学校地域支援本部事業」として始まり、平成25年度から「地域に根ざす学校応援団事業」に名称が変わった。発足当初は読書活動の充実が中心であったが、次第に学校教育活動全般への支援活動に広がっていった。現在は、本の読み語り、図書館への「燕南小子どもの100冊」の整備、花いっぱい活動、各学年の校外学習への引率補助など、多様な教育活動に多くの保護者や地域ボランティアが参加している。全校登山後のボランティアアンケート、体験活動の後のゲストティーチャーへの意見を聞き取り、次回の改善策を検討している。地域コーディネーターの役割を明確にして、学校と地域ボランティアとの連絡調整、活動内容の検討をシステム化している。学校側の窓口は教頭が行い、地域コーディネーターと各学年、職員間の連絡、調整を図っている。広報活動として、ボランティアだよりを各学期に1回ずつ年間3回発行し、保護者や地域の方々、ボランティアに向けた情報発信を行っている。また、自治会や公民館活動とも連携して、地域で子供たちが活動できる環境を広げている。挨拶運動や夏祭り行事への参加、地域交流会、防犯訓練への協力など、学校では体験できない活動にも積極的に参加している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

地域コーディネーターが、ボランティア募集の窓口として一本化され、各学年との連絡体制や講師やゲストティーチャーとの交渉がスムーズに行えるようにシステム化している。また、地域コーディネーターが、実践記録を取り、今後の実践に役立てている。6月と2月に地域教育協議会・サポート委員会合同会を実施している。例えば、ボランティアが集まりにくい場合の人材確保の方法や互いに気持ちよく活動するための配慮等について意見交換するなど、より地域や保護者の教育力を活用できる方策を協議している。

ボランティア活動は、普段の授業や学年学校行事、読み語りや図書館整備、学校環境整備など多岐にわたっている。活動実施に当たっては、担当とボランティアとの打合せ時間を確保し、ボランティア活動の目的、活動内容等の周知を図っている。

### 【実施に当たっての工夫】

地域の人材の活用をより図っていくために、地域への情報発信と活動の成果の公表を行う心がけている。また、読み語りボランティアや図書館ボランティアの人数を確保するために、ボランティアのローテーションやサポート委員を通しての呼びかけなどの工夫を心がけている。

ボランティア活動を特定の方に集中させないように、ボランティア同士のネットワークを作り、連絡、協力体制を工夫している。これにより、年々ボランティア参加人数が増えている。

## ● 事業を実施して

子供たちと地域、保護者のつながりが深まることで、地域の良さを知り、より地域を愛する心が育まれつつある。ボランティアや活動に協力してくださった方々への感謝の会などを子供たちの手で行う場面が増えてきた。

地域、保護者の方々からは、学校と関わることで、「地域のかけがえのない学校」という意識が高まりつつあることと、学校の姿がよく見え、学校をよりよく理解できるという声が聞かれるようになった。そして、学校に関わることがライフワークの一つとしてとらえられるようになった方もいる。

## ● その他

活動への参加をお願いするだけでなく、参加後の評価を充実させていくことで、学校にとっても、地域・保護者のボランティアにとっても、よりよい活動が生まれ出されている。

引き続き、ボランティア活動の充実に向けて、ボランティアの意思を大切にしながら、燕南小の子供たちのよりよい成長に向け、地域と学校が一体となって取り組んでいきたい。



燕南小子ども100冊の整備



花いっぱい活動の補助

# 自分たちの郷土に親しみ、健全な心身を育む 鵜坂子どもかがやき教室

富山県富山市

活動名

鵜坂子どもかがやき教室

関係する学校

富山市立鵜坂小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	47人	14日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
小学校体育館、グラウンド、家庭科室、その他		17年度	無	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成14年度からPTAが主体となり、「土曜日学校開放」を実施してきたが、平成16年度から、PTAや地域が一体となり、「鵜坂かがやき教室」を開始することになった。モデル地区として、平成16年度に「婦中町子どもかがやき教室」を鵜坂校区で実施するに至ったのは、「①近年、人口流入が多く、共働きの家庭も多いため、週末や夏季休業中の昼間に子供だけで過ごす家庭が多い。②PTAや地域の社会教育団体の活動が活発で、従来の土曜日学校開放をベースにして、かがやき教室が開催しやすい校区である。」ことが理由であった。

平成17年4月1日の市町村合併により、「富山市」となり、教室の名称を「鵜坂子どもかがやき教室」に変更した。合併前の「土曜日学校開放」や「鵜坂かがやき教室」においても、ドッジボール等の運動やチョコレート作り、夏休みイベントなど、現在も継続している活動を行っていた。それに加え、現在は米作りや自転車交通安全教室、史跡巡り等、自分たちの身近にある自然や施設、文化財といった地域の特色を生かした活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

<地域>

- ・米作り：田植え、稲刈りを手作業で体験することを通し、自然や食、農業へ関心を持ってもらう。
- ・自転車交通安全教室一正しい自転車の乗り方、交通ルールを学び、安全な運転の仕方を練習する。
- ・史跡巡り：市内の寺や国指定史跡の古墳、城跡へ行き、自分たちの故郷について、自分で見聞きすることにより、理解を深める。

<小学校>

- ・夏休みイベント：体育館やグラウンドで、流しそうめん・綿菓子・カキ氷・ゲームなどのコーナーや、お化け屋敷・魚つかみどり・大声大会等、毎年異なる企画を実施し、夏の楽しい思い出を作る。
- ・運動：親子が参加し、ドッジボールやビーチバレーボールのルールを学び、体育館で競技を楽しむ。
- ・篆刻作り：各教室で、石をニードルや彫刻刀で削り、自分だけのオリジナルの篆刻を作る。
- ・チョコレート作り：家庭科室で、トッピングやデコレーションをし、思い思いのチョコレート菓子を作る。

【実施に当たっての工夫】

- ・活動日を土日に設定することで、家族や地域住民が参加しやすくしている。
- ・学校を通じて活動案内の配布をするなど、多くの子供に参加してもらえるよう、周知を図っている。
- ・米作りでは、子供たちに真の農業を体験してもらうため、地域の農家の方に指導を依頼している。稲刈りの道具は、農家が準備してくれるので、道具を持たない子供も気軽に参加できる。
- ・自転車交通安全教室では、現実に近い形で体験学習ができるよう、地域の自動車学校の敷地内で教習車が走行する中、子供たちは自転車に乗り、自動車学校や警察の方に指導してもらっている。
- ・稲刈り、史跡巡り活動の実施に当たっては、両活動が同日の午前中で終わるよう、参加を促しやすい日程としている。



米作りに挑戦！田植え活動の様子



自転車交通安全教室の様子

事業を実施して

- ・米作り活動を通じ、農作業の厳しさを、子供たちは身をもって感じたものと思う。また、地域の方とのふれあいや、和気あいあいとした雰囲気の中で作業ができたのは、非常に有意義であった。
- ・自転車交通安全教室では、今まで気付かなかった危険を知り、自転車の乗り方を真剣に考えていた。どの学年の児童も交通事故に遭わないよう、交通ルールやマナーを守って自転車に乗るよう指導を続けていきたい。
- ・史跡巡りでは、初めて見聞きすることばかりで、子供も大人も大変勉強になった。

これらの事業を通して面識ができ、地域住民からの登下校時の声掛けや子供たちから積極的に挨拶をする機会が増えた。地域住民みんなで地域の子供たちを守り育てるという意識が芽生え、子供たちの健全育成や安全を守ることに繋がっている。それに対し、子供たちは地域の大人に守られているという安心感が持てるようになった。鵜坂子どもかがやき教室の存在が、地域と子供のつながりだけでなく、住民同士の親睦を深め、結束力を強くし、地域全体のつながりに貢献している。

その他

- ・鵜坂ふるさとづくり推進協議会報「うさか」や富山市立鵜坂小学校、富山市立鵜坂公民館ウェブサイトにて、子供たちや教室の活動の様子を掲載している。
- ・小学校、公民館による活動場所の提供や物品の貸し出し、教職員、保護者による活動への積極的な参加、交通安全協会、体育協会による活動指導など、地域関係諸団体が連携・協力し、活動運営を支えている。
- ・収穫したお米は、公民館の文化祭で、おにぎりやカレーライスとして地域の皆さんに提供されている。
- ・現在、活動内容はPTAのみで考えて実施しているため、今後は子供たちのニーズや学校側の意見を聞くことにより、更なる活動内容の充実、参加児童数の増加が見込めるのではないかと。

# 安心・安全な子供たちの居場所づくり ～スポーツをとおして皆友だちになろう～

## 富山県小矢部市

### 活動名

放課後出前教室

### 関係する学校

石動小学校・東部小学校・大谷小学校  
津沢小学校・蟹谷小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	38人	45日	有	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
体育館・グラウンド			19年度	有	
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ・放課後出前教室は、平日の放課後に市内5つの小学校の体育館やグラウンドで開催している。
- ・スポーツクラブとしての利点を生かし、各種運動遊びやニュースポーツ等も体験できる多様な活動で教室を開催している。
- ・もともと市内の学校や病院などの各施設に出向いて、各種レクリエーションを行う活動をしていた。平成19年度からは、放課後子供教室推進事業の「地域おやべっ子教室」として、子供たちの安全・安心を確保するため、活動拠点をそれぞれの学校とし、NPO法人おやべスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）がクラブ指導員や地域の大学生と共に活動を展開している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・ニュースポーツのキンボールや市内で盛んなホッケー競技を生かしたユニホックを取り入れて活動をしている。
- ・放課後に友だちといういろいろなあそび・運動やスポーツを楽しんでいる。
- ・NPO法人のスポーツクラブ指導者や地域の大学生スタッフが指導に当たっている。
- ・活動を通して学年を超えた子供と地域の大人、若い指導者とのよい交流関係ができています。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・あそびの要素を取り入れて子供たちが楽しめるように取り組んでいる。
- ・瞬発力やバランス、逆さ感覚など子供のさまざまな運動感覚が高まるようにしている。
- ・ニュースポーツから昔あそびと幅広く取り入れて教室を展開している。
- ・1年生から6年生まで幅広い学年の参加があり、協力して行えるようにしている。
- ・あいさつや準備・片付け等基本的な生活習慣も大切にしている。
- ・各学校の特徴（得意・不得意）を生かした指導を行っている。
- ・指導者として、地域のスポーツ指導員や教員を目指している大学生が参加している。
- ・市教育委員会、学校、NPO法人おやべスポーツクラブと連携して子供たちの情報を共有して教室を開催している。

## ● 事業を実施して

- ・各小学校の初回で、あいさつや安全に活動するためのルールを決めている。最初はルールを守れない子供が、年上の子供の関わりもあり守れるようになった。
- ・仲間での達成感を味わえる運動を積極的に取り入れている。上達すると、進んで協力しながら道具の準備や後片付けを行う姿が見られた。
- ・自由時間に、子供たちだけで大人では思いもつかないような楽しいゲームや独創的な遊びを実施しており、創造性・柔軟性が培われていると感じた。
- ・市内5つの小学校に関わっている同じ指導者が架け橋となり、他校の子供同士が交流を持つきっかけとなっている。

## ● その他

- ・指導者が毎回の活動が終わった後行っている反省会を大切にし、子供への声のかけ方や対応の仕方等を向上させ、子供たちの「運動がしたい」「体を動かしたい」という欲求を満たしていくよう、内容や展開を工夫し、よりよい学校支援活動となるよう取り組んでいきたい。
- ・今後も多感な子供たちの安心・安全な居場所づくりとして、活動そのものだけでなく、子供たちと指導者とのコミュニケーションも大切にしながら、事業を実施していきたい。



キンボール



ユニホック

# 地域の未来は皆で創る ～地域に見守られ、地域に溶け込む放課後子供教室～

## 富山県射水市

### 活動名

放課後子ども教室 放生津教室

### 関係する学校

射水市立放生津小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	15.7人	50日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	視聴覚室、パソコン教室		16年度	有
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

「放課後子ども教室 津教室」では、「まっつん(祭囃子)」、「パソコン」、「ポップ(読み聞かせ・簡単な工作)」の3つのサークルが活動を行っている。  
 放生津小学校の長い歴史の中で、力を入れて取り組んできた祭囃子と読み聞かせのほか、学校側が提案したパソコンを加え、「放課後子ども教室 津教室」がスタートした。  
 平成25年度は、「パソコンサークル」は低学年、「まっつんサークル」は高学年を対象とし、「ポップサークル」は全学年を対象として実施した。  
 小学校と放課後児童クラブのスケジュール表には放課後子供教室各サークルの日程が組み込まれており、小学校・放課後児童クラブの万全な協力体制のもと、子供たちは多彩で特色ある活動に取り組んでいる。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 「郷土を愛し、伝統文化を受け継ぐことのできる力」の育成
  - ・「まっつんサークル」では、放生津地区に伝わる伝統的な曳山囃子を地域の先生から教わっている。曳山囃子の正式な楽譜はなく、教育活動推進員が手本となって吹き方や指使いを教えている。地域の大人から子供たちへ、上級生から下級生へと祭囃子の伝統は受け継がれている。
- 「パソコンに慣れ親しみ、IT化社会で対応することのできる力」の育成
  - ・「パソコンサークル」では、「ローマ字入力ができるようにしましょう!」と目標を掲げ、基本操作から丁寧に教えている。その他、学年毎にも目標を作り、名刺、しおり、時間割、うちわなどの作成に取り組んでいる。
- 「感受性豊かで思いやりの心を育むことのできる力」の育成
  - ・「ポップサークル」では、季節の絵本の読み聞かせのほか、かざぐるまや起き上がりこぼし、かさ袋口ケットなどの簡単な工作にも取り組んでいる。全学年を対象としているので、高学年が低学年の面倒を見たりと異学年交流の場ともなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校・放課後児童クラブとの強力な連携
  - ・学校教職員が放課後子供教室の活動に参加したり、放課後児童クラブの子供たちが指導員の引率のもと、全員で放課後子供教室の活動に参加している。活動スケジュールを小学校・放課後子供教室・放課後児童クラブの3者で共有することにより、教育活動推進員以外にも多くの大人に見守られながら子供たちは安全・安心な活動を行うことができている。
  - ・4月の放課後児童クラブ入級説明会時に保護者へ放課後子供教室の資料を配布し、放課後子供教室のPRや理解に努めている。
- 学習発表会・地域のイベントへの参加
  - ・作った作品を学習発表会や地域の文化祭で展示したり、練習した曳山囃子を地域のイベントで演奏したりと教室内の活動にとどまることなく、多くの方々に活動の成果を発表する機会を設けている。

## 事業を実施して

- ・「まっつんサークル」で地域に伝わる曳山囃子を学んだ子供たちが中学生になってから地域の曳山祭りに参加し、曳山囃子を奏でる姿が見受けられ、放課後子供教室での活動が後々も継承されている。
- ・放課後児童クラブ指導員や保護者からは「放課後児童クラブでは行うことの難しい体験活動が出来て助かっている。」と好評を得ている。

## その他

- 地域色あふれるサークル名
  - ・「ポップサークル」は、「放生津のハトポップ」と呼ばれている小学校のシンボルの鳩マークに由来し、まっつんサークルの由来は、「まっつん」が地域の方言で「お祭り」を意味することから来ている。サークル名にも工夫が施され、子供たちから親しまれている。



まっつんサークル



パソコンサークル



ポップサークル

# 異学年の友達と時間を過ごし「おもいやりの心」が生まれる 放課後子供教室

## 富山県朝日町

### 活動名

あさひ野小学校放課後子ども教室

### 関係する学校

朝日町立あさひ野小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	15人	36日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		ミーティングルーム、図書室、図工室、体育館等		19年度	有
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

- ・町内に児童館があるが、あさひ野小学校区からは距離的に遠く利用しにくかったため、放課後の子供の安全で健やかに育むための活動場所づくりに向けてあさひ野小学校での実施に至った。
- ・教室は「低学年(1～3年生)コース」、「高学年(4～6年生)」に分けて、年間それぞれ18回程度実施している。
- ・活動は、最初に自主学習(宿題等)を行い、その後文化教養教室やスポーツ教室等、多様な活動を行っている。(英会話・茶道・料理・工作・絵手紙・スポーツ等)
- ・最近では、町内外で活動されている太鼓会(和太鼓)の協力も得られ、新しい内容が加わっている。
- ・小学校区が広いため、保護者は子供たちの安全確保のため、毎回活動場所に迎えにきている。
- ・昨年度12月から放課後児童クラブが新設され、放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な運営が始まっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ○スポーツ教室

- ・人気のドッジボールやバドミントンなどを行っているが、中でも「ビーチボール」によく取り組んでいる。
- ・「ビーチボール」は朝日町で考案されたスポーツで、子供から高齢者まで年齢を問わず誰でも参加しやすいよう工夫されており、いつでもどこでも誰でもできるスポーツとして、今では日本全国に定着している。

#### ○まいぶんKAN体験

- ・朝日町の宮崎・境海岸は別名「ヒスイ海岸」ともよばれ、この一帯では縄文～古墳時代にかけてヒスイに関する遺跡や出土品が数多く発見されている。他にも国指定史跡・不動産遺跡をはじめとする遺跡が数多くある。
- ・まいぶんKANでは、当町で出土した土器・石器・勾玉などの装飾品を中心に展示されている。この施設を使用し、子供たちは、勾玉づくり体験や、縄文縄編み体験、弓矢作り、ひすいの見分け方等の活動を通して、郷土の歴史を目で学び、その手で体感しながら、郷土に対する理解と愛着心を深めている。

### 【実施に当たっての工夫】

#### ○スポーツ教室

- ・教育活動推進員はビーチボール協会員で、ルールや実技の指導はもちろんのこと、ビーチボールの歴史についても熟知された方に協力をいただいている。
- ・1年生から6年生まで参加するが、それぞれのレベルに応じた練習をしている。
- ・「ビーチボール」を通して、より郷土「朝日町」に興味を持ってもらい「郷土愛」を育む一端になることを願っている。

#### ○まいぶんKAN体験

- ・ひとりの子が同じ体験をすることがないように、講師である学芸員の方が、過去の実施内容を把握し、子供たちが楽しく朝日町・日本の歴史を学べるよう、そして、より多くの体験ができるよう尽力してくださっている。

## 事業を実施して

- ・放課後、一日の授業を終えた異学年の子供たちが、同じ場所で過ごし一緒に活動することで、お互いに学び合い、助け合っていて「絆」を感じる。
- ・ふざける子や、うまくいなくて泣いてしまう子がいても、他の子が注意してくれたり、声をかけてくれたりと児童の成長にとって良い環境であると感じる。
- ・地域の方々の温かいご指導により各教室を実施させていただいているが、これが、世代を超えた地域の方々との交流の場にもなっており、児童の社会性を養うことにもつながっている。

## その他

- ・校区が広いため、終了時間頃に家族の方が迎えにこられるが、待っている間、子供の活動を見守ったり、保護者間の会話もうまれ、ちょっとした情報交換の場にもなったりと、家族の方々にとって子育てのための貴重な時間にもなっている。



自主学習



スポーツ教室(ビーチボール)



# 地域の文化を生徒に伝え、地域ぐるみで生徒を見守り育む活動です。

## 石川県金沢市

### 活動名

紫錦台中学校支援地域本部

### 関係する学校

金沢市立紫錦台中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	ボランティア登録数 108人	開始年度 23年度	補助の有無 有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

- ・平成11年に学校と地域が一体となって子供を育てるコミュニティづくりをめざし、地域の方々が講師として学ぶ飛梅祭を創設した。それに伴い、準備のための総合的な学習「飛梅タイム」をカリキュラムに組み込んだ。その際、多くの講師との連絡・調整を行う必要が生じ、人材確保もできる方を中心として学校に支援地域本部を設置する運びとなった。
- ・地域教育協議会(年2回開催)
- ・学校支援ボランティア活動は、図書ボランティア、学校行事支援、あいさつ運動、学習支援、安全指導、授業補助を行っている。
- ・活動4年目を迎え、地域の方が中学生との交流を楽しみにされて、中学校への関心をもってくれるようになってきた。
- ・地域のお年寄りや事業所の方々との触れ合いの中で、生徒は地域に対する愛着や親近感を強くすることができた。
- ・「総合的な学習・飛梅タイム」で9月～10月の2か月間かけて1年生・2年生・3年生が、地域に伝わる伝承遊びや日本舞踊、上野町餅つき踊り、創作能等を支援ボランティアの方々から学んでいる。その練習の成果を10月末の飛梅祭にて披露している。
- ・TDSあいさつ運動は、生徒会と地域ボランティアの方が行っている。毎月第3水曜日に校門や出羽町・下石引町に元気なあいさつが飛び交っている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・総合的な学習「飛梅タイム」において、9月～10月の毎週水曜日の3・4時間目に1年生～3年生が、地域等のボランティアの講師が教える様々な講座で学んでいる。「手まりの刺繍」「日本舞踊」「伝承あそび」「南京玉すだれ」「和太鼓」「上野町餅つき踊り」「創作能」等の中から講座を選び、2か月間じっくり教わって練習している。練習の成果は、10月末の飛梅祭にて披露している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・支援ボランティアとして、地域の婦人会、町会、地域住民、PTA、社会福祉協議会等、様々な方に関わっていただいている。
- ・9月より毎週水曜に行う「飛梅タイム」には地域の方や能・狂言・和太鼓などの伝統芸能の継承者の方々が講師として来校し、指導をしている。中学生にとって、地域の人々や優れた技能を持つ人々との関わりは世代を超えた触れ合いを通して社会の一員としての自分の存在を自覚したり、技能を学ぶことを通して物事に真剣に取り組む大切さや、学ぶために必要な礼儀作法を知り、繰り返しながら習慣化していくといった多くの教育効果がある。また学んだことを文化祭当日に発表し、成果を認められることで自分に対する喜びや自信へつながっている。
- ・支援ボランティアのアイデアを取り入れ、ボランティア自身が考え行動することで参加する楽しみが増し、ボランティアの意欲向上につながる。また支援本部・生徒からのお礼の手紙などをお渡しすることでそれぞれがつながっていることを感じる事ができる。



上野町餅つき踊り

## 事業を実施して

- ・学校支援地域本部事業の活動が定着し始め、少しずつ地域と学校の連携が深まってきている。
- ・多くのボランティアが来校し、それが普通の光景になりつつある。多くの地域の方と接することで、生徒は様々なことを学び成長する機会を得ることができた。
- ・ボランティアの方も来校を楽しみにしてくださり、良い相互関係が構築されつつある。行事や活動を通して生徒たちは地域の方と触れ合う機会が増え、多くのことを学ぶことができた。



TDSあいさつ運動

# 地域の方々とふれあいをとおして「遊ぶ」「学ぶ」「体験する」

## 石川県加賀市

### 活動名

動っ子タイム

### 関係する学校

加賀市立動橋小学校・加賀市立分校小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		3人	18人	51日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	石川県加賀市動橋町ホ15番地1		21年度	有	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

平成21年度から子供の安全のための居場所づくりに取り組んでいますが、子供たちと地域の人たちとの交流を図ることや、町に伝わる伝統・文化の継承なども目指してきました。

通常教室としては、「ふるさとっ子タイム(郷土芸能の継承)」、「HIPHOPダンス」「キッズサッカー」「トランポリン」「煎茶」「フラワーアレンジメント」、特別教室として「ガラス工芸」「国際交流会」「金大生とあそぼう(金大生の演劇や人形劇などを観劇・金大生との遊びを通じた交流会)※隔年開催※」などの活動を実施している。

**【活動日・時間】** 毎週水曜日15:30~16:30、土曜日10:00~11:30または14:00~15:00

**【指導者等】** 専門的な知識をもった地区住民やまちの先生などをお願いしている。

**【募集方法】** 小学校へ子供とその保護者を対象にチラシを配布する。また、地区のまちだより発行「いぶりはし」やセンターの月便り等で参加者を募集する。時として、まちの有線放送での呼びかけもする。社会福祉協議会発行「あいあい」の広報やウェブサイトでも呼びかけを行っている。

**【安全対策】** ・学校との連携(下校時間、行事などの日程や変更の連絡や通知資料、集団下校等の連絡)  
 ・防災・防犯訓練の実施・安全マニュアルの掲示  
 ・来館児童の所在登録・児童センター入退館管理システムの導入

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・国際交流や金大生とあそぼうなど、異文化交流や異年齢間交流できる活動を行っている。
- ・地元の民謡保存会メンバーである高齢者の方々から市の無形民俗文化財に指定されている「ごり呼び唄」や宿場民謡などを学んでいる。
- ・HIPHOPダンスやふるさとっ子タイムの民謡活動などは文化祭やお祭りなどの場を通じて取組の成果を発表している。このことにより、自信をもって臨むようになった。
- ・月1回のキッズサッカーは、放課後児童クラブの児童にも参加を呼びかけて実施しており、地域の子供たちの交流の場となっている。

### 【実施に当たっての工夫】

動橋町在住で、いろいろな知識・経験・技術・趣味をお持ちでボランティア活動に意欲のある方に「まちのせんせい」として文化・芸術活動に携わっていただいている。動橋町の各種協力団体と連携をして、協力の充実を図り、町全体で子供たちを見守るとともに本活動を積極的にサポートしていただいている。

また、町の文化祭などの機会を通じて、子供たちが活動で学んだ成果を発表するなど、地域の人たちにも積極的に本活動を知っていただくように努めている。



サッカーを通じて放課後児童クラブと交流

## ● 事業を実施して

- ・日頃の教室活動により地域住民の方との連携やむすびつきが深まり、大人も子供も互いに街中で出会っても挨拶や声を掛けることができるようになった。
- ・放課後子供教室は子供たちにとって、学習や様々な体験、交流活動の場となり、社会性、自主性を育む良い機会となっている。
- ・町に伝わる伝統・文化に触れることで、子供たちに郷土愛が醸成されるとともに、伝統・文化が次世代へと受け継がれる土壌ができた。
- ・保護者も含めて地域の方々に参加していただくことで、地域の住民に子供たちへの理解が深まり、子供を通して、大人同士のつながりもでき、地域社会の連帯の強化にもつながった。

## ● その他

地区内の放課後児童クラブ(学童クラブつばさ)に声かけして、定期的にキッズサッカーを合同で実施している(月1回)。また、「金大生とあそぼう」など長期休暇中の活動で低学年の児童でも楽しめるものについては、随時放課後児童クラブに声かけして、合同で実施している。



お年寄りから民謡(うた・踊り・太鼓)を学ぶ「ふるさとっ子タイム」

# 市内小学校6校を対象としたスポーツ体験の実施

## 石川県羽咋市

### 活動名

羽咋市子ども会育成会

### 関係する学校

羽咋・粟ノ保・瑞穂・邑知・余喜・西北台  
小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	40人	63日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	羽咋市内	S48年度 無
			児童生徒数	学級数

### 活動の概要

市内小学校6校を対象としたスポーツ体験の実施。相撲・ソフトバレー・卓球の練習を各校4週間程度行う。ゴールデンエイジ(あらゆる物事を短時間で覚えることのできる「即座の習得」を備えた時期)の小学校第4学年から6学年を対象とし、この時期に様々な動きを体験させるもの。練習の集大成として、各一回の交流大会を実施する。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

市内にある6校の小学校それぞれの校下において、学校単位で各スポーツの練習を行う。学年指定はあるが、異なる学年同士が練習を通して交流を深めることができる。また、練習の集大成として、市内大会を実施することにより目標が定まり、効率の良い練習ができる。また他学校の児童との交流も図られる。

### 【実施に当たっての工夫】

高学年が低学年の手助けができるような練習体系をつくっている。また、保護者などボランティアの見守りと指導により安全面においても考慮している。

## 事業を実施して

児童同士や、児童と大人とのつながりが深まり、地域内のコミュニケーションが図られ、地域活性化につながっている。



相撲大会



卓球大会

# 短時間で楽しむ体験！ 交流の場として、社会への窓としての放課後子供教室

## 石川県能登町

### 活動名

柳田放課後子ども教室

### 関係する学校

能登町立柳田小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	20人	75日	有
実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携	
柳田教養文化会館			19年度	無	
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

当町では、過疎化・少子化の進行に伴い、小学校の統合が進み、通学区域が広域化している。また、共働き家庭の増加で、帰宅後、家に誰もいない状況が多く見られる。本事業の該当区域である柳田小学校区においては、東西20km、南北10kmの広範囲を通学区域としている。公共交通機関も日に数本と非常に不便である。このような状況の中、子供たちの待機場所として、柳田教養文化館の開館時間中は多くの子供たちで賑わうため、当事業を実施することで子供の居場所と安全を確保し、待ち時間の有効利用を図っている。

また、笹ゆり学童クラブが放課後子供教室の活動場所である柳田教養文化館を活動使用することにより、交流が図られている。さらに、高齢者との交流も意図して事業を展開している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

スクールバスの待機場所として、柳田教養文化館を利用している児童たちを主に対象とし、主に平日の放課後に開いている。教室では、読み聞かせや昔遊び、工作や習字など、短時間でいろいろと楽しんで体験できる内容を行い、スクールバスの待ち時間の有効利用を図っている。百人一首やすごろく、また、紙コップでけん玉を作ったりするなど不用になったもので簡単にできる工作で遊んだりもしている。中学生や保護者も参加するときもあり、コーディネーターらによる昔ながらの遊びなど、子供たちや保護者からも好評である。また、四季に応じて、草笛を作り吹いたり、自然に触れる機会にもなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

柳田教養文化館職員と連携した見回り等により、また、けが等発生した場合は柳田小学校保健室へ連絡を取り合う連絡体制をとるなど、安全の確保に努めている。

スクールバスなどの待ち時間により子供たちの参加時間や帰る時間が違うため、教室の内容は工夫している。子供たちが自ら教室への参加や帰るタイミングを決めながら、参加ができるよう、自主性に任せて内容を調整することもある。

子供の居場所として、さらに、異学年交流の促進もはかり、大人と時間を共有することで、社会への窓としての働きをするなどを心がけている。

## 事業を実施して

柳田教養文化館が、さまざまな年代が使用する場所であるため、同年代だけでなく、中学生や保護者との交流ができる場となっている。

図書室としての機能も備えた施設であり、公共の場としてのマナーや、体験や遊びを通して集団生活の人間関係を体感する機会にもなっている。

## その他

教室を通して、楽しく遊ぶことはもとより、時には喧嘩しながらも、あいさつなどの礼儀作法やお互いのルールや約束を学びながら、成長して欲しいと願っている。子供たちが成長する時間に共に楽しい思い出作りが出来ればと思っています。



切り絵教室



読み聞かせ

# 多様な地域住民による体験活動をととして、 人間力を育む「放課後子ども教室」

## 山梨県甲府市

### 活動名

みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」

### 関係する学校

羽黒小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	18人	217日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	空き教室		16年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成16年2月：羽黒小学校校長から、学童保育の待機児童が26名もいることの相談があった。そこで、代表は地区内の各種団体に趣意書をもってボランティアの募集に奔走。

平成16年11月1日：ボランティア23名・児童6名でスタート。月曜日から金曜日の放課後15時～18時まで、夏休み中は盆休み以外は開催した。(年間230日開催)

活動日程(原則的なもので、特別日課は別)

15時～16時：学習時間(1分間スピーチ・宿題他)、16時～16時30分：お掃除、16時30分～みんなで遊ぶ

H17年・18年：「地域教育力再生プラン」を補助事業で受託。

H19年～現在：「放課後子ども教室推進事業」を受託。平成19年4月に甲府市教育委員会より、羽黒小学校空き教室の使用を許可され現在に至る。

\*ボランティア登録数45名 \*児童22名(2年～6年まで)

放課後子供教室の活動が評価され、「第1回放課後子供教室推進表彰」を文科省生涯学習政策局長より受賞。(平成21年)

平成21年度財団法人やまなし環境財団「若宮賞」受賞。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

～異世代の交流をととして学び、人間力を育む～

☆人は一人で生きているのではないこと～自他ともに気持ちよく生きていくために他人を思いやり、我慢、自制心が大切なことをあらゆる場で得させている。

☆持続可能な地球環境を守り継ぐこと～環境学習の重視として「緑のカーテン」

花いっぱい活動、ざぶん賞の応募など活発に活動し、平成21年度に(財)やまなし環境財団から「若宮賞」を受賞した。

☆「ありがとう・おかげさまで」の心の育成～1分間スピーチで訓練しながら、言葉による感情表現ができるように、「コミュニケーション能力」を育成している。

### 【実施に当たっての工夫】

☆児童の安全確保を第一に、緊急連絡先を名札に記入し常時携帯させている。

☆ボランティア・保護者等関係者の意識統一が重要と考え年度当初には全員参加の総会(学校長も)を開催している。また、ボランティアが無理をしないで、継続できることが重要と考え、本人が希望した曜日が確保できるように配慮している。

☆学校や市教委との連絡を密に、新しい活動も取り入れている。昨年の夏休みには、NHK・県立図書館・終末処理場の見学をした。今年は、地区青少年育成会員の協力もあり、生涯学習課主催の子供アニメ観賞会にも参加した。

また、学校からは体育館を解放していただき、広い場所で活動を楽しんでいる。

☆コーディネーターが学校応援団のコーディネーターと兼任するため、担任や学校との連携が密にできていて、この事業の所期の目的を有効に果たしている。



「子どもの調理教室」で、食育を学ぼう



川遊びで環境に関心をもとう

## 事業を実施して

・開設後10年が経過し、最初の児童は高校3年生になっている。その子たちが、今でも後輩におやつを持って来てくれるのを思うと、子供たちにとって、本当の居場所になっている実感がわきうれしく感じている。

・サロンの卒業生が絵画コンクールで知事賞を受賞したと報告に来てくれた。子供の可能性を、多様な面(知育・徳育・体育・療育等々)で伸ばす場だと実感した。

## その他

・少子高齢化の昨今、ボランティアは高齢者が多いが、生きがいを感じているし、保護者からも感謝されることを嬉しく感じている。学校がある年間約220日の毎日、放課後の3時間を異年齢集団での交流を通して内面が豊かになり、自立した人間に必要なものをたくさん吸収してたくましく育っている。

# 地域の方に支えられ、ふるさとの森・自然・人から学ぶ活動

## 山梨県大月市

### 活動名

鳥沢小学校地域保護者学校支援活動

### 関係する学校

鳥沢小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 6人	ボランティア登録数 46人	開始年度 12年度	補助の有無 無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

「学校・地域連携会議」の目的の達成や「生きる力」形成のために、地域・人的環境をもとに「学校緑化活動」「学習支援活動」を取り入れ、取り組んでいる。

- 体育後援会(昭和57年度から)  
体育の向上、学校教育諸行事等の積極的な後援、教育振興に寄与
- 学校・地区連携会議(平成3年度から)  
家庭・学校・地域社会の連携を密にし、一貫した教育を推進することによって、児童の豊かな人間形成に寄与することを目的として実施
- 学校緑化活動支援活動
  - ・ビオトープ保存会による環境整備活動(平成12年度から)ビオトープや学校裏の遊歩道の整備・修繕
  - ・学校林への植林、下草刈り
  - ・卒業制作(扇山や学校林の間伐材利用)
  - ・椎茸、なめこの植菌・栽培・収穫
  - ・老人会による草取り
- 学習支援(平成23年度から)
  - ・学生チューター(大学生)
  - ・水泳指導(保護者でスイミングスクール講師)
  - ・夏休みのプール監視
  - ・キャリア教育、昔の遊び、生活科や総合などの講師

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

学校裏の遊歩道を含むビオトープと学校林、そして、地元で有名な扇山を中心に特色ある教育として、環境(緑化)教育に取り組んできている。地域の方々の教育力を生かすべく、扇山管理委員会の方々の支援をいただき、地域の木材を利用しての活動や森や木を守り、育てる経験をしてきている。また、地域の方・保護者・教職員によってできたビオトープを活用しての学習も行っているが、そのビオトープの整備・修繕なども保存会の方々、扇山管理委員会の方や保護者が毎年行ってくれている。また、花の苗を地域の方が寄贈してくれたり、卒業式・入学式に飾る花の栽培もして下さり、夏休み終了後には、老人会の方が校庭の草取りをして下さったりしている。

### 【実施に当たっての工夫】

管理職は、校長の教育目標を含んだ学校経営・市の教育方針や学校や子供たちなどの様子を理解してもらうように努め、教育目標実現に向けての活動を展開するように事前・事後の打ち合わせを気軽に懇談する雰囲気を作りながらコーディネーター的存在の方と行っている。管理職は、地域の方とのより良い人間関係づくりにも心がけている。子供たちに成就感を持たせたり、子供たちへの事前指導などを行い、参加して下さった方々にも、また、参加してみようと思ったりする活動に心がけている。より良い活動となるよう、また、活動を継続していくために、できる限り各活動の中心となり計画・運営をする方を決めていただき、限られた時間内で子供たちが自主的・意欲的に体験活動できるようにするなどの工夫をしている。以上のような取組や活動を継続することにより教職員の負担も軽減されている。



扇山管理委員会の方と学校林の下草刈り

## ● 事業を実施して

専門的な地域の方の話を聞いたり、その方々の指導で実際に体験をしたりすることにより、木を守る大変さ、森の恵み、地域の方の苦勞を理解した。指導して下さる方もグループや班に1人ずつついて、一人一人に応じた指導をして下さり、安全に、のこぎりや金槌や鎌などを使うことができた。材料を用意して下さったり、限られた時間で活動できるような事前準備などで工夫をして下さったりして、教職員も感心するとともに子供たち全員が成就感や達成感を味わうなどすばらしい経験ができた。教職員だけの取組では、学べない、体験できない活動であり、保護者にも好評である。

## ● その他

- ・平成19年度 「全日本学校関係緑化コンクール学校林活動の部」において、国(社)団法人国土緑化推進機構 会長 河野洋平より準特選として表彰される。
- ・平成12年度には、緑づくりの教育推進に尽力されていることを評価され、当時の山梨県知事より表彰される。



扇山の間伐材を使って夏休みの親子工作

# PTA、地域、学校がそれぞれの特長を生かして 体験的に学ぶ児童を育む活動

## 山梨県北杜市

活動名

長坂小おやじの会

関係する学校

長坂小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	6人	76人	18年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

おやじの会は平成18年に旧長坂小学校において発足した。その当時、年度毎のPTA活動での保護者同士のつながりはあったが、年度を超えてのつながり、地域とのつながりについては希薄であった。また、PTAには母親の出席が目立ち、父親が学校や子供に係わることは本会役員になることなど意外には少ない傾向があった。PTA行事、授業参観や学校行事等への参加も母親が大多数であり、子供の教育は母親任せの現状が見られた。

そこで単年度PTAのつながりを生かしながら、年度を超えての縦のつながり、地域の商店街も含めて、地域と父親が子育てに係わりを持つ「絆づくり、地域づくり」を小学校を中心に行っていく会としておやじの会が発足した。平成25年度には、長坂町内の4校が統合し、新長坂小学校が誕生した。

おやじの会は、旧長坂小学校で発足したおやじの会の趣旨を生かし、新長坂小学校でも継続・発展していくべく、総会を開催した。会員の理解と協賛を得る中で新たに会員を増やし、児童数の増加に対応し、親子で楽しく体験的に学習できるように事業の工夫を行っていくことが確認された。従来から実施してきた事業を主体に、親父が積極的に関わる学習や事業を模索している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・夏休み親子工作教室は、住宅建築の会員の協力により児童に参加を募り、実施している。親子で楽しく工夫し安全に制作することを主としている。また、会社の従業員の方々が作業上困難な所については補助している。会社が木材輸入などで海外とも取引関係にあるので木材と環境、経済的なつながりなどキャリア教育にも貢献している。
  - ・卒業祝い餅つき大会では、5年生の児童が総合的な学習の時間に学校田で育てた餅米を使用している。卒業生全員が餅をつき、会員の和菓子屋さんの指導により紅白の丸餅を作る。全校児童分の試食用については会員が協力し500食分の餅を制作し、和気あいあいの内に食事をする。
  - ・学校環境整備は学校の要請により、必要ときに勤労奉仕作業を行っている。
- いずれの活動も会員の任意の参加体制で行い、参加者が材料費等を拠出し、日程等も学校と調整する中で実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・学校と連携・協力しての活動を行っている。立案段階で日程調整、実施日・内容等を十分に打合せ、授業等に支障がないように計画・実施している。
- ・5年生児童が総合的な学習の時間に栽培した餅米を使い、子供たちが関わりを持てるようにしている。また、餅つき大会でも6年生児童全員が体験できるように用具や実施方法などを工夫し、他の児童と共に味わい祝うことができるように500食計画するなど、事業に合わせたメンバーの手配をしている。
- ・会員の相互の連携が保てるよう日常的に顔を合わせたり、ウェブサイトで連絡を取り合ったりしている。また、新規会員の拡大を常に心がけ、事業の推進に心がけている。



夏休み親子工作教室

## 事業を実施して

会の活動も年数を積むことにより、会員相互の親睦が増し、学校への理解が深まり活動も定着し、会員数も増加傾向にある。小学校での活動を通して、卒業してから子供たちの記憶に残り、中学生・高校生になっても小学校での思い出の一コマになっている。子供たちもおやじの会の皆さんの活動により、体験活動に積極的に参加し、年齢を超えた地域とのつながりができ、互いに挨拶をし、登下校や見守り活動など地域での安全な生活に寄与している。

## その他

学校と地域が良好な関係を持つことで、学校が地域を学び地域の人材を積極的に活用し、子供たちの体験的な学習が継続的発展的組織的に行われている。



卒業祝い餅つき大会

# 「子供は寿の宝」を合言葉に、 子供たちの健やかな成長を支援

## 長野県松本市

### 活動名

寿地区学校応援団

### 関係する学校

寿小学校・筑摩野中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 160人	開始年度 21年度	補助の有無 無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- 平成21年度に、松本市の学校サポート事業に基づき、寿地区学校応援団を組織し、活動をスタートした。「子供は寿の宝」を合言葉に、学校・家庭・地域が一体となって子供の育成につとめている。
- 多彩な地域の力を活用した「地域と共に歩む開かれた学校づくり」と、地域住民の生きがい活動・創造活動としての「特色ある地域づくり」の両推進を目標としている。
- 主な活動
  - ①「学習、クラブ活動支援」・・・地域学習、里山体験学習、しめ縄体験学習、農業体験学習、クラブ活動地域講師など
  - ②「安全安心支援」・・・寿子ども見守り隊など
  - ③「交流事業」・・・地区行事への出演。参加、公民館、福祉ひろばでの地域住民との交流など
  - ④「環境整備支援」・・・施設点検・修理、花壇・農園づくりなど

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ①公民館・福祉ひろばがコーディネーターとなって、学習活動・地域交流活動・福祉活動・安全活動など、多方面からの学校応援活動を行っている。支援の基本となる学校応援団事業メニュー表による支援に加え、学校や地域の要請に応じた支援活動も行っている。
- ②地区の人材や資源を生かした活動をしている。財産区所有の山で行う里山体験学習や、公民館で活動する団体が学校側に提案して行うクラブ活動支援、地区歴史研究団体による地域学習、近隣福祉施設と行う福祉交流事業などがある。
- ③学校応援団を組織(職名委嘱と一般ボランティアによる)しての支援活動を実施。年1回の総会と学習会を開催している。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ①対象校の児童・生徒数が多いが、より多くの子供たちへの支援となるよう、クラス単位ではなく、学年単位での支援を中心とした活動となるよう心がけている。
- ②年度当初に先生と学校応援団員との顔合わせ及び説明会を行い、学校応援団事業について共通理解をした上で活動を行っている。
- ③前年度の活動実績をもとに、学校応援団事業メニュー表を作成し、年間の見通しを持って活動できるようにしている。
- ④学校応援団の総会・学習会を開催し、よりよい支援活動となるようにしている。
- ⑤子供だけでなく、先生たちにも地域を知ってもらおうという趣旨で、先生たちへの地域学習会を行っている。
- ⑥学校応援団ニュースを発行し、地域住民へ活動の周知を行っている。



木彫クラブ(クラブ活動)



林業体験(里山体験学習)

### 事業を実施して

- 学校にも地域にもメリットのある活動になっている。学習には深み生まれ、地域活動には多くの人が集まり、活性化している。
- 学校内でも、学校外でも、子供たちのあいさつが今まで以上に活発に行われるようになった。
- 受け身的に引き受けていた方々も、子供たちと接することで、いきいきと楽しみながら活動できるようになった。新たな人材発掘としての側面も持つようになった。
- 先生たちも、地域と関わることで、地域を知るようになった。地域連携学習研究部会が発足し、担当の先生がついている。
- 「地域との関係性が薄くなる中で、地域との連携学習をたくさんやっていただいていたありがたい」「見守り隊など、家庭だけでなく地域にも見守られていてありがたい」など、家庭からの感謝の言葉も多くいただけるようになった。

### その他

- 松本市学校サポート(学校応援団)事業は、学校・地域・家庭が一体となって子供の育成に取り組むことを趣旨として、公民館がコーディネーターとなり、市内全小中学校を対象として実施している。寿地区学校応援団は、そのモデル的地区として活動してきている。



小学生と中学合唱部の合同発表  
(寿さずなの森フェスティバル)



# 地域の自然や人と関わり、ふるさとを愛し、自分で考え行動できるひとに!

## 長野県諏訪市

活動名

しがっ子クラブ

関係する学校

諏訪市立四賀小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動	0人	22人	12年度	無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

### 1. 活動の概要

「願い」子供たちが「四賀で育って良かった」と、父・母が「四賀で子育てできて良かった」と、お年寄りや、地域の人々が「四賀で暮らせて良かった」とそう思えるような、魅力ある地域にしていきたい。

「目的」子供たちが、21世紀に紀地域と共に、自らが生きていく力を育むことを目的とし、子供たちが援助を受けながら、四賀という接点で、年代・環境の違う人たちと一緒に活動し、計画をたて実行する事を通して、自主的に活動できる子供の育成を目指す。

#### 「活動方針」

- 四賀地域の特性を生かし、地域に根ざした活動をしよう。
- 子供たちと保護者、地域の大人たちが一緒に学び、汗を流し、楽しめる活動をしよう。
- 企画・運営を子供たちが中心となってできる活動に取り組もう。

#### 「活動日程」

- 日時・・・毎月2回程度
- 会場・・・四賀公民館・四賀小学校・上川河川敷・他

### 2. 経緯

平成11年に、学校・家庭・地域が一体となって子供たちの「生きる力」を育むためにどうしたらよいか、「四賀地区の子どもと教育を語る会」を2度にわたり開催。土曜日の子供の居場所の確保等様々な課題が出され、参加者の中から地域でなにかできる事はないかという意見をきっかけに、当時のPTA役員・保護者・地域の方々と教職員の有志らが中心となり、関係機関・団体等の協力を得て、平成12年に「しがっ子クラブ」が発足。諏訪市では、発足を機に、土曜日小学校区を単位として活動する地域総合クラブを全市に設置。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 地域の自然と関わり、自然を愛しむ心を育む活動
  - ・地域を流れる上川の自然観察・美化活動・いかだ下り、神戸山探検等
- 技や知恵に触れ、自ら作り出す事のよこびを育む活動
  - ・おもちゃ作り、ミニ運動会、焼き芋大会、プレイパーク等
- 地域理解を深め、コミュニケーション力を育む活動
  - ・書き初め大会、ふれあい広場四賀、地域探検、ハザードマップ作り等

### 【実施に当たっての工夫】

- 年度初めに全校から会員を募って、継続的に活動を実施。
- 子供たちのやってみたいことやアイデアを年間計画に反映させている。
- 子供たちが自主的に活動できるように、やきいも大会等いくつかの行事の企画運営の全てをまかせている。
- 高学年がリーダーとなり、会を運営することにより、リーダーシップを育む。
- 活動の最後には感想をみんなの前で発表し、積極的に発言できる力を養う。
- 地域の人との交流が出来るように活動拠点を公民館や河川敷にしている。また、地域の人にも参加して頂いたり、声をかけあうことで地域で子供を育てる機運を高めている。
- 小学校を卒業して、中学生から大人になっても、活動の援助者として参加ができるように呼びかけ、しがっ子クラブがふるさとでの集う場所となるようにしている。

## ● 事業を実施して

年度初めには、まとまりがなかった子供たちも、活動を重ねるうちに仲間意識が生まれている。特に毎年参加している子供は積極的に活動計画の企画を提案し、自主的な活動にやりがいを感じ始めている。

活動拠点が公民館や河川敷なので、様々な地域の方に目をとめてもらうことができ、毎年開催している「ふれあい広場四賀」を楽しみにしてくださっている方も多い。

卒業生も活動に参加し、子供同士の交流だけでなく、大人スタッフとも談笑したり進学・就労等の相談もでき、地域としての役割の成果が出ている。

## ● その他

しがっ子クラブの卒業生が、地区の豪雨災害後、上川の葦原の再生を目指して、「上川探究隊」を結成し、活動している。



地区遠足・ハザードマップ  
地域の方から災害のお話を聞いています。



いかだ下り  
川の中のゴミも拾います。

# 地域の方々の参画を得て、地元でしかできない体験活動を取り入れています!

## 長野県根羽村

### 活動名

根羽村放課後子ども教室

### 関係する学校

根羽村立根羽小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	4.4人	217日	有	
	実施場所 集会運動室			開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日		委員数	児童生徒数	学級数
				20年度	無

### 活動の概要

- 平成20年、村が村民の要望を受け、村社教に委託して始まる。
- 平日は毎日実施。自主的な活動を基本とし、宿題を済ませた後、自由に遊んだり、運動を行ったりしている。
- 学校行事のある土曜日でも希望があれば実施。
- 夏休み、春休み等の長期休業の平日も実施。

#### 【内容】

- 平日
  - ・学 習：宿題、読書、工作等
  - ・自由遊び：トランプ、将棋、ゲーム、折り紙等
  - ・運 動：ドッチボール、バドミントン、野球、サッカー、鬼ごっこ、ボール遊び等
  - ・隔週木曜日：お茶教室、ギター教室
- 土曜日及び長期休業
  - ・交流活動：デイサービスセンターの行事への参加(クリスマス会、わくわく講座等)
  - ：食生活改善推進グループとの食育交流(巻き寿司・カレー作り)
  - ・屋外活動：釣り教室、川遊び、ミニ遠足、マレットゴルフ、植物観察
  - ・体験活動：表札作り、ブルーベリー収穫体験、救急法、炊き出し体験、芋掘り

## ● 特 徴

### 【特徴的な活動内容】

- ①根羽村を知り、村の自然を十分に活用した体験活動を取り入れている。特に夏休み中は、釣り教室、川遊び、植物観察等を大人と一緒にやっている。
- ②弱者を労る気持ちや目上を敬う気持ちを身に付けるため、お年寄りや地域の方との交流活動を取り入れている。
- ③村の社会福祉協議会や食生活改善推進協議会が主催する、大人向けの健康教室や料理教室等に、放課後子供教室の児童も参加し、学習、交流している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①学校の協力により、下校時、参加者の確認をして連絡をいただいている。
- ②習い事等がなく、参加児童が多い木曜日は隔週でお茶教室とギター教室を実施している。
- ③老人福祉センターを活動場所としているので、ここを使用している団体や組織との連携を取りやすいことが利点。土曜日及び長期休業中の開催では、各種団体、ボランティアグループ等に講師をお願いしている。
- ④社会福祉協議会や食生活改善推進協議会には、健康教室や料理教室等の計画時に、放課後子供教室児童も参加しやすい開催日時にするよう調整していただいている。
- ⑤夏休み中の活動は、例えば、午後の学校プール開放に参加できるように、弁当を持参又は料理教室を実施して昼食後に集団で行けるようにする等、開催日の都合に合わせて時間対応をしている。

## ● 事業を実施して

- 参加児童からは、「放課後にも友だちと遊べるし、他学年の友だちとも遊べる」「相談したり、話を聞いてくれたりする大人がいる」という声が寄せられている。安心感を子供たちに持ってもらっている。
- 保護者からは、「家に大人がいても子供が一人では遊べないし、教室というみんなと楽しく遊べる安心な場所があって、子供にとっても、大人にとっても有り難い」という声が寄せられている。登録者数は全校23家庭39名中、19家庭32名で約82%と、放課後子供教室の役割への期待は大きい。

## ● その他

- 課題は・・・
  - ・平日のボランティアスタッフの確保。
  - ・異年齢一緒に活動の場合、低学年と高学年では集中力が違うので、その時の対応の仕方と、飽きない活動の工夫。



隔週木曜日はお茶教室で礼儀作法を学ぶ



夏休みは清流で根羽の自然を満喫

# 地域の方と昔遊びや物作りに挑戦し、物作りや人とふれあう楽しさを実感!

## 岐阜県岐阜市

### 活動名

日野っ子メイツ

### 関係する学校

岐阜市立日野小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	90人	27日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	多目的ホール等		16年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成16年度より、地域子供教室として始まったのが、「日野っ子メイツ」である。地域の青少年育成市民会議が中心になって、自治会連合会、日赤奉仕団、PTAなど地域の各種団体、ボランティアの協力で運営している。地域ボランティアの方が小1～小3の児童を対象に、昔から伝わる遊びや作品づくりなどを教えるふれ合い体験活動である。木曜日の放課後1時間程度活動している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・学校、地域の全面的なバックアップにより、活動を行っている。毎回、地域から多くのボランティアが参加し、子供たちの活動を支援してくれている。
- ・チャレンジランキングで、まめつかみ、ボーリング、輪投げ、スカットボール、ダーツ、じゃんけん大会など、多彩な種目で子供たちが楽しみながら、競い合っている。
- ・季節感を大切に活動をし組んでおり、たとえば、お正月前には、岐阜県飛騨地方に伝わる「花もち」(木の枝に色とりどりの餅を花がさいたようにつけたもの)づくりを毎年行っている。子供たちはもちろん、家族ぐるみで季節を感じるよさを味わうことができる。
- ・地域の文化祭に子供たちの作品を出品するようにしている。地域の陶芸の先生による指導で、カップや土鈴などをつくり、地域にある窯で焼いて仕上げている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・自然を大切にしようという趣旨の紙芝居を読んだから、秋の木の実を使った作品づくりに取り組むようにしている。ただ作品をつくるだけでなく、自然の恵みに感謝するという気持ちを子供たちにもたせるようにしている。
- ・夏休みにも公民館で6回ほど、活動している。作品づくりだけでなく科学館の方のおもしろ実験の鑑賞なども行っている。
- ・異学年と一緒に交流できる活動は、異学年が同じ内容を活動し、技能に差が出る活動は学年を分けて活動をするなど、活動の内容に応じて運営し、子供たちがスムーズに楽しめるよう心掛けている。



木の實でオブジェ



花もちづくり

## 事業を実施して

- ・普段は、テレビを見たりゲームをしたりして遊ぶ子供が多い中、「日野っ子メイツ」がある日は、創造的な活動をすることができると、子供たちにも保護者にも大変好評である。また、核家族が増えている中、地域のお年寄りや仲間とふれ合うことができるということも大きな魅力のひとつである。毎年、参加希望者が増えている。

# 北小中を地域で支えるボランティア 学校のニーズに応じて楽しく活動

## 岐阜県大垣市

### 活動名

北小中校区地域住民による  
学校支援活動

### 関係する学校

大垣市立北小学校・北中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	2人	25人	24年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

北小中校区は、市内では唯一の1小学校1中学校校区で伝統的に小中学校への支援が厚い地域である。平成24年度に、「エリア」型地域づくり事業の一環として、学校支援ボランティア活動を市全域で展開することになったことを受け、北地区社会教育推進協議会が選任した、学校支援コーディネーターを中心に、小中合同で学校支援ボランティア活動を行うこととした。初年度は、自治会の協力を得て、ボランティア募集の文書を全戸配布したところ、19名のボランティアが集まった。学校へ出向いて活動のニーズを調査し、環境整備活動を中心とした学校支援ボランティア活動を開始した。

現在行っている主な活動は次のとおりである。

- ① 環境整備  
校庭の除草、清掃、落ち葉拾い、樹木の剪定、遊具の塗装など
- ② 学校行事支援  
運動会・音楽会の受付・来賓接待、職場体験受入先の紹介、PTA行事の際の小学校低学年託児など
- ③ 学習支援  
鼓笛隊練習会の開催、特別支援学級における親子活動の支援など

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ① 小中学生の交流を生み出す鼓笛隊練習  
北小学校の鼓笛隊の指導が学校職員だけでは困難であったため、ボランティアが中心となって、北中学校の吹奏楽部に依頼し、中学生が小学生を指導する練習会を設けた。月1回土曜に開催する練習会は、音楽を通して小中学生が交流できる他にない機会となり、盛況である。
- ② 地域と学校の交流を広げる職場体験  
北中学校では、以前、学校が保護者の勤務先に職場体験を依頼していたが、地域の商店や施設にも依頼し、受け入れ先を拡大した。中学生と地域住民との新たな交流が生まれ、学校・地域双方から歓迎されている。
- ③ 学校のニーズを先取りしたボランティア清掃  
北小中学校で通常実施している除草作業とは別に、卒業生に清々しい気持ちで式を迎えてほしいという地域の願いを含め、卒業式の前に、自主的に校内の清掃活動に取り組んでいる。



雑草も除草され校庭の見通しも良くなりました。

### 【実施に当たっての工夫】

- ① 自主性を尊重し、継続につながる  
ボランティアの募集に際し、「誰かに頼まれたからやるのではなく、自分がやりたいから始める。」という個人の思いを大切にしている。「初めてボランティアをするのだが、孫が通っている学校でボランティアをしたい。」という祖父母からの応募も多くあり、活動の継続につながっている。
- ② 実践をまとめたDVDを活用した広報  
日頃の活動をビデオに録画し、ボランティア発足時から1年間の内容までをDVDにまとめた。題名は「いつから始めますか?学校支援ボランティア」で、県の事例発表、ボランティアの反省会、市の会議、自治会研修会で上映し、活動のPR、ボランティアの募集に役立っている。今後は学校だよりや、町内の回覧板を利用して、今まで以上に、地域の住民に学校支援ボランティアの活動報告、参加募集を広く行っていく予定である。



託児ボランティアで絵本の読み聞かせをしました。

## ● 事業を実施して

コーディネーターが意欲的に取組を進めており、学校側の要望を反映するとともに教員の負担軽減にも役立っている。学校と地域をつなぐ取組として評価され、学校や地域から期待されている。

### <活動参加者の感想>

- ・孫が学校へ通っていても、学校へは、なかなか行く機会がありませんでした。自分の気持ちでボランティアを始め、孫が通っている学校でできることが大変幸せです。
- ・託児ボランティアの時に、子供の前で絵本の読み聞かせをしました。私は、教員だったのでもう一度子供の前で話をしたいと思っていましたが、今それが実現できて大変うれしく思っています。

## ● その他

DVD第2弾「がんばっていますか。学校支援ボランティア」を製作し、西濃地区社会教育振興会議で発表した。今後は、活動のPR、ボランティアの募集に役立てていきたい。

# 地域の各種団体の協力で実現した 地域総出の山口幼稚園環境整備作業

## 岐阜県中津川市

### 活動名

地域合同山口幼稚園環境整備作業

### 関係する学校

中津川市立山口幼稚園

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	60人	24年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
			実施場所	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成24年度、山口幼稚園の園庭があまりに草で覆われてしまっていて、園児の遊ぶスペースが狭くなっているという実情を知った老人クラブの発案で、地域づくり推進協議会（学習環境部会）やオアシス山口（地域のボランティア団体）、総合事務所等の協力を得て、環境整備活動を行った。地域で重機を持ってみえる方等のボランティアを募って手筈を整え、園庭の草をめくり、土をトラックで6杯分入れ、見違えるような園庭が復活した。

それをきっかけに、年4回の環境整備を行うようになり、毎回、園の周りの草刈り、草取り、その他多様な環境整備を行い、園児の生活環境をよくするために、活動を続けている。

主な活動は次のとおりである。

**平成24年度：**草刈り・草取り・園舎周りの整備・園庭のグランド化整備作業・グリーンカーテン用棚づくり・土管山の修繕作業・園舎汚れ落とし

**平成25年度：**草刈り・草取り・園舎周りの整備・UVシート貼り・天窗のよしず貼り・トヨ取り付け作業・腐食丸太入れ替え作業

**平成26年度：**草刈り・草取り・園舎周りの整備・遊具ほかペンキ塗り作業・壁面クロス貼り替え作業

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

地域づくり推進協議会が中心となって老人クラブ、オアシス山口、総合事務所等、地域の複数の団体と連絡調整を行い、活動に取り組んでおり、「地域でたったひとつの幼稚園」のためならと、山口地域を挙げての環境整備作業になっている。園庭の整備が主で始まった作業であるが、毎年園と地域づくり推進協議会が連絡調整をしながら内容を検討し、園独自ではなかなか修繕等ができない箇所（丸太入れ替えや壁面クロス貼り換え作業等）の整備を実施している。山口の園児たちのための作業をととして、地域がひとつになる場にもなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

山口の園児たちのためにと、多くの方が手弁当で参加している。住民同士のつながりが強くお互いをよく知っている小さな地域であり、重機が必要ならあの方に、丸太を切る作業ならあの方にと、地域づくり協議会が中心となって適材適所の要請が地域住民になされ、住民も快く協力している。



園児のために地域挙げての環境整備

## 事業を実施して

少子高齢化が進む過疎化地域であり、園児数もPTA会員数も少ない園としては、なかなか大がかりな環境整備作業が進まなかった。しかし、山口地域の各種団体等の協力を得て、地域総出の環境整備ができるようになり、その課題は解決した。作業後、広くなった園庭では、リレーができるようになり、運動会の種目が変わった。広いスペースが確保されたことで、伝承遊びもできるようになった。運動会に招待された老人クラブのメンバーからも「やってよかった」という声と笑顔が生まれた。



作業後草ひとつなくなり、広くなった園庭

## その他

山口幼稚園での支援活動が定着したため、山口小学校でも環境整備作業のサポートを開始し、今後も継続していく予定である。

# 笑顔・愛あふれ「自分にも何かができる」子供と共に育つ 学校応援団です!

## 静岡県富士宮市

### 活動名

富士根南小学校 学校支援地域本部  
学校応援団 愛育会(PTA)+C(地域)

### 関係する学校

富士宮市立富士根南小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 80人	開始年度 25年度	補助の有無 有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

開校113年目を迎える本校では、子供の健やかな成長を支える地域活動が活発である。愛育会・区長会・登下校見守り隊・地区社協など25団体を超える組織がある。例えば、1年生の「昔の遊び」では、地域の熟練の技を持った熟年世代から100人も  
の支援をいただける伝統ある営みを続けている。

このような独立している団体を1つの「学校支援地域本部」として平成25年度組織的に立ち上げた。家庭・地域社会総がかりで子供を育む地域の教育力の重要性について共通理解の場やリーフレット・総会などで見える化して協働精神を培ってきた。これまでの活動を価値付け、組織と組織をつなげ、これからの未来に生きる子供も大人も「自分にも何かができる」ボランティアスピリッツを共有していくことは大きな意義ある活動となっている。

目的意識を明確にした校長のビジョンをさらに浸透させ『愛育会(PTA)+C(地域)』として実績を上げている。できることから、楽しみながら学校生活の安全・安心、豊かな学習環境づくり、地域の活性化による、よりよい地域づくりへの貢献を目指している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ●活動団体の組織化・連携・広がり

- ・学校支援の母体となる団体は25を超え、放課後茶道教室や華道教室、地域の敬老者の支援によるゲートボールクラブやベテラン音楽家による金管クラブへのサポート、体験学習支援など、富士根南地区ならではの活動への取組は十数年にわたって継続されてきた。
- ・活動の柱の一つである「学校支援」としては、「おとぎの部屋」での読み聞かせ、各教科におけるゲストティーチャーや退職校長による特別支援教育対象者への学習支援、校外施設の校内環境美化など、多岐にわたる活動が行われている。

### 【実施に当たっての工夫】

#### ●子供や保護者と共に理念を共有した協働

- ・「環境は人が創る～人は環境によって育まれる」教育環境づくり、子供はかけがえのない存在であるという人権尊重を基盤に置いて、誠心誠意取り組んでいる。
- ・「自分にも何かができる」子を育むために協働での活動方針を「愛育会(PTA)+C(地域)」で定め、役員会、総会で共通理解を図り、リーフレットやHP、学校だよりで活動を紹介し広報戦略につなげている。
- ・コーディネーターの調整により、ボランティアとして関わる地域人材や支援内容が年々拡大するとともに、ボランティアの立場・役割も明確となり、より充実した支援活動が展開されている。コーディネーターが学校のニーズと組織活動とのバランスを見事につないでいる。



退職校長による  
「放課後夏の總教室」

## 事業を実施して

学校のニーズと地域の力をマッチングさせた効果的な学校支援の充実により、教員や地域の大人が子供と向き合う時間が増えたこと、ボランティアの人数・内容の広がり、子供たちが多様な知識や経験をもつ大人と触れ合う機会が増え、よりきめ細かな教育につながりつつある。校外へも積極的に探究する教育活動のさらなる充実が図られつつある。管理職のリーダーシップの発揮、教職員が地域の力をうまく取り入れていくカリキュラムマネジメント力の向上、コミュニケーション力の醸成などが重要であると考えている。

## その他

遊びや学習を地域の大人に教えいただき、子供は生き生きしていく。「子供たちは無限の可能性をもっているねえ。」と、やがて、自分から遊びを発見し創っていく南っ子を励まし褒めていただく200人を超える方々。感動と感謝をいっぱいこめ、本年度は運動場・道路周辺に「芝桜植栽ドリームアップ」を子供と学校応援団で創り上げている。



子供とともに  
芝桜植栽ドリームアップ

# 校区の住民が「ともえサポーターズ」を結成し、学校の活動を支援しています。

## 静岡県袋井市

### 活動名

袋井北小学校 学校支援地域本部  
ともえサポーターズ

### 関係する学校

袋井市立袋井北小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	1人	51人	21年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成21年、学校・地域・家庭の三者が連携して袋井北小学校の子供たちを「健やかに育てたい」という願いで、三者がそれぞれの力を発揮してバランスよくという意味合いを込めて「ともえサポーターズ」を結成した。

結成当初は、学習支援を中心にボランティアを募り活動を行ってきた。しかし、活動を続ける中で、学校の現状を考えると、学習支援だけの支援活動では十分でないというコーディネーターの呼びかけのもと、校区の地域住民全体を巻き込んだ活動に発展していった。現在の活動に至るまでには、自治連合会、自治会、公民館、公民館運営委員会など様々な団体の理解を得る中で、いかにして袋井北小学校の教育に関わってもらえるか話し合いを重ねた。話し合いの結果、「学校教育を地域で支える」、「学級担任が学級で子供と話す時間を確保する」、「教師が“教える”仕事に専念できるようにする」、「地域が子育ての役割を分担する」、「地域の人材を活用する」、の5点を活動趣旨とし、活動を進めていった。しかし、参加されるボランティアの方の負担になってもいけないと、ボランティアには、「やれる範囲で活動に参加する」という文言を設け、多くの方に参加していただけるような環境を整えていった。

現在では、活動内容を精選し、組織をより機能的にしました。ともえサポーターズでは、学校での支援活動を学習・安全・環境の3つの活動に分け、支援者を募集しています。学習支援の活動では、ミシン実習補助や体育での記録計測補助など、授業に直接関わる活動を行い、安全支援の活動では、入学当初の1年生の下校見守り活動等を行っています。また、環境支援の活動では、校地内の樹木の剪定や草取りなどの活動を行っている。地域の住民が、それぞれ得意な分野で、学校を支援する活動を行っている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

活動の中心は、学校支援で、様々な授業に支援者としてお招きしています。家庭科では、ミシンの使い方指導、体育科では、記録計測係として活動していただいた。その他、校地内整備で草取りや剪定作業、参観会の託児所ボランティアや駐車場ボランティア、行事では、保護者の案内や駐車場係として、学校においては“なくてはならない存在”となっている。

袋井北小学校の外国人児童の増加に伴い、学習をいかに進めるかについての課題に対して、放課後に外国人児童を対象とした日本語学習(市主催)にボランティアとして参加し、学習支援を行っている。日本語理解に課題を抱える外国人児童にとって有意義な時間となっている。

また、年間4回「ともえサポーターズのつどい」を設け、児童からの感謝の気持ちを伝えたり、サポーターズの願いを児童に伝えたりする機会をつくっている。学校・地域・保護者それぞれが、バランス良く活動できる原動力になっている。

### 【実施に当たっての工夫】

本事業を開始するに当たって、「地域の学校を支援する」という“強い地元の思い”と“無理のない活動で長続きする活動”をモットーに事業を立ち上げた。登録ボランティアとの連携が図りやすくなるよう、支援コーディネーターを地元から選出し、小回りのきく体制づくりを行った。学校との細かい連絡調整ができるよう、支援コーディネーターは、元教員が行っている。

ともえサポーターズの活動が長く続くように、年4回の「ともえサポーターズのつどい」を設け、支援がより効果的になるよう、児童から生の声を聞いている。

また、ともえサポーターズが参加した活動後には、必ず振り返りを行い、1回だけの活動にならないようにサポーターズの願いを次の活動に取り入れている。

## 事業を実施して

本事業を実施することで、地域と学校とのつながりが強くなってきており、本活動は、子育てを終え、学校に行く機会がなくなった高齢者の方にとって、学校に行くきっかけの一つになっています。また、地域で児童と会話を交わすことがほとんどなかった高齢者の方も、この活動をとおして、地域で子供たちと会話を交わすことが多くなった。何よりも、地域に住んでいて、学校の状況がリアルタイムで分かり、学校の大変さがよく分かったなどの感想が寄せられている。

年度末に集約されるアンケートでは、成果として、「参加者の意欲が高まり、活動が楽しみの1つになっている。」「学校をより深く理解できるようになった。さらに活動を続けていきたい。」という意見があった。また、「現在は、点で活動しているが、今後はこれを面での活動に広げていきたい。」「学校と地域双方向の情報交換が必要である。」「会員の確保が最大の課題である」などの課題も挙げた。

学校・地域・家庭がそれぞれにバランス良くという「ともえ」の精神が根付き、今後も本事業が継続、発展していくことが期待できる。



体育科記録計測支援



外国人児童日本語学習支援

# 地域の力を活用した豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」

## 愛知県名古屋市

### 活動名

名古屋市立船方小学校  
トワイライトルーム

### 関係する学校

名古屋市立船方小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	53人	294日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	プレイルーム、運動場、体育館		12年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

平成12年に開校以来、「みんなともだち みんなちがって みんないい」「あいさつをしよう」「その気になって学ぼう 遊ぼう」をスローガンに、地域の力を活用して活動してきた。毎日80人程の参加がある中、子供たちは年間を通して地域の体育協会主催のジュニアスポーツに参加したり、女性会主催の映画会に参加したり、PTA主催の「親子ふれあい講座」に参加したりしており、トワイライトルームは地域活動に支えられて運営している。また、地域の方からいただいたカブト虫の幼虫を大切に育てている子が、その方と会ったときに「ありがとう」の気持ちを大きな声で伝えるなど、地域の支援は、スタッフだけでなく子供にも意識され、地域の方々に対する感謝の気持ちが育てられている。地域協力員(地域活動サポーター)は、「みんなが楽しく過ごせるように「愛」と「厳しさ」「励まし」をもって子供と接し、スタッフ間で情報共有を図るための「申し送りノート」を毎日つけ、スタッフが翌日ちがっても児童理解がしっかりできるように、同一歩調で支援している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ①毎月第1土曜日の午前には運動場で行うサッカーや午後には体育館で行うドッジボール、ソフトバレーボールを、地域の体育協会主催のジュニア・スポーツとして地域の方が指導して行ったり、地域にある愛知県立の熱田高校の物理部と交流していろいろな実験を体験したりしている。
- ②毎年8月に学区女性会主催の映画会では、テレビとは違う大型画面に映し出される映像を、夏休みの思い出の一つとして鑑賞することができた。
- ③PTA行事の「親子ふれあい講座」には、トワイライトルーム参加者は全員、子供指導員や地域協力員が親代わりとなって参加した。子育てにかかわる内容を、大人と子供が一緒になって学ぶことができた。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①地域と密接につながる活動の内容を、毎月の「トワイライトたより」に掲載し、地域の方の協力により27町内のすべてに回覧して、約5500世帯の方に読んでいただいている。このような活動により、子供と地域協力員が道で会うと、互いに顔と気心が分かっており、「こんにちは」「元気でやっているね。またトワイで会おうね」と言葉を交わすなど、絆をいっそう深めている。
- ②トワイライトルームで行っていることを理解して協力していただけるよう、地域の各種団体の方が委員となっている運営連絡会で、今年度の活動方針を提案したり、活動の報告をしたりしている。



PTA主催の親子ふれあい講座

## ● 事業を実施して

「地域の子供は地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子供たちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「遊び」・「学び」・「体験」・「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子供たちと地域の大人との交流が深まっている。



学区の方が水鉄砲づくり・遊びを開催



# 放課後に地域の力を最大限に活用した「学び」「遊び」「交流」「体験」活動

## 愛知県名古屋市

### 活動名

名古屋市立神の倉小学校  
トワイライトスクール

### 関係する学校

名古屋市立神の倉小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	26.6人	294日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	プレイルーム		23年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成24年3月に、神の倉小学校においてトワイライトスクールを開設し、開設初年度から学区や地域の人材を広く募集し、地域住民、地域ボランティア団体と多くの体験活動を行ってきた。また、独自のプログラムの実施やNPOやNGO、行政機関との連携により、様々な種類の体験活動を行ってきた。体験活動の他は、平日は授業後から30分間、土曜日・長期休業中は午前9時から10時までを学習時間とし、宿題、学習プリント、読書、漢字探し等、各自学習内容を決めて、自主学習を進めている。遊びの時間では、おもちゃやぬり絵など好きなことを行ったり、地域協力員（地域活動サポーター）や学生、社会人ボランティアも参加し、一緒に遊んだりして交流を深めている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

地域の人材を活用して、体験講座を毎月20回程度実施している。特に、緑区役所や緑警察署と連携した「交通安全シミュレーション講座」や、地域の緑化委員や「花・水・緑の会」などの地域団体と連携して、公園のプランターに花を植える体験や地域の清掃活動、神睦会(老人会)と連携して、地域の昔話や昔の遊びなどを高齢者を通じて子供たちに伝える活動、地域のお父さんをお呼びしてお仕事体験講座などを実施している。

また、教育に関心のある学生や社会人ボランティアも体験講師として積極的に参加し、子供たちがお互いのいいところを発見し合うワークショップ「素敵ポイント☆発見隊講座」などを、企画、実施している。また独自に、子供たちどうしの学び合いを促進させる学習プログラム「モンスタークエスト」を開催したり、子供たち自身にもトワイライトスクールの環境づくりについて考えることができるように、意見箱をプレイルーム内に設置して、集めた意見を「子供ミーティング」で話し合いをしたりしている。

### 【実施に当たっての工夫】

運営指導者を2名配置し、それぞれ運営のコーディネーターと体験講座のコーディネーターとして、異なる視点で配置している。これによって、運営面では、地域の人材や学生ボランティアの力を活用し、幅広い世代の交流ができるように運営している。また、体験講座の面では、子供たちの興味関心を引き出しながら、「楽しかった!」「また参加したい!」「もっと学びたい!」と思える、より多くの体験が実施できるように、地域の方々やNPO、NGO、企業、地域ボランティア団体、学生や社会人ボランティアなど様々な方々と連携して、積極的に体験活動を企画、実施している。

講座実施において大切にしているポイントは3つで、定期的に新しい講座を盛り込んでいく事と、子供たちの日常を知っている運営指導者が企画段階から一緒に関わっていく事、そして、地域の方々に関わって頂くことである。

子供たちが常に新鮮な気持ちで新しいものに取り組み、また、子供たちの反応が良い企画は回数を増やすことで、子供たちにできるだけ多くの豊かな体験を経験してもらうように取り組んでいる。また、子供たちが、安全に充実して活動できる環境を作るために、積極的に地域活動に参加して地域の賛同を得たり、定期的に地域の意見交換会を開き、意見・アドバイス等を積極的に受け入れ反映させている。



交通安全シミュレーション講座



学生ボランティアによるレクリエーション

## 事業を実施して

「地域の子供は地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子供たちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「学び」・「遊び」・「体験」・「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子供たちと地域の大人との交流が深まっている。



子供たちが学び合う学習プログラム「モンスタークエスト」

# 地域の子供たちと大人がふれあう、 安心・安全な居場所づくり

## 愛知県半田市

### 活動名

半田市放課後子ども教室  
よこがわクラブ

### 関係する学校

半田市立横川小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	2人	29人	55日	有	
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
				無	

### 活動の概要

- ・半田市は、全小学校で放課後子供教室を開設している。その中でもよこがわクラブは、平成17年度に地域子供教室として開設し、平成19年度からは放課後子供教室として発展させ、現在に至っている。児童クラブ、児童センター、民生委員などからなる放課後子どもプラン運営委員会での意見を生かしながら、地区の回覧板等で募集した地域の方々和日本福祉大学くれよんサークルの大学生が中心となり活動している。
- ・対象 横川小学校1・2年生
- ・定員 30名
- ・活動趣旨 放課後の子供たちの安心・安全な居場所を提供する。
- ・活動時間 平日週2日、授業終了後から午後4時まで(年間60日前後)
- ・活動場所 学校に併設している生涯学習施設
- ・活動内容 午後2時から当番スタッフが準備に入り、保護者からの欠席連絡を受ける。2時半(開始30分前)になると、6、7人のスタッフが集合し、当日の活動分担や活動内容について確認をし、開催の準備を始める。子供たちは、5時間目の授業が終わると、施設の和室に集合し、スタッフに出席連絡し、一人ひとりがそれぞれの自分の活動内容を決める。スタッフは子供たちの活動を支援することを基本としているが、個の活動と組み合わせて、読み聞かせや集団ゲームなどの活動も取り入れている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・おはじき、こま、将棋、知恵の輪など、子供たちが普段体験できない遊び等、スタッフの知識や経験を生かした活動を行っている。また、週1回は近隣にある日本福祉大学生が参加し、子供たちはドッジボールやサッカーなどの体を使った遊びなどの様々な体験活動を実施している。
- ・コーディネーターを中心に、季節に合った行事を計画し、保護者も巻き込んで活動している。(流しそうめん・ハロウィンパーティ・クリスマス会・お別れ会等)

### 【実施に当たっての工夫】

- ・夏休みを活用し、親子で参加できる流しそうめんを行っている。また、参加児童の様子について保護者とスタッフとの情報交換できる場ともなっている。
- ・子供たちが好きな活動に取り組むことができるように、複数の活動場所(和室、屋外、屋内ホール)を設けている。
- ・コーディネーターは、学期ごとに学校と開催場所及び開催日等の運営に関する打ち合わせを行っている。
- ・コーディネーター・スタッフに対しては、問題行動や障がいのある子供との接し方等の研修を受講させ、資質向上に努めている。また、日頃から、学校・担任と連携を図り、児童の様子に応じての対応方法等についての情報交換を行っている。



宿題してから遊ぼうかな

## ● 事業を実施して

- ・昔ながらの流しそうめんや凧揚げなどの児童が喜ぶ体験を通して、地域の方々や大学生といった幅広い年齢層の人々との交流ができるようになった。
- ・参加児童やクラブ卒業生が、学校外でスタッフと会った際にも、お互いに声を掛け合うことができるような関係が築かれ、地域の絆づくりに貢献している。
- ・保護者からも高い評価を得たり、子供たちとのつながることによって、スタッフ自身のやりがい生まれ、地域住民の生涯学習、自己実現に資する取組になっている。



みんなで楽しく流しそうめん

## ● その他

- ・よこがわクラブは開設して10年目となり、年々参加希望者が増加し、参加するにあたっては毎年抽選となっている。
- ・夏休みに開催される流しそうめんは、よこがわクラブの児童だけではなく、たくさん児童が参加できるようコーディネーターが中心となって企画・運営し、学校・家庭・地域をつなぐ行事となっている。

# 異年齢集団で、先生や親とは違う地域の大人とつながり、 色々な体験が出来る。

## 愛知県小牧市

### 活動名

一色小学校放課後こども教室

### 関係する学校

小牧市立一色小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	27人	24日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、体育館		20年度	無
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

- ・平成20年度、校区内の住民の他、以前より地域交流が盛んであった隣接する校区の住民もスタッフに迎え、事業がスタートした。
- ・開設以降、週1回の開催を継続しており、子供たちにとって安心・安全な居場所としてだけでなく、地域住民の協力を得て、様々な学習・体験・交流活動を提供している。
- ・コーディネーターは、地域行事や学校行事に積極的に参加し情報収集を行うことで、新しい協力者の発掘を行っている。
- ・指導員は常時5人体制としているが、参加児童の保護者もボランティアとして活動に参加している。
- ・地域住民による運営のため、定員30人を設けている。
- ・放課後子供教室のプログラムは、年度当初に全て決定し、宿題などを行う自主学習、自由遊びのほか、指導員や地域住民が講師をつとめる盆踊り、茶道、エアロビクスなどの体験活動を行っている。
- ・活動場所は当日のプログラムに合わせて、図書室、体育館などを活用している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・コーディネーター、指導員の人脈を活用した多彩な講師による体験講座（科学実験、工作、折り紙、茶道、ドッチビー、ヒップホップ、盆踊り等）を経費を抑えて実施している。
- ・コーディネーター、指導員が、参加児童のテンションの上下をコントロール出来ているため、教室運営にメリハリがあり、参加児童も楽しく教室に参加できている。
- ・指導員は、子育てを終了し、子供の指導に先輩の立場から指導助言できる経験豊かな人材が揃っており、保護者の信頼が厚い。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・「大事な事は小さな声で話す」が参加児童に浸透しているため、プログラムの開始と終了、場面の切替がスムーズに出来ており、講師、参加児童が気持ち良く参加できる環境づくりを行っている。
- ・コーディネーター、指導員が、お迎え時の保護者とコミュニケーションを図り、子供の様子を伝える以外に、地域行事、イベントなどの紹介も行っており、放課後子供教室を通じての、地域との連携も積極的に図っている。

## 事業を実施して

- ・講師、指導員共に、子供たちの父母より年長者が多く、核家族で生活している子供は、言葉遣いや接し方を自然と身につけている。
- ・子供教室以外でも子供たちから指導員に声をかけるようになった。地域で子供たちの社会性を育むことに役立っている。
- ・毎年の夏休み前には、地元の講師に盆踊りを教えてもらう。地元の夏祭りでは、子供教室の子どもたちが、率先して踊りの輪に入り、地域の人に笑顔振りまき、絆づくり<sup>きずな</sup>に貢献している。
- ・工作では、1年生から6年生まで年齢に関係なく、一人ひとりの努力や工夫が見られたり、お手伝いできたり、他の作品を誉め合ったり、毎回嬉しい場面に接することができ、指導員のやりがいとなっている。
- ・コーディネーター、指導員が、学校と地域の間に入って活動しており、子供教室を通じて、地域住民の学校への理解が進んでいる。

## その他

- ・コーディネーター、指導員は、「この仲間と出会えたことが私の財産」と互いに感謝しあい、理解しあい、抜群のチームワークで教室を運営している。



竹細工



茶道体験



エアロビクス

# 子供たちが技能を持った地域の方々から文化活動や運動技能を学びます

## 愛知県高浜市

### 活動名

翼小学校土曜クラブ

### 関係する学校

高浜市立翼小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		1人	24人	14年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室		コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- 平成14年開校当初、学校5日制が始まったばかりで、土曜日に休めない保護者が多く、子供の土曜日の居場所づくりが求められた。そこで、PTA活動の一つとして、「土曜クラブ」グループが立ち上げられ、いくつものクラブが開設されたのが始まりである。
- 対象はクラブによって異なるが、原則、翼小学校全ての児童としており、企画によっては、親子でも参加でき、年度初めに参加者の募集を行っている。
- 平成26年度は、当初から13年続く、剣道やフルートの他、家庭科が年間を通して、習字、陶芸が短期間で開催されている。
- 剣道クラブは、毎週土曜日の校内での活動にとどまらず、近隣市町村で開催される剣道連盟の大会に出場を目標に活動している。
- フルートクラブは、丁寧な少人数指導を受けることができ、ミニコンサートに向け練習をしている。
- 家庭科クラブでは、家庭でも実践できるように、材料の仕込み、器具の使い方、調理、盛り付け等基礎基本を学んでいる。
- その他、PTAよろずグループ14名が中心となり、工場見学、アイススケート、親子防災訓練をしたり、地域の技能を持った方々を講師として招くなど特別企画を実施している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

剣道クラブは、高浜市剣道連盟の協力の下、初級コースと上級コースに分かれて指導され、上級者は、昇級や大会を目指している。フルートクラブは、11月の学芸会と年度末のミニコンサートで練習の成果を披露している。家庭科クラブは、毎年テーマを設けて行っているが、今年度は、「お弁当づくり」である。習字教室は、書き初め会前の1か月実施している。習字を習い始めた3年生が多い。陶芸教室は、陶芸心理療法士の指導の下、親子で作品作りを楽しんでいる。特別企画として、近年では、工場見学、アイススケート、ミニオリンピック、親子防災訓練、流しそうめん等を実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 剣道は、当初から校内の剣道大会を開催している。また、フルートクラブは、校内学芸会で演奏したり、ミニコンサートを開催したりしている。大会の場や演奏会を独自に設け、参加者の意欲を高めている。同時に、保護者に成果を見ていただく機会にしている。そうした企画には、保護者の支援を得ることができていて、運営もスムーズにできている。
- 家庭科クラブで作った料理は、弁当箱に入れ、家に持ち帰り、家族に喜んでもらうことによって、参加者の意欲を一層高めている。
- 習字教室は、書き初め会やその展示・表彰が、活動意欲につながっている。

## ● 事業を実施して

- 上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を目標にするなど、異学年交流ができるようになった。
- 家庭科クラブは、市内の優れた食育活動を表彰する「カワラッキー賞」を受賞し、地域の食育活動の一つとして貢献している。
- 剣道クラブは、近隣市町村で開催される剣道連盟の大会に出場するなど、活動を通じて市内の方々だけでなく、他地域の子供たちとの交流も深めることができるようになった。
- 何年も継続することによって、子供たちはその技能を高めるばかりでなく、演奏会や試合のような緊張する場面を乗り切ることで、たくましさを身に付けてきている。
- また、礼儀作法を学ぶ場としての他、技能を持つ大人たちの生き様に触れ、子供たちは感化されている様子が覗える。

## ● その他

- 年度末に、新規クラブを保護者や地域の方々に募集しているが、毎年、応じてくださる方がいて、土曜クラブの活性化につながっている。



剣道クラブ



フルートクラブ

# 「子供に地域の良さを伝え、子供の安全を守り、教育環境を整える活動」

## 三重県津市

### 活動名

村主小学校 学校サポート隊

### 関係する学校

津市立村主小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	113人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

基本データ

活動の概要

### (1) 組織・運営について

◎村主小学校学校サポート本部 (コーディネーター、サポート隊各部代表、関係団体代表で組織)

○学校サポート隊・・・安全部、環境部、図書部、達人部、学習支援部

○中朗会 (地域老人会)

○村主公民館

○村主地区地域安全部会

### (2) 活動状況について

◎村主小学校学校サポート本部・・・学校サポート隊の活動全体について調整

○学校サポート隊

・安全部・・・登下校の見守り、緊急時の通学路の確認と登下校の見守り

・環境部・・・除草、清掃、花壇づくり

・図書部・・・朝・昼休みの読み聞かせ、図書館整備

・達人部・・・クラブ活動、教科における講師

・学習支援部・・・教科学習の支援、校外学習の引率支援

○中朗会・・・グラウンドゴルフ、昔の遊び、ふれあい活動 (もちつき大会)

○村主公民館・・・連携講座 (ふるさと講座・平和学習)

○村主地区地域安全部会・・・村主小学校区の安全について月1回 (毎月5日) に開催

### (3) 経緯について

平成 18 年 図書ボランティアによる読み聞かせ開始

平成 19 年 9 月 学校サポート隊「安全部・環境部・図書部」発足

平成 22 年 学校サポート隊「達人部」発足

平成 24 年 学校サポート隊「学習支援部」発足

現在に至る

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・公民館講座との連携 (ふるさと講座)
- ・地域との連携による学校行事の実施 (学校サポート隊との対面式、ふれあい活動 (もちつき大会))
- ・健康づくりの推進 (はだしの生活)
- ・読み聞かせや読書環境の充実のための学習支援
- ・社会科・理科・生活科・音楽科・家庭科・総合的な学習の時間等による指導や学習支援
- ・除草作業・花植え等の環境整備
- ・児童の登下校における安全見守り支援
- ・学校サポート隊と村主地区地域安全部会との連携

### 【実施に当たっての工夫】

- 本部長が全体を統括しており、各部の部長、他団体の長と調整を行いながら進めている。
- 各代表同士が交流する場がある。
- ・学校サポート隊代表者会を行う。
- ・村主地区地域安全部会には、地域安全部会長はもとより、学校サポート隊本部長・学校サポート隊安全部長・中朗会会長・公民館長などが集まる。
- ・学校サポート隊と児童との対面式を行う。その後、サポート隊の隊員の交流会と1年間の活動内容や予定について確認する。
- ・ふれあい活動 (もちつき大会) などの交流活動の場で、児童との交流、隊員相互の交流を図り、学校サポート隊への児童の理解、各部間の活動の交流を進める。



サポート隊と児童の対面式



ふれあい活動 (もちつき大会)

## 事業を実施して

- ・学校サポート隊の活動のおかげで、地域の方と子供たちとの交流の機会が増え、世代を超えたつながりができ、子供たちのコミュニケーション能力の向上と豊かな人間関係・社会性を育むことができた。
- ・地域の方々とのふれあいを通して、児童一人ひとりがより深く地域と関わり、地域を愛する心を育むとともに、保護者や地域の方々から信頼される学校づくりにつながることができた。

# 地域の人々に支えられて、みんなで学び、みんなでのびのびと遊んでいます。

## 三重県桑名市

活動名

まほろば教室

関係する学校

桑名市立多度青葉小学校区

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	32人	114日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		図書館、図工室、校庭、体育館		19年度	無
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

コーディネーターを中心に地域の人々の参画を得て、火・木・金曜日の放課後に学習や体験活動を行っている。活動の内容は、自主学習(宿題)及びスポーツ、折紙、カプラ、ゲーム等、スタッフに見守られたり、教えてもらったり、交流を深めている。

子供たちが安心してすごせる場所を期待する地域の要請を受け、平成19年からスタートした。安心・安全な居場所として、学習やスポーツ・文化活動を通じ、地域の人たちと交流を図ることによって、心豊かで健やかに育まれる環境作りを進めている。

平成23年度に、やまびこ教室(多度西小)とまほろば教室(多度南小)が統合したが、統合後もそれぞれの地域との結びつきを無くすことなく、引き続き大切にしながら実施している。統合する前から毎年100回以上の教室を実施している。統合後もスタッフや保護者、地域住民のバランスのとれた構成となっている。

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 子供たちの自主的な学習、体験活動を尊重し、保護者・地域の人々が見守り、交流できる場をつくっている。
- 子供とともに自主学習(宿題)やスポーツ(サッカー、バスケットボール、一輪車、バドミントン)、文化的な活動(折紙、カプラ、ゲーム等)の指導をとおして交流の場となっている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- スタッフが子供たちに寄り添って、ともに活動したり、体験したりするよう交流・つながりを大切にしている。

### ● 事業を実施して

- 子供たちにとって安全・安心な機会が提供され、学校と地域の深い結びつきを大切にしたい取組がなされてきており、保護者から高い評価を得るとともに、まほろば教室が無くてはならないものになっている。

自主学習



宿題できました

自主活動



スタッフと一緒に



何ができるかな



みんなと宿題楽しいな



# チャレンジ!ふるさと学習 わたしたちの加太再発見 ～つむぎ活動とともに～

## 三重県亀山市

### 活動名

つむぎ学校運営協議会

### 関係する学校

亀山市立加太小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成24年4月1日	12人	40人	5学級

### 活動の概要

- 概要(平成25年度の取組)
  - (1)組織・運営について
  - 役員会:年3回開催。学校の抱える教育課題についての話し合いや運営協議会での協議事項の検討を行った。
  - 運営協議会:年3回開催。学校経営方針や学校評価についての話し合いを行った。学校と地域との連携(コーディネーターとしての事務職員による連絡・連携)についても協議した。
  - 各専門部会:必要において適宜開催。年間活動計画の立案や各行事の企画・運営について検討を行った。
  - (2)活動状況について(各専門部会による行事の実施)
  - ふるさと部会
    - ・「加太地区運動会」、「加太秋まつり」への参画や「みんなの森」遊び場の整備、川遊び等の実施
  - すこやか部会
    - ・学習ボランティア
    - ・地域生産体験活動(自然薯、もち米、きのこ、梅、さつまいも)食育活動(もちつき、うめぼし加工、とろろそば作り)、教科学習ボランティア(合奏練習等補助)、FBC花壇活動等
    - ・登下校見守り:登下校指導、あいさつ運動、交通安全教室
  - 広報・ふれあい部会
    - ・広報活動(HP、つむぎ通信等作成) ・生涯学習活動(つむぎコーラスの実施)
  - 経緯
    - 平成22年度からコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入に向けて研究をはじめ、平成24年度にコミュニティスクール(学校運営協議会制度)の指定を受けた。平成26年度は指定3年目であり、これまでの成果と課題を基にして、さらに取組を推進していきたい。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 各部会に分かれ、具体的な活動を行う。[平成26年度の取組]
- <体験活動部会>・・・主に、体験学習活動をサポートする。食育活動(生産体験～秋まつりでの販売体験) など
- <ボランティア部会>・・・地域・保護者が各活動にボランティアとして参加し、活動をサポートする。図書ボランティア(読み聞かせ) など
- <健康・安全部会>・・・児童の健康・安全な生活のサポートをする。これまでPTA地区委員が中心となり行ってきた活動で、地域の方と連携をとって活動していくことが特に多い部会である。あいさつ運動(登下校見守り)
- <広報・生涯学習部会>・・・「つむぎ通信」を発行する。毎月、月初めに編集会議を開き、市の広報配布時に加太地区に通信を全戸配布する。広報活動
- <学校評価部会>・・・地域選出のつむぎ役員とPTA本部役員で構成され、学校経営方針の検討、学校評価、教育懇談会の運営をする。

### 【実施に当たっての工夫】

- PTA活動とコミュニティ・スクールの活動を連動させた。
- 親しみやすいよう、学校運営協議会の名称を『つむぎ学校運営協議会』と名付けた。
- 地元出身のコーディネーターを中心に、迅速な連絡調整や新たな人材確保を行っている。

### 平成26年度 つむぎ体制

- ・体験活動部会
- ・ボランティア部会
- ・健康・安全部会
- ・広報・生涯学習部会
- ・学校評価部会

各部会組織体制



活動の様子

## 事業を実施して

### (1) 成果

- 事務職員(コーディネーター)を介して学校と地域との連絡や情報のやり取りがスムーズに行われ、学校への協力体制が生まれてきている。
- 運営協議会での話し合いの高まりや、ウェブサイト、つむぎ通信等による情報発信等により保護者、地域住民の各種行事への参加者や学習ボランティア協力者が増えてきている。
- 行事ありきから、児童にとって何が必要かを大切にして取り組んでいこうとする雰囲気が出来てきた。

### (2) 課題

- イベント型コミュニティ・スクールから学校経営方針の検討や学校評価、学習ボランティア等を中心とした活動へ少しずつシフトしていく必要がある。
- 事務職員(コーディネーター)又はそれに相当する職員の確保が急務である。

### 学校・保護者・地域の連携について

#### (1) 成果

- 学校・PTAによる教育懇談会や廃品回収作業において、多くの地域住民の参加を得て協力体制を拡大することができた。

#### (2) 課題

- 児童数の減少でPTA会員数が年々減少する中、PTA活動において独自性を保ちながら学校運営協議会活動との連携体制をつくっていく必要がある。

# ESD・持続可能な社会、次代を担う彦根の子供を地域で守り育てます。

## 滋賀県彦根市

### 活動名

### 彦根市学校支援地域本部

#### 関係する学校

中学校7(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝) 小学校17(城東・城西・城南・平田・城北・佐和山・旭森・城陽・若葉・金城・鳥居本・鳥瀬・亀山・高宮・稲枝東・稲枝西・稲枝北) 幼稚園3(平田・金城・稲枝東) 保育園3(みづほ・ふたば・ことぶき)

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 27人	ボランティア登録数 682人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

○教員が子供と向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進するもの。さらに、地域住民が自らの経験や知識を生かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化と、地域づくりにつなぐ。7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)で実施する。

#### ■取組の経緯・状況

- 平成20年度から3年間の文部科学省委託事業
- 平成20年度 東・稲枝 2中学校区で事業が始まる。
- 平成21年度 東・西・鳥居本・稲枝 4中学校区に拡大
- 平成23年度市の事業(国・県・市1/3ずつ負担) 市内全7中学校区で実施(市内全小中学校24校で実施)
- 平成24年度 市内7中学校区地域教育協議会
- 平成25年度 市内7中学校区地域教育協議会

- ・(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)・予算 4,583,000円(補助金3,055,000円)
- ・H25.26年度の取組重点(継続)地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・実行委員会の開催(年3回) 構成委員:15名(中学校長、地域コーディネーター)+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹) 8月2日事業説明・実践交流 11月28日研修会・実践交流 3月4日実践のまとめ・振り返り
- ・学校訪問 11月7中学校区訪問
- 平成26年度 市内7中学校区地域教育協議会 ESD持続発展する事業展開(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000円(補助金3,075,000円)
- ・実行委員会 ・実践交流会(研修会) ・学校訪問

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 東中学校区【従来型】○3小学校での登下校見守り、安全指導。小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備○夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援○放課後の学習支援(11月～3月)○課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助○中学校の部活動支援○地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発○その他学校のニーズによる支援活動
- 稲枝中学校区【いじめ対応型】○地域支援協議会の開催。ボランティア募集や広報活動。広報(いなっす)発行○支援ボランティアの交流会○保幼小中学校で、読み聞かせボランティアの活動推進(読み聞かせ研修会)○登下校時の安全指導○畑や花壇の栽培支援、中庭の剪定等の支援○中学校の部活動指導支援○各小学校の地域学習・体験学習の活動支援 ○いじめ対応は、登下校の見守り、部活動、地域学習、学習活動時に、いじめ防止の視点で児童生徒を観察し、いじめの芽を摘む声かけや学校との連絡・連携をとる。

### 【実施に当たっての工夫】

7中学校区がそれぞれ、地域協議会を開催し、計画・立案・実践を展開し、各校区の特徴・各校のニーズを生かした支援活動を展開している。学習支援活動では、各中学校で、地域の教員OBや学生の参画により、無理のない形で、学習支援を継続している。地域の学習教材を生かした活動支援も充実し、彦根城ウォークラリーや中山道長距離遠足など、学校行事・体験活動への支援も続けている。平成25年度からのいじめ対応型については、ボランティアによる児童生徒の観察や声かけ、教員との連絡・連携などにより、子供たちの仲間づくり、安心感づくりにつながっている。各校区の広報誌やチラシも充実しており、様々な情報を発信している。彦根市の実行委員会では、7中学校区の情報を交流することで、互いの実践のよさを認め、また課題の提示と課題解決を協議することで、さらなる本事業の充実を図っている。県教委の本事業担当者の講義を組入れ互いに学び合うこともできた。市教委本事業担当は秋に学校訪問をし、それぞれの校区の取組状況を把握、成果と課題についてとりまとめ、実行委員会で話題提供する。年度末の実践事例集も24小中学校に執筆依頼し作成、ポスターとともに発信した。

## ● 事業を実施して

- 成果○全小学校、中学校で取り組むことで、地域住民が、学校内外で、子供と接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。○地域コーディネーターが中心になり、定期的に広報活動やチラシ・ウェブサイト等を作成することで、子供やボランティアの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。
- 課題○地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発○事業を支える支援ボランティアの確保○人材バンクの整備

## ● その他

彦根市では、ESD(持続発展教育)・持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・生かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成25年度末の彦根市社会教育委員の会議からの提言の中でも、本市の学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールを視野に入れた取組についても検討していく。



琵琶湖岸クリーン活動



放課後学習支援



# 児童の言語活動の向上を中心に、学習活動や学習環境への支援を行っている。

## 滋賀県長浜市

活動名

速水小学校学校運営協議会

関係する学校

長浜市立速水小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	300人	20年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成21年12月1日	7人	269人	12学級

活動の概要

学校支援地域本部事業を通して高まった地域の学校支援の力を引き継ぎ、本協議会の活動を始めて、今年で5年目となる。本協議会においては、年間8回程度の会議や学校関係者評価を通して、学校教育活動や児童の実態について話し合い、学校への提言を行っている。また、委員と学校職員との懇談会や授業参観を行ったり、他府県等からの学校訪問の受け入れや活動発表等を年に数回行ったりしている。

具体的な取組は、以下の通りである。

○ボランティア活動委員会

学習活動と学習環境整備への支援を中心に、各種のボランティア活動をしている。本の読み聞かせや登下校の付き添い活動等の定期的なボランティアの他に、年間130回程度の個別のボランティア活動を行っている（延べ参加人数は、500名程度である。）。

○家庭・地域連携委員会

児童の善行奨励活動や家庭学習の向上を目指した活動、学習環境充実のためのベルマーク及び使用済みインクカートリッジの収集（収益でボール等を購入）を行っている。また、「協議会だより」を年数回発行し、啓発活動等も行っている。

○明日の速水小を考える委員会

講演会等の協議会主催行事の企画運営等を行っている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

☆言語活動の充実、特に、本に親しみ学校生活を豊かに送れるよう支援するのが活動の特徴である。

○詩の暗唱活動

学校は、詩の暗唱活動と群読発表会を数年来行っており、毎週月水に暗唱確認を行ったり、出演等で発表会に参画したりしている。

○「えほんのひろば」と「おはなしライブ」の開催

3日間、学校の和室に絵本約300冊を並べて、児童や保護者に自由に読んでもらったり、その場で読み聞かせを行ったりしている。また、児童書作家を招いて、児童が生でお話を聞く機会をつくったりもしている。

○本の読み聞かせ活動

学校の朝読書の時間に、週3回割り当てに従って各クラスへ読み聞かせに回っている。また、学期に1回ずつ、全校児童を体育館に集めて、大型絵本やペープサート、人形を使った読み聞かせも行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・ボランティアに学校に来てもらったら、活動後に授業参観等で児童の様子を見てもらったり、子育て座談会を開いたりする。
- ・休み時間等に合わせて活動を行い、児童も一緒に参加できるようにする。
- ・新入児のために、幼稚園児、保育園児及びその保護者等も参加できる場をつくるようにする。
- ・自分たちも楽しめる活動を考え、継続することに力を入れる。

## 事業を実施して

- ・児童の学習環境や学習活動を充実させ、学習意欲を高めることができた。
- ・保護者や園児保護者及び地域の声、委員の考え等を学校に届けることができ、教育活動に生かされた。
- ・「学校運営協議会だより」を年5回発行するなどの広報活動により、地域に学校教育の内容等を発信できた。
- ・本協議会主催の行事や各種ボランティア活動及び学校訪問等で、実際に多くの人に学校の教育活動に触れてもらうことができた。

## その他

本協議会の活動テーマである「本（詩や物語）に親しみ、学校生活を楽しむ子」を目指して、児童が明るく仲良く学校生活を送れるよう、今後も学校教育活動に参画していきたい。



えほんのひろば(左) 全校お話し会(右)



詩の暗唱確認(左) ボランティア後の座談会(右)

# 子供の成長を見守り、地域も育つ。 そんな「おらが学校」をめざす活動。

## 滋賀県栗東市

### 活動名

栗東中学校支援地域本部  
(栗中サポーター)

### 関係する学校

栗東市立栗東中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 28人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

#### 【活動の経緯】

- 平成20年1月「生徒を見守る地域の目を学校に」として「栗中改革サポーター」として結成。生徒指導の観点から校内の見回り、清掃などを開始。
- 平成20年度～平成22年度「文部科学省学校支援地域本部事業」を受け、「栗中サポーター」と名称を変え、活動も図書室支援や学校行事支援などを増やし、多くの方々からの支援を呼びかけ、活動を発展させる。
- 平成23年度～平成26年度(現在) 国県市の補助事業として「栗中サポーター活動」を継続させ、現在28名の地域住民、保護者が登録し、日々教育支援活動を行う。

#### 【活動の概要】

- [学習環境支援]美化活動を兼ねた校内巡回による学習活動の見守り(週一回程度)
- [図書室支援]蔵書登録作業、書籍整理などの図書室運営の支援(月2回程度)
- [環境整備支援]剪定、草刈りなどの環境整備作業(月4回程度)
- [通学マナーアップ]登下校時の危険箇所での立ち番(全学校課業日)
- [学校行事支援]校外学習などの学校行事支援(年5回程度)
- [栗中コミュニティガーデン]生徒との協働運営菜園での野菜栽培と地域への販売
- [生徒との協働活動]生徒会、部活動との協働実施の地域清掃等

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 【地域と職員の協働活動】** 本校の特徴的な取組の1つ「学習環境支援」では、授業中に校内をサポートが巡回し、授業の様子を窓越しから参観している。また、巡回時には校舎内外での破損状況や修繕必要箇所などもチェックしている。活動後は栗中サポーターから学校側に学習の様子や校内環境の報告があり、学校が対処すべき事柄に迅速に対応することができている。このように地域と職員が連携し合い、日々の学校環境の向上に努めている。
- 【地域と生徒との協働活動】** 校内菜園「栗中コミュニティガーデン」では、種まきや苗植えから生徒と実施し、収穫した野菜を地域のJYAや、2年生職場体験学習で生徒が運営する「起業体験本舗」で販売している。また、地域清掃活動として、栗中サポーターと生徒が小グループとなり、近隣の公園や道路・地域清掃活動をしている。栗中サポーターと生徒が1つの取組を築き上げる機会をもつことは、生徒に社会性や勤労観を育成する一助となっている。また、栗中サポーターが学校活動に関わることで、地域住民の豊かな経験や技能を伝授する機会となり、地域の人材活用としての成果も見られる。

### 【実施に当たっての工夫】

- 栗中サポーターが利用する「サポータールーム」を校内に設置している。栗中サポーター専用のスペースを校内に設けることで、学校内に栗中サポーターの位置づけを明確にしている。また打合せや話し合いの場、休憩場所として活用し、職員と栗中サポーターや栗中サポーター同士の交流の場となり、人間関係が深められている。
- 日々の活動を校内の掲示板や地域・保護者に配布する栗中サポーター通信で定期的に紹介している。これらの広報活動を通じて、栗中サポーターの活動状況を目に見える形で地域に広められている。さらに、広報物を目にした地域住民が栗中サポーターに登録いただくこともあり、栗中サポーターの輪が広がるきっかけともなっている。
- 学校サポーター同士の交流の場、話し合いの場、休憩場所として、栗中サポータールームを設置し、活用している。
- 掲示物、栗中サポーター通信等を通し、栗中サポーターの活動が目に見える形で地域や保護者に知らせるようにしている。
- 清掃活動や地域のゴミ拾いや畑での野菜栽培等、生徒とともに活動する機会を積極的に取り入れ、生徒とのふれあう場面を増やすようにしている。

## ● 事業を実施して

- この活動により、子供たちの表情に明るさが増し、積極的にあいさつをするようになるなど、生徒の「心の教育」面で大きな成果を挙げている。
- 頻りに地域の方が学校に出入りしていただくことで、学校の現状をよりつぶさに知っていただくことができ、いろいろな面で支援や協力を得られ、開かれた学校として学校運営していくうえで不可欠な事業として位置付けてきている。

## ● その他

- 本活動をより地域に浸透させていくために、地域の事業所にも協力を呼び掛け、賛助金を出していただいたり、起業体験やチャレンジウイーク(職場体験活動)などで支援・協力をしていただいている。



栗東市栗中サポーター通信

# 学校評価を生かし学校・家庭・地域が互いに高め合う コミュニティ・スクール

## 京都府京都市

### 活動名

藤城小学校学校運営協議会

### 関係する学校

京都市立藤城小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成17年10月28日	25人	402人	16学級

### 活動の概要

○保護者、地域住民の積極的参加による学校教育の改善・充実を推進するために、平成17年10月に設立。様々な形での協力を参加から参画にまで高め、組織づくりを進めることは、学校教育だけでなく、豊かな暮らしやすい地域づくりにつながるものと考え、以下の部会を中心に活動を進めている。

#### ◇教育情報化部会

校区の豊かな自然や地域素材、人材を生かすために、学校が編成したカリキュラムに沿って、ゲストティーチャーや学習ボランティアの派遣など、必要な地域サポートについて話し合い、具体化を行っている。

#### ◇ふれあい活動部会

様々な地域団体が行っている学びや遊び、体験活動を調整し、年間計画を前年度中に作成し、互いに協力し合える体制づくりを確立することで、子供たちの休日により豊かになるよう取り組んでいる。

#### ◇安全環境部会

PTAや地域の安全委員会など様々な組織が連携し合い、子供たちの見守り活動をはじめ、安全マップづくりや見守り隊シールの配布など、地域ぐるみで活動を進めている。

#### ◇環境整備部会

子供たちが質の高い豊かな空間を自ら作っていくことが学校に対する帰属感を高め、さらに問題解決能力や表現力、行動力を育むことにつながると考え、総合的な学習や放課後の時間に子供たちとともに鉢植や花壇の手入れをしたり、花文字や堆肥施設の整備を行ったり1年を通して自然環境の整備を行っている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 4年生の総合的な学習「安心・安全・藤城キッズ」で、子供たちは地域の安全な場所・危険な場所を歩いて調べる等の情報収集をして防犯ガイドブックを作成する。その際、保護者・地域の方が授業支援ボランティアとして、調査の視点を与えたり、実際に活動を見守って助言したりしている。
- 学校評価による子供たちの実態をもとに、規範意識やコミュニケーション能力を実生活でも活用できるよう、地域行事(夏まつり・学区民体育祭・PTAオータムフェスタ・総合防災訓練・もちつき大会)で、大人たちと一緒にスタッフの一員として活動するための支援を行っている。
- 高度情報化社会に対応した学校・地域づくりのために、情報モラルについて広報を行ったり、学校運営協議会・PTA・学校共催で研修会を行ったりして啓発活動を行うことにより、インターネット活用上の注意点など子供たちを取り巻く情報環境を理解し、対応力を高めるための取組を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会を開催するに当たっては、会長・各部会長・学校が事前に協議し、話し合いのテーマや重点項目(学校評価に関することなど)について確認している。そして、各部会での話し合いの時間を十分に確保し、課題を共有できるように、それぞれの部会長がテーマに沿って話し合いを進めることにより、円滑かつ、有意義な話し合いができるようにしている。また、それぞれの活動を振り返る機会を設定し、次の活動に生かせるようにしている。
- 子供たちが主体的に取り組めるように、授業支援の前には、単元の学習の中で子供と授業支援ボランティアが関わる機会を設け、学校からは支援者に対して事前に授業のねらいを伝えている。防犯マップづくりのために各グループと一緒に行動した際にも、支援者はすぐに答えを教えるのではなく、課題を自分で発見できるように支援することを心がけて子供たちと関わっている。
- 地域人材をリスト化することで、必要に応じて豊富な人材を授業に生かすことができるようにしている。また、大学教授や区役所の支所等とも連携し、教育効果をさらに高められる工夫ができないかを念頭に置きながら、取組を進めている。

## ● 事業を実施して

- 総合的な学習をはじめ、各教科において地域の人材が活用され、子供たちの学習に役立つだけでなく、地域にとっても子供たちと共に学ぶ良い機会になっている。
- 子供たちは、地域のイベントに児童スタッフとして大人とともに活動することで、コミュニケーション能力や積極性などを高めることができたり、また子供同士で協力することもできていた。
- 保護者・地域の方からも「人と人とのつながりを広げる各種団体の行事に子供たちや先生が参画していることで藤城学区の目指す地域づくりに大いに貢献している。」「地域行事の中で子供たちがスタッフとして活躍し、どの行事も盛り上がる。」「大人も児童に対して丁寧に接することを通して、自らの活動や生活を振り返り、見直すことにつながっている」等の前向きなご意見をいただいている。



学校運営協議会での「熟議」の様子



夏まつりで子供スタッフとして活動している様子

## ● その他

「藤城やまざくら通信」…学校運営協議会として毎月作成している広報誌。平成27年1月時点で第152号まで発行している。学校教育を核とした豊かな地域づくりのため、学校行事や地域団体等の活動情報について掲載し、校区内全戸に配布している。

# 地域の子供たちのまなびを支援 ～自学自習の習慣や学力の定着を図る～

## 京都府京都市

### 活動名

紫野小学校放課後まなび教室

### 関係する学校

京都市立紫野小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の実績)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	41.3人	137日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		なかよし室(放課後まなび教室専用室)		20年度	有
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- 放課後における児童の自学自習を中心とした学習習慣の定着と安心安全な居場所の充実を図るため、平成20年度に開設。
- 開設当初は週3日の実施であったが、平成24年度から週4日実施している。(月、火、木、金曜日)
- 年々登録児童数が増加しており、平成26年度は全校児童数の半数を超える児童が登録している。
- 教室にきた児童は参加カードを提出し、まず宿題や自分の課題に取り組んだあと、教室で用意したプリントで学習し、それが終わると読書や折り紙などに取り組んでいる。
- スタッフは、地域の元PTA役員で構成されており、研修会に参加するなど資質向上にも積極的に取り組んでいる。
- 地域の実行委員会やスタッフ会議を定期的に行い、安定した教室運営を行っている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 教室にきた児童は、スタッフにきちんと挨拶するとともに参加カードを提出し、宿題や自分の課題に集中して取り組んでいる。
- 宿題等を仕上げた児童は、スタッフが学年ごとに準備しておいたプリントで自主的に学習に取り組んでいる。
- 自主学習を終えた児童は、引き続き、プリント学習、読書や折り紙などに取り組んでいる。
- 折り紙教室も実施しており、立体的な折り紙作品を作成している。
- スタッフは子供一人一人に積極的に声をかけて活発なコミュニケーションを図っており、たいへん明るい雰囲気の中で児童が活動している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 教室内に辞書類をはじめとする図書を配架したり、地図を掲示するなどして、学習に適した環境づくりを行っている。
- 教室で仕上げたプリントや折り紙作品などを収納できるよう、登録児童全員の個人別の棚を設置している。
- 課題を終えた児童に好きなシールを選ばせて配付している。
- 年度始めに保護者説明会を実施し、十分な理解を得たうえで登録を受け付けるなど、丁寧な対応で保護者の信頼を得ている。
- 学校の教頭、教務主任が放課後まなび教室を担当し、放課後まなび教室実行委員会やスタッフ等との連携を確実にし、円滑な運営が行われている。校長、教頭をはじめ学級担任も放課後まなび教室に顔を出し参加児童の様子を把握している。



普段の活動の様子



教室での成果を収めた登録児童全員の棚



図書を配架するなど学習環境を整備

## ● 事業を実施して

- 宿題を確実に仕上げることが習慣化され、宿題以外の発展的な学習に取り組む姿勢が見られ、学校全体の学力向上に寄与している。
- 児童とスタッフ、保護者がお互いに顔見知りとなり、良好な人間関係が構築され、学校外においても声をかけあうなど地域で子供を育てる環境づくりに寄与している。
- 児童とスタッフの信頼関係ができており、児童は約束事がしっかり守れ、活動中も集中して取り組んでいる。

## ● その他

- 「放課後まなび教室」の取組について保護者、地域住民の理解が深まり、より一層地域・学校・保護者の連携が強化され、参加児童も年々増加している。

# 地域の力を子供たちのために! 地域ぐるみで包み込み、支え合います!

## 京都府舞鶴市

### 活動名

志楽小学校コミュニティ・スクール  
推進委員会

### 関係する学校

舞鶴市立志楽小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	3人	121人	19年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成19年度から2年間、文部科学省「コミュニティ・スクール推進事業」の研究指定を受け、平成20年11月6日研究発表会を開催して、研究の成果を府内全域に向け発表した。

その実績を受けて、平成23年度には「志楽小学校支援地域本部」(国庫補助)として、コーディネーターを中心とした学習支援・登下校の安全確保・環境整備・読書活動支援等の事業を展開した。

コミュニティ・スクール推進事業の指定を受けて以来、地域子育て支援協議会・PTA・民生児童委員会・老人クラブ等、地域の各団体代表者とともに「コミュニティ・スクール推進委員会」を立ち上げ、農園クラブ、ダイヤモンドパトロール隊、図書ボランティア等、校区の高いポテンシャルを学校教育活動に取り入れるシステムを構築している。

現在は、コミュニティ・スクールの指定を受けていないが、開始年度から継続して開催している「志楽小学校コミュニティ・スクール推進委員会」を定期開催し、3人のコーディネーターを中心として、年間120回を超える取組内容の計画、状況把握、児童・保護者アンケート結果分析、評価等を行い、学校・地域・家庭による「共同事業・共同授業」に取り組んでいる。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

農園クラブ・・・2年生活科のミニトマト、サツマイモ、4年理科のヘチマ、ヒョウタン、5年理科のカボチャ、6年理科のジャガイモ、特別支援学級の生活単元学習、総合的な学習の時間のサツマイモ、ミニトマト、トマト、キュウリ、カボチャ、タマネギ、もち米の栽培の指導、世話の支援(4月から10月にかけて週1~2回の活動)

ダイヤモンドパトロール隊(見守り隊)・・・全授業日の登下校指導(付き添い、定点での指導)、1、2年生活科の町探検等の見守り等(76名)

図書ボランティア・・・朝読書時の読み聞かせ(週2回、各2学級)

老人会・・・竹細工教室、しめ縄教室、1年生活科の昔遊び

志楽ダイヤモンド協議会・・・通学路の草刈り、花いっぱい活動、環境整備

志楽地域子育て支援協議会・・・大正琴教室、ウォークラリー、お茶・お花教室等

### 【実施に当たっての工夫】

年度当初の「コミュニティ・スクール推進会議」の中で、「共同事業・共同授業」の年間計画の確認、各団体の事業・活動についての共通理解を図り、さらに年間の学校支援活動について討議する。そのことにより、より効果的な支援活動を推進する。

また、定期的な推進会議を開催したり、学校評価結果や児童・保護者アンケート結果について確認したりすることで、学校の実態に応じた活動推進につなげる。さらに、ボランティアの方々へ学習参観の案内をしたり、感想交流の機会を設けたりすることで、児童の実態に応じた活動を推進する。

学校支援の活動や、各活動における児童の様子等については、通信等で地域全体に広報をする。



農園クラブの方々との田植え



図書ボランティアの方々による読み聞かせ

## 事業を実施して

地域の各団体が、「学校を支援する」「地域の子供たちのために動く」活動を進めることを通して、地域の「つながり」を深める場となっている。

また、学校は、開かれた学校づくりを進めることにより、学校が活性化し、学習活動の充実、児童の安心・安全な居場所づくり等につながっている。

さらに、児童は地域の方々と関わる機会が増え、「地域の一員」としての意識も高まった。

# 学校、家庭、地域が連携した「子供と地域が輝く」体験活動

## 京都府南丹市

### 活動名

富本小学校・わくわくサタデー

### 関係する学校

南丹市立富本小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		1人	62人	24年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室		コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール		指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

- ・富本小学校は、平成24・25年度「土曜日を活用した教育の在り方実践研究事業」の指定を受け、全教科・全領域において学校・家庭・地域社会の連携協働に取り組むこととなった。
- ・そこで、少子化が進む中、学校での学習活動に加えて、豊かな人間形成のために児童のより豊かな学びや体験を重視し、「生きる力」を育成するため、平成24年度に学校と連携して「土曜活用」推進協議会を立ち上げ、地域人材や活動団体等の協力を得て、様々な取組を進めることとした。
- ・地域の方々との体験活動を通して、児童の社会性や周りと繋がる力が向上するとともに、家庭での親子の会話が増え、家庭の教育力の向上にもつながっている。
- ・本校は、近隣2小学校との再編に向けた取組も展開しているが、地域の方々も「学校を支援したい」という思いが強く、ボランティアも口コミで広がるなど、地域の結びつきの強化にもつながっている。
- ・土曜日に学力向上に視点を充てた活動・行事を行うことで、児童の学習意欲が向上するとともに、従来平日に行っていた行事等の時間を教科指導にあてることができ、学校の実態に応じて、振り返りや繰り返し学習等の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる時間や思考力・判断力・表現力をはぐくむ時間、主体的に学習に取り組む態度を養う時間等、学力向上に向けた創意工夫ある教育課程を推進しやすくなっている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の指導者やサークルを招聘して、地域に根ざしたもの、身近で役に立つもの、周りの人と楽しめるものを中心に、児童の興味・関心を高められる体験活動を行っている。
  - 三味線、茶道・正月飾り(郷土の文化を継承するもの)
  - グランドゴルフ・ヒップホップダンス・料理教室(親子で楽しめるもの、体力テストやタイムトライアルへの意欲や、技術の向上につながるもの)
- ・保護者や地域の方等、幅広い参加者の中で行う学習発表会
  - 「ときめき広場」・・・各学年の学習発表会、中学校教諭の専門的な指導による全校合唱
  - 「授業公開」・・・児童の自己肯定感やコミュニケーションの育成にむけた授業

### 【実施に当たっての工夫】

- ・活動の案内チラシ配付時に、児童が関心を持つように時間をかけて丁寧に説明している。
- ・内容が毎回重ならないようにメニューと班編制を工夫している。
- ・低学年児童も含めて、全校児童が参加できる内容を選択している。
- ・中学校の指導者による専門的な活動など、小中連携も含めて地域総がかりの取組を進めている。



生け花教室

## ● 事業を実施して

- ・児童の学習意欲が向上し、他の児童とともに高まろうという姿勢が強まり、平日の授業も活性化している。
- ・教育課程外で実施している場合でも、児童の7割程度が参加し、事業への関心の高さが見られる。学校や教室では体験できない内容が多く、児童からは「もっと、いろいろやってみたい」という声が多く聞かれる。
- ・児童と地域の方々(講師やボランティア)との交流が深められ、校外でのあいさつや会話が増えた。



書道パフォーマンス

## ● その他

- ・学校の再編のため、次年度以降の取組は、さらに広域化し、内容も多彩になることが予想される。

# いきいき家族 ～育て・育む「いきいき」～

## 大阪府大阪市

### 活動名

泉尾東小学校「いきいき」活動

### 関係する学校

大阪市立泉尾東小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	41人	289日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	余裕教室、グラウンド、体育館		6年度	無
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

創立137年の伝統校であり、地域の人々からの愛着も深い。古くからの住宅地の他、千島団地や新しい住宅地もあり、児童数は区内最大である。いきいき活動は平成6年9月からスタートし、地域や学校とも十分に連携しながら進められている。子供たちは明るく活発で、保護者も協力的である。毎日の活動へも多くの児童が楽しく参加している。

いきいきでは、児童相互の触れ合い、指導員との触れ合い、地域の方々との触れ合いなどを重視することで心豊かな子供が育てられるよう努めている。毎日の活動の中では、これらの視点から、触れ合いを深めるような活動の仕方を工夫している。また、特色のある行事も計画し、優れた取組になっている。

活動室は、普通教室1室であり、夏休み期間は100名を超える日もあるので、学校側の理解も得、図書室を活動室として使用している。

平日の活動では、50名前後の参加があり、通常、入室すると宿題や本読みの活動、室内遊びの活動、外遊びの活動となる。安全・安心を第一義に、子供たちにとっての楽しい居場所作りになるように、協力体制をつくりながら、取り組んでいる。

こうした日常の活動だけでなく、触れ合いを重視するという観点で、体験的な活動を経験させることで、子供たちの心の育成につながるよう特別な活動も工夫している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 「特別養護老人ホーム訪問」…地域にある「大正園」を毎年12月に訪問し、クリスマス会を兼ねたお茶会の手伝いをしたり、クリスマスソングを披露したりすることで、お年寄りと触れ合う機会になっている。
- 「わくわくタイム」…月1回の特別プログラムで、工作やお話し会など地域指導員が企画立案し、相互に分担協力しながら楽しく活動を実施している。工作では、指導員がモデルの作成・材料集めをし、お話し会では、お話を選び、主たる話し手になる等の役割分担により効果的なプログラム作りを図っている。
- 「避難訓練」…地震や大雨など近年全国的に災害が多発している。特に、大正区は、海拔0メートル以下であり、南海トラフ巨大地震が発生することに備え、毎年、避難訓練を実施することで児童や指導員の意識を高めている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 団地やマンション住まいの子が多く、ふだんお年寄りとの触れ合いの機会が少ない児童が多い中、お年寄りの方々に関わっていくことで、「いたわり」や「やさしさ」など豊かな心が育てられるよう活動を工夫する。
- 指導員一人一人がプログラム内容を計画立案し、お互いに補い合うことで、指導員の力量向上、指導員相互の協力体制の向上が進むとともに、児童の興味や関心を高めるよう内容の工夫に努めている。工作では、事前に試作や準備を十分行うことで、円滑に活動がすすめられるようにしている。
- 訓練の実施においては、その場面の想定をしっかり行い、意識化を十分図ること、対応についての確認を重視することで、訓練が円滑に行えるよう留意している。



特別養護老人ホーム訪問

## 事業を実施して

- 子供たちは、いきいき活動での様々な体験を通して着実に成長している。特に触れ合いを通して、人とかかわりを深めることで、やさしさやいたわりなど豊かな心が育てられている。
- 活動の一つ一つを指導員の協力体制で計画実施し、主として進行するリーダーと、脇役としてサポートするサブになることなど事前に十分話し合いを進めることで、指導員の意識向上が図られ、力量の向上につながり、充実した活動になってきている。



わくわくタイム…みんなで工作

## その他

「いきいき」活動も20年目を迎え、子供たちにとって楽しい居場所づくりになるよう努めてきた。今後は更なる取組をより一層進めていきたいと決意している。

# 自然や文化に親しみ、豊かな心情を培う活動

## 大阪府大阪市

### 活動名

内代小学校「いきいき」活動

### 関係する学校

大阪市立内代小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	2人	45人	282日	無	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	余裕教室、グラウンド、体育館		6年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

地域の人々とふれあい、自然の変化に目を向けることで多くの支えの中で生活していることに気づいて欲しいとの思いから、次のような活動を実施している。

○地域等との連携及びいきいきパートナーによる活動

・淀川を知ろう(近畿地方整備局淀川河川事務所)(年1回)

・絵本・紙芝居の読み聞かせとマナー指導(いきいきパートナー、月1回)

・グラウンドゴルフ(いきいきパートナー、月2回)

・交通安全・防犯講習会(区役所・警察、年1回)

・学校近隣の紙問屋から提供された用紙を利用した作品作り

○日常及び季節・学期に応じた活動

・自然のお話

・植物の育成と昆虫(チョウ、トンボ、クワガタ)、淡水魚の飼育(ザリガニ、オタマジャクシ、カメ含む)

・稲の栽培(トロ箱を使って)

・季節を感じる催し「集い」、「工作・ものづくり」

・季節・行事の歌

○新たに取り入れた活動

・英語の歌、英語カード遊び ・ 県名の歌(CD)

・音読(紙芝居等) ・ 自分だけの本、図鑑作り

○長期休業中(特に夏休み中の活動)

・外部講師招聘活動

(マジックショー、英語で遊ぼう、フラダンスに挑戦等)

・指導員の企画による活動

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

○自然のお話：身近な雑草や野菜の花を見せたり、学校近くの公園にも出かけたりして、自然観察とお話で、植物や昆虫に目を向け、自然の不思議や命の大切さに気付かせる。理科の面白さも体験させる。

○季節を感じる催し：季節を感じ、昔からの文化を理解するため次の行事を企画している

・集い・・・ひなまつり、ハロウィン、クリスマス会、いきいき歓迎迎会等

・ものづくり・・・季節の自然の材料を使ったものづくり

○長期休業中：子供たちが長時間のいきいき活動でも飽きることがないように指導員が工夫を凝らした企画を活動に取り入れている。

・タオルでワンちゃんづくり ・ シャボン玉大会 ・ 色染め ・ 科学不思議実験

・エコキャップ工作 ・ リトミック体験 ・ 目のストレッチ

・牛乳パック等利用の宿題工作等 ・ ストーリー工作 ・ 水ロケット

### 【実施に当たっての工夫】

・あいさつ、返事、片づけ等の基本的態度を育成する。

・集団でのマナーを育み、学校や家庭で体験しにくい経験をさせる。

・自然や文化に親しみ、豊かな心情を培う活動をする。

以上の目標を基本に活動している。

これらの目標を達成するため、「いきいきパートナーによるグラウンドゴルフとマナー指導」、「生活に欠かせない水源・生き物の宝庫『淀川』を知る」、「植物・昆虫を中心とした自然のお話と自然観察」、「自然の素材を使ったもの作り・工作」等の活動を企画し、実施している。

遊びや活動では、子供たちに内容を決めさせたり、高学年が低学年をサポートする機会を多くして、自主性や仲間作りを大切にしている。また保護者の方に日々の具体的な活動が見えるように、活動室前に写真パネルを展示している。

また、安心と信頼を得るために機会あるごとに、保護者との会話を重視している。



交通安全・防犯講習会



地域の公園での自然観察

## ● 事業を実施して

「自然のお話」の時間では、参加児童は「先生今日は何の話?」と期待を寄せている。見つけた草花や虫を持って来たり、興味も深まっている。

子供たちの喜ぶ顔が、やりがいにつながっている。指導員がそれぞれの経験や特技を生かして活動を計画し、役割分担している。それによりお互いが切磋琢磨し、楽しくやりがいのある活動になっている。また、「もの作り・クラフト工作」では、竹、落ち葉等の自然素材や牛乳パック等のリサイクル用品を利用することにより、材料について学び工夫する力を養っている。近隣の紙問屋から提供された用紙を利用する等、地域との関係性も深まっている。

## ● その他

子供たちは、1～6年生までと学年も違い、学校生活、家庭生活での様々な思いの中で「いきいき」に来ている。「子供たちがいきいきを楽しみにしている」と保護者の方から聞いている。そんな子供たちに寄り添い、少しでも居心地の良い「いきいき」になるように、これからも地域や保護者の方と協力し合いながら取り組んでいきたい。



# 地域全体で子供たちを育む! ～学び・ふれあい・体験をとおして地域から世界へ～

## 大阪府堺市

### 活動名

新湊小学校放課後ルーム

### 関係する学校

堺市立新湊小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	29人	287日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、運動場、体育館		23年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

「地域の子供は地域の宝」を合言葉に、平成23年度に湊西校区自治連合協議会が中心となって運営委員会を立ち上げ、放課後や週末等に学校施設を利用し、学習活動やスポーツ活動、様々な文化的・社会的体験活動を通して、児童の健全育成を推進している。

#### ◎日常活動

平日は入室後各自で学習に取り組み、その後自由時間または各プログラム。長期休業中は、午前・午後それぞれに学習時間を設け、その他の時間は自由時間や各プログラム。【学習】宿題、ワークプリント、漢字学習プリント、読書など

【室内活動】英語活動、ボードゲーム、クラフト、室内レクなど

【スポーツ活動】ボール運動、一輪車、フラフープ、集団遊びなど

【その他の活動】きゅうり・綿花などの栽培活動、自然観察

【社会的体験】地域の方とのふれあい活動(ふれあい喫茶・いきいきサロン・子育て支援サークルなど)

【イベント】キャンプ・小運動会・お誕生日会・クリスマス会など

◎校外活動 長期休業中や土曜日等に年数回実施。

活動の概要

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ①「ふれあい喫茶」や「子育て支援サークル」を訪れ、地域の高齢者や幼児とふれあう機会を設けている。また、高齢者が集う「いきいきサロン」では、子供たちがグループごとに歌やダンス、手話、劇などの出し物を披露することで、地域の方々とのつながりを深めている。
- ②漢字検定試験に向けて、個々に目標を立て、日々、反復学習に取り組んでいる。
- ③歌やゲームを通して英語に慣れ親しんだり、他国の文化に触れる機会を設けている。
- ④定期的なたてわり班での活動を取り入れることで、協調性や高学年のリーダーシップ性を養うことにつながっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・「地域の子供たちを地域全体ではぐくむ」という考えのもと、地域の活動に積極的に参加したり、保護者とふれあうプログラムを取り入れたりしながら、保護者や地域とのつながりを大切にしている。
- ・学習活動やスポーツ活動、様々な文化的・社会的体験活動など、子供たちにとって魅力的なプログラム体験を継続的に取り入れている。
- ◎学校との連携
  - ・学習指導面、生徒指導面において情報交換を密にし、子供への指導・支援に生かす。
  - ・学校の防災非難訓練、防犯避難訓練に参加することにより、ルーム内での安全管理、安全指導の徹底を図る。



英語活動の様子

## ● 事業を実施して

- ・地域の活動に参加することで、「〇〇さんに褒められてうれしかった。」「しんどかったけど楽しかった。」「また人の役に立てる仕事をやってみたい。」などの感想が子供たちから聞かれ、また、奉仕精神や自主性、コミュニケーション能力などが育っている。
- ・たてわりでの活動を定期的に取り入れることで、協調性やリーダーシップ性が育ち、学級や学年の枠を超えて交流する姿が多く見られるようになった。
- ・「英語や漢字への関心が高まっている」、「日常の学習習慣が定着した」という声が保護者から聞かれる。



個別学習の様子

## ● その他

「地域協働型」の特色ある教育推進事業の一環として様々なかたちで地域の方々とのふれあうことで、地域に生きる人々の動きや活動についての理解が深まるだけでなく、年々地域の輪が広がっており、地域はもとより保護者からも高い評価を得ている。

# 地域の総意で支える子供の放課後の居場所!

## 大阪府貝塚市

### 活動名

貝塚市立永寿小学校ふれあいルーム  
(永寿小学校区放課後子ども教室)

### 関係する学校

貝塚市立永寿小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	11人	120日	有
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	永寿小学校ふれあいルーム			19年度	有
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ・子供たちが安全で安心して楽しめる放課後の居場所が必要という校区6町会の総意により、平成14年より余裕教室を活用したふれあいルームにおいて、地域の方と子供たちとの交流が始まった。
- ・主に月・金・土曜日に開催しており、地域ボランティア団体が陶芸、和太鼓、小物づくり、紙すきなど多彩な教室を実施。
- ・放課後以外にも、ボランティアによる授業開始前の読み聞かせや、老人会の方による生活科や社会科の授業支援、子供見守り隊による登下校時の地域パトロールなど、学校支援の活動にも広がっている。
- ・おおさか元気広場(放課後子供教室)と放課後児童クラブとの連携にも力を入れており、日常の活動や冬のお楽しみ会などのイベントに、指導員とともに放課後児童クラブの子供たちが参加し、交流を図っている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の子供たちの実態に基づく居場所の必要性から、「安全で安心して楽しめる放課後の居場所が必要」という校区の6町会の総意により誕生した。
- ・ボランティアそれぞれの特技を生かして、陶芸、和太鼓、小物づくり、紙すきなど多彩な講座を実施。
- ・放課後の活動以外にも、授業開始前の読み聞かせや、生活科、社会科の学習支援、登下校時の安全見守り等、学校支援の活動にも広がっている。
- ・ふれあいルームでの活動の一部に、放課後児童クラブの児童が参加し連携している。
- ・コーディネーターが中心となり、町会、老人会、福祉協議会、まなびーネット貝塚(貝塚市の生涯学習コーディネーター養成講座受講生の集まり)等の支援により事業を実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・誰もが好きなときに入出りできるような居場所を提供している。
- ・子供たちがいつ来ても楽しめるように、各講座において多彩なメニューを用意している。
- ・講座の開設に当たり、コーディネーターが中心となり、地域人材の趣味、特技を生かして子供たちに関わってもらえるようにボランティアを集めることで、多彩な講座を実施することができた。



大人も一緒に楽しんでいます

## ● 事業を実施して

- ・学校と地域が連携協力して子供を育てるといった機運が高まった。
- ・地域の子供は地域で育てるといった環境醸成につながっている。
- ・ボランティアの方からも「子供たちがわいわいにぎやかに楽しんでいます。子供たちがよるこんで作っているのを見ると、私たちも元気になってきます。」と感想をいただくなど、支援者のやりがいにつながっている。



かわいい小物は子供たちに大人気

# 放課後子供教室と放課後児童クラブとの連携で広がる活動と人のつながり

## 大阪府守口市

### 活動名

もりぐち児童クラブ藤田 登録児童室

### 関係する学校

守口市立藤田小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	33人	294日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小学校内専有教室		19年度	有
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

- ・藤田小学校内に設置されている登録児童室は、平成10年10月1日に守口市が開始した「わいわい活動」事業において、設置された児童室である。その後、平成19年度からは、子供たちが安全で安心して過ごせる環境の中で、遊びを通じた異年齢児童間の交流活動を実施し、創造性、自主性及び協調性を育み、健全な成長発達に資することを目的に、放課後子供教室（登録児童室）と放課後児童クラブ（入会児童室）のそれぞれの独自性を尊重しながら連携する「もりぐち児童クラブ事業」の運営を展開している。
- ・両児童室の子供たちは、様々な遊びや地域ボランティアによる交流・体験活動を通じて自由に交流しながら、地域の大人たちとの関わりを経験するとともに、普段は比較的交流の少ない他学年との交流を行う一つの機会として当児童室を利用している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 平日の放課後だけでなく土曜日や長期休業中も活動を実施しており、年間開催日数は294日と充実している。
- 登録児童室（放課後子供教室）は地域実行委員会に運営を委託して実施しており、主任パートナー（コーディネーター）1名、地域パートナー 2名を基本とする。
- 放課後子供教室と放課後児童クラブが同じ日数で実施しており、両方のスタッフが必要に応じて打ち合わせ、情報交換を行うなど、密に連携している。
  - ・日常は、両方の児童が自由に交流
  - ・地域ボランティアにより、交流・体験活動（工作教室、盆踊りの練習、グランドゴルフ等）を実施。
  - ・学校支援地域本部の取組みである水曜日の図書室開放への参加、活動拠点でのお茶体験を実施。
  - ・登録児童室と入会児童室スタッフが協力して見守りを行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・放課後子供教室と放課後児童クラブとの連携を密にするため、両事業に携わるスタッフ同士が密に情報交換を行い、事業の円滑な実施に努めている。
- ・主任パートナーが、連携を通じた参加児童の交流はもちろんのこと、地域の方々との交流体験活動を大切にしており、様々な活動を工夫している。



室内遊び

## 事業を実施して

- ・もりぐち児童クラブ藤田登録児童室のある藤田校区は、本事業を開始する以前から子供たちを地域で見守ることを大切に考える方が非常に多い。そのような地域性に支えられ、自らの得意分野を生かして各種事業に積極的に協力してくれる方が多数おられ、子供たちの興味に合わせた様々な事業が展開されている。それにより地域の方々和孩子たちが顔見知りになり、良好な大人と子供の関係が構築される端緒となっている。以上のことから、本事業が地域における子供たちの健やかな発達に大きく寄与していることは言うまでもない。



クラブ室で宿題

## その他

- ・学校支援コーディネーターでもある登録児童室（放課後子供教室）主任パートナーと地域の方々との結びつきが強く、様々な事業を実施するにあたって地域の協力を得て、それぞれが得意分野を持ってそれを子供たちのために活用してもらっているということで事業の幅に広がりがあがる。地域の方に得意分野があったとしても「つながり」がなければ、それが事業に生きるということはないので、人と人とを結ぶパイプ役の存在が非常に大きな役割を果たしている。

# 学校のニーズに地域の支援をつなぎ、豊かな教育づくりを応援しています。

## 大阪府豊能郡豊能町

### 活動名

豊能町立吉川中学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

豊能町立吉川中学校・吉川小学校  
光風台小学校・東ときわ台小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 789人	開始年度 21年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ・平成15年頃から、各学校で地域人材の活用を始めていたが、平成21年度から、各小・中学校に配置された4名のコーディネーターが中心となって学校と地域との連携のシステムを構築し、地域密着型の学校支援地域本部づくりを進めてきた。
- ・各校区ではボランティアの組織化を進め、学校ごとの人材バンクを作成した。
- ・ボランティアと学校は、日頃から、学校支援の内容について相談する中で、学習内容や授業への協力の仕方などについて検討を行い、カリキュラム作りにも携わるようになってきている。また、校内の学習環境の整備や部活動の支援、登下校の安全見守りなど、幅広い領域に渡ってバランスよく活動を展開している
- ・4名のコーディネーターは、日常的に連絡を取り合っており情報を交換している。中でも中学校のコーディネーターは、コーディネーターのまとめ役を務めるとともに、地域の諸団体とをつなぐ要の役割をも果たし、学校、PTA、地域、福祉関係の各種団体の協力による中学校区のフェスタ「ふれあいのつどい」を毎年開催し、児童・生徒が主役となるよう取り組んでいる。今年度で10回目の開催となる。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・中学校において、琴の先生による音楽の授業支援、福祉ボランティアによる福祉体験学習支援、学生ボランティア等による放課後学習支援を実施している。
- ・ボランティアが、総合的な学習の時間のカリキュラムづくりに協力している。
- ・地域教育協議会が主催する「ふれあいのつどい」に積極的に関与している。児童・生徒がボランティアとしてスタッフに加わり、その人数も年々増えている。
- ・中学校1年生の「福祉体験授業」(総合的な学習の時間)における学習支援。車いす・アイマスクでの移動及び介助、手話・点字の実技などを、ボランティアが支援している。
- ・放課後や長期休業中の学習支援を学生ボランティア、地域人材で実施し、府教委作成の学習教材を活用しながら自学自習力育成をめざした取組みの支援を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・学校のニーズをしっかりと把握するため、地域人材と学校の教職員が話し合う場を設定している。具体的には、年間予定の立案や年度末の総括を行うと共に、小学校では総合的な学習の時間の年間指導計画をもとに、学校関係者とコーディネーターが定期的に打ち合わせ会議を実施している。
- さらに、学校保護者と地域ボランティアの方とをつなぐ授業参観日を設定するなど、学校が一方向的に支援を受けるのではなく、双方向に関係が築ける取組みとすることを大切にしている。



吉川中学校区フェスタ「ふれあいのつどい」

## 事業を実施して

- ・学校の教育活動への地域の日常的な支援が定着している。
- ・生徒は、地域の方々から日常的に学校に出入りされている中で、自然にあいさつを交わせるようになるなど、子供と地域の大人との「ナナメの関係」が育ってきている。
- ・学校教職員の地域活動への参加・協力が自然に活性化してきている。
- ・保護者が地域ボランティアの方と顔見知りになり、地域であいさつが交わされるなど、学校支援活動を通じて、つながりのある地域づくりに貢献できてきている。

## その他

- ・3小1中の中学校区をつないでいるのは、10年目を迎えた校区フェスタ「ふれあいのつどい」である。毎年、各学校園所、各PTA、民生委員・児童委員、ボランティア団体、社会福祉協議会等の団体が、会議を重ね実施している。このことが、地域を顔見知りの関係に導き、学校支援地域本部の活動を下支えている。



雨の日も風の日も休まない安全見守り隊

# 「地域とつながり 教育推進 出石大すき弘道っ子の育成」をテーマに

## 兵庫県豊岡市

### 活動名

出石大すき弘道っ子活動

### 関係する学校

豊岡市立弘道小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	125人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

豊岡市では、「ふるさとを愛し、ふるさとの未来を拓く、こころ豊かな人づくり」の基本理念のもと、学校・家庭・地域・行政が主体的に役割を果たす取組を進めている。

その取組の一つである「出石大すき弘道っ子活動」は、平成20年度に「学校支援地域本部事業」としてスタートした。平成22年度からは、本校配置の「学校支援コーディネーター」が中心となり、学校のニーズに応じたきめ細かな支援活動を展開している。その活動は、組織的かつ多岐にわたっており、まさに地域総がかりの取組となっている。

今年度は、主に以下のようなことに取り組んだ。

1. 防犯パトロール(弘道子どもを守る会)
2. 読み聞かせ(弘道図書ボランティア)
3. 学校環境美化(建築組合のボランティア他)
4. 福祉体験活動(福祉ボランティアサークル他)
5. 交通安全教室(自転車組合のボランティア他)
6. 環境学習(谷山川を育む会、NPO法人他)
7. 郷土学習(大名行列保存会他)
8. 避難訓練・防災学習(地域の消防団他)
9. 栽培・食育(農協職員、地域の農家他)

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### <郷土学習>

- ・大名行列…出石お城祭りの子供大名行列に係る伝承(和服の着付、所作等)
- ・出石焼き…出石の伝統工芸である出石焼きの体験学習
- ・沢庵漬け…沢庵和尚ゆかりの宗鏡寺(沢庵寺)の沢庵漬けの体験学習
- ・そば打ち…そば処である出石のそば打ちの体験学習

#### <環境学習>

- ・地球温暖化防止…NPO法人「環境ネット出石」による環境学習
- ・谷山川での観察…「谷山川を育む会」による地元の川の観察

### 【実施に当たっての工夫】

#### <学校支援コーディネーターを核とした連携>

学校支援コーディネーターが、年度当初に学校側の支援希望をアンケートで集約し、学校支援や環境整備等について、可能な支援方法を文書で示した。

その内容をもとに、学校と地域とが打合せすることで、円滑にそれぞれの事業を行うことができた。

#### <ふるさと体験学習>

城下町、観光地としての特色ある文化、行事、産業を体験することで、子供たちにふるさとのよさを知る機会となるよう努めた。

その結果、学校と地域が互いにふるさとへの関心を深め、ふるさとの将来を担う子供たちの育成の大切さを共有することができた。



沢庵漬け(大根干し)

## 事業を実施して

地域の豊かな人材活用により、ふるさとを愛し、自分の言葉でふるさとのよさを語る児童が増えたことは大きな成果である。地域の方々とふれあうなかで、その人自身に流れている「文化」、「真剣さ」、「人間味」など多くを子供たちが感じることで、人として深みのある人間に成長する機会となっている。

また、学校職員と地域の方々が知り合う機会にもなり、学校と地域とが有機的に結びつくことができ、互いに多くの効果を生んでいる。また、互いの活動への関心も深まり、参加者が増えたことは大きな成果である。



谷山川での観察

## その他

上記の定期的な活動の他に、弘道小学校「お助け隊」(学校支援コーディネーターを中心とした主に元PTA役員の方々)が、ボランティアで学校活動を支援している。

# 地域で学び、地域を学び、地域の中で育む。

## 兵庫県朝来市

### 活動名

大蔵まなび隊(大蔵地域自治協議会)

### 関係する学校

朝来市立大蔵小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	203人	19年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	11人	20日	有
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	朝来市大蔵地区公民館			14年度	無
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ・大蔵まなび隊は、平成14年度に学校完全週5日制が実施されたことを機会に公民館事業として各小学校区でスタートした活動の一つ。平成21年度から大蔵地域自治協議会が中心となり実施している。平成23年度からは、放課後子供教室として実施するようになった。
- ・大蔵の生んだ児童文学作家・森はなが『じろはったん』で描いた、思いやり、心のやさしいふれあいをテーマに、児童と大人がともに学び考える活動を行っている。
- ・毎月2回土曜日の午前中を基本に活動している。対象は大蔵小学校の1年生から6年生で、20名程度の子供が毎年参加している。
- ・活動の基本は、地域の人材や資源を最大限に活用した現地体験学習を通じた郷土教育を推進することで、子供たちにふるさとを思う気持ちを醸成させるとともに地域の人々との世代間交流を目的としている。もっと地域のことを「学びたい!」という意味を込めて名付けたまなび隊の活動は、地域の誇りと元気づくりに貢献している。
- ・大蔵地域自治協議会では、小学校と協力してあいさつ運動を展開するとともに、生活安全部会が、児童見守り隊としてPTAと協力して、児童登下校時の安全誘導を実施している。また、環境部会が、児童に農業体験の機会を提供し、体験を通して環境について学習できるよう支援している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の地場産業の工場見学、特産品の「岩津ねぎ」の植付・収穫体験、城跡や神社仏閣など地域歴史遺産の見学、昔遊びやお寺の僧侶の話を聞いたり一緒に遊んだり、地域の自然や歴史、人材を活用した現地体験学習を中心に活動している。
- ・指導者には、地域のそれぞれ達人が当たり、子供と大人が楽しく交流しながら活動を実施しており、学校以外でのふるさと教育の実践活動を支援している。
- ・小学校の環境体験学習として、円山川水棲生物観察などを行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・大蔵まなび隊は、昔遊びや地域の歴史、農業体験、地元の工場見学など地域の人々との交流や現地体験を通じ、子供たちが「地域にはこんな所があり、こんな人がいるのだ」ということを学び、楽しみながら喜びや達成感を味わうことができるように工夫している。
- ・まなび隊で練習した踊りを地域の文化祭で発表するなど、子供たちが地域行事に積極的に参加するよう取り組んでいる。また、地域の人々にも、まなび隊活動に積極的に参加してもらうように呼びかけ、地域・世代間交流の推進と故郷を愛しむ子供たちを育成している。
- ・会報を発行したり、ウェブサイトを開設したりして、活動の内容などを情報発信している。



岩津ねぎの植え付け

## ● 事業を実施して

一年間の活動を通して、学校では学べない遊びや体験をすることにより、児童が、喜びや達成感を味わいながら楽しく学べるように努めている。子供たちは、地域の人々と触れあうことにより、コミュニケーションが苦手だった子ども、地域の人々と笑顔であいさつができるようになるとともに、地域のことを知ることで、地域への愛着を一層深めていくことができている。

また、地域の人々にとっても、地域の中で活動する子供たちの元気な姿をみることで、より生きがいや喜びにつながっている。

## ● その他

人口減少傾向にある朝来市では、若者の定住やUターンが重要課題であり、毎年、市内の中学校3年生を対象に「朝来市が好きか」、「朝来市に住み続けたいか」を問うアンケートを実施している。大蔵小学校出身の子供たちの「好き」、「住み続けたい」という回答率が高く、ふるさと教育や地域活性化に貢献している。



地域の文化祭での発表

# 地域住民と高校生による子供支援

## 兵庫県猪名川町

### 活動名

楊津寺子屋

### 関係する学校

猪名川町立楊津小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	33人	40日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	猪名川町立楊津小学校		24年度	無
指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ・楊津小学校校区は校区が広範囲に及び、一旦家に帰ると子供だけで集まって遊ぶことができない。そんな中、子供の居場所づくりを目的に、寺子屋は楊津小学校の校長が発案し、平成24年6月から始まった。
- ・保育士や幼稚園の先生など子供に関わる職業を目指す「教育コミュニケーション類型」がある猪名川高等学校に生徒の派遣依頼をした。
- ・地域の人々の参画を得て、子供たちに手芸教室や軽スポーツなど様々な体験・交流・学習活動を提供することで、放課後や夏休み期間などに地域の子供たちの安全・安心な活動拠点を確保している。
- ・活動場所は、小学校の教室や運動場で、地域の人々や高校生などが子供たちの宿題や遊びを見守り、宿題の手助けをしたり一緒に遊んだりしている。
- ・小学生だけでなく、保護者、未就学児童（保護者の同伴）、中学生、地域の人々も参加することができる。
- ・地域のボランティア団体「楊津愛校会」は、小学校周辺の草刈りなど環境整備活動や小学校前の学習農園の作物育成にも協力している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・寺子屋の運営は、「楊津愛校会」、猪名川高等学校の生徒でなされている。高校からは、保育士や幼稚園の先生を目指す「教育コミュニケーション類型」の生徒が参加している。毎回ボランティアをしたいという生徒が多く、ローテーションを組んで参加している。
- ・児童とボランティアの交流だけでなく、高校生とボランティアの交流を大切にすることで、世代間交流による地域コミュニティの充実に努めている。
- ・児童が安全で安心して活動できる場を提供しているだけでなく、世代間交流の場、将来の夢を叶えるために努力している高校生の貴重な経験の場にもなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・宿題や遊びを教えるのではなく、「見守り」ことを意識している。子供たち自身でどうやって解くのか、どんな遊びをするのか考え、実践できるような環境作りに努めている。
- ・寺子屋で、保護者などを対象とした手芸教室を実施するなど、寺子屋に興味を持ってもらえるよう工夫している。
- ・マニュアルを作成し、実施の流れや役割分担を明確にしている。特に、安全面に注意しており、例えば、夏期の暑い期間には熱中症対策に努めている。また、事前には高校生などとミーティングをし、指導や支援のあり方、方法などを確認している。
- ・保護者の迎えを必要としないといったルールを作るなど効率化を図ることで、広範囲に及び校区の中でも、気軽に足を運べるような子供たちの居場所となっている。



宿題をしている子供たち

## 事業を実施して

保護者からは、「共働きで子供が家に帰っても一人になってしまう」「家ではなかなか宿題に取りかかれないのに寺子屋ですすんで宿題をしているので、寺子屋の存在がとてもありがたい」、子供たちからは、「校区が広いと一旦家に帰ると子供だけで集まって遊ぶことができない」「寺子屋があるとみんなで遊ぶことができ楽しい」、高校生からは、「人懐こい子たちから元気をもらった。保育士になるという目標がより明確になった」と好評であり、地域での寺子屋の重要性が高まっている。

## その他

- ・「楊津愛校会」では、会則を定め、総会を開催して会を運営している。
- ・楊津寺子屋での高校生の活動の様子を猪名川高等学校の通信で紹介している。



運動場での活動風景

# 秋篠川共同体 地域でつなぐ子育てのWA 「共に 学びあい 育てあい」

## 奈良県奈良市

### 活動名

登美ヶ丘中学校区地域教育協議会

### 関係する学校

登美ヶ丘中学校・鶴舞小学校・平城西小学校  
鶴舞幼稚園・平城西幼稚園

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 13人	ボランティア登録数 89人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

本校区の地域教育協議会は、平成20年度に組織され、7年目となる。校区を横断する秋篠川を軸に、地域に根ざした学校支援をより深めることを目的に、地域と学校園が連携・協働した取組を進めている。

平成24年度には、秋篠川にホテルをもどす「ホテルの里プロジェクト」、広報活動の充実を目指した「ホテルフェスタ」、校区の学校園の連携強化のための「地域合同教育講演会」の開催や、中1ギャップの解消を図るために、地域教育協議会が主催するクラブ(英会話・ゴルフ・テニス)活動の小中合同開催も試みた。

「ホテルの里プロジェクト」では、ホテルフェスタのイベント収益の貯蓄を行い、事業の資金にあてる「ホテルファンド」を設立した。

平成25年度には、学習支援事業として、昨年までの土曜英会話講座を小学校にも拡大し、さらに平日開催としたことで、受講者が倍増したことや、英検・漢検の準会場資格を取得して地元で家族ともども受験する機会を設けるなど、地域教育協議会の活動が定着してきている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

■**ホテルの里プロジェクト**： 秋篠川固有のヘイケボタルを養殖・放虫する事業を関連団体と連携して実施している。環境意識向上に努めるとともに、各学校園から家庭に広げることで、学校園と地域を結びつけている。また、地域教育協議会が発行する「秋篠川共同体だより」、「地域カレンダー」(年12回)に広告を掲載し、収入をホテルファンドに積み立て、事業資金の獲得に努めている。

■**学習支援事業**： 土曜英会話講座を小学校にも拡大し、平日開催としたことで、受講者が倍増。英検・漢検の準会場資格を取得して、地元で家族ともども受験する機会を設けた。その他、図書整理・貸出し・読み聞かせ、中学校職場体験学習の受け入れ先開拓、ゲストティーチャー紹介等をコーディネーターを中心に展開している。

### 【実施に当たっての工夫】

全校園長とコーディネーターによる拡大企画会議を2か月に一度開催し、合意形成を大切にしながら事業を進めている。ホテルフェスタは実行委員会方式を採用し、参加費を徴収するなど様々な工夫を取り入れ、学校園支援組織の自立を模索する事例として取り組んでいる。

学校支援事業を直接的支援と間接的支援に分けて事業を展開しながら、地域資源・地域人材の掘り起こしと、有効活用のあり方を探り、地域教育力の向上も目指して進めている。

直接的支援は、支援経験のある方々をコーディネーターとして指名し①登下校の安全見守り②学習支援③環境整備④クラブ支援に配置することで、校区・学校園の実情にあった取組を進めている。

間接的支援は、①各学校園教育文化講演会・鑑賞会②全教員・保護者・地域住民を対象とした校区合同研修会③ボランティアの継続募集・活動だよりや月刊地域カレンダーを発行し、配布することなどで学校・家庭・地域を巻き込んだ形での事業を展開している。

環境整備活動などでは、担当コーディネーターが学校園からボランティア派遣要請を受け、斡旋するスタイルが定着している。また、毎年度末には、ボランティアや地域住民を対象に活動報告会を開催し、交流を深めている。

## ● 事業を実施して

中学校との連携にやや弱さがあったが、地域本部室を校内に設けることで、各種会議等で中学校に来る機会も増え、花壇整備の際などに、子供たちから声がかかったり、作業を手伝う子供達も見られるようになった。

当協議会としては、幼稚園から11年間を見通した教育を推進するため、毎年夏季休業中に地域住民や全校園の教職員との合同研修を実施することで、教員同士の連携の橋渡しになっているとの評価も高い。

最後に、各種イベントやクラブ支援においても、児童・生徒と一緒に活動できる機会を増やし「中一ギャップ」の解消に取り組んでおり、不登校生の激減に見られるように効果が現れていると思われる。

## ● その他

小中一貫教育構築を見据え、子供の成長を地域教育協議会が一貫して支援し、一般教員の積極的な事業参画や子供たちが参画できる事業の開発に、地域の教育力を集結することで、特色ある教育環境づくりを目指している。



ホテルの里プロジェクト「ホテルフェスタ」



# 地域と協働! ~咲かそう絆花~目指せ片 「笑顔・元気・一生懸命!」

## 奈良県大和高田市

### 活動名

片塩中コミュニティ

### 関係する学校

大和高田市立片塩中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	50人	21年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

平成4年度に、父親が学校に協力できるようにと「健全育成会」が発足している。今までに、学校見学会や環境整備などを行ってきた。そして、平成21年度、学校支援地域本部事業に取り組んだ。その活動は、教師・会員の父親・地域ボランティア・退職教師・生徒・そしてPTAをも巻き込んだものへと発展している。魅力ある学校づくりを目指しながら深化を図り、学校教育力と地域力の双方向の発展を目指している。

#### ☆学校行事

○片塩フェスタ(小学校6年生対象オープンスクール) ○片塩わくワーク(ゲストティーチャーから学ぶ) キャリア教育・救急救命士・パン製造業・保育士・大工・アニメ声優・自動車整備士・看護師・アートディレクター・美容師・日本料理板前・スポーツインストラクター ○職場体験

#### ☆環境整備

○図書室環境整備 ○校内清掃(草引き、体育館の掃除等)

#### ☆学習支援活動

○マナー講習会(社会人としての挨拶・身なり・言葉遣い)  
○漢字検定(対策)年3回大和高田市土曜塾とのコラボレーション  
○特別支援学級への支援

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 学校支援体制の組織力の強さ「健全育成会」「おやじの会」「ボランティアグループ」
- 学校力と地域力の合力による教育活動推進(ボランティア清掃活動)
- 教職員・OB・地域ボランティア・退職教師・生徒による協働活動が年間を通して活発である。
- 校区内のボランティアのみにとどまらず、教育委員会ボランティア(玄関・職員室横廊下<生け花>)の支援も得ている。
- 教育資源である地域人材(ゲストティーチャー・職場体験・マナー講習会等)の発掘・蓄積がうまく進み、教育活動に効果的にフィードバックできている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 「片塩フェスタ」は、午前は、授業体験。昼食に教職員・PTA・地域ボランティア・生徒の協働で作ったカレー(260人分)を提供。午後は、授業体験・部活動体験が行われた。小学生は、片塩中学校の雰囲気を感じ、親近感を持つようになった。
- 環境整備では、コーディネーターを中心に、PTA・地域ボランティア・健全育成会・生徒・教職員が協働し、年間を通して美化活動を行っている。(片中美化ピカ事業、植えるカム事業)その後は、流しそうめんやあったかにゆうめんを作り、食して互いのコミュニケーションを深め合っている。また、教育委員会ボランティア(運営委員会事務局登録)による玄関や職員室横の生け花の協力を得ている。
- マナー講習会では、職場体験学習(2年生)に取り組むに当たり、社会人としてのマナーを事前学習として取り組んだ。和やかな中にも人としての厳しさのある指導を展開していただいた。マナーに対して関心が深まり、挨拶に対してモチベーションが高まった。
- 職場体験は、地域の65事業所において実施している。
- 漢字検定は、年3回、生涯学習課担当の大和高田市土曜塾とコラボレーションしている。小学生・中学生・地域の人が共に受験することで、検定の必要性和モチベーションが高まった。
- 環境整備において、コーディネーターが中心となりボランティアや生徒たちと一緒に活動して作ったアイデアいっぱいの池や花壇等、心が癒される生活空間を醸し出している。おかげさまでフリータイムには、コミュニケーションや和みの場として活躍している。



中庭花壇への植付け

作業後の流しそうめん



片塩フェスタ  
(授業体験・理科)

片塩フェスタ  
(部活動体験・吹奏楽部)



マナー教室

放課後学習(漢字検定)

## 事業を実施して

- 校舎が建って40年。校舎や周辺的环境が大変美しくなった。事業を受ける前は、校舎周辺に花の姿はなかったが、今は、年間を通して、花が綺麗に咲き誇っている。生徒だけでなく、校舎の近くを通る方からもとても喜んでいただいている。生徒と地域の人が、花についての共通の話題ができ、コミュニケーションが活発になった。
- 事業において、地域ボランティアや卒業生、かつて片塩中学校に勤務された先生方も参加するなど年々広がりや深まりを見せている。
- 漢字検定の実施においては、基礎学力の充実のために希望者が放課後や夏休みに漢字練習に取り組んでいる。参加する生徒は、年々増加している。さらに、校区内の小学生や保護者の受検も呼びかけている。検定の必要性和モチベーションが高まった。
- 職場体験は、いかに体験事業所を確保するかが課題であった。かつて、大和高田市は「商都」であり、賑わいは薄れているものの、多くの個人商店が軒を連ねる商店街が残っている。「健全育成会」等から情報を得た校長自らが商店街の会長に依頼し、2年生267名が体験する65事業所を確保することができた。教職員・生徒が地域の人・物と密接に結びついた貴重な体験を味わうことができた。
- 地域ボランティアの人々の活動に感謝しながら、生徒たちも地域に出向き、活動するようになってきている。生徒たちにボランティア精神が芽生えてきたと同時に、行動につながるようになってきた。

# 地域活動への参画・協働から新しい学校の姿を求める

## 奈良県五條市

### 活動名

五條西中コミュニティ協議会

### 関係する学校

五條市立五條西中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 10人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

○本校では、平成20年度より「五條市学校支援地域本部事業」の指定を受け研究実践を行った。一定の成果とともに課題も見えてきた。具体的には、「人間関係をうまくとれない」あるいは「コミュニケーション能力の不足」、「煩わしいことに関わることを避ける」などの傾向や、規範意識の低下が叫ばれる中、その根幹となる家庭教育が果たしてきた役割の弱さも見てきた。そこで、「本部事業」を継承しつつ一層地域住民やボランティアの人材を活用し、「地域と共にある学校づくり」を目指した取組が必要と考え、五條西中学校コミュニティ協議会を組織し、4つの委員会を設け活動を行った。

- ①地域活動委員会
  - ・グリーン活動、除草作業、地域の祭り等への参加
- ②安心・安全委員会
  - ・子ども見守り隊、登下校時の交通安全指導、地域駐在所等との連携
- ③未来委員会
  - ・学習や部活動支援、社会科授業支援、キャリア教育支援、オープンセミナー
- ④さずな委員会
  - ・老人福祉施設への訪問・交流、校種間連携・交流、部活動の合同練習

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 隣接する特別養護老人ホームとは開所以来様々な交流を深めてきたが、運営する社会福祉法人と連携協定を結び、より深い交流を目指している。福祉や介護のスペシャリストとの交流を通して、人間の優しさや思いやりの心、自分らしく生きぬく力を育むことを目的としている。
- 学校生活の基本は「あいさつ」と捉え、他人の思いに共感でき、なかまと共に生き、思いやりや温かさのある生徒の育成に努めており、その手立てとして①生徒会活動による地域連携の推進(グリーン活動や「MAKIまつ」への参加)。②地域活動としての通学指導(見守り活動)。③保護者を対象とした家庭教育学級(小・中・高の合同講演会)を実施した。

### 【実施に当たっての工夫】

- 「地域と共にある学校づくり」を進める上において、学校と地域が互いに当事者意識をもって熟議・協働を進めるためにはボランティアを始めとする地域の支援が欠かせない。そこで地域の支援を一層充実したものにするために、以下の取組を行った。
  - ・各代表者を対象に学校行事や地域行事等の理解に向けた説明会の実施
  - ・熟議を重ねながら学校・地域との協力体制の構築
  - ・校区の小学校や高校との連携及び交流
- 地元自治会が主催する秋祭り「MAKIまつ」に向け、学校・地域が企画段階から熟議を重ねるとともに、生徒たちは生徒会を中心に地域と共に出店する模擬店の設置や運営ボランティア募集を企画するなど地域行事への参加を進めた。また、校区の学校や地元と連携したグリーン活動や除草作業などにも積極的に参加した。



老人福祉施設との連携事業

## ● 事業を実施して

- 生徒会を中心に多くの生徒が意欲的かつ積極的に地域活動に参加できる意識が芽生えた。また、普段接することの少なかった地域の方々とコミュニケーションを図りながら、同じ時間を共有することで相互理解と協働による地域連帯感の醸成につながった。
- 地域活動への関わりを通して、自分の存在を価値あるものと感じるなど自尊感情が高まり、何ごとにも積極的に関わろうとする気持ちが強くなった。
- 学校教育活動に対する理解が深まり支援の輪が広がった。



「MAKIまつ」と実行委員会

# 子供の課題に学校・保護者・地域が一体となって 取り組むコミュニティ活動

## 奈良県明日香村

### 活動名

明日香村学校・地域コミュニティ

### 関係する学校

明日香幼稚園・明日香小学校・聖徳中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	185人	25年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	34人	26日	無
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	19年度	無
			児童生徒数	学級数

### 活動の概要

#### 1. 明日香村学校・地域コミュニティの願い

- ・幼小中一貫教育を推進し「一つの学校」の心で学校と保護者、村民が一体となって明日香の子供を育てる。
- ・学校を支援することによって、明日香の子供の学びを創造し、豊かな心を育む。
- ・自立した明日香の子供を学校・保護者・地域が協働で育成し、学校と保護者、地域の絆を深める。
- ・大人と子供の協働活動で地域の担い手を育てる。

#### 2. 明日香の子供の課題の確認

- ・基本的な生活習慣が十分でない。
- ・基本的な学習態度が十分でない。
- ・人間関係、コミュニケーションが下手である。
- ・自主自立の心が弱い。

#### 3. 明日香の子供の課題解決のために一貫教育を

- ・幼小中一貫教育で共通の課題と目標をもって取り組む。

・保護者・地域の参画と協働なしには解決できない。

・地域の「自立した明日香の子供を育成する」という情熱と支援が必要である。

#### 4. 学校・地域コミュニティ設立までの経緯

- ・24年7月 あいさつ運動協力者依頼(自治会・民生児童委員・社会教育団体等)
- ・24年9月 あいさつ運動開始 幼小中校門前・大字集合場所
- ・24年10月 明日香学校・地域コミュニティの設立
- ・24年12月 学校支援の内容集約
- ・25年2月 学校支援の内容に応じて協力者募集(村広報)
- ・25年4月よりコミュニティ活動を開始
- ・25年12月 子供の土曜日における生活実態調査
- ・26年2月 土曜学習塾の希望内容調査(教科・体験・参加希望)
- ・26年3月 土曜学習塾指導者・協力者募集(村広報)
- ・26年5月より土曜学習塾を開始

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- あいさつ運動
  - ・幼稚園・小学校・中学校校門周辺3か所、週2回 39人
  - ・大字での見守り・あいさつ運動 26大字97人 毎日～週1回
  - ・「あいさつ運動に関わることは喜びであり、生き甲斐である」(あいさつ運動意見交換会で)
  - ・「地域の子は地域で守る」という意識が強くなった。(10自治会で)
- 学校支援活動
  - 幼稚園・・・栽培指導を年5～6回、お話を月1回 おやつ作りを月1回行っている。参観日等の行事の際に、小さいお子さんを連れ保護者のために、ベビーシッターをしている。
  - 小学校・・・学習指導、お話し、家庭科授業支援、図書室支援等を行っている。小学生に対して栽培指導を行い、またその管理も行っている。
  - 中学校・・・学習支援、郷土学習支援、環境整備を行っている。また、定期テスト前には、数学・英語の学習のサポートを行っている。悩みを相談できる時間を設け、相談にのっている。
- 放課後子供教室
  - ・毎週月曜日、小学1年生全員を対象に実施。読み聞かせ、軽スポーツ、工作などを実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 情報を共有すること(共通課題・共通認識)
  - ・「あいさつ運動ニュース」の発行 月1回 現在31号 協力者・関係者に配布。
  - ・学期の始めと終わりに協力者との打合せ会を持つ(学校ごとに)。
- 感謝の気持ちを伝えること(一体感の醸成)
  - ・子供の感謝の気持ちを伝える(感謝の集い・感謝の手紙を協力者一人一人に)。
  - ・「あいさつ運動意見交換会」・・・あいさつ運動についての意見や感想を聞くことにより、より良いあいさつへとつながる。
  - ・「コミュニティ協力者の集い」・・・感想やこれからの改善点を聞くことにより、より良いコミュニティづくりにつながる。
- コミュニティ協議会で熟議し、共通の目標をもつこと
  - ・コミュニティ協議会を学期に1回開催し、課題や活動について熟議し、共通の目標をもつ。
- 幼・小・中・保護者・地域が一体となって取り組むこと(幼小中一貫教育の推進)
  - ・一貫教育推進便りを月1回、村広報を通じて発行し、村民への広報を図っている。(現在30号)



あいさつ運動

子供たちと一緒に花植え



コミュニティ協力者の集い・あいさつ運動意見交換会

## 事業を実施して

- 「明日香の子供は自分たちで育てなければならない」という意識が広がる。
  - ・大字ごとにあいさつ運動の協力者を募集し、組織的にあいさつ運動を行うようになった。(10大字)
  - ・子供の名前を覚えて声をかけるようになる。地域の伝統行事に子供の参加が増えてきた。
- コミュニティ活動に自主的な応募が多い。(子供や地域のために尽くしたい)
  - ・明日香村がコミュニティ活動で大きく動いており、自分の力を子供や地域のために尽くしたいという自主的な申し込みが多い。(特に活動開始1年後から)
- コミュニティ協力者に喜びと生き甲斐を与えることができた。(協力者の声)
  - ・コミュニティ活動に協力する者が集い、意見交換を行うことにより、協力者が喜びと生き甲斐を感じている。

## その他

- 土曜学習塾「明日香庠序」の開設に向けて
  - ・コミュニティ協議会で熟議をする。(25年10月 26年1月)
  - ・土曜日の過ごし方についてのアンケートを実施 25年12月(小3～中2保護者全員)
  - ・土曜学習塾開設(小学校4・5・6年 3講座 国語・算数)(中学校1・2・3年 3講座英語・数学)

# 課題や願いを共有し、協働活動をとおして目指す 学校と地域の信頼関係づくり

## 和歌山県新宮市

### 活動名

しんぐう地域共育コミュニティ  
推進本部

### 関係する学校

城南中学校・王子ヶ浜小学校・緑丘中学校  
神倉小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 70人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

新宮市では、平成20年度に城南中学校区にある城南中学校、旧蓬萊小学校、旧王子小学校（旧蓬萊小と旧王子小は平成25年度より統合して王子ヶ浜小学校）を推進地域に指定し、学校、家庭、地域が一体となった取組を進めてきた。

具体的には、「職場体験学習に係る受け入れ事業所の開拓」や「部活動の外部コーチ派遣」、「登下校の子ども見守り活動」、「『立志式』や『華道教室』に係る地域人材の活用」といった学校支援活動と、地域住民と学校の協働による「クリーン作戦」である。

平成24年度からは隣接する緑丘中学校区でも同じ趣旨の清掃活動が始まっている。参加者数は年々増加し、今や市内中心部の冬の恒例行事として市民権を得ている。

子供の現状に係る共通認識を図る熟議、「神倉・緑会」の取組も相まって、子供の育ちや学びを支え、地域ぐるみの教育を推進するとともに、人と人のつながりを構築するための仕組みとなる新宮市の「共育コミュニティづくり」は、学校、家庭、地域、行政及び各種団体の相互参画を通じた信頼関係づくりを目指している。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### 地域共育コーディネーター

PTA役員を経験した城南中、緑丘中の両地域共育コーディネーターは地域の事情に加え学校の実情にも詳しく、教員との意志の疎通もスムーズである。コーディネーターは学校と地域双方の思いや願いをうまく咀嚼して伝える大事な役割を担っている。なお、城南中学校にはコーディネーターの活動拠点になる「地域共育コーディネータールーム」が設置されている。

#### 子供の活動の場づくり

緑丘中学校の吹奏楽部は定期演奏会に加え、神倉小学校の運動会や市内駅伝大会、商工会まつりなどの各種イベントに出向き演奏を披露し、喝采を浴びている。また、平成25年度に開催された「中学生プレゼン大会」では校内で完結しがちな学習の成果を広く一般市民にも提供し好評を得た。こうした子供の活躍の場づくりは、子供の自尊感情を高めるきっかけになると同時に、一生懸命な姿を見る地域の大人の心を動かし、子供や学校に対して「何かできることはないか」を考えるきっかけになっている。

### 【実施に当たっての工夫】

#### 運営組織の工夫

城南、緑丘の両地域にそれぞれ配置されている地域共育コーディネーターは、学校と地域の仲立ちを担っている。また、城南、緑丘の推進地域を合わせて『しんぐう地域共育コミュニティ推進本部』とし、この推進本部に対して指導・助言を行う機関として『新宮市共育コミュニティ推進本部実行委員会』が機能している。

#### 活動の充実と参加・参画者増加の工夫

「クリーン作戦」に際しては、各種団体や個人による実行委員会を組織し、より多くの市民の参加を期待してチラシづくりや市の広報誌及び地方紙での広報を行っている。また、実施後は「コミュニティだより」を発行している。その中では地域住民に対する参加のお礼に加え、取組の成果検証に関する内容も含んでいる。

## ● 事業を実施して

「学校の課題を地域と共有すること」、「地域の資源を生かし、地域の人を学校に招くこと」、「学校、家庭、地域が協働する活動を行うこと」を軸として取組を進めてきたことは、少なからず学校が抱える困難な状況の改善に影響した。また、「クリーン作戦」実施後のゴミ処理は市の生活環境課が担い、「中学生プレゼン大会」の企画には組織の枠を超え、様々な所属の市の若手職員が参画するなど、一連の取組を通して教育委員会と市長部局との連携体制づくりに弾みがついた。

## ● その他

平成23年9月に発生した台風12号による紀伊半島大水害は新宮市にも甚大な被害をもたらした。東海・東南海・南海地震とそれに伴う大津波の発生が心配されている新宮市においては、3年前の窮地の状況を振り返り、人と人のつながりを構築する必要に迫られている。共育コミュニティには、つながりづくりのきっかけが期待されている。



クリーン作戦



中学生プレゼン大会

# 地域づくりとも連携した学校支援や放課後支援

## 島根県浜田市

### 活動名

浜田東中学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

国府小学校・上府小学校・有福小学校  
浜田東中学校・浜田養護学校・浜田ろう学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	7人	327人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	45人	12日	無
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	24年度	有
			児童生徒数	学級数

### 活動の概要

浜田市における学校支援地域本部事業は平成20年より市内すべての小中学校で実施している。浜田東中学校区学校支援地域本部は拠点を国府公民館において支援活動を行っている。対象となる学校は中学校1校、小学校3校で、さらに同エリア内の県立浜田養護学校や県立浜田ろう学校にも学校支援を行っている。また、小学校と特別支援学校との交流にも関わっており、該当する学校の管理職や担当教諭を集め5校連絡協議会を開催している。学校支援の活動回数やボランティア数も多く公民館職員が学校支援のコーディネーターでもある強みをいかした展開がなされている。放課後支援については、1つの小学校を対象に子供教室を行っている。子供教室と放課後児童クラブとの関わりにも力を入れており、毎回関わることとして活動している。また、今まで放課後の支援ボランティアとして活動していた地域の方が、「しごんならん隊」という組織を立ち上げて一部を担うこととなり、放課後の支援が広がりを見せている。合わせてH26より放課後子供教室を新たに立ち上げ対象小学校を1校増やし、放課後支援の充実を図っている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・公民館の生涯学習教室で学んだ方が学校支援のボランティアとして指導に入るなど、公民館での人材育成ともつながる事業展開を行っている。
- ・本部事業の拠点である該当公民館では、障がい者にやさしいまちづくりを進めており、とくに「アイサポート運動」に取り組んでいる。アイサポート運動は、障がいのある方への必要な配慮などを理解し、必要ときにちょっとした手助けができる地域をめざす取り組みである。地域住民のみならず、児童生徒にも学校支援の中で、障がい者理解を進めている。このことについては、昨年11月に鳥取市で開催されたアイサポート運動の全国大会において、プレゼンによる説明を行っている。
- ・県立特別支援学校にも学校支援を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・学校支援に対する理解を得るために、年度初めに各学校の管理職の先生との打合せや職員会での先生方への説明。また、PTA総会等での説明などを学校支援コーディネーターを中心に行っている。



学校支援(裁縫ボランティア)

## 事業を実施して

- ・ボランティアの人数が年々増加傾向にある。
- ・保護者や地域の方から「学校の様子がよくわかるようになった」「子供たちと活動することは楽しい」という声が聞かれ、学校を身近に感じられる方が増えている。
- ・放課後支援について、今までボランティアとして活動していた地域の方が別組織を立ち上げて一部を担うこととなり、放課後の支援が広がりを見せている。
- ・子供たちも学校支援を通して大人から声をかけてもらうことで、地域の大人が身近な存在となり登下校時に進んで挨拶をするようになった。
- ・アイサポート運動を通して、とくに、中学生の障がい者理解が進み、自分達にできる支援について考えるようになったという声が聞かれた。

## その他

- ・放課後支援を今後ますます充実させていくために、公民館の中庭を子供が遊べるように改善するなどの策を講じている。



放課後子供教室(かみここ)

# 地域力を生かした学校支援と学校力を生かした地域づくりで創る新しい公共型学校

## 島根県江津市

### 活動名

高角小学校の教育コミュニティ創造

### 関係する学校

高角小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動	2人	28人	24年度	有
	2人	30人	20年度	有
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	30人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	80人	57日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、理科室、会議室、校長室、体育館、校庭等	指定日	22年度	有
	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

江津市においては比較的大規模な小学校であり、地域活動という意味では、難しい面も少なくない。しかし、以前より続く、登下校の見守り活動や、専門知識をもった地域の人々を「子供のために」という視点でつなぎ、その活動を学校を核として体系的に展開してきた。そして、数年の取組により出来上がった学校支援、放課後支援の体制を次のステップとして、より地域主体の活動へと広げる展開を見せている。

具体的な地域力を生かした学校支援の活動は次のとおり。

1. 地域コーディネーターを介した教科支援、学習支援【20年度～】①家庭科、生活科、社会科等の授業 ②読み聞かせ活動
2. 教室を解放した放課後子供教室【20年度～】木曜日・金曜日の放課後
3. 公民館・地域コミュニティ交流センターで行うサタデースクール【24年度～】第4土曜日の午前中(学校外へ移したのは26年度から)
4. 地域ボランティアによる補習高角塾【24年度～】夏休み・春休みのそれぞれ一週間
5. 地域人材によるロボット教室【24年度～】月曜日の放課後
6. 地域人材による英会話教室【25年度～】水曜日の放課後
7. 地域講師を招いたふるさと発見高角塾【24年度～】夏休みの4日
8. 石見の匠に学ぶものづくり【24年度～】夏休みの5日

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・学校支援の地域ボランティアの活動は、家庭科のミシン学習、調理実習を中心として、婦人会会員の比較的得意な活動内容でボランティアの方の自己有用感を高めようと、そのほかの活動にも支援をいただいている。
- ・校区内のそれぞれの公民館・地域コミュニティ交流センターを会場として、県の学習プリント配信システムを活用した土曜日、長期休業中の教育支援活動が実施されており、学校・教育委員会と連携した地域の活動として定着しつつある。
- ・学校支援、放課後支援をきっかけとして、地域人材の発掘や変容から、地域講師の発見や、あらたな学習支援活動へつながってきている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・二つの地域に跨った学校という地勢に逆らわず、それぞれの地域から学校支援地域コーディネーターを設置して、それぞれの地域からボランティアを募っていること。また、それにより、学校を地域融合の場に行っていること。
- ・土曜日、長期休業中の教育支援活動は、学校が中心となって参加者を募り、実際の学習活動は地域住民が中心となって行い、地域と学校の連携により成り立つ活動になっていること。
- ・コーディネーター的な役割を果たす人材が複数人おり、地域主体の学校支援、放課後支援への展開が見られ、ひとりのコーディネーターが集中して活動を担わず、継続可能な体制をとっていること。また、コーディネーター間の連携は学校運営協議会で図られている。

## 事業を実施して

- ・校区内の二つの婦人会が学校支援を通じて、一緒に反省会を開催する機会が生まれ、新しいつながりが生まれた。
- ・土曜日、長期休業中の教育支援活動(サタデースクール・補習高角塾)を公民館と地域コミュニティ交流センターを会場として行うことで、より地域が主体となって行う活動に発展してきた。
- ・多様な世代が放課後支援、土曜日、長期休業中の教育支援活動に関わるようになり、地域で子供の成長を支援する機運が醸成され、またそこに関わる地域住民のつながりも豊かになってきている。

## その他

- ・学校支援、放課後支援、ふるさと教育の講師として関わっていただいた地域の方は平成25年度中のべ1,000名を超える。
- ・学校で行ったふるさとを知る学習(ふるさと発見高角塾)が、地域へも波及して、公民館での大人の講座へ発展した。



放課後子ども教室



サタデースクール・補習高角塾



石見の匠に学ぶものづくり

# 町の財産(人・場所・もの)を通し ふるさとを愛する子供を育成する体験塾

## 岡山県和気町

活動名

和気町子ども塾

関係する学校

和気町立佐伯小学校・山田小学校  
日笠小学校・藤野小学校・本荘小学校  
和気小学校・石生小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動	4人	34人	23年度	有
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

和気町では平成12年度より、「ふるさと教員」制度が導入される。和気町役場の行政職員として、小学校教員免許状を有する者が採用され、「和気町の先生」として町内小学校へも勤務している。授業の中では、学習指導要領に則して、地域に根ざした独自の教育活動(ふるさと学習)を推進する全国で唯一の専門職である。

平成14年度より、休日を活用した町内小学生対象の「わくわく体験教室」を開催。そのノウハウを生かし、平成23年度(ふるさと教員制度導入10年後)には、教育委員会主催「和気町子ども塾」事業をスタートした。これは、ふるさと教員が学校と地域、家庭とのコーディネーターとして活躍し、地域の様々な立場の方を講師やボランティアとして招き、連携して実施することにより、子供を地域ぐるみで育成する体制づくりにも一役担っている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 和気町の豊かな自然や歴史、人々の営みを学習指導要領に則して教材化し、地域に根ざした学習を展開する。各単元に町の事例を取り上げることで子供の学習意欲も高まり、地域の現状や魅力を再発見でき、ふるさとへの愛着心と誇りに思う気持ちが育まれる。
- 学校での時間的・空間的な限界をこえた体験学習を社会教育で実現することで、授業で得た知識を体験と一体化させることができ、生きた知識の習得が可能となる。
- 年間を通じて「ふるさと和気町について学ぼう!」をテーマに、1~6年生が様々な体験学習ができるような体制づくりとプログラム化を実現している。全学年対象なので、事前に体験内容と仕掛け作りを入念に吟味している。内容によっては、低学年と高学年で活動を分けることもある。年間を通じて、町の財産について多分野にわたりバランスよく学べるよう努めている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- (1) ふるさと教員が授業を支援することで、小学校の実態(児童の様子・学習の進捗・担任の要望)と地域素材についての情報収集が可能となり、それに応じた体験学習をプログラム化している。
- (2) 小学校にも勤務しているふるさと教員と塾生・保護者との信頼関係を生かす。(親子ともに安心して参加してくれているし、参加率も高く、継続加入者も多い。)
- (3) 学校・地域・家庭・行政を巻き込んだ体験学習を企画・実施することで、地域の子供を地域ぐるみで育てる体制づくりができるようにしている。



平成24年度閉塾式(茶道体験・観劇)



平成25年度防災キャンプ(救助艇体験)

### 事業を実施して

- (1) 異学区・異年齢の子供同士の人間関係作り、かつ、保護者同士の交流の場となっている。<塾生アンケート>「学校以外の新しい友だちがたくさんできてうれしい。」
- (2) 地域素材を生かした体験学習を通して、ふるさとの良さを発見することができ、郷土愛を育成できつつある。<塾生アンケート>「和気町の特産品やすごい人を知れて、和気町ってすごいと思った。」
- (3) 継続的な体験学習により、豊かな人間形成の土壌育成を支援している。<保護者アンケート>「家庭ではできない経験が多く、充実感ある顔で帰宅する我が子を見るのがうれしい。」

### その他

平成25年度「体験推進プロジェクト防災キャンプ推進事業」をプログラムとして実施。幼児から小学生、保護者、高齢者という幅広い世代での災害時避難所体験を通して、参加者は日頃からの備えや地域における連携の大切さを実感した。このノウハウを生かし、同委託事業からは自立し、平成26年度も防災キャンプを実施済み。

# 子供の未来と地域のために、多様な支援を実施! 地域を挙げて学校を応援!

## 岡山県矢掛町

活動名

矢掛町学校支援地域本部

関係する学校

矢掛小・美川小・三谷小・山田小・川面小  
中川小・小田小・矢掛中

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	9人	1,310人	20年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
		平成23年10月11日	81人	993人	64学級

活動の概要

矢掛町学校支援地域本部は、平成20年の「学校を元気にするために力をお貸しください!」という呼びかけから始まり、6年が経過した。本部を教育委員会に置き、町内1中学校7小学校にコーディネーター9名を配置し活動している。それぞれの学校のニーズに合わせて、地域住民のリソースを有効に活用した支援を展開している。月1回のコーディネーター連絡会で情報交換を行いながら、活動の評価も行っている。

具体的には、ドリル学習の丸つけや郷土学習のゲストティーチャーなど学習支援、校外学習の引率補助、学校公開日の駐車場係などの学校行事支援、草取りなど環境整備、登下校時の見守り活動など、年間を通じて様々な場面で支援を行っている。

こうした幅広い活発な活動が多くの地域住民により行われており、地域の大人たちの支援や励ましで、子供たちは達成感や有用感を得ることができ、学習意欲の向上などの効果がみられる。また子供たちは積極的に地域活動に参加する姿が見られるようになった。

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 各学校で、朝学習・特設タイム・放課後学習等補充学習支援や郷土学習・体験学習の指導や補助、環境整備、特別活動・部活動指導、登下校の見守り活動・あいさつ運動と、多岐にわたり様々な活動に取り組んでいる。
- 毎月1回開かれるコーディネーター連絡会では、各校に配置されている9名のコーディネーターが一同に集まり、それぞれの学校での活動の状況や課題などを話し合い、課題解決に向けて取組を進めている。また、紹介された取組が、他校で新しく取り組まれ活動の広がりも生まれている。学校の「求めること」と地域住民の「できること」をつなぐ活動をうまくコーディネートしている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 町内の全ての小中学校に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置しており、協議会には学校支援地域本部のコーディネーターが参画していることから、運営協議会での学校や地域の意向を直接ボランティア活動につなげることができるなど、効果的に地域連携が図られている。
- 学校支援地域本部の事務局を教育委員会に置くことにより、町全体で組織的・有機的に学校支援に取り組んでいる。
- 毎年、「学校支援地域本部だより」を発行し、町内回覧で活動内容を地域住民に周知し、併せてボランティア募集も行っている。

### ● 事業を実施して

子供たちは、多様な知識や経験を持つ地域の大人と触れ合うことにより、規範意識やコミュニケーション能力が向上している。またボランティア活動を通して、これまでの経験の活用や実践の機会となっており、地域住民同士の絆を深める場にもなっている。



ドリル学習の補助

### ● その他

ボランティア登録者だけでなく、多くの地域住民が子供たちの成長に関わり、見守っている。そのことは、子供たちの「自分たちの住む町が好き」という気持ちを醸成し、地域の活動へ積極的に参加したり、参画したりする子供たちの姿を生みだしている。



家庭科実習の補助



# 「学校支援」から「教育支援」へ! 幼・小・中を地域ぐるみでトータルに支援

## 岡山県奈義町

### 活動名

奈義町学校支援地域本部

### 関係する学校

中央東幼稚園・滝川つくし幼稚園  
奈義小学校・奈義中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	95人	21年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
			実施場所	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

奈義町では、子供たちの確かな学力と豊かな人間性、健康・体力の「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域が相互に連携した、「地域ぐるみで子供を育てる体制づくり」を推進している。

平成21年度から、「奈義小学校教育協議会」を設置し、小学校を対象とした学校支援ボランティアによる支援活動を開始した。

平成23年4月からは、「奈義町教育協議会」に組織改編し、幼稚園（2園）、中学校にも対象範囲を拡大して、幼稚園から中学校まで一貫した支援活動を展開している。

支援ボランティアの登録者数は95名（平成26年7月末日現在）、平成25年度は、支援回数196回、延べ支援者数580人となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

○小中学校では、放課後や週末の支援にも活動を拡充し、町づくりの重点施策のひとつである書道(書写・習字)を取り入れた学習支援や、地歌舞伎(横仙歌舞伎)を米づくりなど地域の伝統文化の体験等に取り組むとともに、保護者に対して家庭教育に関する啓発事業等を実施するなど、家庭教育から放課後の居場所づくりにいたるまで、地域の子供たちに対する支援を広範囲に実施している。

また、「奈義町教育協議会」を通じて、教育支援ボランティアが幼稚園から中学校まで学年を超えて継続的に支援に関わる(例：昔話語りの会による幼・小・中での語りボランティアなど)ことで、地域ぐるみでトータルに学校園と子供の成長をサポートできる、きめ細かな支援体制づくりに努めている。

### 【実施に当たっての工夫】

○学校支援地域本部の活動拠点となる小学校にはボランティアルームが整備され、地域コーディネーターが定期的に駐在し、支援の効率化や情報の集積を図っている。

○実施6年目を迎え、ボランティアの高齢化、支援範囲の拡大等により、手薄になりがちな分野や新たな分野の開拓の必要があると考えている。既存のボランティアや関係者からの口コミ情報等により、技能や見識を持った地域人材の発掘に努めている。



田植え体験の様子(小学生)



自然観察会の様子(幼稚園児)



書写指導の様子(中学生)

## 事業を実施して

○ボランティア数も増加し、多くの大人たちが地域の子供を支える環境が醸成されている。これらの支援を通じ、学校を核にしたコミュニティや子供を見守る地域の形成に大きな効果がみられる。

○ボランティアが学校行事に関わることで、学校側には、地域の一員であるとの意識が増し、地域の大人にとっては、地域の次代を担う子供の成長の役割を担う。

# 佐方小学校区!皆で支え交流を深める活動!

## 広島県廿日市市

### 活動名

佐方小学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

佐方小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	7人	74人	23年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

佐方小学校区学校支援地域本部(愛称:ぼんぼこ応援団)は、佐方小学校の児童をみんなで守り育て、佐方小学校をみんなで支えるという方針のもと、平成23年12月に発足した。佐方小学校区の各地区が、「子供たちが通学する学校への支援」という共通理解のもと一体となり、交流を広め深めながら、地域が子供を育てるという態勢づくりを目指すものとして取り組んでいる。地域において長年培ってきた学校・地域の信頼関係のもとに、互いの願いや課題等が共有でき、支援・協力・情報交換ができる仕組みづくりを進め、「地域による学校への支援」だけでなく「地域への学校としての協力」や「相互の活動の交流・連携」を推進している。また地域自治組織と学校区の相違の中でも、協動的で効果的な運営を図っており、年々活動が盛んになってきている。

支援内容については、学習支援、クラブ活動、新1年生の下校見守り、学校行事など、学校からの要請にもとづいて取り組んでいる。また佐方小学校の「校訓」や「学校教育目標」、「めざす学校像・児童像・教師像」等を共有し、活動の参考としている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ○学習支援

- ・書写や図工の実技科目をはじめ、生活科、理科、クラブ活動など幅広い支援を実施している。特にクラブ活動では地域の歴史や伝統文化を伝承し、獅子頭作り、お面づくりなどは市の行事でも発表の機会を得る等、学校支援ボランティアがこれまで培ってきた経験を子供たちへ伝える模範的な活動となっている。
- ・学校支援ボランティアは担任の教職員の指導をサポートし、指導の徹底を図っている。また同時に「子供を褒める」ことも大事にしており、褒められることによる自尊感情の高まり、更なる挑戦への意欲など、子供に与える影響の大きさ・大切さについて、共通認識をもって取り組んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

#### ○支援調整会議を毎月1回開催

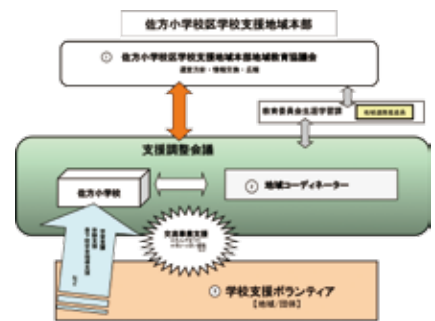
- ・学校からの支援依頼を地域コーディネーターが調整し、円滑に支援活動が行えるよう月に1回協議の場を設けている。佐方小学校区は学校区内に3つの地域自治組織があるが、毎月開催するこの会議が3組織の連携・調整の機会として機能している。

#### ○教職員と学校支援ボランティアの交流会

- ・学習支援に入る際に、教職員と学校支援ボランティアの間で十分な調整の時間を取ることが難しいことから、教職員と学校支援ボランティアの調整・協議のための機会を設け、互いの思いを率直に交換することによって、より良い成果、やりがいを生むことのできる支援とすべく取り組んでいる。

#### ○学校側の担当者の設置

- ・支援調整や連携の充実を図るための学校の担当者を校務分掌に位置付けている。調整作業を担当に集約することで、連絡作業でのすれ違い等のミスを防止し、安定した連携を図っている。



佐方小学校区学校支援地域本部 組織図



生活科「いも植え」体験の様子

## 事業を実施して

平成25年度に実施したアンケートでは、地域からは「子供たちとのふれあいの中で元気をもらいやりがいを感じている」、学校からは「児童1人1人に声をかけてくださり、子供たちにとってはげみになっている」といった肯定的な意見が多数出ており、信頼関係のもとに互いに満足できる取組ができている。また佐方小学校区は、学校区の中に3つの地域自治組織があるため、これまでも学校を含めた連携を推進してきた経過があったが、当本部の発足時に3組織の連携を重要事項として掲げ、以降毎月の支援調整会議や学校支援活動などを通して連携強化を図ってきた。学校と地域だけでなく、地域間の連携に関しても、当本部が果たしている役割は大きい。

## その他

佐方小学校区学校支援地域本部は、学校と地域のつながりに重点を置いており、子供たちが地域行事に積極的に参加をしている。子供たちは「れんげ祭り」「花いっぱい運動」「敬老会」など様々な地域行事に参加し、花植えやゴミ拾いなどに取り組んだ。地域行事の参加についての感想文には、満足感や地域への愛着が書かれており、地域に出ることが成長の機会となると同時に、地域住民に対する安心感や地域の魅力を感じとっていることが伺える内容である。

# 地域に根ざした教育環境づくりと地域で子供を育てる態勢づくり!

## 広島県廿日市市

### 活動名

大野東小学校学校支援地域本部

### 関係する学校

大野東小学校

活動区分	※H25年度の実績 (補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	12人	70人	23年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	10人	60日	無
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	20年度	無
			児童生徒数	学級数

### 活動の概要

大野東小学校学校支援地域本部（愛称：大野東っ子応援団）は、地域に根ざした教育環境づくりを、学校教育の場での「支援」といった形で具現化し、教員や地域の大人が子供と向き合う時間の拡充と地域の子供たちは地域で育てる態勢づくりの強化を目指すものである。大野地域において長年培ってきた学校・地域の信頼関係をもとに、お互いの願いや課題、情報の交換・共有を行い、相互が双方向に受けとめ合える事業を展開していく。未来を担う子供たちにとって「誇れる学校」と「誇れる地域」が持てるよう、子供たちと地域との交流や話し合いの場を持ち、地域の教育力が日ごろから発揮できるよう学校内に地域の居場所を確保している。また常に子供たちの事業参画を軸とし、子供たちが「達成感」「役立ち感」を獲得できる事業運営を行っている。

平成23年12月の発足以来、安定した本部事業を継続しており、支援の主なもの学習支援及び安全確保である。推進にあたっては校区を構成する4区域の行政区長の合意形成があり、円滑に行われている。学校支援ボランティアの活動量も年々増加しており、大規模校であるが、支援対象も全学級に及んでいる。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ○学習支援

・読み聞かせは毎週全学級で実施している。書写や家庭科の実技科目の支援についても、多数の学校支援ボランティアが参加しており、指導の徹底をサポートしている。またボランティアの心得を大切にし、笑顔、挨拶、声かけを励行し、児童との絆を深めるとともに、定期的に教職員と学校支援ボランティアの交流会を実施し、相互理解に努めている。

#### ○放課後はつかいち寺子屋塾（放課後子供教室）

・平成20年度より継続して取り組んできており、質の高い活動を実施している。  
・今年度より学校支援地域本部に組み込む形で実施しており、情報の共有及び学校支援ボランティア間の連携の強化を図っている。

### 【実施に当たっての工夫】

#### ○コーディネーター会議を毎月1回開催

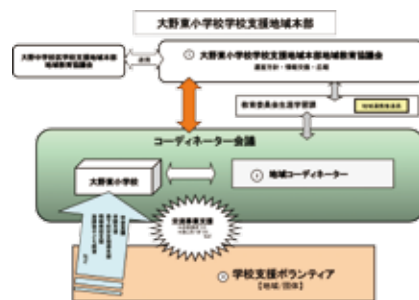
・学校からの支援依頼を地域コーディネーターが調整し、円滑に支援活動が行えるよう協議をしている。また学校からの積極的な事業の広報（校長挨拶、学校だより、通信等）及びボランティアルームの整備（出入りが容易）を充実し、活動のさらなる活性化を図っている。

#### ○見守り隊会議

・隣接する校区である大野西小学校で同様に実施している放課後はつかいち寺子屋塾の見守り隊と連携し、情報共有・調整のための会議を毎月1回開催している。

#### ○みらい行事カレンダー

・年末に次年度に向けて地域と学校が協力し、1年間の行事予定を取りまとめたカレンダーを発行している。地域行事と学校行事の重複を防ぐことで相互の参加を促進しており、また行事予定の広報としての役割も担っている。



大野東小学校学校支援地域本部 組織図



朝の読み聞かせボランティアの様子

## 事業を実施して

平成25年度に実施したアンケートでは、地域からは「この活動に参加することによって生活に活気が出て、地域に参加している感が大いにある」、学校からは「地域の方とふれあう機会であり、学校の中でそういった機会があることに意味がある」といった肯定的な意見が多数出しており、双方向の取組を実現できていることが伺えた。また子供を通して家庭と地域のつながりも確実に強まっており、学校、家庭、地域をつなぐための仕組みを効果的に機能させている本部である。子供のためにという共通の想いにより、学校、家庭、地域がそれぞれに良い影響を与え合う活動ができている。

## その他

放課後はつかいち寺子屋塾の取組が非常に充実している。実施母体となっている見守り隊は大野西小学校でも活動しており、毎週2日ずつ大野東・西小学校にて活動している。活動内容は箸の正しい使い方や裁縫、昔遊び、宿題等と多岐にわたっており、子供たちが基本的な生活習慣を身につけながら、友だちと交流したり、自主的に色々な活動をしたりする場となることを目的として活動している。

# 生徒のよりよい成長を願って、学校をのぞき、「てご(お手伝い)」をしよう!

## 山口県萩市

### 活動名

萩市立萩東中学校 てごの会

### 関係する学校

萩市立萩東中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
	平成26年4月1日	16人	465人	17学級	

### 活動の概要

平成18年度に、「家庭教育の充実と学校、地域社会における生徒の福祉と健全な成長を図ること」を目的として、「萩東中学校PTA父親・母親委員会」の有志が母体となって発足した。

8年前、生徒指導上の様々な問題を抱えていた頃、PTA会長の「とりあえず学校をのぞいて、てごをしよう」という呼びかけにより、賛同する保護者が集まって産声を上げた。

現在の、「てごの会」の会員は、約60名在籍しているが、PTAのOB・OGが中心となって、萩東中学校の学校支援組織として、なくてはならない存在となっている。この「てごの会」の存在とその活動が、本校のコミュニティ・スクール設置の原動力となっている。

現在も、週1回の花生け活動、学期に1回程度の教室・廊下の環境整備、学校行事への積極的なかわりなど、学校運営協議会の動きと連動して、地域貢献の取組である「公開講座」の実施など、幅広い学校支援活動へと発展している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

学校の教育活動を様々な面からサポートしているが、その主な活動は次のとおりである。

- 学習環境の整備：トイレや玄関などへの花生け(毎週火曜日)、机・椅子の防音のためのテニスボール加工等
- 学校行事への協力：「萩往還を歩こう」の見守り、「土曜塾」「面接指導」への協力
- PTA活動への協力：花壇・芝生の整備やトイレ掃除・エコキャップ集計など奉仕作業への参加、文化祭バザー、研修視察への参加
- 「人材育成ユニット研修」のグループの一員として参画

### 【実施に当たっての工夫】

1. 学校運営協議会委員に、「てごの会」の代表者に入っていただくことで、学校運営協議会で「熟議」した内容が即座に実行できるよう工夫をした。
2. 「学校」「組織」「授業」を開く取組を一体的に推進することで、保護者や「てごの会」等、地域の方々から学校運営における意見を聞きやすいように工夫した。
3. 教職員の組織と学校運営協議会、そして「てごの会」等、学校支援組織が連動した組織をつくり、課題を共有して教育活動を展開するしくみを構築した。
4. 学校だよりやPTA広報誌により、コミュニティ・スクールの進捗状況や、地域の支援による教育活動周知活動に力を入れた。
5. 「てごの会」を中心に行ってきた「校内の全トイレの清掃」の動きを生徒会に伝え、生徒会によるボランティア活動として定着させるなど、大人と子供のつながりをつくった。



防音用テニスボール加工

## 事業を実施して

この取組を通して、地域と学校との信頼関係が深まっている。

1. 「てごの会」の活動を通して、学校の敷居が低くなり、開かれた学校づくりが進化した。
2. 日常的に地域の方々为学校に来て教育活動に協力いただくことで、生徒と地域、教職員と地域との関係が近くなってきた。
3. 学校の課題を解決するための学校支援ボランティアの核となっており、学校運営が充実した内容になってきた。



毎週火曜の花生け

## その他

平成25・26年度に、保護者、地域の方々を対象にした「公開講座」を実施した。こうした地域貢献への動きづくりも「てごの会」なくしては成立していない。今後、学校・家庭・地域が連携して、若者が定住したいと思える地域社会をめざすためにも、コミュニティ・スクールの可能性を追究する学校づくりをより一層推進していきたい。

# 地域を愛し、たくましさと思いやりのある久保っ子の育成

## 山口県下松市

### 活動名

たくましい久保っ子を育てる会

### 関係する学校

久保小学校・東陽小学校・久保中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	17人	16日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	久保公民館		23年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

基本データ

### 活動の概要

小学校PTA (2団体)	幼稚園
中学校PTA	久保地区福祉協議会
子ども会育成連合会 (2団体)	東陽連合自治会
スポーツ少年団	民生児童委員協議会
スポーツ推進委員	久保地区婦人会
小学校 (2校)	主任児童委員
中学校	学識経験者 (伝承芸能指導者)
下松警察署花岡交番	少年相談員

たくましい久保っ子を育てる会は、「学校、家庭、地域との交流を深め地域を愛し、たくましさと思いやりのある子供の育成」を目的に、平成元年2月に発足した。久保中学校区内の関係団体をほぼ網羅したネットワークとなっている。

会長がコーディネーターとなって、地域と連携した中学生ボランティア活動の推進や伝統芸能・文化の継承、学校の安心・安全の見守り、放課後子供教室の運営に取り組んでいる。たくましい久保っ子を育てる会の活動は、まちづくりや地域の活性化にもつながっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 中学生ボランティア活動の推進
  - 現在では地域行事等への中学生ボランティアの参加は一般的になっているが、久保地区では、平成5年から実施している。
- たくましい久保っ子放課後子供教室の企画・運営
  - 市教委から事業の委託を受け、地域が主体となった活動を行っている。
- 伝統文化・伝統芸能の継承
  - 県の指定無形民俗文化財「切山歌舞伎」や「来巻神舞」「松風太鼓」などの継承に取り組んでいる。
- 世代間交流の促進
  - 大人と小・中学生と一緒に活動することで、ふるさとを愛する意識を醸成している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 中学生ボランティア活動では、依頼団体が中学校に出向いて作業内容等を事前に説明するなど、多忙な生徒に極力負担をかけないようにしている。
- 放課後子供教室では、ふるさとを愛する子供の育成をめざして、地域の住民が講師やスタッフとなり、地域の特徴を生かした自然体験などを取り入れている。
- 放課後子供教室で、「切山歌舞伎」や「来巻神舞」の体験活動を実施することで、地域の伝統文化を継承している。また、市生涯学習フェスタなどでPR活動を行っている。
- 世代間交流を充実させるために、小・中学校のPTA、子供会育成連合会、婦人会、学識経験者など様々な団体の協力を得ている。



中学生ボランティア(事前説明会)

## 事業を実施して

久保中学校区では「平日は学校が、休日は地域が主体となって子供たちを育てる」という考えが浸透している。地域に温かく見守られている子供たちは、学校や地域で大変落ち着いて生活している。また、地域の大人にとっては、行事や放課後子供教室等で子供たちとふれあうことが生きがいとなっている。「たくましい久保っ子を育てる会」は、学校・家庭・地域を結び懸け橋となり、子供たちの15年間の育ちを地域ぐるみで見守り、支援する仕組みである「地域協育ネット」充実のための中心的役割を果たしている。



放課後子供教室(田植え体験)

## その他

「たくましい久保っ子を育てる会」が推進するボランティア活動の仕組みは、市内の全中学校の取組へと広がり模範となっている。

# 地域力・つながりを生み出す放課後子供教室

## 山口県田布施町

### 活動名

麻里府小学校放課後子ども教室

### 関係する学校

田布施町立麻里府小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	5人	35日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		空き教室、校庭、体育館		19年度	有
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 【概要】

- 1 期間・回数 通年、年35回程度
- 2 活動日・時間 毎週月・木曜日15:00~15:45
- 3 対象児童 1年生3名 2年生2名 計5名
- 4 指導者 13名
- 5 活動内容(教室種目数9)

- 創作活動(ちぎり絵、折り紙、編み物、スペシャル) ○昔遊び(カルタ遊び、作って遊ぶ)
- 自然体験活動(アウトドア) ○スポーツ体験活動(ドッジビー、リズム運動)

※7月に「教育支援員等スキルアップ研修会」を開催。町内の放課後子供教室関係者を招き、教室の様子を公開。運営方法や指導方法の情報交換を行った。

※秋の文化展では児童の作品を展示し、「リズム運動」で学習した成果を披露する。

※2月には、平生町で開催されるドッジビー大会に出場。(H25年度は準優勝)

### 【経緯】

平成19年 手弁当で参集、活動種目数6、指導者10名で活動スタート。

平成21年 活動種目にリズム運動を追加。運動会や公民館祭りで披露、連携を深める。

平成24年 「100万人の花は咲く(NHK東日本大震災プロジェクト)」に応募、6月に放映。

平成26年 文部科学大臣表彰受賞。

### 活動の概要

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

学習内容に応じて主担当を割り当て、主担当以外の教育支援員は副担当(協力者)として教室運営に携わるとしている。毎回、教室の開催前には「協力者事前学習」の時間を設け、主担当から副担当(協力者)へ学習内容の伝達を行って共通理解を図り、教室開催へ備える。

協力者によるこうした事前学習が功を奏し、子供たちへ質の高い学習を提供するとともに、つながりの深化・拡充に一役買っている。

### 【実施に当たっての工夫】

事前に、コーディネーターと教育支援員とが連絡を密にとり、毎回、周到な準備を施し運営する形が定着している。教室終了後にも、学習展開や内容の反省、課題等を協議。以後の改善策や今後のめざすべき方向性を確認している。

町内にある他の放課後子供教室とも連携し、お互いの教室内容を公開(教育支援員等スキルアップ研修会)。情報交換を通して、参考になる点や良さを吸収し、教室運営に役立てている。



教育支援員等スキルアップ研修会(ちぎり絵教室)

## ● 事業を実施して

子供たちは多くの大人とのかかわりから知恵をもらい、コミュニケーション能力を高めている。他方、地域の大人も、子供たちとのかかわりの中からやりがいを見だし、これが生きがいにもなり地域住民の主体性・積極性を引き出している。こうしたお互いを慕い、感謝し合う関係が相まってプラスの連鎖を構築し、地域の活性化・勢いづくりにつながっている。

## ● その他

『100万人の花は咲く(NHK東日本大震災プロジェクト)』へ歌唱を応募し復興支援をするなど、献身的に活動を行っている。「自分たちにできることがあれば力になりたい」というボランティア精神に裏付けられた取組姿勢が、放課後子供教室を始め、学校や地域の活動にも色濃く投影されている。



あみ物にチャレンジ!

# 家庭・学校・地域の総力で取り組む地域の子育て

## 徳島県阿南市

活動名

津乃峰小学校区学校支援地域本部

関係する学校

津乃峰小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	20人	23年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

青少年を取り巻く社会環境はめまぐるしく変化し、同時に家庭や地域における教育力も低下している。

また、教員の勤務負担が増加する中で、子供たち一人一人に向き合う時間が減少し、いじめや不登校などの諸問題に対して十分な対応がとれず学校は事後処理に追われるという悪循環になりかねない。教員の負担を軽減するためには、地域住民が学校教育に関心を持ち、協力する体制づくりが重要である。

こうした中、平成17年度に地域のボランティアとして「答島21世紀会」を発足し、平成23年度に答島21世紀会を中心として学校支援地域本部を立ち上げ、学校施設保全や安全管理等で学校教育を支援する仕組みをつくり、地域の教育力の向上を目指し活動している。

全校児童161名という規模の学校でありながら、学校支援ボランティア登録者は20名確保している。また、地域協議会運営委員は4名で、PTA役員、コーディネーター、社会教育団体メンバー、学校長により組織されている。

少人数の組織ではあるものの、学校支援活動は年間200日を超え、学習支援活動に10日、環境整備に10日、学校行事に10日、中でも登下校安全指導は200日といったように、毎日のように児童を見守る体制づくりが行われている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

津乃峰小学校区学校支援地域本部では、各種団体や地域の住民と協力することにより、地元根ざした大変特色のある活動(子ども夏祭り、オリエンテーリング、交通安全教室等)が行われている。

学習支援活動としては、ゲストティーチャーによる講話や、ボランティアによる学習指導補助などの活動を行っている。また、運動会・参観日等の学校行事の際の指導補助や、樹木の剪定・草刈り・通学路の清掃等の環境整備も熱心に行っている。中でも200日に及び登下校時の通学路における交通指導は、子供の登下校時の安全確保に大いに貢献している。

こうした地域の温かい見守りの中で、子供たちも元気に活動できている。

### 【実施に当たっての工夫】

人数が少ない中、保護者や地域社会の学校教育に対する興味や関心が高いことが効を奏し、多種多様な活動に結びついており、特に、地元の文化や環境を生かした取組に工夫が見られる(地震津波体験談、お祭りの話、昔の遊び等)。

平成26年度まで30回にわたり行われてきた、「津乃峰子ども夏祭り」では、地元の婦人会による盆踊り、縁日、クイズ大会など、子供たちが思い切り楽しめる工夫が随所に見られる。また、大人の参加者も多く、地域が一体となった雰囲気づくりができており、まさに連携の賜物である大きな行事だと言える。さらに、夏祭りの前には、ゲストティーチャーが学校に向いて夏祭りの発祥と意義について、児童にレクチャーするなど、学校を巻き込んだ有機的な取組となっている。



津乃峰子ども夏祭り

## ● 事業を実施して

多様な体験ができることにより、子供たちは各種の活動に興味を持って取り組んでいる。また、ボランティアとの人間関係も結ぶことができ、学校のみならず地域の中でも交流が出来るようになってきている。一方、ボランティアは、どうしたら子供たちが積極的に学校生活に取り組みめるかを常に考えた上で、各活動を企画し、実施しており、そうすることがボランティア自身のやりがいにもつながっている。また、学校は地元根ざした温かい教育環境を構築することができ、大いに喜んでいる。

## ● その他

各種団体及び地域住民とさらに連携を深め、学校支援地域本部の活動がますます広がり、深化するように、可能性を模索しつつ、更なる発展を目指したい。

また、今後南海トラフ巨大地震に備え、防災、減災についても活動をしていく予定である。



支援ボランティアへの感謝の集い

# 地域ぐるみで子供を育て、地域のきずなを深めよう!

## 徳島県美馬市

### 活動名

美馬中学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

美馬中学校・郡里小学校・喜来小学校  
芝坂小学校・重清東小学校・重清西小学校  
郡里幼稚園・喜来幼稚園・芝坂幼稚園  
重清東幼稚園・重清西幼稚園

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	82人	23年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

急速な都市化や地域における地縁的なつながりの希薄化などによる、「地域の教育力の低下」が指摘される一方、学校教育においては、子供にきめ細やかな指導をする時間の確保のために、教員の業務負担の軽減を図る取組が必要となっている。

こうした中、学校支援地域本部の立ち上げにより、学校施設保全や安全管理等で学校教育を支援していただく仕組みをつくり、地域の教育力の向上を目指している。

平成23年12月15日に、美馬中学校区学校支援地域本部地域協議会を立ち上げており、教育支援に係る学校は11校で、美馬中学校、郡里小学校、喜来小学校、芝坂小学校、重清東小学校、重清西小学校、郡里幼稚園、喜来幼稚園、芝坂幼稚園、重清東幼稚園、重清西幼稚園が地域本部の支援を受けている。

また、学校支援ボランティア登録者は当初年度から順調に増え、平成23年度に35人であったのが、24年度には55人、25年度は79人、26年度には82人と、当初の2.3倍に増大している。

なお、地域協議会運営委員は29名であり、各単位PTA会長、自治会連絡協議会委員、婦人会役員、老人クラブ役員、主任児童委員、各学校の校長といった、多岐にわたる団体に所属する地域住民により構成されている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

美馬中学校区学校支援地域本部では、各種団体や地域の住民と協力することにより、大変特色のある活動が行われている。

特徴的なものとしては、絵本の読み聞かせ・田植え等の栽培・ダンス・料理教室を含む学習支援、運動会・遠足・参観日等の学校行事の際の指導などが挙げられる。中でも、樹木の剪定・花壇の手入れ等の環境整備、登下校時の通学路の交通指導を行うことで、子供の安全安心な学校環境づくりに努めていることが特筆に値する。

さらに、放課後子供教室とも連携して事業を行っており、こうした多種多様な体験を提供することで、子供たちも熱心に活動できている。

### 【実施に当たっての工夫】

工夫点としては3点が挙げられる。

まず1点目は、学校支援ボランティアの確保のために、多種多様な団体に依頼していることである。地域協議会運営委員が、PTA・自治会・婦人会・老人クラブ・主任児童委員・学校長など多岐にわたるメンバーにより構成されており、地元が総力を挙げて学校支援に取り組む姿が見て取れる。

次に2点目として、各学校の要望をよく聞いて、ニーズを明らかにした上で、支援ボランティアを派遣している点である。こうした工夫により、学校ごとの実情や児童生徒の状況、教育環境にマッチした取組が推進できている。

3点目としては、各種地域団体や地域住民と連携を図ることにより、なかなか子供が体験できないような機会を協力して企画している点である。中でも、水鉄砲づくりや、絵本の読み聞かせ、田植えなどボランティアの方の現役時代の体験を生かした活動が多く見受けられる。



フラワーアレンジメント

## 事業を実施して

参加した子供たちは多様な体験が出来ることで、地域の色々な事に興味がわき、支援ボランティアが来てくれるのを心待ちにしている。また、支援ボランティアは、スーパーマーケットなどで子供たちから挨拶されるようになり、感激したり、学校や子供たちを支援することに生きがいを感じており、目的意識を持ち、非常に熱心に取り組んでいる。一方、学校も、学校支援地域本部事業をとおして、地域住民の特技が生かされ、教育内容が豊かになったと考えている。

## その他

多くの地域住民が学校支援ボランティアとして活動しているが、地域にはまだまだ力があると思うので、各種団体及び地域住民とさらに連携を深め、活動の更なる発展を目指したい。



ニュースポーツ体験の様子



# ふれあい、学び、命を守る「海南子ども館」

## 徳島県海陽町

活動名

海南子ども館

関係する学校

海南小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	50人	186日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	旧幼稚園		23年度	無
指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

毎週、月から金までの学校の授業日に、実施されている。  
 教室の運営については、退職教員や教育委員会OB、地元の地域の方々を中心に、教育活動推進員5名・学習活動サポーター1名を常時配置し運営している。  
 海南子ども館では、児童は出席カードを提出したもものから、学習活動サポーターのもと、最初に学習室で宿題等について学習する。学習が終了した児童から空き教室や敷地内での活動をする流れとなっている。  
 毎月の活動の中で月に数回、特別活動として講師を招いての茶道教室・押し花教室や昔ながらのお手玉や折り紙、あやとりなどの遊びを教える活動があり、友達と共に楽しく知識を養う時間となっている。  
 また、近年、南海トラフ巨大地震による津波が、当該地区に到達することが想定されており、教室に参加している全員が近隣の海南小学校に避難する訓練も実施し、日頃から防災に対する心構えや安全に避難する方法について学習している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・毎週、月から金までの学校の授業日に実施されている。
- ・近年の南海トラフ巨大地震による津波が、当該地区に到達することが想定されており、小学校と連携し、放課後子供教室に参加している全員が隣接の海南小学校に避難する訓練を実施し、日頃から「自分の命は自分で守る」といった防災に対する心構えや安全に避難する方法について学習している。
- ・地元の退職教員や教育委員会OBをはじめ、多くの地域住民の指導・体験などを通して、「地域全体で子供を見守り、子供を育てる放課後子供教室」として運営されている。
- ・異学年の児童がともに協力し助け合いながら行う津波避難訓練、作法から礼儀を学ぶ茶道教室・昔ながらの竹細工教室など学び合える場を取り入れている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・毎週、月から金までの学校の授業日に実施されているため、放課後子供教室での時間の過ごし方を家庭でも習慣化されるよう、児童は出席カードを提出したもものから、学習活動サポーター指導のもと、はじめに学習室で宿題等について学習するように努めている。
- ・少子化により当該地区でも児童が減少しているが、幅広い人脈のある地域の退職教員や教育委員会OB、地域住民に多数参加してもらうことで、教室に関わる人の輪が広がっており、活気のある教室となっている。
- ・地震や津波に対する避難訓練など、目で見えるような活動を地域の中で実施することによって、より多くの地域住民に放課後子供教室の存在を知ってもらえるようにしている。

## 事業を実施して

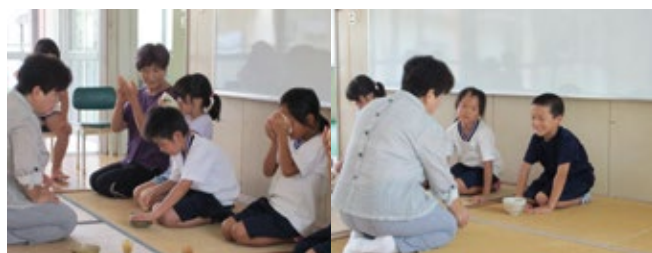
- ・事業の実施に当たり、たくさんの地域住民の参画を得ることができ、教室に通う子供たちは学習・地域・防災など幅広く交流や体験ができるようになった。
- ・地域住民との交流により、子供たちが人の心の温かさを理解し、仲間を大切にしようとする意識が育ってきた。
- ・この事業が地域全体の活性化にもつながり、学校・家庭・地域・各関係機関との連携も以前よりスムーズなものとなってきている。

## その他

今後も、町の広報誌等を活用し、放課後子供教室の活動を広報して、より多くの地域住民に参加、協力を呼び掛けていき、地域全体で子供たちを育てる体制を構築していきたい。



海南小学校への津波避難訓練



茶道教室

# 地域の協力のもと、子供たちが有意義に過ごせるように努めている。

## 香川県まんのう町

活動名

いきいき教室

関係する学校

四条小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	12人	122日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	四条公民館、満濃農村環境改善センター		20年度	有	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

学校5日制の導入に伴い、放課後及び休日の子供たちの居場所を作るため、教育委員会より公民館へ協力を依頼し、子供たちが学習できる場として活動が始まった。放課後子供教室事業として実施するようになってからも、地元の同好会の指導者や学識者に講師をお願いし、さまざまな教室を開催するなど積極的に活動に取り組んでいる。

例えば、「親子七宝焼き教室」、「親子茶道教室」など親子で取り組める教室や、外に出て自然と触れ合う「水辺のネイチャーゲーム」、町内の高齢者と交流する「ふれあいブランドゴルフ大会」など、子供たちが普段できないような体験を通して学習できる機会を作っている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ・教室の講師は、地元の同好会の指導者をお願いし、七宝焼き教室や茶道、クリスマスケーキ作りなど親子で取り組めるものも取り入れている。子供たちの学習の場としてだけでなく、親子の交流の機会を提供できるよう努めている。
- ・子供たちが普段体験できないような教室(お琴、詩吟、七宝焼、俳句等)を取り入れている。また、本年度より地域の将棋に詳しい方に講師を依頼し、新たに「将棋教室」を追加するなど、子供たちが興味のある活動を積極的に取り入れている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ・学社連携を深めるために、年度の初めに子供教室のメニューを小学校に出し、取りまとめをしてもらっている。学校にとりまとめを依頼することで、子供たちに広く呼びかけることができる。
- ・講師の先生が、それぞれ内容を工夫して取り組み方を変えてくれている。初めて参加する子供にもわかりやすく説明することや、講師の方が子供たちに積極的に話しかけるなど、楽しみながら学習できるように工夫したことで、子供が継続的に参加してくれている。
- ・子供が参加しやすい土曜日などに重点的に開催している。休日に重点を置くことで、子供たちが有意義に休みを過ごせている。
- ・参加募集で、公民館に訪れた子供たちへの勧誘も行っている。公民館で実施している他の事業や、同好会の活動の際などに子供教室の活動紹介を行い、内容を知ってもらうことで、初めての子供でも参加しやすい環境づくりができています。
- ・各教室で習った作品や芸能は、公民館まつりや町文化祭で展示・発表をして、子供たちに達成感を味わわせている。子供が学習した成果を実感することで学習意欲の向上につながっている。



夏休み 絵手紙教室

### 事業を実施して

- ・長期休暇にもいろいろと教室を開催してくれているので助かりますという保護者の声もある。
- ・公民館祭りに子供ボランティアとして参加できるようになり、行事が明るく活性化し、子供たちも充実感を体得している。
- ・子供たちが公民館をよく利用できるようになり、公民館を訪れる地元の方と交流する機会も増えている。また、学校以外に子供たちが集まることのできる場所が増え、子供たち同士のコミュニケーションを養う場にもなっている。

### その他

特色ある模範的活動の事例発表として、「平成25年度放課後子どもプラン現地研修会」(H25.11.27)を開催し、県下の放課後子供プラン関係者に活動発表、現地視察を行った。



親子クリスマスケーキづくり

# さまざまな体験活動で自分のよさを伸ばし、人とかかわる力を育てています。

## 愛媛県松山市

活動名

小野子ども教室

関係する学校

小野小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	39人	101日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	和室、会議室、視聴覚室、体育館、小野ふれあいサロン 外	19年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成16年度から3年間実施した地域子供教室の活動成果を引き継ぎ平成19年度から開設した放課後子供教室であり、小学校やPTA、親父の会、公民館、社会福祉協議会、高齢クラブ、教員OBなど、地域の幅広い関係者や団体が連携協力して活動している。

平日には、「水曜のびのび教室」と題して、学校の宿題やパソコン遊び、縄跳び、折り紙などの活動に子供たちが自主的に取り組むほか、本の読み聞かせなどを実施している。土曜・日曜日には、吟詠や囲碁・将棋、スポーツ・レクリエーション、昔の遊び、演劇、ふるさとめぐり、クッキング、茶道、川柳など10の教室（体験メニュー）を、できるだけ日時が重ならないように実施している。子供たちは自分の好きな教室を選択して参加できるので、時間をうまく調節すれば、定員をオーバーしない範囲で何教室でも参加し、さまざまな活動を体験することができる。

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

昔の遊び教室では、地区内の8つの「ふれあいいきいきサロン」の高齢者が交替で参加してくれるので、子供たちは多くの高齢者とふれあうことができるほか、季節に応じた飾り物などを一緒に製作することで、伝統文化を学ぶ良い機会にもなっている。

スポーツ・レクリエーション教室では、経験豊富な指導者や健全育成関係者が見守る中、子供たちの主体性を生かしながら、ドッジボールやティールボール、ドッジビーなどを実施している。子ども劇団教室では演劇の練習を通して、表現力やコミュニケーション力の向上を図っている。

#### 【実施に当たっての工夫】

子供たちが自分の良さに気付き、伸ばせるよう、多くの活動メニューを実施し、複数選択できるようにしている。

活動内容のレベルアップと子供たちへの教育的配慮の充実を図るため、健全育成活動の経験が豊富で指導力の高い住民や教員OB、おやじの会会員、小中学校PTA役員らが指導的役割を担っている。

障がいのある児童が参加する場合は、必要に応じて保護者の付き添いや教員が見守るなどのサポートを行っている。

土曜・日曜日に複数の活動を同時に実施するため、地区公民館の協力を得ているほか、消防署の協力を得て公民館で避難訓練を実施している。



ドッジボールを楽しむ子供たち

### ● 事業を実施して

スポーツ・レクリエーション活動では高学年が低学年にルールを教えるなど、異年齢の子供集団での活動によって社会性が身につく良い機会になっている。また、スポーツクラブ等に加入していない子供の体力向上にも役立っている。

昔の遊び教室では、多くの高齢者とふれあうことで、人とかかわる力が育まれるとともに、高齢者の生きがい創出にもつながっている。



ジュニア川柳教室の子供たちと推進員

### ● その他

子供たちは多くの活動の中から選択し、目的意識を持って参加しているので、誰もが熱心に取り組んでいる。

# 地域が一体で取り組む学校支援 ～できる人が、できる時に、できることから～

## 愛媛県宇和島市

### 活動名

三間中学校区学校支援地域本部

### 関係する学校

三間中学校・三間小学校・二名小学校  
成妙小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	150人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

### 【活動の概要】

#### ＜コーディネーターの活動＞

- ・年度当初に学校と年間の支援計画について協議し、支援ボランティアの確保を行う。(例年同様に行う支援については、地域の婦人会や老人クラブとの協力体制が出来上がっている。)
- ・年度途中に発生した支援ニーズに対しても、柔軟に対応を行う。
- ・広報紙(家庭教育支援、放課後子供教室と合同)、地区内回覧、防災行政無線を利用して、事業の周知を行う。

#### ＜主なボランティア活動の内容＞

- 学習支援
  - ・音楽指導 ・稲作指導(田植えから稲刈りまで) ・校外活動の引率補助 ・読み聞かせ
- 環境整備
  - ・庭木の剪定 ・除草 ・溝掃除 ・遊具の補修 ・親子奉仕活動への作業協力 ・花壇整備
- 学校行事支援
  - ・ペタンク体験 ・しめ縄づくり ・昔の遊び体験 ・餅つき体験

### 【活動の経緯】

- ・平成20年度より実施された国の委託事業をきっかけに、それまで4校が個々に調整していた地域住民のボランティアによる支援活動を、組織的に継続できるよう、学校支援地域本部を立ち上げ、現在に至っている。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・三間地区の子供たちは米どころの利点を生かし、田植えから稲刈りまで一連の稲作づくりについて学習している。さらに、収穫した餅米を使った餅つきや稲わらを使ったしめ縄づくりを体験しており、その実施には支援ボランティアが大きく関わっている。
- ・収穫した餅米を使った餅つき体験行事では、「ちぎり餅アラカルト(体験活動でついた餅をのり、ごましょう油、納豆、おろし大根、白で挽きたてのきな粉で味付けし、児童・地域住民がバイキング形式で食事を行う)」をボランティアの協力を得て実施、多くの地域住民が学校に入り交流を深めている。
- ・成妙小学校においては、蔭淵小学校(市内海岸部の小学校)との交流事業も田植え・稲刈りに合わせて実施しており、地域を挙げて他校の児童を受け入れている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・6月の田植えから12月の餅つき・しめ縄づくりまで長期にわたる支援であるので、地域住民、老人クラブ、婦人会などと事前に実施日について協議することはもとより、活動内容が天候に左右されるものでもあるため、状況に合わせてその都度再調整を行っている。
- ・稲刈りの際、支援ボランティアから子供たちをコンパインに体験試乗させてはどうかという提案があり、実際に取り入れた。このように、支援内容がより良いものとなるよう、コーディネーターが学校側のニーズと支援ボランティアからの提案の調整を行っている。



民話の語り部に、児童が耳を傾けます

## ● 事業を実施して

### 【成果】

- ・支援ボランティアの組織化による、継続的な支援活動の実現。
- ・支援ボランティアが学校現場に入ることによる、児童・教職員と地域のつながりの強化。
- ・社会貢献をしたという実感による支援ボランティアの喜びや充実感。

### 【課題】

- ・事業として、活動を組織化してから7年が経過するが、この活動がすべての住民に認知されているとは言い難い。あらゆる手段で周知を図っていきたい。
- ・子供の支援だけに限らず、環境整備活動などにOB・OGが参加することで、母校のために行う支援を通して郷土を愛する意識を向上させていきたい。



ちぎり餅アラカルト

# 地域で育む子供の「居場所」づくり

## 愛媛県伊予市

活動名

中山町子ども教室

関係する学校

中山小学校・佐礼谷小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	49人	67日	無
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	なかやま農業総合センター・佐礼谷小学校	指定日	委員数	16年度	無
			児童生徒数	学級数	

### 【活動の概要】

- ・活動は、主に毎週水曜日。
- ・野菜等の栽培や川遊び、俳句教室等、地域の自然環境と人材を活用した創意ある活動を展開している。

### <主な活動内容>

- 学習活動 ・学校の宿題、予習、復習 ・人権DVD鑑賞 ・読書
- 文化的活動 ・俳句教室 ・料理教室 ・絵手紙教室 ・昔の遊び ・七夕笹飾り製作
- スポーツ活動 ・スマイルボーリング ・ビーチボールバレー ・グラウンドゴルフ
- 交流活動 ・もちつき大会 ・夏祭り ・ストーンペインティング ・ハロウィン ・移動学習
- 自然体験活動 ・農業体験 ・川遊び ・里山散策

### 【活動の経緯】

- ・文部科学省委託事業「地域子供教室推進事業」により、旧中山町の小学校区である中山地区と佐礼谷地区の2か所を拠点として、平成16年度から「中山町子ども教室」を設置した。
- ・放課後における子供の安全・安心な居場所の確保とともに、地域の自然・人・文化とのふれあいを通して、心豊かな子供を育成することを目的に活動を続け、現在に至っている。

活動の概要

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の実態に応じて2か所で活動が展開されている。運営面のサポートを中山地区公民館が行っており、2教室の連携・協働体制ができています。
- ・地域の大人の支援を得て、農作物の栽培、収穫、調理までの一連の過程を体験することで、自然体験活動及び食育を展開している。
- ・毎年数回、消防所や博物館等の市内外の他の施設で見学・研修・交流を行い、子供が体験的に学ぶことのできるプログラム作りに努めている。
- ・施設内の和室や図書室を活用して、学習活動や読書活動を適宜取り入れており、落ち着いた学習環境のもと子供が学習習慣を身に付けることができている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・教室で作成した俳句や絵手紙等の作品を施設内に展示し、住民に楽しんでもらい、成果を地域へ還元している。
- ・地域の夏祭りに参加し、町を彩る七夕笹飾りの製作をしたり踊りに参加したりして、地域との交流を図っている。
- ・中山地区と佐礼谷地区の子供の交流の機会も設け、中学校への接続が円滑になされるように配慮している。
- ・地域内外の農場や公共施設、文化施設等を訪問しての研修や交流の機会を設定し、子供が体験的に学ぶことのできるプログラム作りに努めている。
- ・毎月「子ども教室だより」を発行し、保護者や児童に活動の様子を知らせることにより、家庭の関心を高めている。



自然の中で(川遊び)



収穫したサツマイモを料理

## 事業を実施して

- ・年間を通して季節に応じた文化活動・体験活動が展開されるため、子供たちは意欲的に取り組み、楽しい居場所づくりができています。
- ・異年齢・異世代の活動を進めることで、子供のリーダー性が向上し、地域の絆も深まっている。

### 【課題】

- ・地域ボランティア(特に年齢層の若い人)の支援を十分確保できるようにしていきたい。

## その他

本教室の長年の取組が認められ、市生涯学習推進大会で実践内容を発表した。今後も、子供教室を通して地域の教育力を高めることができるよう発信していきたい。

# 体験活動をとおして、豊かな人間性を育もう!

## 愛媛県四国中央市

### 活動名

赤石フレンド教室

### 関係する学校

関川小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	18人	245日	有
		実施場所	開始年度	放課後児童クラブとの連携	
		関川公民館	19年度	無	
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 【活動の概要】

・月曜日から金曜日の放課後は、宿題などの学習活動や室内遊びを行い、土日等の休日は、公民館行事と連携して、料理やお菓子づくり、工作等を行っている。

### <主な活動内容>

- 学習活動 ・宿題 ・防災学習会 ・読み聞かせ
- 室内遊び ・工作 ・折り紙
- 公民館行事 ・カレーや手打ちうどん等の料理づくり ・焼きドーナッツ等のお菓子づくり ・七夕飾りづくり ・かまぼこ板の絵づくり ・ギャラリーしろかわでの屋外活動 ・まんのう公園でのピザづくりや木工づくり体験

### 【活動の経緯】

・安全・安心な居場所の確保とともに、学校の教育内容とは違った学習や体験活動の機会を提供しようと、地域や保護者の呼びかけに応じ、退職教員を中心にして、平成19年度から「赤石フレンド教室」を開設した。

活動の概要

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・退職教員が中心となって計画した行事を、婦人会や更生保護女性会、高齢者いきいき教室、栄養学級等の地域の団体が、協力して活動を行っている。赤石フレンド教室の指導員は、関川小学校の「ふるさと巡り」の探訪コーナーで、子供たちに地域を紹介したり、昔の遊びで交流しており、小学校とのつながりも深くなっている。
- ・工作や料理、紙芝居、折り紙等、地域の各分野の達人を講師に招き、ナイフやのこぎりを使って竹のお椀や箸を作ったり、カレーや手打ちうどん、恵方巻き等を作ったりと、普通の生活では体験できない活動内容を取り入れている。
- ・防災学習会では、消防署の方に来ていただき、子供たちに防災意識をもってもらうと、災害(台風・地震・雷・竜巻)が起きた時、どうすればよいか、どのようなことに気をつけるか等、クイズやゲーム形式で楽しく学んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・毎回、3~4名の指導員が参加し、子供たちが安全で楽しく活動ができる場所を確保するとともに、活動の中で上級生が下級生の手助けをする場面を意図的に設け、異年齢間の交流を図るようにしている。
- ・参加する時は、申込用紙に児童の学年や名前の他に、保護者の名前や連絡先も書いてもらい、緊急時には連絡を取り、素早い対応ができるようにしている。
- ・帰宅時は1人で帰らないように、保護者に迎えに来てもらうようにしており、活動後の安全面を確保している。
- ・毎月、公民館で「募集チラシ」を作り、学校を通じて配布し、保護者や子供たちに参加を呼びかけたり、公民館だよりに赤石フレンド教室の活動の記事を載せたりして、学校・家庭・地域それぞれの理解が深まっている。週末の行事では、保護者が準備や後片付けまで手伝うなど、指導者のサポートをしてくれ、協力を得ながら活動している。活動終了後には、感想や今後の要望などを聞き、より良い活動へつなげている。



防災学習会の様子



カレーづくりに挑戦!

## 事業を実施して

### 【成果】

- ・赤石フレンド教室の活動があることで、子供から大人まで、様々な世代の人たちが公民館に集まり、地域の人との交流が生まれている。参加している子供たちは、大人など異年齢の人たちともコミュニケーションを取れるようになってきている。

### 【課題】

- ・参加者が固定化しつつあるので、地域の子供たちみんなが参加しやすいイベントを考えていきたい。
- ・指導者の高齢化により、昔の遊びなどを伝承していく人がいなくなりつつある。

# 地域みんなで育てよう 片地の子どもたち! ～片地の子どもを育てる会～

## 高知県香美市

### 活動名

片地の子どもを育てる会

### 関係する学校

香美市立片地小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	約100人	25年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

「開かれた学校づくり推進委員会」を基盤に、10年以上前から学校教育活動を支援する取組が行われており、平成22年度から規模を拡大し、より多くの地域ボランティアの参画を得て、学校の様々な教育活動を支援する「片地の子どもを育てる会」が組織された。この組織は、保育所長、民生委員、山びこ会(交通・安全見守り)、スポーツ少年団、PTA(稲作部)、佐岡おとうちゃん会、公民館、片地駐在所等で構成され、学校行事支援、学習支援、体験活動支援や児童の安全見守り(交通安全、防災、不審者等)、各種地域行事の支援等を行っている。

平成25年度には学校支援地域本部事業を活用して地域ボランティアの組織化を図り、学校支援地域本部を立ち上げた。昨年度の地域ボランティアによる学校支援活動ののべ人数は、1874人(学習支援501人、環境整備156人、登下校安全530人、学校行事599人、その他88人)となっている。

運営については、コーディネーターを1名配置するとともに、本年度からは地域の情報を教職員に伝えたり、学校内のニーズを集約してコーディネーター等に相談・依頼する「地域連携担当教員」を置き、学校と地域が組織的に連携する仕組みを更に強化している。また、学校長、地域連携担当教員、コーディネーター等で打ち合わせを頻繁に実施し、学校と地域住民が目的等を共有することで更に取組が充実し、家庭・学校・地域が連携、協働して子供を育てる仕組みづくりが進んできている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### 【学校行事支援】

- 入学式、卒業式、運動会の会場作り支援、遠足の安全確保支援
- 学校運営支援(プール監視、図書館管理)

#### 【学習(児童)支援】

- 学習支援(ゲストティチャーによる指導、児童の活動支援)
- 農業体験支援(稲作部・米作り、児童の農作物栽培・収穫体験への支援)
- 子供とともに行う地域行事(ふれ愛片地、佐岡祭、舟入祭で模擬店を児童とともに運営)
- 読み聞かせ(朝の時間帯の読み聞かせ)
- 児童支援(要保護児童への学校と連携した支援)年3回実施

#### 【スポーツ健康支援】

- 食育健康支援(食育推進とともに、餅つき、郷土料理づくり(皿鉢料理))
- スポーツ支援(相撲大会に出場する児童を指導)

#### 【安全支援】(山びこ会)

- 交通安全見守り支援、登下校見守り支援

#### 【地域活動支援】

- 片地小PTA活動と連携し、市内の地域行事に参加(ふれ愛かたじ祭、佐岡祭、舟入祭等への参加)

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校長、地域連携担当教員、コーディネーター等が中核となり目標や情報を共有することで、関係者のベクトル合わせが進んでいる
- 地域住民のボランティア組織「若あゆ会」が交流行事等を実施し、より多くの地域の方が参加できるようになっている。
- 隣接の県立高知工科大の学生等が学習活動への支援を行うなど積極的な連携を図っているの組織で運営していたこれまでの体制から、コーディネーターを中心として、地域ボランティア、PTA、教職員が協力しながら進めることができるようにしている。体制の連携は、役割ごとの力が発揮され、児童の活動を支えたり、講師や活動場所の計画を進めたりする上で効果的に働いている。

## 事業を実施して

「片地の子どもを育てる会」への参画者全員が「学校と協働して片地の子供を育てる」という高い志をもって実施している活動であり、学校、保護者、地域がベクトルを合わせ、楽しみながら学校や子供たちのための支援活動を継続的に行っている。

「片地の子供たちは地域が育てる」「たとえ、先生方の異動があったとしても地域が学校を支える」という意識が地域住民に広く定着し、地域の教育環境の充実にもつながっている。

## その他

「開かれた学校づくり推進委員会」の発展による「片地の子どもを育てる会」の開始(平成22年度)、「学校支援地域本部」の設置(平成25年度)と、施策や仕組みを活用しながら取組が確実に定着してきた。今後は「コミュニティ・スクール」の導入により地域の力を更に学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を進めていきたい。



遠足の児童の安全確保



サツマイモの植え付け

# 「WIN&WINの関係」で、 子供を核に学校も地域も育ち合う日高村!

## 高知県日高村

活動名

日高中学校区学校支援地域本部

関係する学校

日高村立日高中学校・日下小学校  
能津小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 0人	開始年度 26年度	補助の有無 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 62人	開始年度 21年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	年間開催日数 229日	補助の有無 有
		実施場所 能津公民館		開始年度 19年度	放課後児童クラブとの連携 有
コミュニティスクール	指定日 平成25年7月12日	委員数 14人	児童生徒数 93人	学級数 1学級	

### 活動の概要

平成15年頃、高知県では「地域ぐるみ教育の推進」などの活動を支える役割として「地域教育指導主事」制度が設けられ、当村教育委員会にも派遣されていた。同主事等が中心となり、地域住民などに声をかけ学校支援ボランティアセンターを設置。ボランティア登録者は「日高村子どもの未来応援団」として組織化され、地域住民が主体となった子供への様々な支援活動が始まった。

学校支援地域本部事業を開始した平成21年度からは、「日高村子どもの未来応援団」が同事業の中核的な役割を担い、子供を支える活動から学校を支援する活動へと広がった。コーディネーター等が、直接地域ボランティアや学校へ活動紹介を行うなど、地道な活動が実を結び、活動日数及び参加者数、支援活動のバリエーションも年々増加してきている。

コーディネーターは、日高中学校区を対象として1名配置し、平成24年度からは日高中学校内に席を構えている。放課後子供教室として実施していた日高中学校放課後学習室を、平成25年度からは本事業で行うこととなり、より学校と連携を図ることができるようになった。

年3回、学校関係者や地域代表者・地域ボランティアが集まる日高村子ども支援ボランティア実行委員会を開催し、活動報告や県内の活動情報の提供、活動に対しての助言を頂く場として効果的な運営ができています。平成25年度の実績としては、ボランティア登録数62名、延べ活動日数506日、延べ活動参加者929名と前年度をはるかに超える数字となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ●日高中学校放課後学習室の開催

放課後の時間帯に余裕教室を使用して実施。生徒の情報や指導内容等について学校と相談のうえ対応している。(平成25年度開催日134日 参加者数 7人/日)

#### ●放課後子供教室との連携

コーディネーター間で連携を図り、校区内の放課後子供教室へ講師等(教育活動推進員)として参加。地域の方々の自己実現、生きがいにもつながっている。

#### ●コーディネーターの「三足のわらじ」

コーディネーターが、「地域と学校の調整役」、「授業のサポートを行なう教育支援員」、「放課後学習室支援者」の三役を担うことにより学校と綿密な情報交換ができ、より相乗効果の高い活動ができています。

#### ●学校支援ボランティアの会

学校支援の情報交換等の場として年2回開催。地域ボランティア同士が想いを共有しながら今後の活動を提案することで、地域ボランティアの意欲が高まっている。

#### ●定例化している学校支援により学校教育活動が充実

低学年の学校外への課外授業(調べ学習・交通手段勉強・生きもの探し等)、昔遊び昔調べ学習・家庭科授業支援(ミシン授業など)・校区内の安全見回り。

### 【実施に当たっての工夫】

#### ●コーディネーターと学校が協議を行ない、例えば、子供たちに学校支援ボランティアへのお礼の手紙を書いてもらうことを提案するなど、活動を通じて学校とボランティア双方に利点がありより良い関係が築けるよう「学校・地域相互のWIN&WINの関係づくり」を進めている。

#### ●村広報誌での活動報告・募集の掲載、学校や子供の行事を中心としたイベントカレンダーの作成、HPでの情報公開、会議報告等を地域ボランティア全員に送付するなど、関係者への情報の公開を積極的に行なうことで地域全体で学校の情報や活動を共有し、学校に対しての関心を高めている。



日高中学校放課後学習室の様子



学校支援活動と放課後子供教室が連携した地域への遠足(案内人がボランティア)

## 事業を実施して

学校支援活動の理解が進むにつれて、学校の先生方からも「素晴らしい活動だ」「今後もお願いしたい」などの声を聞くことが多くなり、また地域ボランティアからも「生きがいになっている」「元気を貰っている」などの声をいただいている。子供たちからも地域の方々に対して積極的に声を掛ける機会が多くなっており、学校と地域、そして子供たち相互に「WIN&WIN」の関係が生まれてきている。参画される地域の方々にとって生きがいになるとともに「村の子供を育てている」という意識が醸成され、異世代、異年齢のコミュニケーションの場、生涯学習の場、自己実現の場、学校・地域の相互理解の場など、様々なプラスの効果がみられている。

## その他

今後は、現在の活動がより持続的に充実していくこと、また、より多くの方に学校と地域が協働している事を周知し、学校や住民同士が更に意識を高めることができるような環境の醸成に努めたい。

この活動の広がりや深まりが学校・地域・家庭の輪を豊かなものにする確信している。



# 子供たちの課題解決を図る、学校の経営の方向性と連動した学校支援活動。

## 福岡県久留米市

活動名

津福小学校支援活動

関係する学校

久留米市立津福小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		10人	35人	22日	無
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	津福校区コミュニティセンター		25年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

久留米市立津福小学校は昭和53年4月開校で、今年度創立37周年を迎え、市内において最後の新設校である。津福小学校は、隣接する5小学校区の一部を新たに新校区として決定し新設された経緯を持っている。そのため、地域の学校に対する思いは非常に強く、津福の子供たちは地域で育てるという意識の下、津福小学校との連携・協力活動は積極的である。また、校区内に県営・市営の団地が建設されるに伴い、さらに、久留米市中心地に近いという立地から児童数は開校以来600名を超えている。反面、転出入に伴う児童数の増加や新しい住民の増加、就学援助率の増加、不登校・不登校傾向児の増加、問題行動の発生等、規範意識の低下に係る諸課題を抱え、津福小学校を支援する機運が高まってきた。そこで、学校長が掲げる、教育理念「地域愛の育成・学力の向上・規範意識を含む生活力の育成」に呼応し、諸活動を展開している。特筆する活動として、「放課後学習見守り隊」「子ども見守り隊」「家庭教育推進協議会(トント)」「子ども広場」がある。「放課後学習見守り隊」は、第2第4金曜日放課後、2年生の子供たちを対象に補充学習を行っている。学校の2年生の担任も出席し、指導の内容や方法、準備物等の綿密な打ち合わせを行いながら実施をしている。「子ども見守り隊」は、毎日の登下校の安全な見守りと挨拶の励行、危険箇所の把握を重点として実施している。「トント」は、平成26年1月8日の朝日新聞に掲載された通り、年間を通じて、第2第4金曜日8:00から昔遊びを実施していて、毎回150名からの児童が参加をしている。「子ども広場」は、夏季休業中において、「宿題お助け隊」を6日間実施、また、宿泊を伴う2日間の「お泊り会」を実施している。

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ・放課後学習見守り隊→第2第4金曜日15:30~16:10 2年生の算数を中心に補充学習を展開。35名の子供たちが参加し、学力の向上に努めている。
- ・子供見守り隊→児童の毎日の登下校の安全確保、規範意識・生活力に係る挨拶の励行、危険箇所の把握(今年度新たにグリーンベルトが2箇所に設置される)。
- ・家庭教育推進協議会(トント)→第2第4金曜日8:00~8:20 伝承遊びを中心にした昔遊びの実施。150名ほどの児童が毎回参加。親子学習会や朝ごはんの必要性を訴える情報提供等の活動も行っている。
- ・子供広場→夏季休業中の6日間の宿題お助け隊実施(72名の児童が参加)と2日間のお泊り会の実施(92名の児童が参加)。

#### 【実施に当たっての工夫】

概要の中で触れているように、津福小学校の子供たちを学校と連携をして一緒に育てていくという基本的な考えを共有するところから活動は始まる。つまり、学校が、地域が、保護者がそれぞれに活動を展開するのではなく、今の子供たちの課題は何かという共通認識に基づき、連携を取りながら実施していくことである。学校長の役割は大きい。工夫点としては次の3点が考えられる。

- 学校からの児童分析の提案に基づく共通理解を図ること。
- 地域の活動に学校も積極的に関与すること。
- 個々の活動がお互いに補完しあい、総体として高まっていくこと。  
子供と学校と地域の人材がお互いに高まっていく雰囲気を醸成し、成果や課題を出し合える等の関係づくりを行い、確実性と継続性の視点で取り組んでいる。



「放課後学習見守り隊」の活動の様子



「トント」の昔遊びの活動の様子

### ● 事業を実施して

学力向上という視点から見ていくと、放課後学習見守り隊の活動、夏季休業中の宿題お助け隊の活動は、子供たちにも好評であり、津福小学校の学力向上の取組と連動しており、学力の伸びを感じている。また、規範意識・生活力育成という視点から見ても、子供見守り隊の活動のあいさつの励行、昔遊び活動における校区の人とのふれあいの深まり、「子供広場」の活動による子供たち相互の異学年交流の深まり等に効果性が見られる。さらに、子供たちに自分たちを支えてもらっているという感謝の気持ちや自分たちの地域に対する愛着も育ってきている。

### ● その他

- 久留米市立津福小学校校長室メール: tubuk-kocho@kurume.ed.jp
- TEL: 0942-32-5260
- 学校・保護者・地域の連携を一層推進していくとともに、それぞれの教育力の高まりを目指す取組の構築を模索中。

# 学校・家庭・地域をつなぐ共育 ～たてわり活動を中心とした地域による支援～

## 福岡県春日市

活動名

春日原小学校学校運営協議会

関係する学校

春日市立春日原小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	32人	301日	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年10月1日	15人	556人	20学級

活動の概要

平成19年学校運営協議会の立ち上げ当初、協議会で3者が話し合いを行う中で、校区の課題として次のような意見が出されました。

- ①子供同士のつながりが希薄であること
- ②子供たちの地域行事への参加意識及び地域に対する愛着が弱いこと
- ③大人同士のつながりもまた希薄であり、協働的活動が行われにくいこと

そこで、「自立した子どもの育成」を共育目標に掲げ、三者がそれぞれの果たすべき役割をしっかりと自覚し、また、責任を果たしながら、次のような共育活動を行っています。

- ☆学力体力コミュニティ部会 ・家庭学習のすすめリーフレット ・親子でチェック表 ・体力アップシート
- ☆生活力向上コミュニティ部会 ・たてわりあいさつ運動
- ☆豊かな体験コミュニティ部会 ・たてわり活動プロジェクト(重点的活動) ・チャレンジトライカード
- ・地域行事への参加
- ☆安全・環境コミュニティ部会 ・たてわり愛校作業 ・校区安全点検

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ★たてわり活動プロジェクト

**内容** 1年生から6年生までの異学年12～13人程度でチームを編成し、チーム内での仕事の役割を分担、協力して各種活動を行う自立体験的活動のことで、多くのサポーター支援に支えられています。〈節目の活動〉と、〈日常的活動〉という2つの活動があり、子供たちの自立心を育み、子供同士、大人同士、子供と大人がつながる場となっています。

〈節目の活動〉たてわりポイントラリー、たてわり愛校作業、たてわり炊飯、たてわり地域奉仕

〈日常的活動〉たてわり清掃、たてわり挨拶、たてわり集団下校、たてわり遊び

**サポート体制** 登録制の「たてわりサポーター」を毎年募集し、年間を通じて上記の活動をサポートしています。平成25年度のサポーター数は、たてわりスタッフ会議メンバーも含め約90名です。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・「学校の負担がなるべく少ないように活動すべき」という地域の声(学校運営協議会において)もあり、実施当初から教育課程内に位置付けています。
- ・実働部会とは別に、さらに「たてわり企画スタッフ会議」を開催し、三者で細かい事項を決定しています。
- ・自治会、PTA、おやじの会等の呼びかけによってサポーター募集を行うなど、多くの方々に参加してもらえるよう周知を行っています。
- ・年間を通じてたてわり活動を多くの回数行うので、学校行事や地域行事、PTA行事等の調整を学校運営協議会、実働部会等で綿密に行っています。
- ・チーム編成には特に時間をかけています。「この子とこの子と一緒にしたほうが、よりこの子たちのためになるのでは」といった議論を十分に尽くし、編成しています。

## ● 事業を実施して

- ・多くのサポーターによる支援により、子供たちが安全にそして充実した活動を実施することができるとともに、子供たちの地域行事参加や愛着といった「意識」に変化がありました。
- ・子供同士の結びつきが非常に強くなりました。また、高学年がリーダーシップを発揮し、低・中学年は自分の役割を考えて行動する等「自立する子供」の姿が見られるようになりました。
- ・学校運営協議会、実働部会、たてわりスタッフ会議などの様々な場面で熟議を行うことで、意識の共有が図られ、それぞれが主体者として関わることができています。
- ・学校運営協議会、実働部会、おやじの会、PTA、子ども会育成会の連携が充実してきました。

## ● その他

- ・おやじの会による支援として、福岡県うきは市の棚田による米づくりを子供たちと行い、自分たちが作ったお米をたてわり炊飯で使用しています。この活動はテレビや新聞に取り上げられました。
- ・地域貢献の目的で、夏祭り等の行事において子供たちが活躍できる場を設定してもらい、約60名の児童が参加しステージ発表等を行いました。地域からは「子供たちが来てくれて行事が盛り上がった」という声をいただくことができました。



学校運営協議会、実働部会の関係図

# 学校・家庭・地域をつなぐ「熟議と協働」の取組への地域による学校支援

## 福岡県福津市

活動名

福津市立福岡中学校 学校運営協議会

関係する学校

福津市立福岡中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成23年6月28日	15人	562人	18学級

活動の概要

平成23年度から福岡中学校運営協議会は「行きたい学校・帰りたい地域・住みたい」地域とともにある学校づくりを目指して実働部会を組織し、学校・家庭・地域・生徒の熟議から様々な協働を生み出してきた。本物体験の取組から感謝の気持ちが生え、生徒の地域貢献の意識が高まり、生徒と地域との協働へ拡大している。

### 【スタードームの製作指導】

「授業以外で学びたいことは」というテーマで地域の方々や中学生が熟議し、「サバイバル体験がしたい」という意見が出された。生徒の想いを実現させようと郷育カレッジに相談することからこの取組が始まった。本年度で4年目。スタードームとはドーム状に竹を組み、上からシートをかぶせた巨大テントのこと。中学生が20人くらい宿泊することができる。郷育カレッジのスタッフがスタードーム説明会で作り方を説明し、各クラスごとに模型による製作指導を行った。竹の切り出しは地域の方や保護者のボランティアを募り行う。宿泊体験学習当日、スタードーム製作において、竹を裂くことから組み立てまで郷育カレッジのスタッフや保護者、地域の方が生徒の指導支援を行った。各学級で2基のスタードームを製作し、生徒はドームの中で将来の夢を語り合い、宿泊した。

### 【地域合同地震・津波避難訓練】

平成24年度学校の隣接する花見区住民が地域の地震・津波避難訓練を実施した。平成25年度、花見区から中学生の救援活動を含めた地域合同地震津波避難訓練について提案をされた。学校や関係機関(市役所・消防署・消防団・警察等)との事前打合せ、教職員の研修、生徒の防災学習等について地域の方々为主导で行い、平成25年11月9日地域の避難所である中学校に1300人が避難する地域合同訓練を実施した。中学生は安全確保後、地域の救援活動として避難者の受付・誘導、要援護者の搬送、避難所でのおにぎりづくりと配付等の地域貢献活動を行った。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 郷育カレッジとの協働によるスタードームの製作
  - ・1年宿泊研修に向けたスタードーム説明会の開催(土曜授業日)
  - ・郷育カレッジによる模型作成学習会の実施
  - ・郷育カレッジスタッフ、保護者、地域住民による宿泊体験学習当日の製作サポート
- 地域合同地震・津波避難訓練
  - ・学校、地域、関係機関(市役所、消防署、消防団、警察等)との打合せ
  - ・地域合同による教職員研修、生徒の防災学習
  - ・各学年の救援活動の分担(応急手当、救援活動、保育園児の避難誘導、避難者受付、おにぎりづくり、お茶出し)及びリハーサル

### 【実施に当たっての工夫】

- 郷育カレッジとの協働によるスタードームの製作
  - ・入学後に地域との触れ合いの場を設定することにより、大人との協働を通して信頼関係を築き、保護者や地域の方の温かさを感じさせることで郷土愛を深める。
  - ・地域・保護者・教職員の協働により、竹の切りだし等、生徒の製作補助を行っている。
- 地域合同地震・津波避難訓練
  - ・学校・地域・関係機関による実行委員会での企画・運営を行うことで、地域で育てる子どもの姿の共有や地域の実態に応じた避難訓練ができ、学校と地域の互恵関係が築けた。
  - ・地域が専門の講師を招聘し、生徒、教職員、地域住民の合同研修を実施したことで共通理解を図ることができている。
  - ・生徒による地域住民の救助活動から生徒の地域の一員としての自覚と自信が芽生えた。



福岡中コミュニティ・スクール構想図



地域合同地震・津波避難訓練

## ● 事業を実施して

- スタードーム
  - ・学校の教職員だけではできない活動であり、生徒にとって貴重な体験となっている。また、多くの大人たちが生徒に関わることで大人と子供との信頼関係が深まった。困難克服体験として位置づけ、地域住民、生徒による協働から成功体験を通して自己有用感が高まった。
- 地域合同地震・津波避難訓練
  - ・災害時における中学生の救援活動の内容と可能性について学校・家庭・地域が共通理解することができた。地域貢献を通して生徒は地域住民の感謝の言葉から、自尊感情が高まった。

## ● その他

福岡中学校では学校運営協議会委員が教育活動のアイデアを出したり、専門の講師や団体に働きかけたりしてくれている。他にも学校・家庭・地域が協働する様々な教育活動を行っており、多くの大人たちが子供たちの成長に関わっている。また、その出会いが地域での人間関係を豊かにしてくれる。これらの活動を通して中学生の地域貢献意識が高まっている。コミュニティ・スクールの可能性は無限である。大人の本気が子供のやる気を引き出し、地域を元気にしている。学校は、生徒にとって将来の市民性を養う場となり、地域住民には生きがいや活躍する場となることを願い、地域づくりである視点を入れた地域とともにある学校づくりを考えている。

# 中学3年生を対象に、自分の描いた進路目標達成のための学習支援塾

## 福岡県添田町

活動名

添田「英峰塾」

関係する学校

添田町立添田中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動	1人	58人	21年度	無
基本データ	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数
		実施場所	開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成20年4月 添田町立添田中学校への学校応援活動として様々な支援・協力をを行うことを目的に、男性保護者でつくる「添田中おやじ会」を組織する。  
 平成20年10月 「添田中おやじ会」として本事業を計画し、添田町教育委員会との共催事業として立案する。(運営委員会の設置、講師謝金の予算化と教育委員会内部にコーディネーターの設置)  
 同時期に福岡県立大学との連携を図るため、学生ボランティア講師として教職を目指す大学生の派遣と学内にコーディネーターの設置(准教授)を依頼し、承諾を得る。  
 平成21年6月 受験を控える中学3年生を対象に「添田中おやじ会」見守りによる学習支援塾として、添田「英峰塾」を開講する。  
 その後、毎年6月から2月の毎週土曜日の午前中(英語、国語、数学)、年間30回程度実施している。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

大学生のボランティア講師が学習支援を行うことにより、学習する中学生との年齢が近いことから、親しみやすさと同じ目線で学習する関係が育まれ、また学校では見られない新たな信頼関係が構築され、学生が子供たちのモデルとなっている。  
 指導の際には、大学生が自らの体験を吐露することで、中学校と並行した進路指導となっている。  
 平成25年度より受講生自身の選択による習熟度別コースを設定したことで、生徒の生き生きと活動する姿が見られるようになり学習意欲が高まっていると思われる。  
 「添田中おやじ会」が見守ることで、父親同士のつながりができ、学校行事やPTA活動への参加が増加している。また、最終日の閉講式後、女性保護者の協力を得て、カレーライスをふるまう激励会を実施している。

#### 【実施に当たっての工夫】

「添田中おやじ会」・PTA・学校・教育委員会による運営委員会を設置し、運営の円滑化を図っている。  
 大学と学校・教育委員会の両者にコーディネーターを設置し、連絡・調整を図ることができていることが事業実施の大きな要因となっている。  
 添田町教育委員会で学生ボランティアへの謝金や交通費を予算化していることで、大学生が参加しやすい体制が整えられている。  
 また、生徒の負担については、教材費及び激励会費のみの負担とし、結果として保護者の負担軽減につながり誰でも参加しやすくなっている。



おやじ会による学習支援の様子

### 事業を実施して

毎年、半数を超える生徒の参加があり、保護者や地域の期待も年々高まっていると感じている。  
 生徒の学力の向上の一助となることを期待して始めた事業であるが年齢の近い大学生の交流を通して中学生にとっての「良き先輩」「良きモデル」となっている。中学生が、「福岡県立大学に行きたい」と口にするようになった。  
 近年は添田「英峰塾」の活動が学生に認知され、学生たちの参加希望も増えてきている。また、大学生の中には、教職を目指している者もあり、実体験として貴重な場となっており、実際に、教育関係の現場で社会人として活躍する者も出てきている。



学生ボランティア講師の学習支援の様子

### その他

平成25年度の福岡県立大学の学生の中に、本塾の第一期生がボランティア講師として参加している。これまでの添田「英峰塾」の取組が地域に根付いてきていると思われる。  
 地域を巻き込んでの活動であることから地域の絆づくりや教育力の向上につながっていると思われる。

# 放課後の子供たちの安全で健やかな居場所づくりを提供し、児童の健全育成を図る

## 佐賀県吉野ヶ里町

活動名

ふれあい子ども教室

関係する学校

東脊振小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	26人	69日	有
コミュニティ・スクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	体育館・校庭		17年度	有	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

「もっと遊びたいのに、近くに遊び場がない、または近くに友達がいない。」などの理由で、放課後、家でテレビを見たり、ゲーム遊びをしたりすることが多かった子供たちに「放課後の小学校」を友達と安心して思いっきり遊べ、学べる場として地域の力で提供することで、子供たちの活力、知力、社会力の向上をはかることを目的とし、平成17年度よりふれあい教室を始める。

【ふれあい教室】

コーディネーター（1人）・指導員（1名）の企画・立案による運営、実施に際しては安全管理員(4名)を加え、毎週水曜日の放課後から午後5時まで（年35回）行っている。また、参加児童の保護者にもボランティアとして協力を依頼している。活動拠点は小学校体育館などで、活動内容については子供たちの要望も取り入れて進めている。

【金曜学級】

学習アドバイザー（2人）による家庭学習の支援、毎週金曜日の放課後から午後5時まで（年30回）行っている。

【春休み学級】

学習アドバイザーと小学校・中学校の先生による小学6年生を対象に基礎学力の向上と中学生となることの心構えとして、春休み期間中に行っている。(4回)

### ● 特徴

【特徴的な活動内容】

遊びを中心とした事業で、指導者たちが子供の頃遊んでいたことを、子供たちに体験してもらっている。けん玉遊び・水鉄砲づくりなど、指先を使い考えながら遊んだり、自分たちの遊び道具を作ったりする体験など取り入れている。また、季節に合わせた行事、花苗植え・七夕飾り・芋掘り・凧揚げなども取り入れている。このことによって、大人たちと子供たちが遊びをとおして交流が深まり、事業がうまく進んでいる。さらに、宇宙科学館など町外の指導者を招き、科学実験・楽積み木などの体験も行っている。吉野ヶ里歴史公園という広くて安全な公園が町内にあるので、紙飛行機を作って飛ばしたり、石臼を体験したりして子供たちをのびのびと遊ばせている。

【実施に当たっての工夫】

地域との交流を考えて、町内の文化サークル・各種団体の方に依頼し、茶道教室・赤熊(しゃぐま)太鼓・バンブー体験(竹で出来た楽器)・工作などを体験させている。このことにより、学校・放課後教室以外の大人の人との交流や、地域の方々との交流が深まっている。さらに、太鼓・バンブーなど日頃体験できないことや楽器に触れること、さらに茶道については町の歴史に触れ、行儀・作法の勉強につながっている。



歴史公園での石臼体験

### ● 事業を実施して

子供たちや保護者からは、「日頃体験できないことができうれしい」「学年が違う子供と遊べるのが楽しい」など、楽しんでいる様子うかがえる。ふれあい教室では、地域の方々の協力により、子供たちは初めての体験をしたり学んだり、指導した方は子供たちと話をし、その保護者を知り、地域全体の交流が進んでいる。また、参加している子供たちの兄弟・姉妹の話題にも話がおよび交流の輪が広がっている。



赤熊(しゃぐま)太鼓をたたこう

### ● その他

地元の赤熊(しゃぐま)太鼓・バンブーオーケストラの体験をとおし、地域の伝統文化に興味を持たせ、将来の後継者育成の一助になれば、町の文化発展に役立つのではと考えている。

# 保護者と地域との協働により、学び、遊び、交流活動を行う居場所づくり

## 長崎県佐世保市

活動名

鹿町小放課後子ども教室

関係する学校

佐世保市立鹿町小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	18人	15年度	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	15人	42日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室		18年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

鹿町小放課後子ども教室は、それまで校区内に社会体育面での活動しかなく、文化的な活動がなかったため、文化的体験型教室を目指して平成18年度から活動を開始した。そのため、今日まで地域の豊かな学習資源(ひと・こと・もの)を有効に活用し、子供たちの豊かな育みに資する活動を継続的に実施してきた。特に学校教育との連携を密にしており、子供たちに対する学校側の願いや想いをくみ取りながら、学校教育を補完する役割を果たしている。また、活動に際しては地域住民を巻き込み、生涯学習振興ひいては地域基盤の形成にも貢献している。

このほか同一敷地内で運営されている放課後児童クラブとの連携にも積極的に取り組み、包括的な放課後事業として定着しており、子供たちはもちろん、保護者や教職員、地域住民のニーズ・満足度も高い。そういった取組が、現在も継続している要因となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

活動を単独講座と継続講座に区分し、特に継続講座では一年を通して継続的な活動を展開し、単なる体験やきっかけづくりではなく、学びを深め、習熟を高める取組を実施している。また、継続講座の事業計画を作成するにあたっては、学校との緊密な連携のもと、学校教育を補完できるような明確なビジョンや目標を設定し、その目標を達成するための様々な工夫が凝らされている。具体的には、「表現力やコミュニケーション能力の向上」を目的として、地域の伝統・文化活動である和太鼓教室を実施し、学校行事等で発表する機会を設けたり、学校の英語活動の導入に併せて英語に親しむ活動を展開し、学校支援と学力の向上にも寄与するよう努めている。特に和太鼓教室では、大切な地域の財産でありながら後継者不足により活動が衰退傾向にあった和太鼓団体と協働することにより、地域活動への参画意識を醸成し、地域活動の支援にもつながった。

### 【実施に当たっての工夫】

- 活動にあたっては学校との連携を重視し、学校側の意見や考えをできる範囲で活動に反映し、学校支援に結び付く取組を行っている。
- 子供たちが子供教室でただ学ぶだけでなく、学んだ成果を発揮する機会を設け、実施主体としての評価はもちろん、子供自身が自己評価を行うことができるよう努めている。
- 学校のみならず、子供や保護者、地域内のニーズや課題を取り込み、子供たちの育みだけではなく、地域に対する支援や貢献につながるよう取り組んでいる。例えば、地域のシンボルである小学校の藤の木が弱っていることがわかると、放課後子供教室で作った作品を町の文化祭のバザーに出品し、その治療費を捻出した。この活動は子供たちのキャリア教育のみならず、学校・地域の活性化にもつながるものとなった。
- 子供たちはもちろん、地域住民や保護者も参加しやすいように年度当初に年間計画を策定の上、周知するようにしている。
- 放課後児童クラブとの積極的な連携に努め、子供教室が放課後の児童の居場所、学びの場としての機能が充実するよう努めている。



「新茶をおいしく飲もう」教室

## 事業を実施して

- 子供たちは、教室を通して新たな学びを得るだけでなく、学力等も含めて習熟を高めることができた。
- 活動に地域のニーズを取り入れることで、地域貢献、地域活動支援にもつながり、地域づくりの一翼をになうことができた。
- 活動を通して学校・保護者・地域住民の関係性が深まり、教室のみならず、あいさつ運動やその他学校支援活動、ひいては地域活動が活性化している。

## その他

- 少子化、過疎化の傾向が顕著な地域であるため、活動の規模は決して大きくないが、小さいからこそみんなで取り組み、地域全体を盛り上げていくための有効な手段となるよう意識的な働きかけを今後も行っていきたい。



「英語で遊ぼう」教室(クリスマス発表会)

# 「子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育の推進」

## 長崎県南島原市

活動名

有家小学校学校支援会議

関係する学校

南島原市立有家小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	2人	78人	20年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	111人	25日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
		有家小体育館・運動場、校区内公民館・運動公園、地域住民宅		13年度	有
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

南島原市立有家小学校は、南島原市が持つ豊かな自然環境や豊かな人間性に囲まれており、その地域の特性を生かした学校づくりや子供たちの放課後(休日)の居場所づくりを進めている。

平成20年度に発足した有家小学校学校支援会議を母体とし、子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育を推進するため、自治会、PTA、親父の会、ありえっ子を守ろう隊、中学校、老人会、防犯協会等各種団体とのネットワーク化を図り、地域人材を本取組に生かして様々な「人」とのふれあい活動や、明るい地域づくりをめざした社会参加型の互助・共助活動を積極的に行っている。

併せて「ほたるの住む有家川にしよう」をテーマに、地域ぐるみの自然環境整備に取り組み、郷土愛の醸成にも努めている。

また、南島原市の放課後子供教室「寺子屋21」事業において、有家小学校は市内25小学校の中で唯一平成13年度より単独実施し、児童の8割超が参加した。現在も児童の加入率は5割を超えており、教室は学校施設や公民館だけにとどまらず、校区内住民の居宅も活用するなど、地域の教育力を生かした特筆すべき取組となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育を推進するため、地域の方が中心となった一週間の通学合宿や、「ほたるの住む有家川にしよう」をテーマにした地域ぐるみの自然環境整備活動が立ち上がり、たくさんのボランティアの方の協力で、活動が軌道にのり活性化した。子供たちも意欲的に参加し、主体性や人間関係力が育まれている。また、地域住民の一員として防犯運動や夏休み期間のラジオ体操を地域住民に呼びかけるなど、地域貢献や地域コミュニティ再生にも積極的に取り組んでいる。これらの取組を通して地域の方の横のつながりが深まった。

### 【実施に当たっての工夫】

地域の風土である「ひと」「もの」「こと」を子供たちの人間形成の素材として活用するため、地域のコーディネーターを中心に運営が進められている。学校支援会議には、自治会長代表や警察からも参加し、地域の関係機関との連携・協働による安全・安心で住みやすい、支えあう地域づくりを視点に、子供たちを核にした活動を心がけている。

例えば、学校支援会議で企画・運営する通学合宿においては、4～6年生を対象に6泊7日で開催し、集団生活体験により生きる力(責任感・協調性・思いやり・規範意識・忍耐力等)を育むほか、保護者が子離れの体験をすることで子育てを見つめ直す機会として、家庭教育力向上にも視点を置き、さらに地域ぐるみで行う教育のネットワーク化を図り、地域の子供は地域で育むといった気運の醸成に努めている。その結果、延べ170名を超える保護者や地域の方々の参画を得ている。



防犯や環境浄化を呼びかける子供たち

## 事業を実施して

子供たちは、多様な活動を通して生きる力を育むことができ、地域の方を知ること、普段からの声かけやあいさつができるようになり、お互いに話やすくなった。また、地域の方は、子供と関わることで、生き甲斐を感じ元気になり、地域全体が活性化されていると思う。さらに、保護者間に「これだけ地域の方々にお世話になっているのだから」という感謝の気持ちや学校への信頼が強まり、従来、一部の保護者に見られた学校へのクレーム等がほとんどなくなり、理解者・協力者に転じていることも成果である。



ホタル(幼虫)の飼育

## その他

学期における多様な取組は生きる力の源となるものである。社会貢献を通じて子供たちは地域住民の一員として、また社会の中の有為な人間としての自覚を持ち、自尊感情を育むものと確信している。今後も学校支援会議が核となって子供を育むネットワークの拡大と取組の充実・発展を図り、社会全体で子供たちの夢や憧れを育む風土の醸成等に努めたい。

# 学校・家庭・地域がつなが 「瞳輝く子をみんなで育てみんなで育つ」

長崎県時津町

活動名

時津東小学校学校支援会議

関係する学校

時津町立時津東小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	116人	17年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

時津東小学校では、「子供たちを中心として集える行事を」「大人が協力して行う姿をみせることができる行事を」とPTAが地区の自治会の協力を得ながら22年前から実施をしている「はこべらまつり」の活動を一つの基盤として、「みんなで育てみんなで育つ」ことを学校支援会議の目標として活動を展開している。このようなことを踏まえ、平成17年度に設置した学校支援会議では、登下校時のあいさつや、安全指導の日常的活動を基に次の8つの支援組織づくりを行っている。

- ①「丸付け隊」 ②「音楽支援隊」 ③「家庭科支援隊」 ④「お絵かき隊」 ⑤「英語で話し隊」
- ⑥「地域安全見守り隊」 ⑦「花咲かせ隊」 ⑧「トンカチ隊」

また、昨年度から新たな事業として、学校・家庭・地域住民それぞれが子供たちの日常の善行を見つけ、褒めることで自己肯定感を高める「子褒め事業」を連携して推進している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ①「丸付け隊」(丸付けと励ましの声かけ)・・・算数の学習を中心に、地域サポーターが子供たちの学習内容について「褒め」「励まし」、担任教諭が個別指導を行う。
- ②「音楽支援隊」(リコーダー等の個別指導補助)・・・初めてのリコーダー学習や合奏の学習等、個別指導が必要な時、音楽活動経験者のサポーターが指導を行う。
- ③「家庭科支援隊」(裁縫や調理の基礎支援)・・・初めてのソーイングや小物製作を実施する際、個別指導が必要なとき地域サポーターが指導を行う。
- ④「お絵かき隊」(教科書の挿絵等の資料づくり)・・・道徳や国語の挿絵を中心として、教材を描いてもらう。
- ⑤「英語で話し隊」(発音等の授業サポート)・・・5・6年生の外国語活動の授業で、ALTが入らない授業のサポートを行う。
- ⑥「地域安全見守り隊」(登下校の安全指導)・・・子供たちの登下校時の声かけや安全指導を行う。
- ⑦「花咲かせ隊」(学校園の花栽培指導等)・・・子供たちと一緒に「ぼかし」づくりや花植作業、育て方の指導を実施し、学校環境を整える。
- ⑧「トンカチ隊」(施設の補修等)・・・踏み板や可動式図書ラック等の学校施設の補修、PTAと連携して危険箇所看板作成、子褒め事業のポスト等の作成を行う。

<平成25年度からの新たな事業>

※「子褒め事業」・・・学校・家庭・地域が連携し、子供たちの日常で見かけたちょっとしたいいこと、感心したこと、微笑ましくなったことなど、子供たちの行いを褒め、子供たちの善い行いに大人が目を向け応援していくことで、子供たちの豊かな心を成長させる。

【実施に当たっての工夫】

- 学校と地域の連携を密にするために「サポーター出合いの会」、「感謝の会」を開催し、学校全体で連携することの重要性を共有できるようにしている。特に「感謝の会」では、子供たちとサポーターとの交流給食を行うことにより、支援して下さる方々とのつながりを深め、感謝の心の醸成を図っている。
- 学校の校務分掌に担当部署をつくり、サポーターの声を収集して、活動の反省の場を設けることにより、次からの改善及び工夫に役立てるようにしている。



丸付け隊の活動

事業を実施して

学校サポーター制度を実施してから、現在関わっているサポーターも116名となった。始まった頃は教師もサポーターも手探り状態であり、双方が遠慮したり、特別に活動の日を決めて実施したりと、円滑な運用とは行かなかったが、回を重ね、反省を出し合う中で、活用の幅や内容が広がりをみせている。また、サポーターとの連携も強くなっている。関わる大人たちからは、「子供たちから元気をもたらしている。」「子供に関わることで自分も育っていくことを実感している。」というような声が聞かれるようになった。

その他

- 詳しい活動内容については、時津東小学校ウェブサイト(URL: [www4.cncm.ne.jp/~togitsuhighashi-e/](http://www4.cncm.ne.jp/~togitsuhighashi-e/))を御覧ください。
- 今後も子供たちが楽しく過ごせる学校づくりを地域とともに支援していきます。



「子褒め事業」(ポストとカード)



# 教科、道徳や学活における効果的な人材の活用を 展開しています。

## 熊本県山鹿市

活動名

山鹿市立菊鹿中学校学校運営協議会

関係する学校

山鹿市立菊鹿中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成25年10月1日	10人	178人	8学級

活動の概要

### 1 学校運営協議会

学校の教育活動について承認し、運営及び職員の任用に関する事項について、校長の求めに応じ意見を述べる。さらに、学校運営について地域住民の理解・協力・参画を促進し、情報の発信に努める。

### 2 学校支援コミュニティ

- (1) 知のコミュニティ：学習内容を明確化し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る授業実践と言語活動の充実についての研究を行う。また、各教科等の特性に応じて地域人材を活用する。
- (2) 愛のコミュニティ：地域の財産を生かした授業づくりや学校行事の進め方を研究するとともに、自主性や思いやりのある生徒の育成についての研究を行う。
- (3) 力のコミュニティ：健康に関する行事や保健体育の授業において、生徒の自主性と健康生活の実践力を高め、家庭や地域を巻き込んだ教育活動の工夫・改善についての研究を行う。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### ア 知のコミュニティの実践

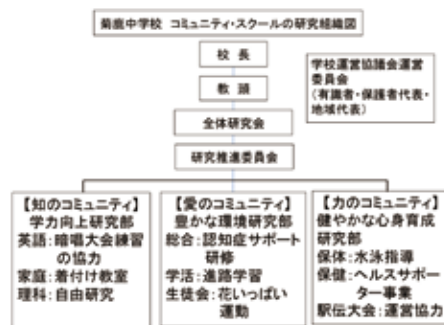
学校運営協議会推進委員会の中で、技術・家庭科における「浴衣着付け」の授業協力を申し出たところ、授業当日に分かりやすく丁寧に教えたいという思いから、事前練習まで行っていただき、当日は講師として30名の方が集まりました。日本文化の継承ということで、大変意義深い学習を進めることができました。

#### イ 愛のコミュニティの実践

文化祭の取組では、郷土をテーマとした鞠智城を扱った劇を行った。この取組では、鞠智城ボランティアスタッフの方々に来てもらい、鞠智城の歴史や文化的価値、さらに国営公園化に向けた取組などについて話をしていただいたことにより、重要施設であるという認識の高まりや、鞠智城の価値をもっと様々な人に知ってもらいたいという思いをもつようになった。

### 【実施に当たっての工夫】

- 校内研究体制を確立するために、校内研修等を通して、職員と推進委員会(地域の方々)全体で、「コミュニティ・スクール」、「運営方法」などを理解し、そのイメージ化を図る。(共通理解)
- 学校運営協議会推進委員会は、職員、地域代表、保護者代表、有識者、教育委員会、小学校校長といったメンバー構成であるが、3つの部会に分かれ、学校側と地域側にそれぞれチーフを決め、「地域チーフ」の3名には、地域の方々につなげる役割がある。(役割分担)
- 学力向上に向けて、「知のコミュニティ」との連携を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る授業実践と言語活動の充実についての研究を進めている。また、各教科の特性に応じて地域人材を活用し、授業のねらいの達成度を高めている。(学力向上への貢献)



学校運営協議会の構成

## ● 事業を実施して

生徒と教師の意識アンケートでは、「あなたは、互いに協力し、助け合う生徒である」の項目において平均値が上がっており、「愛のコミュニティ」の成果が表れていると考えられる。また、全国学力・学習状況調査アンケートでは、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という項目で、県や全国の平均を大きく上回っている。もともと地域とのつながりが強い地域であったが、コミュニティ・スクールの指定を受け、地域への関心がさらに高まったと考えられる。

## ● その他

学校運営協議会推進委員からは、「親の教育力を高める取組がほしい」、「生徒と向き合う時間をもっと先生達が見つけてほしい。」など各種の提言が行われており、次年度の改善に大きく寄与している。文化祭の取組等は、これまでに数回新聞に取り上げられており、生徒は喜びと充実感を感じながら、改めて地域を誇りに思うことが多くなっているようである。



着付け教室

# 「できる人が・できるときに・できることを!!」のボランティア活動です

## 熊本県南関町

活動名

南関町「学校応援団」

関係する学校

南関第一・第二・第三・第四小学校  
南関中学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	6人	563人	19年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
			実施場所	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

平成19年度に南関町学校応援団を立ち上げた、子供たちを心豊かにたくましく育てるためには学校・家庭・地域社会が連携・協力しながら“地域の子供は地域で育てる”をモットーに、南関町では学校応援団事業を始めた。地域・PTAに協力を頂きそれぞれが「できるひとが・できるときに・できるだけ」を合言葉に学校に対してボランティア活動を進めてきた。南関町では、南関町内に全ての学校(5カ所)にコーディネーターを配置し、学校との連絡調整を行っている。先生の依頼を待っているだけではなく、過去の支援例から活用例を紹介し、学校からの要望を引き出している。先生から直接交渉も出来る様にボランティア名簿を共有している。

今後は、既存のボランティア団体、NPO法人、社協等、組織の連携を今以上に深めていく必要がある。また、必要に応じて地域づくりの専門知識を持った指導者からアドバイスを受けるなどして運営していくノウハウを学び機会をつくってきたい。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 各学校にコーディネーターを配置し、学校と地域との連携を密に取っている。
- ボランティア登録に関しても、様々な団体と連携し、社会福祉協議会のボランティア連絡協議会や介護予防事業のリーダー会などへ定期的に説明を行ったり会議に出席したりして協力をお願いしている。
- また、スポーツに関しての分野では、南関町の総合型地域スポーツクラブNPO法人A-lifeなんかんの指導者に協力してもらいながら、水泳指導や習字指導にはプロの方に各学校を回って頂いている。広報活動では、平成26年度にウェブサイトを開設し、それぞれの活動の様子やお知らせなどをアップしている。より多くの方々に活動を知って頂くと思っている。また、学校応援団の活動を広報紙にコーディネーターが作成し、保護者に活動を知ってもらう為に学校に掲示している。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 統括コーディネーターが教育委員会を配置するとともに、小学校4校と中学校1校にそれぞれコーディネーターも配置し連絡調整などについて月1回の定例会を開催している。
- また、運営委員会を年3回開催しており、運営委員として学校、コーディネーター、PTA会長、ボランティア連絡協議会事務局、放課後子供教室コーディネーターなどが参画して、課題や今後の活動についての協議を重ねている。
- 学校とボランティアそれぞれに研修会を実施し、応援団の活動を知ってもらい活用してもらう努力をしている。具体的には、4小学校1中学校の実践記録を共有し、応援団活動に生かしたり、学校の取組の参考にしていくところである。
- 年度当初には、先生方の異動がある為、全ての学校の先生方に説明会も実施している。
- 本年度は、南関町の教職員の初任者研修(地域理解研修)に学校応援団事業について説明を行った。平成26年度についても、応援団の周知及び多様な活動について様々なアプローチを試みている。



野菜づくりについての学習の風景



町探検(事業所等)の風景

### 事業を実施して

- 学校の中ではボランティアが来校することが日常になり、地域の方にとっては子供たちとの触れ合いにより元気になる、もっと子供にいろいろな事を教えてあげたいなどと言ってもらえている。卒業してから何十年も経ちボランティアで集まった懐かしい仲間と同窓会みたいな気分になったという感想もいただき、地域の方達が気軽に学校に入り、子供たちを見守る体制が出来ている。子供たちも、地域の方々と活動をとることで、つながりができ、お互いに顔の見える関係づくりができてきた。

# 6年目を迎え、様々な体験活動をみんなで楽しく行っています。

## 熊本県大津町

活動名

大津東小学校放課後子ども教室  
(風の子教室)

関係する学校

大津町立大津東小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	12人	33日	有
コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	小学校 体育館内ミーティングルーム		21年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

活動日時 毎週水曜日

活動時間 午後3時50分から午後5時

活動内容

(1) 学習支援活動: 習字、家庭科、英語など

毎週1回の活動で、習字を月1回実施。お菓子づくりや英会話など、楽しく学べるプログラムを実施している。

(2) 体験活動: 工作、運動、夏休みの特別学校など

地域の達人を先生にして、達成感を感じさせる内容を実施している。また、夏休みには地域の人たちと、自分の住んでいる地域を学ぶ活動も行っている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 学習活動①英語活動: コーディネーターは英語が堪能で通訳が出来るレベル。英語を用いたゲームやクイズなどを創作し、授業では学べない英語活動が展開できた。地域在住の外国の方を講師に招いて、生きた英語を体験させることができた。②習字: 初年度からの活動で、毎月1回、年度末には作品展を開催し、子供たちに達成感を持たせた。③料理: 調理師免許を持つ地域の方に指導して頂き、食育の観点と併せておやつ作りなどを体験させた。
- 体験活動①工作: 地域の達人を先生に、楽しく工作することで算数や理科の興味関心を広げることにつながった。②運動: ニューススポーツやグランドゴルフなどを老人会と共にやり、お年寄りとのふれあいを行った。③夏休み特別学校: 「夜の学校で遊ぼう」や「岩戸神社渓谷探検」、地域の人所有の「キャンプカー体験」等、自分の住んでいる地域のことを学ぶ活動を行った。

#### 【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターをはじめ、地域の方を講師に招いたり地域とのふれあいを大切にしました。
- 英語活動では、ゲームやクイズ、写真や実物を提示し、楽しく英語を学べる環境を整えた。
- 体験活動を経験させるため、県が実施した「くまモンが先生となった教育活動推進事業」を活用し、くまモン先生と「だるまさんが転んだ英語Ver」など、英語を取り入れた新しい活動ができた。
- 夏休みには特別授業を行い、日頃経験できない活動が実施出来た。
- 現地の下見を行い、また、地域の方のボランティアを募集したり交通安全等、特に安全面には配慮した。



岩戸渓谷登り

### 事業を実施して

- くまモンとの活動は学校や地域を巻き込んだ一大イベントになり、参加者全員に達成感が感じられた。
- 英語を活動内容に取り入れたことで、子供たちの英語に対する抵抗感が少なくなった。
- 夏休みの特別活動は、地域の方々も地域を改めて知る良い機会となった。
- 地域住民と子供たちとの活動では、子供たち以上に地域住民(高齢者)が喜ばれており、お孫さんが居ない世帯でも、高齢者と子供たちがふれあう機会を提供できた。



グラウンドゴルフ体験

### その他

子供を取り巻く環境が著しく変化している現在、地域の先輩である私たちが活動していることはとても重要だと考える。大津東小学校は全校児童数50名の小規模校だが、「風の子教室」に参加する子供たちのため、常に心を配り、健やかに成長するためのお手伝いをしていきたいと思う。

# 地域と共に行う学校づくり～生徒との心の交流をとおして～

## 大分県豊後高田市

活動名

河内中学校教育支援センター

関係する学校

豊後高田市立河内中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 64人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成17年4月1日	委員数 14人	児童生徒数 21人	学級数 3学級	

活動の概要

河内中学校は平成17年に文科省よりコミュニティ・スクールの研究指定を受け、保護者・地域住民との連携を進め、地域に開かれ信頼される学校づくりに取り組んでいる。学校と地域が一体となり学校運営の改善と子供の豊かな学びと育ちを図っていくために、取組の中心となる組織として河内中学校教育支援センター（以下、「支援センター」という）が発足。この支援センターの役員で学校運営協議会（河内中では「教育支援センター代表者会」という）を組織し、コミュニティ・スクールとしての活動の推進に継続して取り組んでいる。

支援センターは、河内中学校、河内小学校、退職教員、自治会、地域の有識者、中学校PTA、中学校OB等で構成され、地域人材の活用による協力体制が整備されている。

活動としては、子育て講演会や懇談会、河内ゴミゼロ運動などの主催行事の企画運営と、奉納相撲や祭りなど地域行事への参加、地域からの支援を受けた学校づくりを行い、子供たちの育成に取り組んでいる。

地域住民との様々な取組や活動を通して触れ合うことにより、生徒の豊かな体験と心の成長、郷土を愛する心の育成が図られている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

地域には優れた技術を持っている方が多数居住している。これらの方々に学習サポーターとして「茶道」「書道」「着付け」「太鼓」「門松づくり」「農園作業」などの指導に協力を依頼し、生徒に豊かな体験学習を行う機会の提供を図っている。体験学習の指導や支援は継続的に行われており、生徒は中学校3年間にわたり指導を受けることが可能になっている。この3年間で生徒の技術が進歩するとともに、学習サポーターと生徒との心の交流が深められるのが本活動の大きな特徴といえる。体験学習の成果の発表として太鼓の演奏を校内文化祭、市内の音楽発表会や祭りでを行い、地域の方にも喜ばれている。

このほか、生徒と保護者を対象に、「子育て講演会」を毎年開催している。「子育てに関して知りたいこと」「知っておいた方がよいと感じること」などをテーマに河内中学校OBや地域の専門的見識を有している方等に講師を依頼し実施しており、学校、保護者、地域が一体となって子育てを支援し合う活動も続けている。

様々な体験を通し、多くの学習サポーターや地域の方の温かさにもふれることで、生徒たちの心豊かな人間性を育む活動となっている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 体験学習活動の様子や感想を伝え、取組全般のことやその成果についての周知を図るため、教育支援センターだよりや学校ウェブサイトを活用している。
- お礼の手紙や支援センターだよりを活動講師に届け、心の交流を深めている。
- 子育て講演会や懇談会のテーマ設定、講師の選定、会の進め方などについて保護者にアンケートを行い、充実した講演会になるように工夫している。また、講演会の話が家庭での親子の共通の話題になるよう、生徒と保護者が一緒に参加している。



子育て講演会(教育支援センター主催)

### 事業を実施して

- 体験学習活動は生徒に豊かな経験の機会を与え、心の成長に役立っている。地域との関わり合いを通して、郷土を愛する心の醸成が図られている。
- 地域の方は体験学習が終了してからもその後の生徒の様子を聞きに学校を訪れてくれたりするなど、温かく子供たちを見守ってくれている。学習サポーターと生徒との間に心の絆ができていくと感じる。またこの取組が、地域の方々の生きがいや喜びになっている。
- 学校と支援センター代表者会が両輪になって学校運営や教育活動を行っている。「地域と共に行う学校づくり」の根幹となっている。



サイエイダイコ 西観太鼓の練習風景(地域人材活用)

# 「草地ワクワクコミュニティ」が行う4つの地域密着型活動

## 大分県豊後高田市

活動名

草地ワクワクコミュニティ運営協議会

関係する学校

豊後高田市立草地小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	53人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成22年4月1日	12人	34人	4学級

活動の概要

草地ワクワクコミュニティ運営協議会(以下、「草地ワクワクコミュニティ」という)は草地小学校に設置されている。同校は平成20年4月から2年間コミュニティスクール調査研究校として研究を行い、平成22年4月より認可された。草地ワクワクコミュニティの委員は、自治会長、健全育成協議会会長、草地区公民館長、草地区体育協会会長、食推協会長、PTA会長、読み聞かせの会、学校評議員、市教育委員会指導主事、校長、教頭、コミュニティ担当教諭等12名で構成されている。

草地ワクワクコミュニティの活動は4つある。

- ①「チャレンジコミュニティ」は学校全般に関わり、郷土に残る伝統文化や伝統行事を継承し、校区の文化について学ぶ。県選択無形民俗文化財である草地踊りの発祥の地として、草地踊りの太鼓や口説きや踊り等を指導、練習して発表を行っている。
- ②「安全コミュニティ」は地区全体で児童が安全に登下校できる安心な校区作りを進めており、スクールガードによる見守りを行っている。
- ③「学びコミュニティ」は地域の方々のサポートにより授業の質や学習への興味・関心を高め、学力向上をめざす。玉ねぎ栽培、サツマイモ栽培、餅米栽培を行い老人施設等に寄付している。
- ④「環境コミュニティ」は環境整備や清掃活動、アルミ缶回収、花作り等を行い、潤いのある生活や教育環境作りを行っている。

この4つのコミュニティ活動すべてにおいて、地域の方が運営に参画しており、地域密着型の活動となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

草地ワクワクコミュニティの活動は4つに分担して実施し、その4つのコミュニティともに地域の方が運営に参画する地域密着型の活動となっていることが特徴である。

例えば、「チャレンジコミュニティ」では豊後高田市の草地踊りの発祥の地として太鼓をたたけて、口説けて、踊れるという活動を年間を通して行い、地域の方の指導のもと練習に取り組み、地域にも成果を発表している。子供も自信を持ち地区の踊りなどに積極的に参加している。

また「学びコミュニティ」では授業等にたくさんの学習サポーターの方が参加している。もち米栽培では、学校近くの田を借り、地域の方の指導の下、全校での田植え、草取り、稲刈り、脱穀を行い、3学期の学習発表会「草地っ子フェスタ」では餅つきをして、参観者や地域の方に無料で配布している。また大分県の農業祭に参加して交流を行っている。玉ねぎやサツマイモ栽培も農業を専門としている地域の方の協力のもと、栽培している。

このように、地域の方が運営に参画した地域密着型の活動が展開されている。

### 【実施に当たっての工夫】

多数の地域住民に各活動の運営に参画してもらえるよう、次のような工夫をしている。

- 活動を4つに分け、子供たちの学校生活に関わるようにした。
- 地域住民と子供との交流を進めるため、地域の伝統を大切にしたい取組を企画し、地域の方を学習サポーター(指導者)として招いた。
- 特技や高い見識を持つ地域の方に協力を依頼することにより、学習サポーターとして日常的に子供の学習支援を行うことを可能にする。このことにより、幅広くそして継続的に地域とのつながりを保つことができるよう配慮する。



伝統文化「草地踊り」発表風景



もち米の田植えの様子

## 事業を実施して

- 本活動をとおり地域住民が日常的に学校教育に関わることができている。
- 子供たちの感想に「今まで知らなかった地域の人と話すことができた」「野菜の育て方を教えてもらって楽しい」等あることから、子供たちが地域の方々との交流を楽しみ、深められていると感じる。
- 草地踊りの指導者から、発表会後に「涙がでて、感動した。」と高く評価され、子供の自信につながった。
- 多数の学習サポーターが来校し指導するので、子供はいろいろな刺激を受けて学習意欲が高まっている。「全国学力・学習状況調査」(文科省実施)や「大分県学力定着状況調査」(大分県教育委員会実施)の2つの調査結果にも成果として表れ、地域の方との交流やサポートが学力向上にもつながっている。

# 放課後の時間を利用した無料の学習塾を展開中!

## 大分県国東市

活動名

国東中学校区放課後学び教室

関係する学校

富来小学校・国東小学校・小原小学校  
旭日小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	92人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	15人	35日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	各小学校の余裕教室、アストくにさき		22年度	有
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要

「子供の教育は学校で」との考えを改め、子供のまわりの地域住民を巻き込んで、地域で子供を育てる環境整備を進める取組を平成20年度から始め、学校支援地域本部事業に取り組んでいる。平成22年度からは、少子・核家族化の児童には「集まれる場所」「学校外で学べる場所」の提供を、指導者、特に退職者・高齢者には「経験・能力を生かせる場所」「やりがいと生きがいを感じる場所」の提供を図る取組として、国東中学校区放課後学びの教室(以下「教室」という)を行っている。これにより、子供の教育に地域の住民が直接関わることができ、地域で子供の教育を見守る環境整備の推進が可能となった。

教室の指導者としては、教職退職者、地域の一般の方、保護者等をお願いし、理解と協力を得ることができている。ほとんどが60歳以上の方であるが、積極的かつ精力的に活動を行ってもらっている。教室では、放課後の学習習慣の定着と、基礎基本の再確認を図り、授業の補完的な役割を果たしている。また、多様な地域人材を指導者として迎えたことにより、それぞれの考え方、経験、ひらめき等を生かし、子供に応じた助言をすることが可能になっている。

なお、小学校の統廃合により廃校になった校区に住む児童についても、市独自の取組として廃校校舎の再利用や地区公民館などの活用により、住み慣れた地域で同様の教室を展開できるよう工夫している。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

校区に住む教職員の参画により、きめ細やかな学習指導ができています。子供一人ひとりの学力についての情報を学校側と共有することにより、個に応じた指導ができています。夏休みは国東高校の生徒に呼びかけ、指導の補助として加わってもらっている。今年は5年目なので、小学校6年生時にこの教室で学んでいた生徒が出身小学校の教室に指導に来てくれることが可能になった。教室で学んだ子供が指導者として参加協力してくれたことは大きな喜びであり、今後を生かせる成果である。

### 【実施に当たっての工夫】

各学年の学習進度に合わせてアドバイザー(教育活動推進員)が教材選択を行い、それを活用して指導している。教材選びは大変だが、子供にとっては学力に応じた課題に挑戦でき意欲的に取り組むことが可能になっている。また、つまづき発見や復習にも効果が大きい。班ごとに担当アドバイザーを決め常に同じテーブルにいるため、わからないところはすぐに気がねなく質問することができる。学力に応じた教材を準備しているので、力のついている子供はレベルの高い問題に取り組むこともでき、子供の能力に応じた学習の継続と学力向上につながっている。

始めの会、終わりの会を毎回行い、特に終わりの会では反省ノートや自己評価を書く指導も行っている。これにより学習の充実が図られ、さらにその日の反省と自己評価を発表させることで話す力もついている。反省ノートはアドバイザーが朱書きで励ましの言葉などを記入し、定期的に担任や保護者にも見てもらい、子供の頑張る姿を知らせることで、学校・家庭との連携にも努めている。



時には図書館で辞書を引きながら

## 事業を実施して

まじめに継続して参加している子供は力がついてきている。地域の指導者の協力を得て個に応じた細やかな指導や繰り返し学習・学び直しを行うことにより、つまづきに素早く対応できるので、基礎学力が確実に伸びている。家庭・学校・地域が連携することにより、地域の教育力を生かして、地域総ぐるみで子育てをすることができている。

また、学習態度、生活態度ともに向上している。



「学びの教室」卒業生の高校生による指導風景

## その他

家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く国東市

# 本会は、学校の活動を支援する「地域につくられた学校の応援団」である。

## 宮崎県都城市

活動名

山田中学校支援ボランティアの会  
(学校支援地域本部)

関係する学校

山田中学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		6人	32人	25年度	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		2人	60人	25年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
	平成25年4月1日	12人	245人	10学級	

### 活動の概要

活動については、平成18年度の発足当初より主に地域のボランティア活動に尽力しており、現在では環境整備、学校行事への参加、ゲストティチャーとしての授業への協力、福祉教育体験活動や学習支援など幅広い活動を年間通じて積極的に行っている。

活動の根底には、明治35年に秋田県潟上市より訪れ、無償で農業指導などのボランティア活動を行った、石川理紀之助の考え「まず自分から何事もやれ、自分でやらないで、人にやらせてはいけない」という精神に基づき活動している。

また、「十五夜祭り」などの地域行事への参画について小中学生に働きかけを行っている。特に郷土芸能である「山田音頭」においては、中学生が積極的に関わることで「地域と共にある学校づくり」の推進に寄与している。

- ・キャリア教育へのサポート(疑似体験活動・福祉施設訪問・職場体験学習) 6月・7月・9月・10月
- ・かかし笑劇団の公演(ボランティア活動への意識づけ) 5月
- ・教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業支援(年間)
- ・サマースクール学習支援サポート(7月～8月)
- ・土曜講座(学習支援) 11月～
- ・山田中ボランティアマスターへの支援・指導(年間)

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- 総合的な学習の時間を活用したキャリア教育へのサポート(ボランティア学習会・疑似体験活動・福祉施設訪問・職場体験学習・よのなか科への授業参加・面接指導支援)
- ボランティア活動への意識付けをするために、山田地区にある「かかし笑劇団」の公演参加(生徒・教職員)
- 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業支援(ゲストティチャー)
- 学習支援サポート(土曜学習会における補充学習支援・サマースクール支援)
- 学校行事への参画(体育大会・文化祭・駅伝マラソン大会・立志式・愛校作業)
- 秋田県潟上市小中学校との学校間交流活動の推進

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会の充実を図るとともに、学校支援ボランティアの会(学校支援地域本部)を機能的・実践的にしていくために、山田中らしい郷土の偉人の精神を受け継いだボランティア組織など、学校をさらに支援する体制づくりを推進するとともに、地域の方々の姿を見ることにより生徒のボランティア意識を高めている。そのために、地域コーディネーター部、学校支援部、学校評価部を組織し、さらにPTA組織や校務分掌も融合させている。
- 各活動が機能するために、特に総合的な学習の時間における具体的な活動の系統性・連続性を持たせ取り組んでいる。
- 多くの方々の支援をいただくために、地域のネットワークづくりを推進している。そのためにコミュニティ・スクールだより等を活用し啓発している。さらに、市及び地区における社会福祉協議会との連携を強め、多くの支援ができるような手立てを講じている。



高齢者福祉訪問

## ● 事業を実施して

- 学校支援ボランティアの会の発足により、保護者や地域住民の、学校との連携や学校への支援に対する認識が深まり、保護者・地域住民による「福祉体験活動・福祉施設訪問・職場体験学習・ボランティア活動」などの活動が、学校への支援活動としてより活性化してきている。
- 学校支援ボランティアの会の発足により、学校職員の意識が高まり、地域への行事参加など、地域への参加・協力を意識した取組がなされるようになってきている。また、地域の方にボランティアで学校に来てもらうことにより、生徒のボランティアへの意識も高まりつつある。



山田地区かかし笑劇団への参加

## ● その他

- 平成25年11月に、コミュニティ・スクールモデル校として研究公開を行った。研究公開の中で、教職員とボランティアの会員と一体化した授業及び活動の実践発表を行った。

# 地域と連携して子供たちに様々な体験をさせ、生活技能・体力の向上を図る。

## 宮崎県西米良村

活動名

スマイル!にしめら

関係する学校

西米良村立村所小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 40人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 50人	開始年度 20年度	補助の有無 有
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	年間開催日数 104日	補助の有無 有
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室(パソコン室)、理科室、体育館、運動場 他	19年度	無		
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成19年に「スマイル!にしめら」を開校。村民・村内各団体の協力をいただき、子供たちの放課後の安心・安全な居場所を確保するとともに、子供たちに様々な体験をさせ、生活技能・体力の向上を図るとともに、村民の生涯学習の成果を発揮する場(生きがいづくり)として実施。

平成23年度からは総合型地域スポーツクラブとも連携し、競技力の向上を図るとともに、各競技の種目指導者の養成を担う。その他、宮崎大学と連携した学習支援等を展開するなど、一層の充実を図っている。

活動の概要としては、以下のとおりである。

◎基本的に月曜日から金曜日まで実施。

<開校時間/15時30分~17時00分>

★すくすくスクール(月曜日) ※主に文化的な活動

①語り部(語り部の会) ②昔遊び・お菓子づくり(婦人会) ③似顔絵・イラスト教室(村民) ④食育教室(婦人会他)

★メラスポ(火~金曜日) ※主にスポーツ活動

<総合型地域スポーツクラブとの連携>

①ソフトテニス教室②ミニバレー・サッカー③レクリエーション④宮崎大学生との交流

◎土曜日の事業

毎年、2月に図書まつり「米良のあさよむフェスタ」を実施。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

総合型地域スポーツクラブ「メラスポチャレンジクラブ」と連携し、専門指導者による教室を行い、一層の競技力向上を図っている。併せて、村内の各競技の種目指導者の養成にも取り組んでいる。

宮崎大学と連携して、教員を目指す学生に來村いただき、活動が始まる時間までの宿題等の学習支援や、大学で学んだ知識を実践する機会として、レクリエーション・ゲームを行うなど、児童との交流を行っている。

土曜日の事業として、毎年2月に図書まつり「米良のあさよむフェスタ」を実施している。西米良中学校生徒が実行委員会を務め、読書推進活動を行っている。

西米良を学び、西米良を通じて児童・生徒自身の生き方について考える学習「ふるさと西米良学」を実施している。地域を学ぶ学習や神楽・米良太鼓などの伝統を受け継ぐ活動を、小中学校それぞれの総合的な学習の中で、村民の方に指導いただきながら取り組んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

原則的に児童の参加は任意であるが、毎月のスケジュール表や教室内容のチラシ等を製作・配布するなど、たくさんの児童が参加するよう周知を行っている。

また、七夕飾りやクリスマスリースづくりなど、季節に合わせて、各協力団体独自で児童が楽しめるような工夫をいただいている。

毎年、広報紙を作成し、活動の様子などを村民に周知している。こうした情報発信を通じて、放課後の取組を広く知ってもらおうと同時に、それぞれの立場での、今後の学校との関わりを考えるきっかけとなることを期待している。

学校行事が記載されているカレンダーを毎年作成、村内全世帯に配布し、情報発信・学校行事への積極的参加を促している。

## ● 事業を実施して

婦人会の皆さんに指導をいただき、食育体験教室では、子供たちが苦手な野菜等にチャレンジする姿が見られる。また、各種大会に向けた練習を「スマイル!にしめら」で行い、目標を意識した活動が展開できている。

この「スマイル!にしめら」では、1年生から6年生までが一緒に活動しており、高学年が低学年をサポートする姿も見られ、児童同士の一層の連帯感が生まれている。

ご協力いただく村民の皆さんも、日頃の生涯学習の成果を発揮する場となり、生きがいづくりにつながっている。

## ● その他

26年度の新規事業として長期休業中(夏休み・冬休み・春休み)の見守りを、村民の皆さんのご協力をいただき実施している。お盆・年末年始を除き、朝から夕方まで学校の教室を借用して、子供たちの居場所を確保している。この見守りでは、子供たちに「何をして遊ぶか」という発想を身に付けさせることも目的としている。(自分で何をして遊ぶか考える力を養う)



ソフトテニス教室の様子



食育体験教室の様子



# 御田の里キッズ学園は、様々な活動をとおして家庭教育の支援を行っています。

## 宮崎県美郷町

活動名

御田の里キッズ学園

関係する学校

田代小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	35人	194日	有
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	田代小学校余裕教室	体育館	運動場	家庭科室	19年度
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成18年1月1日に南郷村・西郷村・北郷村が合併し美郷町となり、町内は従来の旧村ごとに、3つの区に分けられ、文化面に関しては、「美郷町三大祭」として南郷区の「師走祭り」、西郷区の「御田祭」、そして、北郷区の「宇納間地藏尊大祭」を継承することを中心に、そして、また、新たな文化の創造を目指す「新しい町」である。人口は、約5,700人で、合併時の人口7,250人に比べると、すでに1,500人以上が減少しており、年々減少傾向をたどる中、少子・高齢化も同時に進んでいる現状にある。放課後子供教室に関わる小学校の状況については、南郷区1校、西郷区1校、北郷区2校の合計4校で総児童数が199名となっている。これらの中で、試験的に本事業を開始したのが、御田の里キッズ学園で、西郷は山間部であるため、祖父・祖母が自宅にいるから事業の必要性はそう高くないことを予想していたが、祖父祖母では友達とするような遊びが出来ないこと、最低の安全は守られても、ゲームやテレビを見ることぐらいしかできない。ということが事業をとおしてわかりニーズの高さを感じられた。これにより、現在、本事業をさらに拡大し、各学校への設置を行ったところである。活動の概要は、地域のボランティアの協力による活動が主で、月1回の読み聞かせボランティアによるお話会、地域高齢者サークルによる昔遊び、その他、学期2回のヘルスメイト(食改善グループ)による料理・おやつ教室等を開催し、子供たちはもとより保護者からも好評を得ている。その他、学校グラウンドや体育館における、全学年での外遊びやレクリエーションをとおして異年齢集団との関わりを学びながら、事業の趣旨とされる安全で安心な学校放課後を楽しんでいる。

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ① サポーターを中心に、運動会前に陸上教室、町民文化祭前には出品する作品づくりを行うなど、常に先進的な事業展開を図っている。さらに、学期終了前にはお楽しみ会を開催し、クイズや出し物、ワクワク抽選会などにより異学年間の交流を深めている。
- ② 「食育」をテーマとした料理教室を開催し、保護者にも喜ばれている。
- ③ 毎日の時間を活用し、卵の殻に色を付けた貼り絵に挑戦するなど教室作品を作成している。
- ④ 教室内外の清掃活動を行うことで、教室を利用させていただくことへの感謝の心を育てている。
- ⑤ 毎月、「キッズだより」を発行することで、保護者へ家庭教育の重要性を説いている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 町の広報誌を活用し、活動の様子を報告することで、新たなボランティアや協力機関が増えている。
- 放課後子供教室の活動日誌を学校に回覧することで、全ての先生方に放課後子供教室の課題や児童の様子が共有されている。また、サポーターの方々の意見も記されていることから、細やかな部分も把握することができる。
- 現在、教育委員会とサポーターの定期的な連絡会議を開催し、読み聞かせ会や昔遊びなどの月予定やシフト、その他注意事項の打ち合わせを行っている。今後は学校の連絡会議への参加を依頼し、施設面や児童の様子などに関する課題の共有に努め、その解決を図ることとしている。



「ととろ」をつくったよ!

## ● 事業を実施して

事業を実施し、下記の成果がある。

- (1) 異年齢集団での遊びが楽しめるようになった。
  - (2) 地域の協力が得られるようになった。(個人・読み聞かせボランティア・ヘルスメイト他)
  - (3) 清掃活動をとおして、教室利用に対する感謝の意識が芽生え始めた。
  - (4) 毎日、帰りの会を開催することで、その日の活動の振り返りが行えるようになった。
- 以上の成果があげられるが、今後については、保護者の連携と積極的な参画が期待される。また、総合型地域スポーツクラブとの連携について検討していきたい。



巡回おはなし会が来てくれたよ!

## ● その他

今後、先生方に放課後の子供たちの様子や計画をさらに積極的に情報提供し、関心を高めながら理解と協力を得ていきたいと考えている。また、御田の里キッズ学園に入っていない児童についても積極的に受け入れを行い、本取組の充実と事業の趣旨の浸透を図っていきたい。

# 地域と学校が近くなる「学校支援ボランティア事業」

鹿児島市鹿児島市

活動名

学校支援ボランティア事業

関係する学校

鹿児島市立宇宿小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 52人	開始年度 22年度	補助の有無 有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

鹿児島市では、昭和48年から全小学校区を単位として、学校・町内会・各種社会教育関係団体等の代表で構成される校区公民館運営審議会を設置している。審議会では、これまでに青少年の健全育成や校区民の生涯学習のための事業を実施するなどして、大きな成果をあげてきた。このことを踏まえ、本審議会を地域教育協議会に指定し、「地域の教育力」を生かした本市独自の「学校支援ボランティア事業」を平成20年度から推進してきており、25年度には36本部70小学校での実施となった。

宇宿小学校地域本部では、平成22年度から本事業を実施し、地域住民だけでなく、保護者にもボランティア登録を継続依頼するなど着実に成果を挙げてきている。

特に、年間をとおした、国語と算数などの学習支援活動とあわせて、登下校指導や読み聞かせの支援なども幅広く行っている。その結果、児童の安全確保や教員が児童と向き合う時間の拡充につながっている。これらの活動を通して、地域と学校の連携が深まり、地域の教育力の向上にもつながっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

低学年児童や特別な支援が必要な児童への、国語や算数の学習支援と補助が特に充実している。平成25年度は、国語科で延べ196人が、算数科は延べ152人のボランティアが参加した。また、読み聞かせや登下校指導、学校行事の支援も行うなど、多様な支援体制もできている。

ボランティアを、保護者や地域住民に広く募ることにより登録者の増加を図り、登録した方がやりがいを感じるにより、活動の継続につながっている。

### 【実施に当たっての工夫】

教職員に対して事業の説明会をしている。活用については、学年会等で検討がなされており、実施日には、職員朝会でどの学級に何のボランティアが入るということを職員に周知している。

地域住民へ活動の理解を深めるために、活動状況やボランティアの登録状況について、地域教育協議会(地域本部を設置している小学校区の校区公民館運営審議会を地域教育協議会として位置づけている)で説明するとともに、町内会長に募集チラシの配布を依頼している。また、下校指導において、危険箇所と人員の配置について具体的なアドバイスをもらったり、水泳指導の際にボランティアとして活動してくれそうな人を紹介してもらったりするなど、地域の子供と一緒に見守ろうという意識を高める機会にもなっている。

## 事業を実施して

地域住民が学校を支援することにより、教師と児童が向き合う時間が増えた。

子供たちが地域住民と交流することにより、お互いのあいさつや住民からの声かけが積極的に行われるようになった。

本事業により、子供の学習意欲の向上も図られた。



交通安全教室



登下校安全指導(集団下校)

# 地域の子供を 地域らしい活動をとおして 地域の人で育てる

## 鹿児島県南九州市

活動名

清水地域子ども教室

関係する学校

南九州市立清水小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
		1人	17人	16年度	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	7.2人	155日	有	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	せせらぎ館(校区公民館)			16年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

- ・土曜日の活動は、平成16年度からスタート。当時のPTA会長と学校長が、週休二日制で学校が休みとなった子供たちに、人や自然と関わりながら遊ぶ楽しさを感じてほしいということで、学校独自の活動として始まった。当初、運営はPTA役員が中心となっていたが、後に校区公民館で運営するようになった。
- ・平成25年度は平日155回、土曜日8回の実施。参加者延べ人数1,232人。
- ・平日の開催日数が多く、学習活動や読書活動、体力作りを行っている。
- ・週末(土曜日)は、地域における体験活動が中心となる。
- ・子供たちの参加については、学校を通じて、全児童に案内を配布し、参加者を募っている。活動内容によっては、地域の全家庭に案内を配布し、集落の放送を通じて、参加を呼びかけている。
- ・親子での参加も多く、地域の子供は地域ぐるみで育てようという意識が校区に定着している。

### ● 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の方々と連携した田植え、標語ポール製作活動、ドングリの森清掃・竹とんぼ作り、火おこし・ピザ作り、ミニ門松作成活動、絵画教室、ニュースポーツ等、多様な体験活動に取り組んでいる。
- ・指導者は全員が地域のよき人材であり、そのことも清水の良さ再発見につながっている。
- ・週末の活動では、それぞれの活動内容に応じて担当者が責任を持って計画的な指導ができるように、校区公民館の組織である青少年育成部会が中心となって運営を行っている。活動については、部会での決定を基にコーディネーターが計画立案・講師との交渉等を行い、当日の運営は部長が主に行い、安全面を他の部員が行うなど、地域一体となった組織的活動になっている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ・活動内容によって、地域ぐるみで関係機関や団体が分担し、青少年の健全育成を行っており、地域の子供は地域で育てるという考え方が地域に根付いている。
- ・どの活動も、清水地区の文化や伝統を生かしたものとなるように、校区の歴史に関する史跡巡りや校区内の公園の木々・木の実を使った工作などを設定し、清水地区の良さを生かした活動になるようにしている。
- ・校区公民館や青少年育成校区民会議等の地域の方が出席する会合で協力を呼びかけ、地域の理解や協力を得ながら活動を行っている。



地域・保護者・子供での田植え

### ● 事業を実施して

- ・地域塾と同好会の活動を合同で行い、保護者の参加が多く、これまでに無い活動ができた。
- ・地域の指導者や地域の支援者の指導・手伝いを受けることで、子供たちが地域の方との心の距離を縮め、挨拶や会話が増えてきた。
- ・地域の子供を地域で育てると意識が高まり、「手伝いたいので、案内を届けてください。」という地域の方の数が増えた。
- ・講師の方の下準備がよく、手軽に作成できた。



地域・保護者・子供でのピザづくり

### ● その他

- ・放課後や土曜日の様々な活動をとおして、子供たちの居場所づくりを確保している。
- ・講師も活動内容も基本的に地域や地域素材を活用している。講師は、少しずつ入れ替わることで活動が活性化されている。

# 「地域の高齢者の知恵、地域のよさを子供たちに」 小さな村の大きな支援

## 鹿児島県大和村

### 活動名

やまと大榎小学校区学校応援団事業

### 関係する学校

大和村立大榎小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	1人	12人	23年度	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成23年度から、やまと大榎小学校区学校応援団事業を実施し、地域の高齢者の知恵を支援活動に生かして魅力ある教育活動を展開している。

- 体験活動支援
  - ・米作り活動(田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅つき)…総合的な学習の時間
- 地域・文化活動支援
  - ・八月踊りの踊り方…体育
  - ・八月踊りの由来…3年社会科
  - ・島唄…音楽
  - ・読み聞かせ…朝読書
  - ・調理実習…創意(スモモの加工品作り)
  - ・海浜活動安全確保…総合的な学習の時間
- 交流活動支援
  - ・老人クラブ交流会(島口の意味調べ)(カルタ遊び)…創意
- 学習活動支援
  - ・ピアノ伴奏、合唱指導…音楽
  - ・タグラグビー指導…体育
- 安心・安全
  - ・朝の登校指導…通年
- 学校環境整備支援
  - ・環境整備作業
  - ・校庭の除草、剪定、苔はがし
  - ・飼育動物のエサの提供

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・全校で行っている「米づくり活動」は、地域の高齢者の方々に年間を通して継続した指導・支援をさせていただいている。
- ・田植えからもちつきまでの一連の活動を一緒に行うことで、活動内容の充実、安全面の確保を図ることができるとともに、生活の知恵を伝え、ふれあいを深める絶好の機会となっている。
- ・奄美の自然・文化については、教職員の知識・経験が少なく、指導が難しい面があるが、「八月踊り」「島唄」「三味線」「海浜活動」など多様な場面で、学校支援ボランティアを活用した活動を展開している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・事前の打合せにおいて、活動のねらいや要望をできるだけ簡潔に、短時間で伝えるようにしている。
- ・実施活動後、ボランティアの方々と子供の様子や内容について意見交換を行うようにしている。
- ・学校側で、年度末に活動支援の要望リストを作成してコーディネーターに依頼し、教育課程に位置付けることで、計画的に多様な学校支援ボランティアを活用した活動ができるようになり、教育活動の充実が図られている。
- ・地域コーディネーターと学校との情報交換を定期的に行い、人材の発掘に努めている。

## 事業を実施して

- ・学校行事へも、保護者だけでなく地域住民も数多く参加するようになり、学校の子供は、地域全体の子供であるという温かい雰囲気を感じられる。
- ・子供たちが、支援活動に訪れた地域の方々とあいさつを交わすことにより、目上の人に対する礼儀等もよくなり、生徒指導上も効果が出ている。
- ・奄美の文化や歴史、米作りなど、地域の特色、地域性のある体験になればなるほど、学校職員に十分な知識や経験の不足しており、学校支援ボランティアの計画的・継続的な活用が大切だと感じる。

## その他

- ・学年ごとに作成している年間支援活動計画を充実させていくことで、年間を見通した活動依頼をよりスムーズにできるようにしていきたい。
- ・これまで活動に関わってきた方の中には、改めて、学校支援ボランティアとしての登録をしていない方も大勢いる。その方々にボランティアとしての登録を勧めていきたい。



八月踊りの練習



田植え

# 地域の方々の協力で、様々な体験ができる教室

## 沖縄県那覇市

活動名

銘苺っ子ども教室

関係する学校

銘苺小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	20人	233日	有
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	銘苺小学校	地域連携室・体育館	19年度	無	
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

### 活動の概要

- ①三線教室 毎週月曜日：18：00～20：00 三線教室やイベントでの発表に向け取り組んでいる。
  - ②茶道教室 毎週水曜日：16：30～18：00 礼儀作法を重点に置き、お手前の披露目標。
  - ③琉舞教室 毎週木曜日：16：30～18：00 踊ることの楽しさを学び、舞台発表を目指す。
  - ④ヨガ教室 毎週金曜日：16：30～18：00 リラックスしてヨガを楽しむ。
  - ⑤ハンド教室 毎週金曜日：16：30～18：00 楽しみながら取り組み、体力の向上を図る。
  - ⑥書道教室 毎週土曜日：10：00～12：00 毎月のお手本をもとに書をかき、昇級・昇段を目指す。
- その他にも、組踊りと昔遊びを長期休暇等に実施。

### 活動経緯

放課後に安心して過ごせる場所を作りたいという教室開始当時の校長先生の呼びかけに地域の方が協力することにより活動が始まった。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

- ・地域の多くの方々の協力を得て、年間を通し多種多様な講座を開催し、子供たちに様々な体験ができるように努めている。
- ・沖縄の伝統芸能である三線、琉舞、組踊を講座に取り入れ伝統芸能体験も積極的にやっている。
- ・茶道教室では夏休み期間中に地域にある地方銀行の支店でお手前を披露し来客者にお茶を振る舞っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・月に1度学校の先生を交え連絡会を設け、学校行事や教室の活動状況報告を行い情報の共有を図っている。
- ・市や地域で開催されるイベントに参加し地域の方と交流を図るとともに、子供たちの日ごろの活動成果発表の場を創造することで日頃の活動にも熱が入る。
- ・書道教室では希望者を対象として、月に1回の昇級試験、年に2回の昇段試験を利用し参加児童のやる気と意欲の向上を図っている。
- ・新年度の参加児童募集時には、前年度から参加している児童にも募集ポスターを作成してもらい参加しやすい雰囲気を作っている。



琉舞教室の様子

## 事業を実施して

- ・様々な活動を通し、異年齢間の交流や普段接することが少ない地域の大人との交流につながっている。
- ・途中で辞める子が少なく、学年が上がっても継続する子がほとんど。
- ・教室に参加する児童は先生の事が大好きなようで、楽しそうに活動している。
- また、当番制で教室の掃除やトイレ掃除を行うことでしつけやマナーの向上につながっている。



三線教室の様子

## その他

- ・教室で実施しているハンドボールは校区内の中学校には部活動として活動が無い学校もあるので結成を働きかけている。

# 地域と学校が連携して学校・子供たちを支援する活動です!

## 沖縄県沖縄市

### 活動名

泡瀬小学校支援地域本部

### 関係する学校

沖縄市立泡瀬小学校支援地域本部

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	1人	176人	21年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
			実施場所	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

### 活動の概要

地域の多くの大人が学校に関わる事により、地域全体で未来を担う子供たちを育む事を目的に、平成21年に学校支援地域本部事業の取組みを始めた。

泡瀬小学校では、学校支援に携わるボランティアの研修会(読み聞かせボランティアが年3回)、ボランティア交流会を行っている。

#### 【概要】

- ・地域で結成された、体験学習を支援する会の方々の協力による市の公園を利用した田畑での田植えから稲刈り、脱穀までの体験指導が平成22年度から行われている。
- ・登下校の交通安全指導及びパトロール ・保護者や地域の方々で作られた「たんぼぼの会」による読み聞かせ。
- ・校内外学習支援及び安全補助 ・補習授業での丸つけ ・家庭科ミシン支援 ・手話指導 ・平和学習講和
- ・クラブ活動の指導及び補助(手話・茶道・囲碁)。茶道クラブを指導していただいている地域のボランティアの方には、約10年学校支援に携わってもらっている。
- ・環境整備

## ● 特徴

### 【特徴的な活動内容】

平成22年度より行われている、地域の方々で結成された会による体験活動の支援活動。市の公園を利用した稲作体験で田植えから稲刈り、脱穀までの体験活動指導を行っている。収穫したお米を5年生の宿泊学習で、児童自らカレーライスを調理している。また、収穫したお米で、地域の方たちと一緒に餅つきを行っている。地域の方たちと行う餅つきは、地域と学校の交流の場にもなっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・支援が必要な時に声掛けがしやすい環境を作る為に、コーディネーターの作業場所を事務室に置いている。日頃から教員とコミュニケーションを取る関係作りを心掛ける事で、教員との連携が円滑に行える。
- ・ボランティア間の親睦を図り、良いチームワークで学校支援に取り組めるように、ボランティア活動終了後等に交流の時間を多く持つ。交流の時間で培われるボランティア間の穏やかな雰囲気が、子供たちへの良い支援へつながっている。
- ・学校支援に欠かせない地域人材の発掘の為に協力を得る為、地域ネットワーク定例会(自治会)に参加している。定例会に参加する事で、お互いに協力を得やすい関係を作る事が出来る。



稲刈りの様子

## ● 事業を実施して

ボランティアから、「ボランティアとして学校支援に携わることで、役に立てる喜び、また子供たちと色々な体験を共有出来る喜びを感じる事が出来る」、「子供たちから声を掛けてくれる」という声があり、また子供たちからは、「声を掛けて貰えるととても嬉しい気持ちになる」、「名前を呼んでもらえたのがうれしい」、「挨拶を褒めてもらえた」等の声がある。また教師からは、「ボランティアが入るにより、児童の安全確保や学習指導へ集中する時間が確保出来た」等の声があがっている。

学校支援を通して、ボランティアはやりがいを感じ、子供たちは様々な体験活動が出来ると同時に、地域の大人と関わる事で学習意欲の向上につながるなど、ボランティア、児童、学校に良い効果が生まれた。



町たんけんの様子

## ● その他

読み聞かせを行っている「たんぼぼの会」では、ボランティア間の交流を目的とした講座を年3回行っている。講座を通して、ボランティア間が和気あいあいとした雰囲気になっている。平成25年度は、①自分を見つめる香りの魔法②朝から女優になろう③簡単手作りおやつ③講座を行った。



参 考 资 料



# 優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日  
文部科学大臣決定  
平成26年7月3日一部改正

## 1 趣 旨

この要項は、未来を担う子供たちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一環の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する活動(以下「地域による学校支援活動」という。)のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることを目的とする。

## 2 表彰の対象

表彰は、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で行われる「土曜日の教育活動」、「学校支援地域本部」及び「放課後子供教室」、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」での教育方針に基づいた「地域による学校支援活動」等のうち、その内容が他の活動と比べて特に優れ、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、PTA活動として行われる学校支援活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰対象の基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容の活動であること。

### (1) 組織、運営

- ア 地域の実情に応じた組織により、幅広い関係者の参画を得て、効果的な運営が行われていること。
- イ 連携する学校側の意見を十分に反映して運営が行われており、学校関係者との連携協力が円滑に行われていること。

### (2) 活動

- ア 地域のコーディネーターの調整のもと、学習支援、土曜日や放課後等の活動を含む学校外活動、学校環境整備、子供の安全確保など、「地域による学校支援活動」が活発に、かつ継続的に行われていること。
- イ 多くの地域住民等がボランティアとして参加し、地域の実情に応じた創意工夫のある活動を展開するなどにより、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。
- ウ 学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力し、活動が行われていること。

## 3 推薦の方法

### (1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市(以下「都道府県等」という。)に対し、上記2を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

### (2) 都道府県等における推薦方法

都道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記2に該当する「地域による学校支援活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦に当たっては、〈別紙〉優れた「地域による学校支援活動」推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

#### 〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等においては、選考の上、上記2の表彰対象の基準を満たす域内に存在する「地域による学校支援活動」のうち、都道府県については3件以内(ただし、特別区を含む東京都に当たっては2件以内の推薦分をこれに加えることができる。)、指定都市については2件以内、中核市については1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考に当たっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

### (3) 文部科学省における推薦

上記(2)による都道府県等からの推薦のほかに、文部科学省は、表彰するにふさわしいと判断する「地域による学校支援活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

## 4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記3により推薦された「地域による学校支援活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

## 5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

## 6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

## 7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

- (1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。
- (2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

## 8 本表彰にかかる事務

本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付(学校運営支援担当)の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

## 附 則

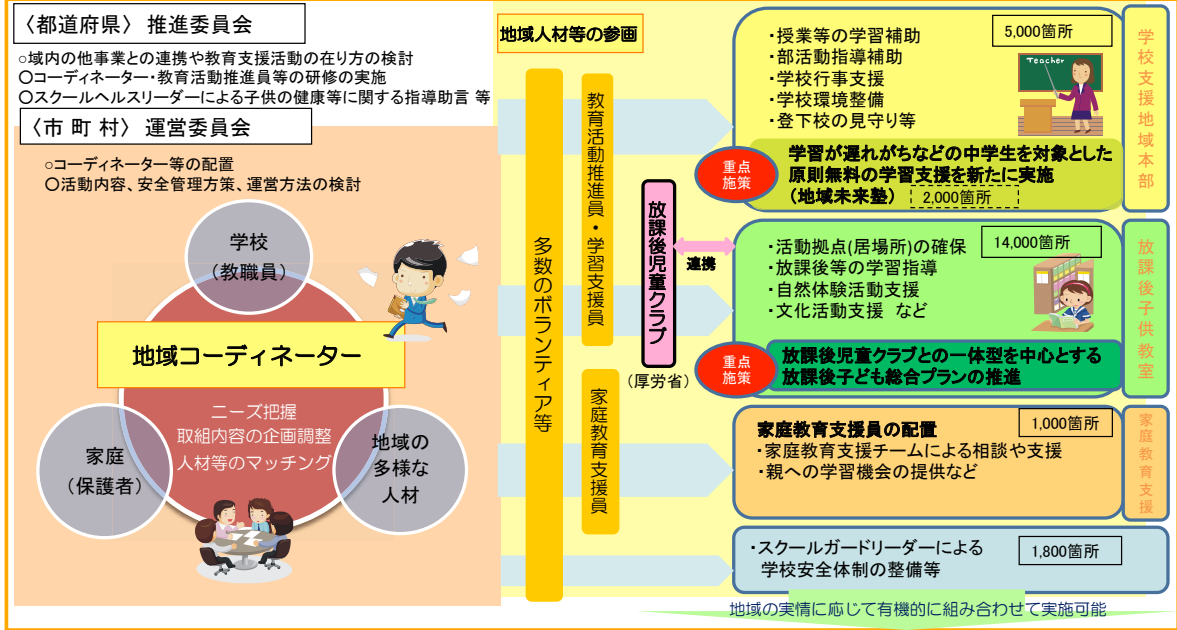
- 1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。
- 2 放課後子ども教室推進表彰要項(平成20年11月11日生涯学習政策局長決定)は、本要項の決定をもって廃止する。

## 学校・家庭・地域の連携協力推進事業

(平成26年度予算額 3,814百万円) 【補助率】 国 1/3  
平成27年度予算額 4,882百万円 都道府県 1/3  
市町村 1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備、スクールヘルスリーダー派遣などの学校・家庭・地域の連携協力による様々な取組を推進し、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。特に、学校支援地域本部を活用し、中学生等を対象に大学生や教員OBなど地域住民の協力による原則無料の学習支援（地域未来塾）を新たに実施する。また、女性の活躍推進を阻む「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、新たに策定した放課後子ども総合プランに基づき、厚生労働省と連携した総合的な放課後対策をより一層充実させる。

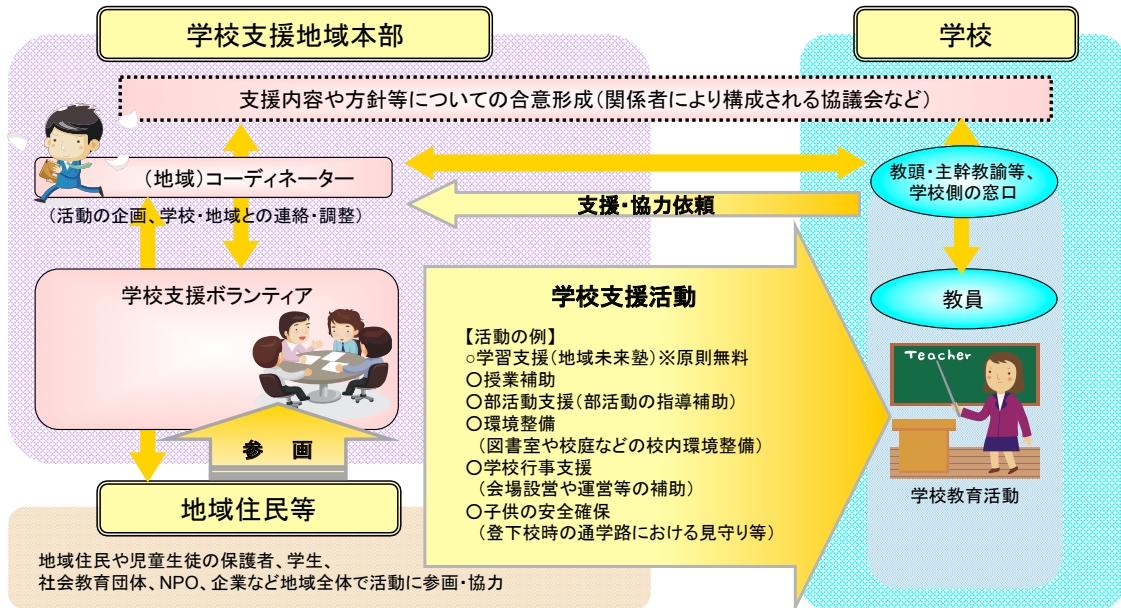


学校・家庭・地域が連携して地域社会全体で教育支援活動を実施し、地域コミュニティを活性化

## 学校支援地域本部

地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み(本部)をつくり、様々な学校支援活動を実施

<H26年度実施状況>3,746本部 (小学校6,244校 中学校2,814校 (全公立小・中学校の30%))



地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し、子供たちの学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

学習が遅れがちな中学生等を対象とした学習支援  
～地域住民の協力を得て、地域未来塾を新たに開講～

地域未来塾について

※中学生だけでなく、小学生、高校生などを対象とした学習支援の実施も可能

中学生等を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

- ◆経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生等への学習支援を実施
- ◆地域住民が参画する学校支援地域本部の活用により、原則無料(\*)の学習支援  
(\*参加者が一部実費等を負担する場合あり)
- ◆教員を志望する大学生などの地域住民、学習塾などの民間教育事業者、NPO等の協力により、多様な視点からの支援が可能 (27年度予算額:207百万円(新規) ※学校・家庭・地域の連携協力推進事業の27年度予算額4,882百万円の内数)

- \*学習が遅れがちな中学生等に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着
- \*高等学校等進学率の改善や学力向上

学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る

全生徒を対象とした学習支援の事例

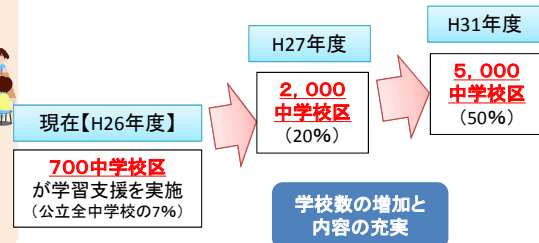
【東京都内のある中学校の取組】  
※学校支援地域本部を活用

<放課後学習支援>

- ・対象は中1～3の希望者
- ・年間約80回(学期中の週2回(2時間程度))  
\*空き教室を利用、無料
- ・指導員による個別指導と自習  
\*指導員:教員志望の講師や大学生など

平成31年度末までの目標数

※学校支援地域本部を活用した学校数



※学校支援地域本部:地域人材の参画により、学校の教育活動(授業、部活動等)を支援する取組(H27年度5,000中学校区で実施、補助率1/3)【H26年度実施状況】3,746本部(小学校6,244校 中学校2,814校)

放課後子供教室

学校・家庭・地域の連携協力推進事業の一部で実施

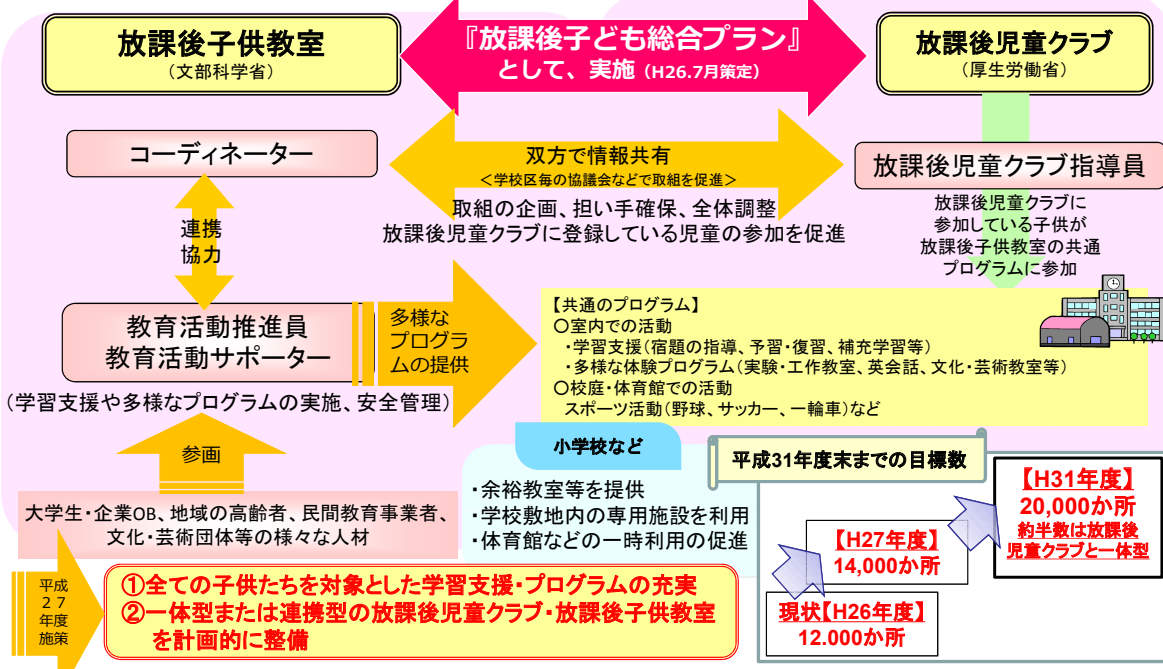
【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

～放課後子ども総合プランの推進～

(平成26年度予算額 3,814百万円の内数)  
平成27年度予算額:4,882百万円の内数

女性の活躍推進のためには、共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、厚生労働省と連携して総合的な放課後対策に取り組むことが必要



## 「放課後子ども総合プラン」の全体像

(平成26年7月31日策定)  
(文部科学省・厚生労働省)

### 趣旨・目的

- 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備を進める

### 国全体の目標

- 平成31年度末までに
  - 放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備  
(約90万人⇒約120万人)
  - ・新規開設分の約80%を小学校内で実施
  - 全小学校区(約2万か所)で一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体型で実施  
(約600か所⇒1万か所以上)を目指す
  - ※小学校外の既存の放課後児童クラブについても、ニーズに応じ、余裕教室等を活用
  - ※放課後子供教室の充実(約1万か所⇒約2万か所)

国全体の目標を達成するための具体的な推進方策

### 市町村及び都道府県の取組

- 国は「放課後子ども総合プラン」に基づく取組等について次世代育成支援対策推進法に定める行動計画策定指針に記載
- 市町村及び都道府県は、行動計画策定指針に即し、市町村行動計画及び都道府県行動計画に、
  - ・平成31年度に達成されるべき一体型の目標事業量
  - ・小学校の余裕教室の活用に関する具体的な方策
  - などを記載し、計画的に整備
  - ※行動計画は、子ども・子育て支援事業計画と一体のものとして策定可

### 市町村及び都道府県の体制等

- 市町村には「運営委員会」、都道府県には「推進委員会」を設置し、教育委員会と福祉部局の連携を強化
- 「総合教育会議」を活用し、首長と教育委員会が、学校施設の積極的な活用など、総合的な放課後対策の在り方について十分協議

### 学校施設を徹底活用した実施促進

- 学校施設の活用に応じた責任体制の明確化
  - ・実施主体である市町村教育委員会又は福祉部局等に管理運営の責任の所在を明確化
  - ・事故が起きた場合の対応等の取決め等について協定を締結するなどの工夫が必要
- 余裕教室の徹底活用等に向けた検討
  - ・既に活用されている余裕教室を含め、運営委員会等において活用の可否を十分協議
- 放課後等における学校施設の一時的な利用の促進
  - ・学校の特別教室などを学校教育の目的には使用していない放課後等の時間帯に活用するなど、一時的な利用を積極的に促進

### 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施

- 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の考え方
  - ・全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、同一の小学校内等で両事業を実施し、共働き家庭等の児童を含めた全ての児童が放課後子供教室の活動プログラムに参加できるもの
  - ▶ 全ての児童と一緒に学習や体験活動を行うことができる共通のプログラムの充実
  - ▶ 活動プログラムの企画段階から両事業の従事者・参画者が連携して取り組むことが重要
  - ▶ 実施に当たっては、特別な支援を必要とする児童や特に配慮を必要とする児童にも十分留意
  - ▶ 放課後児童クラブについては、生活の場としての機能を十分に担保することが重要であるため、市町村が条例で定める基準を満たすことが必要

### 放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施

- 放課後児童クラブ及び放課後子供教室が小学校外で実施する場合も両事業を連携
  - ・学校施設を活用してもなお地域に利用ニーズがある場合は、希望する幼稚園などの社会資源の活用も検討
  - ・現に公民館、児童館等で実施している場合は、引き続き当該施設での実施は可能

※国は「放課後子ども総合プラン」に基づく市町村等の取組に対し、必要な財政的支援策を毎年度予算編成過程において検討

## 土曜日の教育活動推進プラン

平成26年度から実施

### 背景・意義

- 学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かなものにする必要がある。そのための方策の一つとして、平成25年11月に学校教育法施行規則の改正を行い、設置者の判断により、土曜授業を行うことが可能であることを明確化したところ。
- 平成26年度から新たに質の高い土曜授業の実施のための支援策や、企業・団体等の外部人材を活用して地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動など様々な活動を促進するための支援を実施。平成27年度は、地域の要望等を踏まえ、プログラムの内容を充実するとともに実施校数の拡充を図ることによって、子供たちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現。

### 平成27年度予算のポイント

#### ① 地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業(15億円)(12,000か所)(H26:13億円,約5,000か所)

体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施できるコーディネーターや企業・団体等の協力による多様な経験や技能を持つ土曜教育推進員を配置し、土曜日の教育活動を行う体制を構築し、地域の活性化を図る。

土曜日に年間約10日程度の多様な教育プログラムを実施するためのコーディネーターと土曜教育推進員の謝金及び教材費(補助率:1/3)  
(小学校:約8,000校区、中学校:約2,500校区、高等学校等:約1,500校区)

#### ② 土曜授業推進事業(1億円)(H26:1億円)

全国的に普及できる質の高い土曜授業の先進的なモデルの研究開発を行うため、効果的なカリキュラムの開発、土曜授業コーディネーターの配置、特別非常勤講師や外部人材、民間事業者等の活用を支援。  
(平成26年度の取組例)

総合的な学習の時間を利用した地域に関する学習、キャリア教育、英語教育、学校行事の地域への公開、各教科における補充学習・発展的学習・習熟度別学習等

- ・全国約32地域(約160校程度)をモデル地域として指定し、月1回程度、土曜日ならではの特性を生かし、質の高い土曜授業を実施するため、カリキュラム開発や土曜授業コーディネーターの謝金、特別非常勤講師の報酬、外部人材の謝金・旅費、民間事業者の活用等を支援
- ・国における検証会議の開催、事例集の作成等

### (参考)土曜日等の教育活動の実施予定状況

(H26文部科学省調べ)

○ 公立学校における土曜授業の実施予定状況(約5,600校で実施予定)

	実施予定学校数	実施予定割合
小学校	約3,600校	約17%
中学校	約1,800校	約18%
高等学校	約200校	約6%

○ 学校が場所を提供し、「土曜学習」の実施を予定している学校数(約6,600校で実施予定)

	実施予定学校数	実施予定割合
小学校	約5,000校	約24%
中学校	約800校	約9%
高等学校	約800校	約21%

○ 土曜授業、土曜の課外授業、土曜学習(学校が場所を提供)を、いずれか一つでも実施予定である学校数(約12,700校で実施予定)

	実施予定学校数	実施予定割合
小学校	約7,900校	約38%
中学校	約2,700校	約27%
高等学校	約2,100校	約57%

## 地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業

(平成26年度予算額 1,333百万円)  
平成27年度予算額 1,458百万円

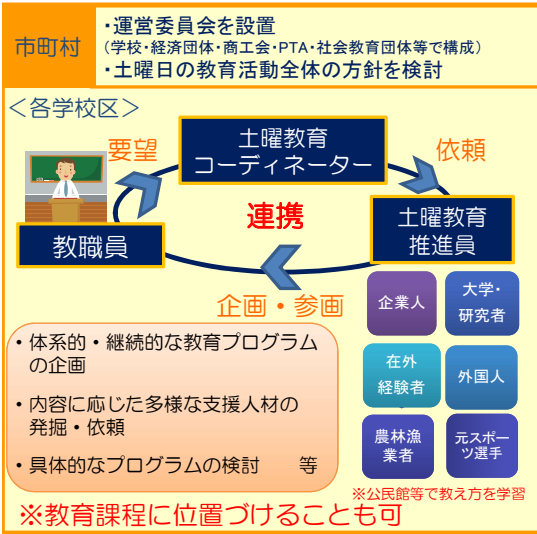
全ての子どもたちの土曜日の教育活動を充実するため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町村等の取組を支援することにより、教育支援に取り組む体制を構築し、地域の活性化を図る(4,850か所 → 12,000か所)(小学校・中学校・高校など)

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

※平成26年度土曜日の教育活動を実施している学校数:約12,000か所(約4割)

◆地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの生きたプログラムを実現！

### ◆土曜日の教育支援体制の仕組み◆



### 社会を生き抜く力を培う 土曜日ならではのプログラムの実践

～実践例～

★算数・数学  
エンジニアによる  
使える算数・数学講座



＜教員とのTTによる数学＞

★理科:  
研究者による科学実験教室

★外国語:  
在外経験者による英会話



＜市民講師による英会話＞

★総合学習  
企業等との協働による  
キャリア教育・商品開発等

★文化・芸術  
文化・芸術活動団体による茶道の作法など伝統文化の良さを理解してもらうための講座

すべての子どもたちの土曜日の教育支援体制等の構築

## 「土曜学習応援団」になりませんか？

～土曜日は学校へ！子供の学びを皆で支えよう！～

H27.4

○学校週5日制を平成14年度から完全実施してから12年が経過し、土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子供たちも少なからず存在。平成26年度は約40%の学校や学校区で、土曜日に何らかの教育活動を実施中。

○土曜日は平日に比べて、①まとまった時間が確保しやすいことや、②社会人が参加しやすいことなどの長所があり、土曜日ならではの充実した取組が可能。

しかし…

○学校・保護者等から企業・団体・大学等の参画によって、多様なプログラムを子供たちに提供したいという要望が増えている。  
○現在、多くの学校区の土曜日の活動は、学校の教員による授業や、日頃つきあいのある地域の方等の参画にとどまっている。

そこで！

○是非とも、企業・団体・大学等の皆様に、土曜学習応援団になってください。  
○企業・団体・大学等の強みや実社会の経験を活かして、出前授業等の講師をお願いいたします。

## ☀土曜学習応援団の活動が各地で始まっています！☀

### 土曜日に出前授業等の講師として参加している事例

賛同企業・団体・大学等数 現在約360  
→さらなる企業・団体・大学等の参画が必要です！



金融系A社による  
グローバル人材を目指す講演



電機メーカーB社による  
ハイブリッドカー親子工作教室



掃除用具メーカーC社による  
お掃除体験教室



プロ棋士によるやさしい囲碁教室

詳細は、土曜学習応援団ホームページをご覧ください。  
URL: <http://doyo.mext.go.jp>

～全国の地域コーディネーター等と「土曜学習応援団」が一堂に会する研修を実施した事例～

## 地域コーディネーターと『土曜学習応援団』意見交換会

平成26年12月8日(月) 文部科学省講堂にて

### 趣旨

豊かな土曜日の教育活動の実現のため、地域コーディネーター等と「土曜学習応援団」が一堂に会する機会を設け、今後の土曜日の取組方策の検討や学校・教育委員会と企業のマッチング等の場とする。

### 1. 地域・学校・行政・企業関係者によるグループ討議



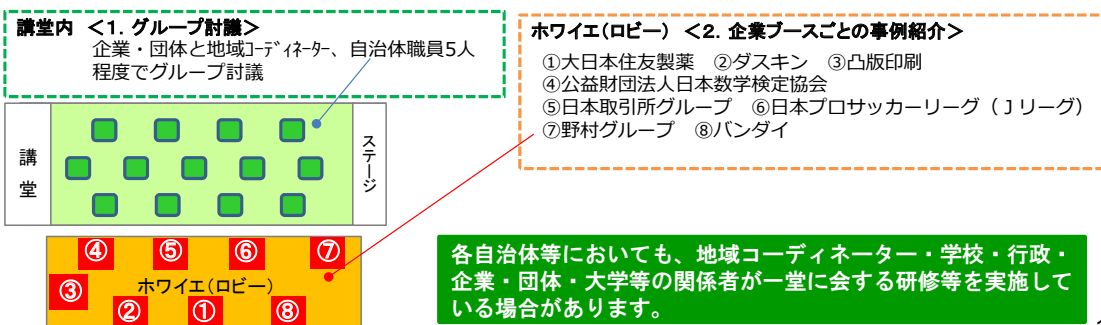
地域コーディネーター等約300名、企業・団体関係者約50名が参加し「土曜日を活用した新しい教育のかたち」について、立場を越えて話し合いました。

### 2. 企業ブースにおける各社の出前授業の紹介



ダスキン 「おそうじについて学ぼう!」「学びゲット!」  
凸版印刷  
日本数学検定協会 「算数体感プログラム」  
野村グループ 「投資って何?他!」

～会場図(イメージ)～



## 土曜学習応援団について

文部科学省の【土曜学習応援団特設HP】で、賛同企業の一覧や各企業等の取組みを紹介 URL <http://dojo.mext.go.jp>

- <平成27年4月16日現在の賛同企業・団体・大学等(敬称略)> **〇賛同数: 361**
- <企業・経済団体等>  
花王、ダスキン、日本電信電話、パナソニック、三菱電機、日本電気、パナソニック、加計計算機、キョーコー、ゼンショー、東洋エクス、伊藤園、朝日、大和屋、和、ミナモト、第一電機測器、三菱商事、リソナホールディングス、野村ホールディングス、SMBC日興証券、水戸証券、損保ジャパン日本興亜ホールディングス、東京海上日動、アフラック、第一生命、第一成和事務所、SMBCコンシューマファイナンス、総合警備保障、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、JFEホールディングス、日産自動車、トヨタ自動車、カリコウカセイ、東京電力、東京ガス、三井化学、トヨタ、積水化学工業、KDDI、NTTドコモ、楽天、ケイ、読売新聞社、朝日新聞社、産経新聞社、中日新聞社、TBS、フナエインターメディア、FOXインターナショナルチャンネル、阪急阪神インフラ、凸版印刷、Lifebook、コイ学館、日本創芸教育、東京書籍、旺文社、アコム、オクトパイクス、ケス、教育と探求社、ILH、フカガシ、ケベコ、コナグジヤパン、ビクトリア、ジャパン、情報技術開発、テックカム、CA Tech Kids、0101科学教育、マインミュージカス、キャリアック、日比谷メス、川島鈴鹿建築計画、フォーラム、ワイワイミュージック、カトリックカレッジ、管公学生服、東京ワール、オワードホールディングス、日本ブティック社、グオーグ学園、トホ、パツパツ通信社、ルシア、アティック社、LIXILパ、びあ、チムチム、ジパング、ドリル・ドール、東京演劇集団 風、トビレ・キズ、ホリタア・ごんやく座、円・演劇研究所、東電インテック、日比谷花壇、ジャグ&のり花、仙台水産、全国学習塾協会、神田進学センター、津ノ屋、堀江ゼミナール、花乃井ゼミナール、育英学院、大阪栄光学園、理数学館、青山学園、日本経済団体連合会、日本商工会議所、新経済連盟、日本貿易会、全国銀行協会、全国信用金庫協会、岐阜信用金庫など37信用金庫、日本証券業協会、日本損害保険協会、日本化学工業協会、塩ビ工業・環境協会、プラスチック循環利用協会、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、全国漁青連、全国漁女性部連絡協議会、日本財団、本社1協会、
- <教育・文化団体等>  
指定都市教育委員・教育長協議会、日本PTA全国協議会、全国高等学校PTA連合会、全国国立大学附属学校PTA連合会、日本PCA教育振興会、NPOおやじ日本、磯川おやじの会、全国特別支援教育推進連盟、日本青年会議所、豊田青年会議所、ホワイエ日本連盟、全国子ども会連合会、修養団、育てる会、ルビエター、遊心、社会通信教育協会、日本通信教育振興協会、全国社会教育委員連合会、全国公民館連合会、日本図書館協会、全国図書館教材協議会、図書館振興財団、教科書協会、日野社会教育センター、高度映像情報センター、国立青少年教育振興機構、国立リハビリテーション記念青少年総合センター、国立大雪青少年交流の家など27施設、体験の風をおこそう運動推進委員会、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会、NPO自然体験活動推進協議会、日本青年館、鹿児島県青年会館、沖縄県青年会館、日本青年団協議会、鹿児島県青少年団協議会、青少年交友協会、日本YMCA同盟、日本ユースリブ協会、日本キッズ協会、B&G財団、国際協力機構、協力隊を育てる会、デジタルフォス 理科実験グループ、消費者関連専門家会議、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、生命保険文化センター、簡易保険加入者協会、製品評価技術基盤機構、金融学習協会、フイチンアカデミー、ITセンター、NPO日本フイチンアカデミー協会、NPO全国検定振興機構、日本数学検定協会、NPO日本コース時事能力検定協会、NPO日本語検定委員会、日本英語検定協会、職業教育・キャリア教育財団、日本能率協会、公益資本主義推進協議会、志教育プロジェクト、材料の会、シェアハウス協会、ワイワイ教育研究会、マナーアカデミー、日本博物館協会、日本芸術文化振興会、国立科学博物館、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、フナエ太平洋無形文化遺産研究センター、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、昭和館、日本レジャー協会、日本ノスタリアティブール協会、日本トイズール協会、日本フーズ・フーズ連盟、日本ゲーム協会、日本棋院、日本舞踊協会、早月会、落語芸術協会、ジャズ音楽文化振興会、全日本ピアノ指導者協会、日本JPOP協会、日本JPOP劇場経営者協会、GMG八王子JPOP劇場、長瀬カントリークラブ、鴻巣カントリークラブ、鴻巣ゴルフセンター、武士道剣会、日本薬剤師会、日本気象予報士会、全題協、日本鯨類研究所、日本捕鯨協会、日本森林インテック協会、日本手芸普及協会、未来キッズ、札幌地方自動車整備振興会、福島県自動車整備振興会、京都府自動車整備振興会、佐賀県自動車整備振興会、世羅町観光協会、NPO教育支援協会、放課後NPOカネカール、NPO芸術資源開発機構、NPO情熱の赤い鳥協会、NPO日本サード・ミッドル協会、NPOアゲアゲアゲアゲ、NPO青少年科学技術振興会、NPO日本こどものための委員会、NPOアゲアゲ、NPOアゲアゲ、NPO伊豆自然学校、よみたん自然学校、NPO全国アゲアゲ体連連盟、NPOアゲアゲアゲアゲ、アゲアゲ、NPO学生社会人ネットワーク、EDUPEDIA、e-ネットアカデミー、夢★らくぞうアカデミー、創発アゲアゲアゲアゲ、8、電気理科アゲアゲ、駄菓子総合研究所、ユース・フォー・ユースインターナショナル、
- <大学・研究所・国立機関等>  
国立大学協会、国立高等専門学校機構、全国専修学校各種学校総連合会、全国自動車短期大学協会、宮城教育大学 環境教育実践研究センター、筑波大学、東京学芸大学、和歌山大学、兵庫教育大学、香川大学清國研究室、熊本大学教育学部、産業技術大学院大学、高知工科大学、石川県立大学 生物資源環境学部食品科学科分子生物学研究室、石川県立大学 生物資源工学研究所DNA利用技術教育センター、北里大学 一般教養部自然科学教育センター化学単位、東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター-基礎研究施設(分子細胞生物学)、川村学園女子大学、香川栄養学園女子栄養大学生涯学習センター、東京都立産業技術高等専門学校、岡山県専修学校各種学校振興会、文化服装学院、二葉アカデミー、中国デザイン専門学校、高知科学・加速器研究機構、核融合科学研究所、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、国立国際医療研究センター、計測自動制御学会、自衛隊 東京地方協力本部 出張所、同本部 大田出張所

「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び  
 「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」実施状況  
 (学校支援地域本部、放課後子供教室、土曜日の教育活動)

(平成26年12月現在)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
放課後子供教室 実施数	9,733教室	10,098教室	10,376教室	11,991教室 ※2
学校支援地域本部 設置数	2,659本部	3,036本部	3,527本部	3,746本部
土曜日の教育活動 実施数	—	—	—	4,845校
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度/CS) 指定校数	789校	1,183校	1,570校	1,919校
実施市町村数	放課後 1,075市町村 本部 570市町村 土曜日 一市町村 C S 99市町村	放課後 1,076市町村 本部 576市町村 土曜日 一市町村 C S 122市町村	放課後 1,090市町村 本部 619市町村 土曜日 一市町村 C S 153市町村	放課後 1,135市町村 本部 628市町村 土曜日 388市町村 C S 187市町村
国庫補助金額	5,166百万円	4,649百万円	4,870百万円	5,071百万円 ※3

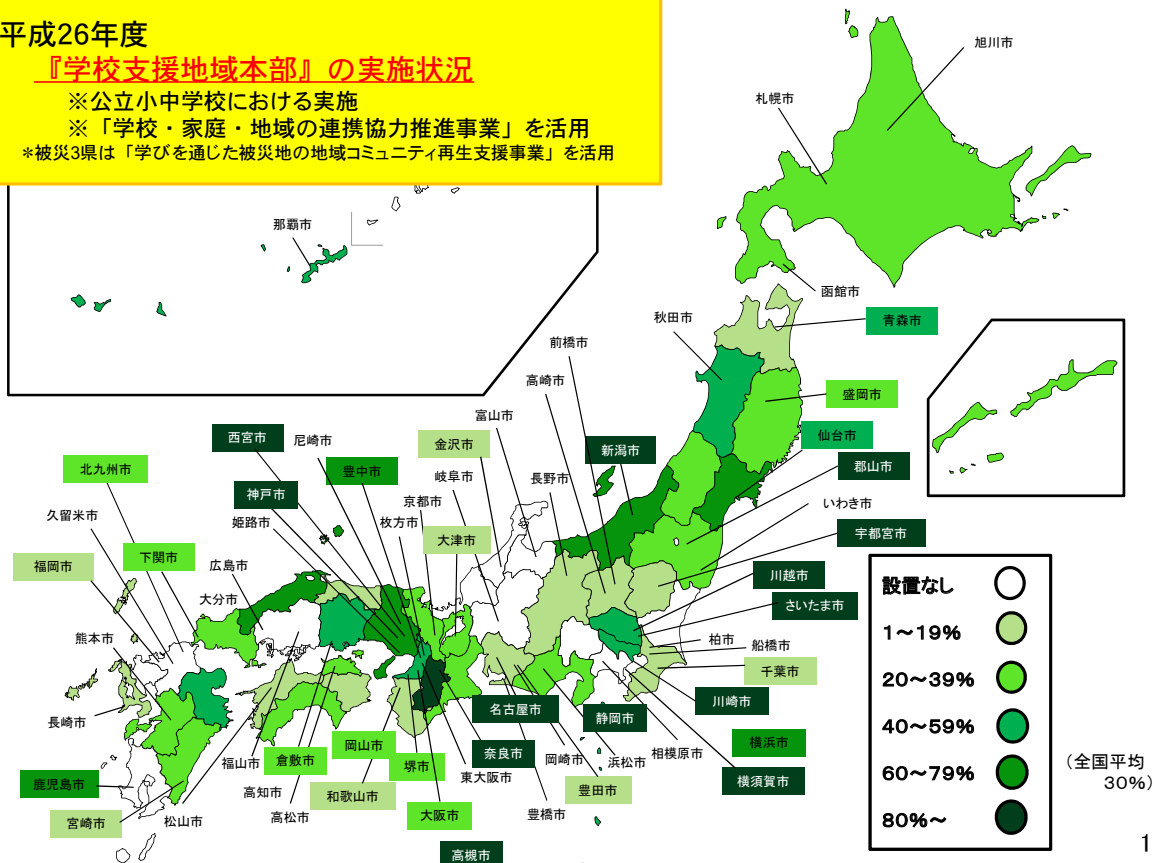
※1 平成24～26年度は、岩手県、宮城県、福島県、仙台市等の被災自治体は委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」で実施

※2 「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を活用した取組を含む

※3 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業(3,765百万円)」+「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業(1,306百万円)」=5,071百万円

平成26年度  
 『学校支援地域本部』の実施状況

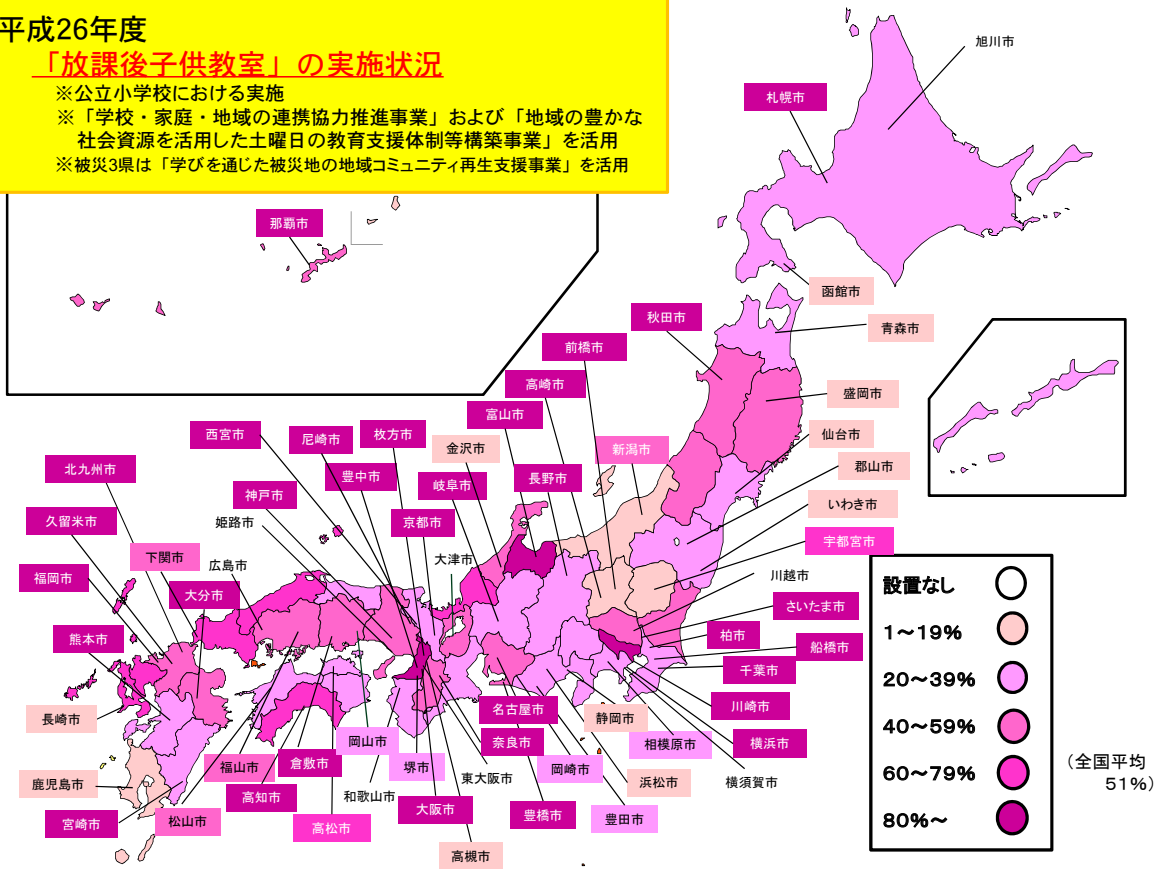
- ※公立小中学校における実施
- ※「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を活用
- ※被災3県は「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用



平成26年度

「放課後子供教室」の実施状況

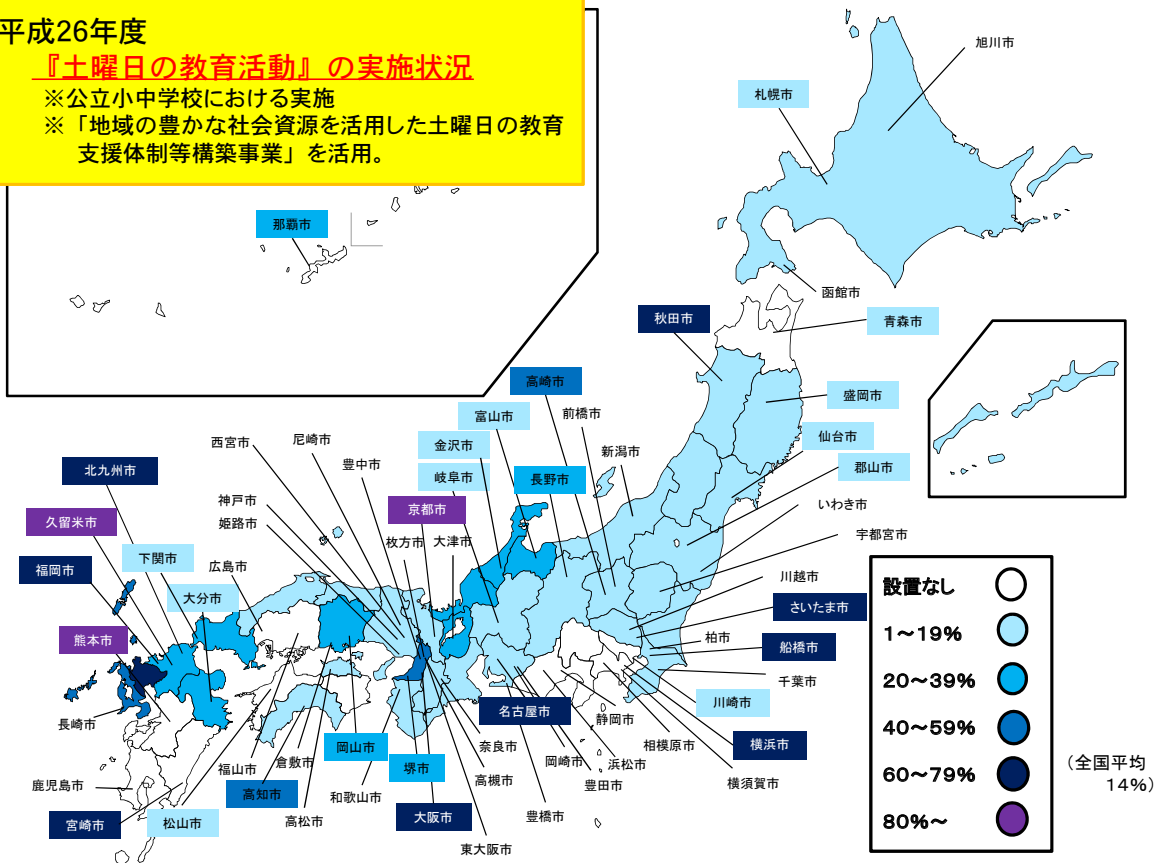
※公立小学校における実施  
 ※「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」および「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を活用  
 ※被災3県は「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用



平成26年度

『土曜日の教育活動』の実施状況

※公立小中学校における実施  
 ※「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を活用。





## コミュニティ・スクールの推進について

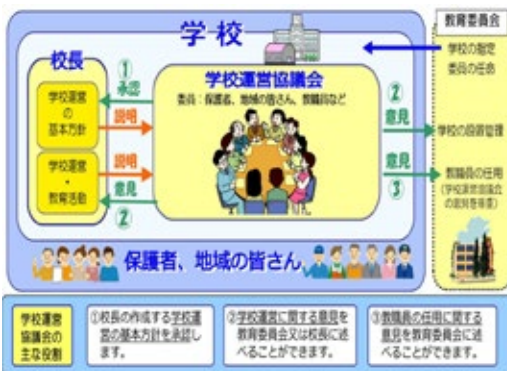
子供や学校の抱える課題の解決、子供たちの豊かな成長のためには、**学校のみで対応するのではなく、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠。**

⇒多くの地域の人々が学校に関わることで、より豊かな子どもの学びが生まれ「生きる力」が育まれる。  
⇒教職員、保護者、地域住民等がともに成長し「地域が良くなれば学校が良くなる」という好循環を生み出す。

全ての学校が、地域の人々と目標を共有し、地域一体となって子どもたちを育む『**地域とともにある学校**』へ

### コミュニティ・スクール

教育委員会の指定により「学校運営協議会」が設置された学校。  
教育委員会から任命された保護者や地域住民などが、一定の権限と責任をもって学校運営に参画。

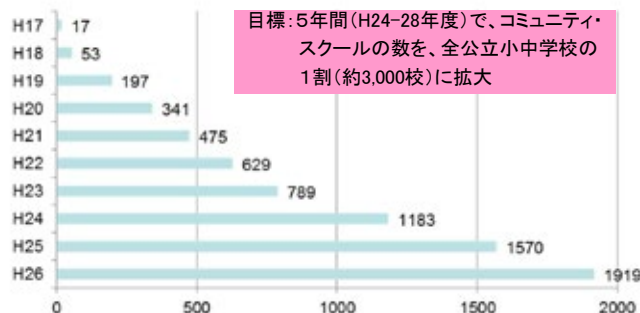


### <コミュニティ・スクールに対する成果認識>

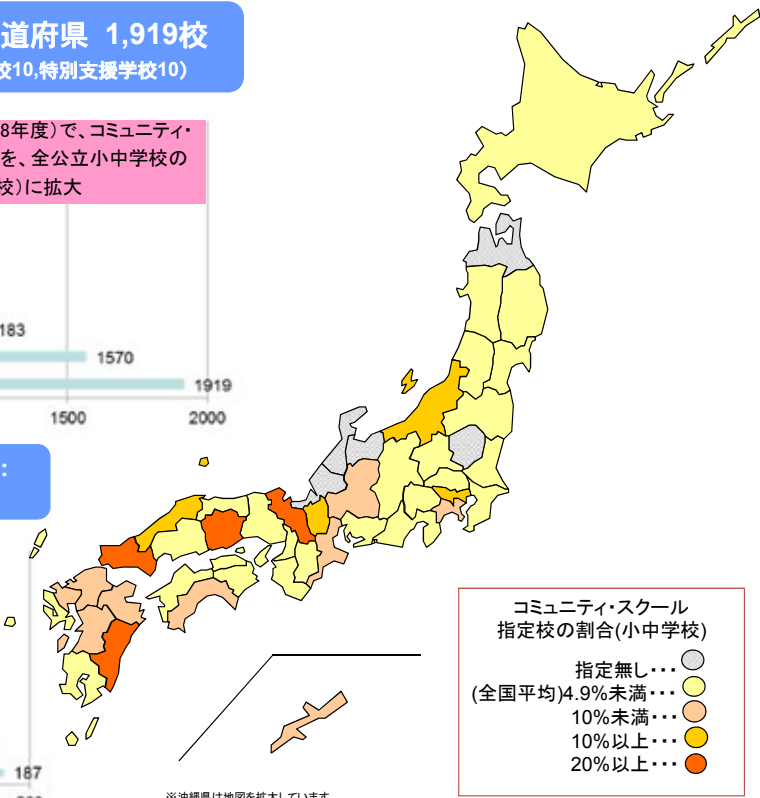


## 平成26年度 コミュニティ・スクールの指定状況

コミュニティ・スクール：42都道府県 1,919校  
(幼稚園94,小学校1240,中学校565,高等学校10,特別支援学校10)

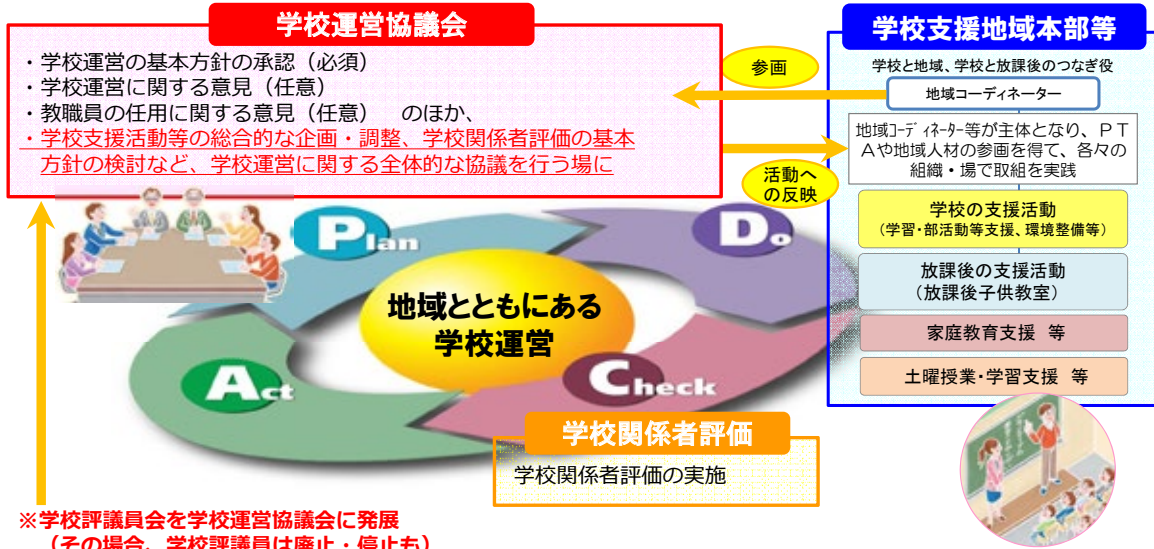


コミュニティ・スクールの学校設置者数：  
4道県187市区町村



## コミュニティ・スクールと学校支援等の取組の一体的な推進

学校運営協議会の機能と、学校支援や学校関係者評価等の機能を一体的に推進することで、設定した目標の達成に向かって、ともに前進し行動していくとともに、学校運営の改善を果たすPDCAサイクルを確立



（平成27年3月 コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議報告 より）

## 地域とともにある学校づくりの推進

27年度予算額 289百万円（前年度予算額 174百万円）  
内、「学校を核とした地域力強化プラン」分 170百万円※1

### 1. 要求要旨

※1 コミュニティ・スクール導入等促進事業、地域提案型の学校を核とした地域魅力化事業は「学校を核とした地域力強化プラン」として実施。

保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」の推進等により、社会総掛かりで教育再生を実行し、子供や地域等が抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みづくり等を推進するとともに、地域コミュニティの活性化等を図る。

### 2. 事業内容

#### コミュニティ・スクール導入等促進事業

67億円の内数(157百万円) 補助率:国 1/3 ※2

地域住民等が学校運営に参画するコミュニティ・スクールについて、未導入地域への支援の拡充や学校支援等の取組との一体的な推進等により、一層の拡大・充実を図る。

導入の促進	取組の充実	研修の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクール導入を目指す地域における組織や運営体制づくり</li> <li>300市区町村</li> </ul> <small>※別途、教員・事務職員加配措置あり</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクール導入後における運営体制づくり（CSディレクター配置を含む）</li> <li>150市区町村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会委員の研修等への支援</li> <li>都道府県・政令市・中核市：110箇所</li> </ul>

※2 補助については、都道府県の判断により、間接補助とすることも可能。その場合、都道府県、市区町村が1/3ずつ負担。

#### 地域提案型の学校を核とした地域魅力化事業

67億円の内数(13百万円) 補助率:国 1/3

学校を核とした地域の魅力を創造する取組として、地域が提案する創意工夫のある独自で多様な取組を支援する。（9市区町村）

#### コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）の派遣等による普及・啓発

22百万円

- 実践経験のある元校長や地域住民などをCSマイスターとして派遣
- 地域とともにある学校づくり推進協議会（8会場） など

#### 首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業

29百万円

地域コミュニティの衰退や子供の問題行動等、学校・地域の差し迫った社会的・地域的課題に対し、首長部局や関係機関等との協働体制を確立し、課題解決に取り組む新たな学校モデルを構築する。（12市区町村） ※別途、事務職員加配措置あり

#### 自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究等

59百万円

地域とともにある学校づくりの効果的な推進のために、校長がリーダーシップを発揮するための学校裁量権の拡大、校長や教職員等のマネジメント力向上、実効性ある学校評価システムの構築に関する調査研究を実施する。（研究費：14市区町村、2大学等研究機関）（スクールアナリストの配置：7市区町村）

- 教育改革に結びつく学校評価システム構築事業
- 学校の事務機能、運営体制の強化に関する調査研究
- 学校の総合力を高めるためのマネジメント力強化研修 等

## 文部科学省のHP 学校と地域でつくる学びの未来

HP: <http://manabi-mirai.mext.go.jp>





文部科学省